洋野町埋蔵文化財調査報告書第８集

尺沢遺跡発掘調査報告書

久慈地区汚泥再生処理センター整備事業に伴う遺跡発掘調査

2020.3

久慈広域連合
洋野町教育委員会

洋野町埋蔵文化財調査報告書第８集
尺沢遺跡発掘調査報告書
久慈広域連合
洋野町教育委員会

尺沢遺跡発掘調査報告書

久慈地区汚泥再生処理センター整備事業に伴う遺跡発掘調査

序

洋野町は岩手県の最北端に位置し、北は青森県三戸郡階上町、西は軽米町、南は久慈市、東は太平洋に接し、海と高原に囲まれた自然豊かな町です。平成 18 年 1 月 1 日、旧種市町と旧大野村が合併して洋野町が誕生しました。

町内には現在 219 箇所の遺跡が登録されています。先人の残したこれらの文化遺産を保護し、保存していくことは私たち町民に課せられた重大な責務であります。

本報告書は、久慈地区汚泥再生処理センター整備事業に伴う尺沢遺跡の埋蔵文化財調査の報告をまとめたものです。この調査の結果が今後この地域の歴史を解明する上で、いささかでもお役に立てれば幸いです。また、本書が関係者はもちろん、広く町民の方々に活用され、埋蔵文化財に対する理解と保護に多少なりとも寄与されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたり、多大なご助言ご協力をいただきました関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

令和 2 年 3 月

洋野町教育委員会

教育長　　林　剛敏

例　　言

1．本報告書は、岩手県九戸郡洋野町中野第７地割に所在する、尺沢（しゃくざわ）遺跡発掘調査結果を収録したものである。

2．本遺跡の調査は、環境省所管循環型社会形成推進交付金を導入して実施した。

3．本遺跡の岩手県遺跡台帳における遺跡番号は、IF99-0384 である。

4．本遺跡の調査は、久慈広域連合による久慈地区汚泥再生処理センター整備に伴う事前の緊急発掘調査であり、洋野町教育委員会が主体として実施したもので、株式会社四門が調査支援業務を行った。
調査責任者：千田政博（洋野町教育委員会）
調査員：稲村晃嗣・金井美幸、調査補助員：香山可菜美（株式会社四門東北支店）

5．調査指導 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課

6．本書の編集、構成は稲村が行い、執筆については第Ⅰ、Ⅲ章を千田、第Ⅱ、Ⅳ、Ⅶ・Ⅷ章を稲村が担当した。また、第Ⅶ章及び第Ⅷ章１・２の、土器に関する記述・考察については、東北歴史博物館の相原淳一氏に執筆をいただいた。第Ⅶ章の遺構図については、原図作成を金井、香山が行った。

7．試料の分析・鑑定及び委託業務は、下記の方々・団体に依頼した。（敬称略）
自然科学分折：パリノ・サーヴェイ株式会社
土器の圧痕分析：株式会社パレオ・ラボ
石材鑑定：花崗岩研究会　柳澤忠昭
石器実測：株式会社ラング
基準点の測量：下舘建設株式会社

8．野外調査、資料収集及び本報告書の作成等に際して、下記の方々からご指導、ご助言、ご協力を賜った。記して感謝申し上げます。（五十音順、敬称略）
伊東格、稲野裕介、井上雅孝、岩田貴之、金子昭彦、神原雄一郎、小林謙一、駒木野智寛、津島知弘、八木光則、横山寛剛

9．発掘調査作業においては、下記の方々にご協力いただいた。（五十音順、敬称略）
金山富美、金箱文夫、櫻井真貴、桜庭邦子、指田来実、大道きよ、田中セイ、田中大輔、東山ウタ子、東山良子、柾谷ユリ子、丸山徹、村山レイ

10. 空中写真撮影、室内整理、報告書作成にあたって、下記の方々にご協力いただいた。（五十音順、敬称略）
石井夏樹、岩尾和彦、岡田百代、小川麗子、春日貴明、桐生多美子、金城真理子、澁谷貴子、清水麻利、杉本好二、髙橋可南子、田毛英明、田中雄大、田丸美紀、西村素子、早坂美由紀、増田美幸、村田千鶴、百瀬貴子、山口美穂、横山香、米倉彩

11. 第Ⅲ章洋野町内の遺跡については、平成 31 年（2019 年）4 月時点での「岩手県遺跡台帳」に基づくものである。

12. 土層の観察は「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）を用いた。

13. 調査で得られた遺物・諸記録等については、洋野町教育委員会で保管、管理している。

14. 引用・参考文献については文末に収めた。

目　次

序
例　言
目　次
凡　例

本　文

Ⅰ．遺跡の概要と調査に至る経緯
　１．遺跡の概要…… 3
　２．調査に至る経緯…… 3
Ⅱ．調査の概要
　１．野外調査について…… 4
　２．室内整理について…… 5
Ⅲ．洋野町内の遺跡…… 7
Ⅳ．遺跡の地形と地質
　１．位置と地形・地質の概要……19
　２．層序……19
Ⅴ．尺沢遺跡の自然科学分析
　１．ローム層の層序対比……22
　２．土器胎土分析……26
　３．礫集中範囲の礫の分析……29
　４．放射性炭素年代測定……34
Ⅵ．尺沢遺跡の土器圧痕分析……41
Ⅶ．検出された遺構と遺物
　１．遺構……43
　２．遺物集中……52
　３．遺構外出土遺物……60
Ⅷ．調査のまとめ
　１．遺構と遺構内出土遺物……96
　２．出土遺物……97
　３．まとめ…… 102
写真図版…… 107
報告書抄録

表

第１表　町内の遺跡一覧（１）…… 13
第１表　町内の遺跡一覧（２）…… 14
第１表　町内の遺跡一覧（３）…… 15
第１表　町内の遺跡一覧（４）…… 16
第１表　町内の遺跡一覧（５）…… 17
第Ａ表　深掘１断面の重鉱物・火山ガラス比分析結果…… 23
第Ｂ表　礫集中範囲の重鉱物・火山ガラス比分析結果…… 24
第Ｃ表　胎土分析試料…… 26
第Ｄ表　胎土薄片観察結果…… 27
第Ｅ表　岩石肉眼鑑定結果…… 30
第Ｆ表　石質組成…… 31
第Ｇ表　放射性炭素年代測定結果 …… 35
第Ｈ表　尺沢遺跡出土土器の圧痕同定結果 …… 41
第２表　土器観察表（１）…… 82
第２表　土器観察表（２）…… 83
第２表　土器観察表（３）…… 84
第２表　土器観察表（４）…… 85
第２表　土器観察表（５）…… 86
第２表　土器観察表（６）…… 87
第２表　土器観察表（７）…… 88
第２表　土器観察表（８）…… 89
第２表　土器観察表（９）…… 90
第２表　土器観察表（10）…… 91
第２表　土器観察表（11）…… 92
第２表　土器観察表（12）…… 93
第３表　石器観察表（１）…… 94
第３表　石器観察表（２）…… 95
第４表　遺物集中Ⅰ～ⅣにおけるＡ類土器 …… 100

図　版

第１図　遺跡位置図 ……1
第２図　遺跡範囲図 ……2
第３図　調査区範囲図……5
第４図　グリッド設定図 ……6
第５図　町内の遺跡位置図…… 12
第６図　基本土層序 …… 20
第Ａ図　深掘１断面の重鉱物組成および火山ガラス比…… 23
第Ｂ図　礫集中範囲の重鉱物組成および火山ガラス比…… 24
第Ｃ図　火山ガラスの屈折率 …… 25
第Ｄ図　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度および砕屑物の粒径組成 …… 28
第Ｅ図　砕屑物・基質・孔隙の割合…… 28
第Ｆ図　被熱礫分布図…… 33
第Ｇ図　礫の岩種別分布図…… 33
第Ｈ図　暦年較正結果…… 36
第７図　遺構配置図 …… 44
第８図　土坑 SK01 ～ SK04…… 46
第９図　土坑 SK05 ～ SK08…… 47
第10図　溝状土坑 TP01・TP02…… 49
第11図　溝状土坑 TP03・TP04…… 50
第12図　ピット SP01 ～ SP03 …… 51
第13図　遺物集中Ⅰ　遺物出土状況 …… 53
第14図　遺物集中Ⅱ　遺物出土状況 …… 55
第15図　遺物集中Ⅲ　遺物出土状況 …… 57
第16図　遺物集中Ⅳ　遺物出土状況 …… 59
第17図　遺構内出土遺物　土器 …… 62
第18図　遺物集中Ⅰ出土遺物　土器（１）…… 62
第19図　遺物集中Ⅰ出土遺物　土器（２）…… 63
第20図　遺物集中Ⅱ出土遺物　土器（１）…… 64
第21図　遺物集中Ⅱ出土遺物　土器（２）…… 65
第22図　遺物集中Ⅱ出土遺物　土器（３）…… 66
第23図　遺物集中Ⅲ出土遺物　土器（１）…… 66
第24図　遺物集中Ⅲ出土遺物　土器（２）…… 67
第25図　遺物集中Ⅳ出土遺物　土器（１）…… 67
第26図　遺物集中Ⅳ出土遺物　土器（２）…… 68
第27図　遺物集中Ⅳ出土遺物　土器（３）…… 69
第28図　遺構外出土遺物　土器（１）…… 69
第29図　遺構外出土遺物　土器（２）…… 70
第30図　遺構外出土遺物　土器（３）…… 71
第31図　遺物集中Ⅰ出土遺物　石器（１）…… 72
第32図　遺物集中Ⅰ出土遺物　石器（２）…… 73
第33図　遺物集中Ⅱ出土遺物　石器（１）…… 73
第34図　遺物集中Ⅱ出土遺物　石器（２）…… 74
第35図　遺物集中Ⅱ出土遺物　石器（３）…… 75
第36図　遺物集中Ⅲ出土遺物　石器 …… 75
第37図　遺物集中Ⅳ出土遺物　石器（１）…… 75
第38図　遺物集中Ⅳ出土遺物　石器（２）…… 76
第39図　遺構外出土遺物　石器（１）…… 77
第40図　遺構外出土遺物　石器（２）…… 78
第41図　遺構外出土遺物　石器（３）…… 79
第42図　遺構外出土遺物　石器（４）…… 80
第43図　遺構外出土遺物　石器（５）…… 81
第44図　尺沢遺跡の日計式土器とその周辺（１）　98
第45図　尺沢遺跡の日計式土器とその周辺（２）　99

写真図版

写真図版Ａ　重鉱物・火山ガラス …… 37
写真図版Ｂ　胎土薄片 …… 38
写真図版Ｃ　岩石 …… 39
写真図版Ｄ　岩石薄片 …… 40
写真図版Ｅ　尺沢遺跡出土土器の写真と圧痕
　　レプリカの走査型電子顕微鏡写真 …… 42
写真図版 1　調査地遠景・試掘の成果 …… 109
写真図版 2　調査区全景・各調査区（1） …… 110
写真図版 3　各調査区（2） …… 111
写真図版 4　深掘・基本土層 …… 112
写真図版 5　土坑 SK01 ～ SK03 …… 113
写真図版 6　土坑 SK04・SK05 …… 114
写真図版 7　土坑 SK06 ～ SK08 …… 115
写真図版 8　溝状土坑 TP01・TP02 …… 116
写真図版 9　溝状土坑 TP03・TP04 …… 117
写真図版 10　ピット SP01 ～ SP03 …… 118
写真図版 11　遺物集中区　遺物出土状況（1） …… 119
写真図版 12　遺物集中区　遺物出土状況（2）　120
写真図版 13　遺物集中区　遺物出土状況（3）　121
写真図版 14　調査後近景（1） …… 122
写真図版 15　調査後近景（2） …… 123
写真図版 16　出土遺物　土器（1） …… 124
写真図版 17　出土遺物　土器（2） …… 125
写真図版 18　出土遺物　土器（3） …… 126
写真図版 19　出土遺物　土器（4） …… 127
写真図版 20　出土遺物　土器（5） …… 128
写真図版 21　出土遺物　土器（6） …… 129
写真図版 22　出土遺物　石器（1） …… 130
写真図版 23　出土遺物　石器（2） …… 131
写真図版 24　出土遺物　石器（3） …… 132
写真図版 25　出土遺物　石器（4） …… 133
写真図版 26　出土遺物　石器（5） …… 134
写真図版 27　出土遺物　石器（6） …… 135
写真図版 28　出土遺物　石器（7） …… 136

凡　例

1. 遺構図版の縮尺は、原則 1/60、遺物集中出土状況図は 1/80 で掲載した。
2. 本書で使用する遺構表示記号は、下記の通りである。
   SK: 土坑　TP: 溝状土坑　SP: ピット
3. 各遺構内の層位には、算用数字を使用した。
4. 本報告書に収載した遺構実測図に付した方位は、国家座標第 X 系による座標北を示す。
5. 第 1 図遺跡位置図及び第 2 図遺跡範囲図は、洋野町管内図の 25,000 分の 1 の地形図、第 5 図町内遺跡位置図は 50,000 分の 1 の洋野町管内図を複写し、縮尺補正や必要情報を加筆するなどして使用した。
6. 遺物図版の縮尺は、土器 1/2、剥片石器類 2/3、大型石器 1/3 で統一した。また、遺物写真図版の縮尺も同様とした。
7. 土器図版について、器面が剥落している遺物は拓本でなく写真を掲載した。
8. 石器図版中の掲載番号は、201 からとした。遺物集中出土状況図も同一とした。
9. 遺構写真図版は、縮尺不定である。掲載順は、遺構図版と同一である。
10. 土器観察表の法量について、残存値は（ ）で表示した。

長坂
原子内
125.2
原子内川
30.3
沢尻
うげ
岩手県全図
有家
向折戸
有家漁港
林山
滝
黒坂
有家大橋
八戸線
高家漁港
179.1
中野小
有家川
中野中
北村
駅前
中野北区
ユートピア白滝
中野支所
館越
城村
96.0
大坂
中野
谷地頭
走畑
石羽沢
78.5
高木沢
下粒来
粒来
中野南区
140.7
川裏下
高家川
122.9
高家
1:25,000
500m
0
500m

第１図　遺跡位置図

第２図　遺跡範囲図

Ⅰ．遺跡の概要と調査に至る経緯

１．遺跡の概要

尺沢遺跡は、洋野町中野第７地割地内、JR八戸線種市駅から南へ13.5km、久慈市との境を流れる高家川河口から西へ4km、北緯40°　17′　19″、東経141°　45′　52″を中心に位置する。未周知の埋蔵文化財包蔵地であったが、久慈地区汚泥再生処理センター整備事業に伴い実施された埋蔵文化財確認試掘調査によって新規に発見された遺跡である。洋野町教育委員会において実施した試掘調査では、遺構として縄文時代の溝状土坑（陥し穴状遺構）が検出された。遺物は押型文が施文された縄文土器片、及び回転縄文が施文された縄文時代早期の土器が出土し、また、同時期のものとみられる敲石、磨石等の石器類、被熱した礫、礫片、赤色チャートの使用痕や加工痕が確認できない礫が多数出土している。

中野地区は遺跡の本調査の事例が少なく、町内遺跡分布調査が未実施のため埋蔵文化財包蔵地の詳細は不明であるが、岩手県遺跡台帳には９遺跡の登録がある。本遺跡から北西へ1.5kmに下向Ⅱ遺跡が所在し、洋野町教育委員会により発掘調査が実施され、縄文時代の狩猟場跡であることが明らかになった。三陸沿岸道路建設に係る調査において、本遺跡から北へ3.2kmに中野城内遺跡、3.8km北には下向Ⅰ遺跡が発掘調査されている。第Ⅲ章において触れるが、中野城内遺跡、大宮Ⅰ・Ⅱ遺跡では縄文時代早期の貝殻文土器が出土している。特に海岸に近い大宮遺跡は古くから知られており、昭和36年に岩手大学の草間教授により調査され、貝殻文土器が県内で初めて復元された遺跡である。

２．調査に至る経緯

本発掘調査は、久慈広域連合による久慈地区汚泥再生処理センター建設に伴い実施されたものである。久慈広域連合は、広域的な連携強化、住民サービスの向上を図ることを目的とし、久慈市、野田村、山形村、大野村、普代村の１市４村の構成で平成12年９月５日に設置された。その後平成14年度に種市町が加入し、平成17年度には、種市町と大野村の合併、久慈市と山形村の合併により１市１町２村の構成となった。平成20年４月１日からは久慈地区広域行政事務組合と統合され現在に至っている。その事業の一つである久慈地区汚泥再生処理センターは、し尿処理場の老朽化に伴い新たに計画されたものである。

令和元年５月８日、久慈広域連合長より洋野町教育委員会教育長あてに建設予定地内における埋蔵文化財包蔵地の所在について照会があり、分布調査が必要であると回答した。同年５月10日、分布調査依頼書の提出を受け分布調査を行ったところ、地形等から未確認の埋蔵文化財包蔵地の可能性があり、埋蔵文化財確認試掘調査が必要であると回答した。令和元年５月15日、試掘調査依頼書の提出があったことから、同年６月３日から７日まで、事業地11,513㎡を対象に埋蔵文化財確認試掘調査を実施した。その結果、遺構、遺物を確認し、新規発見の尺沢遺跡として、令和元年６月21日、文化財保護法第95条第１項の規定により、岩手県教育委員会教育長あてに遺跡発見通知を提出した。その後令和元年８月１日、久慈広域連合長より文化財保護法第94条第１項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出に係る書類が提出され、同年８月７日付け、教生第4-55号にて、岩手県教育委員会教育長より発掘調査を実施するよう通知された。同じく８月７日に事業者から提出された埋蔵文化財発掘調査の依頼書を受理、令和元年９月６日より本発掘調査に着手し、同年10月29日まで実施した。

Ⅱ．調査の概要

１．野外調査について

尺沢遺跡は、洋野町中野地区にあり、南西から北東方向に延びる町道中野八種線の南側、南西から北東方向に徐々に標高を下げて傾斜する尾根上に位置する（第３図）。野外調査は､汚泥再生処理センター整備部分の約 2,000 ㎡の範囲を対象に実施した。試掘調査で遺構が確認された地点３箇所、及び遺物が集中して確認された４地点を任意の範囲で拡幅して実施した。拡幅時に新規で遺構が確認された場合も、その全体検出に至るまで拡幅を継続した。

グリッド設定については、まず遺跡地全体に４ｍ方眼のグリッドを被せた。設定は遺跡北東に起点を置き、世界測地系に基づく平面直角座標第Ｘ系を使用してＸ＝32528.000ｍ・Ｙ＝79092.000ｍに原点を置いた。ここから南方向（Ｘ軸）へ AA ～ BJ のアルファベットを、東方向（Ｙ軸）へ０～ 52 の算用数字を与え、両者の組み合わせでグリッド名を付した（AA01 ～ BJ52）（第４図）。

７箇所設定された調査区は、初めに調査を行った調査区Ⅰ・遺物集中Ⅰから逆時計回りにⅠ～Ⅳ（調査区はⅠ～Ⅲ）の順番に調査区名の設定を行った。各調査区の概要は、下記の通りである。（調査着手順に記載）

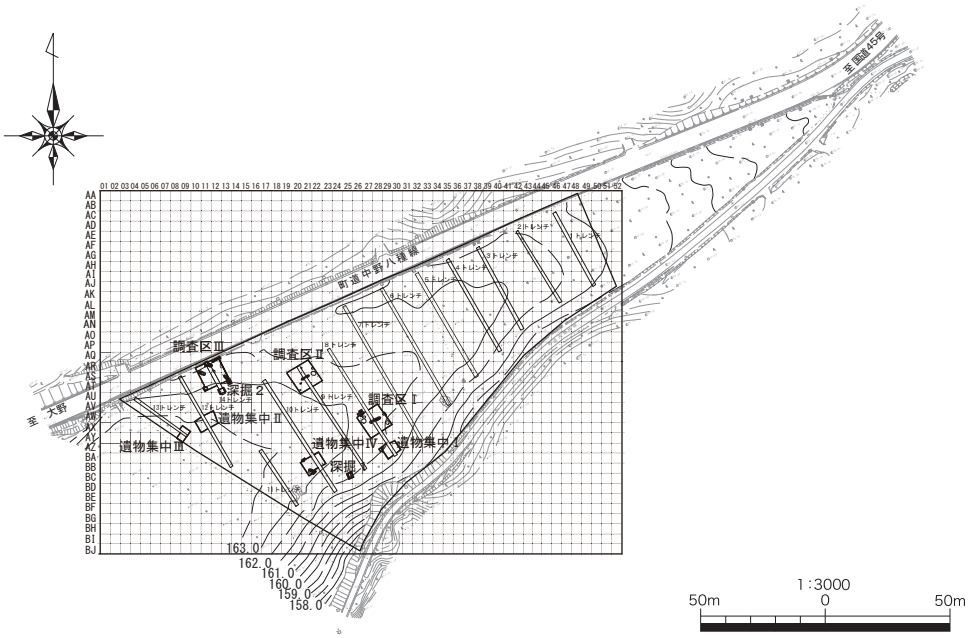
調査区Ⅰ	面積：100 ㎡	検出遺構：土坑２基（SK01・SK02）、溝状土坑１基（TP01）
調査区Ⅱ	面積：100 ㎡	検出遺構：溝状土坑１基（TP02）、ピット３基（SP01・SP02・SP03）
調査区Ⅲ	面積：100 ㎡	検出遺構：土坑３基（SK03・SK04・SK05）、溝状土坑２基（TP03・TP04）
遺物集中Ⅰ	面積：40 ㎡	検出遺構：土坑１基（SK06）
遺物集中Ⅱ	面積：40 ㎡	検出遺構：なし
遺物集中Ⅲ	面積：30 ㎡	検出遺構：なし
遺物集中Ⅳ	面積：40 ㎡	検出遺構：土坑２基（SK07・SK08）

調査の手順は、まず拡幅時の表土除去をバックホウ（バケット土量 0.45 ㎥）で行い、調査区の壁をスコップで整形、同時に鋸・剪定鋏などを用いて樹木根を除去した。引き続き鋤簾・両刃鎌で平面精査を行い、遺構を検出した。遺構の検出は、後述する基本土層序の第４層もしくは第５層上面で行った。

遺構の精査については、堆積土を２分割で半截し、その堆積状況を観察・記録した上で完掘した。分層は堆積層位の逆順で算用数字を付し、注記は『標準土色帖』に即して記録した。

測量については、平面・断面図ともにトータルステーションによる機械測量、および Agisoft Metashape（株式会社オーク）を利用した写真実測で対応した。記録写真については、35㎜フィルムカメラ（モノクロネガ）を主に用い，リバーサルフィルムも利用した。補足としてデジタルカメラも併用した。

全ての遺構調査が終了した後は、無人航空機（ドローン）による空中撮影を行い、遺跡地の周囲を含めた広範囲の撮影に努めた。



第３図　調査区範囲図

２.室内整理について

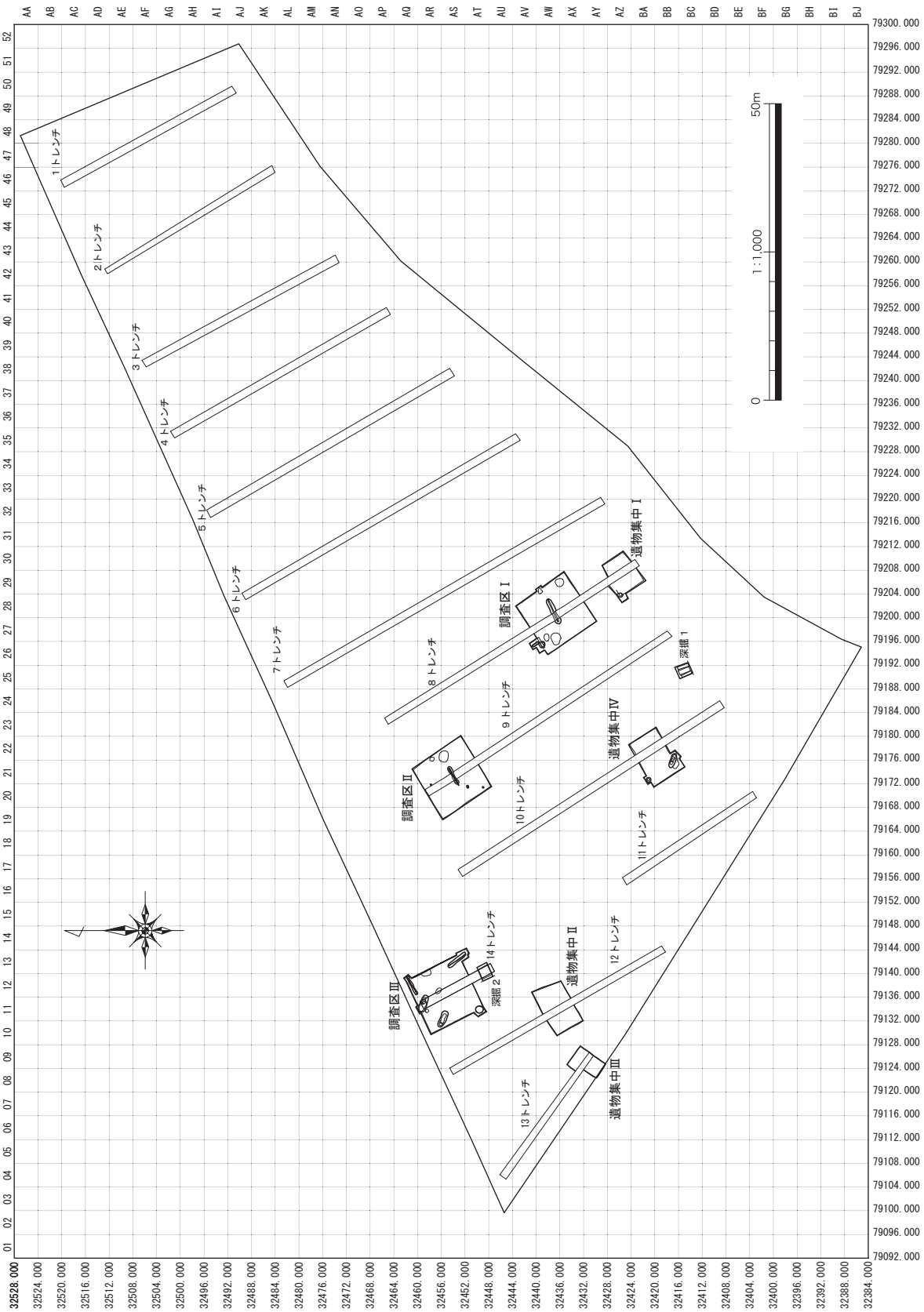
野外調査終了後、出土遺物を含む記録を整理し、発掘調査報告書の編集作業を行った。出土遺物については、水洗後注記作業を行い、出土調査区・遺構の仕分けを経て接合作業を行った。土器については本調査で 322 点出土した。全て破片資料であったため接合率が低く、器形復元が可能な資料は得られなかった。結果的に土器・土製品は試掘調査出土分（81 点）を含め 403 点を掲載対象とした。石器は、本調査で 57 点出土した。同様に試掘調査出土分を含め 86 点を掲載用遺物として選別し、登録作業後、実測及び拓影、トレース、写真撮影を順次行った。

野外調査で撮影したフィルム写真は、現像後アルバムに収納し、撮影記録の記入を行った。デジタル写真についてはファイル名のリネームを行った。

遺構図面については AUTOCAD（オートデスク株式会社製）で第一原図を編集し、データ変換後、報告書掲載用の図として第二原図の編集を行った。

これらの作業と並行して原稿執筆・挿表作成を行い、完成した個々の挿図や調整済の画像等を併せて報告書を編集した。なお、図化・編集作業に使用したソフトは下記の通りである。

Adobe 社製　「Illustrator CC」　遺物図トレース・遺構第二原図編集
　　「Photoshop CC」　拓本画像調整・掲載用各写真画像調整
　　「InDesign CC」　版組・編集


1トレンチ
2トレンチ
3トレンチ
4トレンチ
5トレンチ
6トレンチ
7トレンチ
8トレンチ
9トレンチ
10トレンチ
11トレンチ
12トレンチ
13トレンチ
14トレンチ
調査区Ⅰ
調査区Ⅱ
調査区Ⅲ
遺物集中Ⅰ
遺物集中Ⅱ
遺物集中Ⅲ
遺物集中Ⅳ
深掘1
深掘2
0
1:1,000
50m

第４図　グリッド設定図

Ⅲ. 洋野町内の遺跡

洋野町内に所在する遺跡は、平成 31 年（2019）4 月現在、岩手県遺跡台帳に 219 遺跡が登録されている。平成 23 年（2011）以降、三陸沿岸道路建設や再生可能エネルギー事業等に係る試掘調査により新規発見の遺跡が増加している。

町内遺跡詳細分布調査は、旧種市町が行った平成 16 年度（2004）の角の浜・伝吉・平内・麦沢（姥沢）地区の分布調査のみである。旧大野村分についても実施しておらず、町内には未発見の遺跡が多く所在するものと想定される。町内の発掘調査は岩手大学草間俊一教授により昭和 30 年（1955）から昭和 36 年（1961）にかけて遺跡の踏査と発掘調査が行われたのが最初であるが、その後平成 25 年度（2013）までの調査事例は数件にとどまっていた。平成 26 年度（2014）以降、三陸沿岸道路建設等に伴う本発掘調査により調査事例が急激に増加したものの、町内に所在する遺跡の様相については不明な部分が多い。

旧石器時代の遺跡の登録はないが、「角川日本地名大辞典 3」によると、旧石器遺物出土遺跡として鉄山遺跡（大谷鉄山か？）、有家遺跡（上のマッカ遺跡か？）が紹介されている。和座川上流の海岸段丘上に立地する鉄山遺跡から石刃・剥片・敲石が出土、海岸段丘上に立地する有家遺跡から石斧・剥片が出土し、いずれも高館火山層最上部から発見されたとある。しかし、遺跡の名称は現在登録されているものに該当せず、詳細は不明である。

縄文時代の遺跡数は、全体の 7 割以上を占める。草創期の遺跡は現在のところ登録はないが、洋野町境から 3km の青森県三戸郡階上町大字平内にある滝端遺跡では爪形文土器が出土している。また、階上町に隣接する八戸市南郷区黄檗遺跡、洋野町に隣接する軽米町馬場野Ⅱ遺跡でも草創期の土器が出土していることから、町内からも出土する可能性がある。

早期の遺跡として、ゴッソー遺跡（20）、大宮Ⅱ遺跡（47）、大宮Ⅰ遺跡（48）、宿戸遺跡（199）、中野城内遺跡（203）などがある。大宮Ⅰ・Ⅱ遺跡は、昭和 36 年（1961）に草間教授により発掘調査された遺跡で、A・B・C の 3 地区に分けて調査が行われ報告されている。A・B 地区からは貝殻文土器が出土しており、特に B 地区からは胴部に貝殻条痕、口唇部に貝殻腹縁文の尖底土器が出土している。草間教授は、岩手県で初めて復元された貝殻文の尖底土器であり、発見されたことは多大な成果であると報告している。ゴッソー遺跡では現（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下岩文振埋文に略称する）による平成 6 年度（1994）の発掘調査で、遺構には伴わないが日計式土器、魚骨回転文土器、寺の沢式土器等が出土している。中野城内遺跡は、三陸沿岸道路建設事業に伴い、岩文振埋文により平成 29 年度（2017）に調査が行われた。調査の結果、早期とみられる土坑、白浜式土器が出土している。

前期の遺跡として、ゴッソー遺跡（20）、上のマッカ遺跡（43）、北ノ沢Ⅰ遺跡（163）、小田ノ沢遺跡（200）などがある。ゴッソー遺跡は早期～晩期の縄文土器が出土しているが、前期初頭の遺物量が多く、特に平成 6 年度（1994）の岩文振埋文による本発掘調査で出土したコンパス文土器や押型文土器は岩手県で初めての出土と考えられる。同遺跡もやはり昭和 36 年（1961）に草間教授により発掘調査された遺跡で、縄文時代前期の土器を中心に縄文時代早期の土器、弥生時代の土器、土師器片、石器を採取したとの報告がある。なお、上のマッカ遺跡は昭和 36 年（1961）草間教授の調査により、貝塚が存在する可能性が指摘されている。

中期の遺跡として、千敷平遺跡（4）、ゴッソー遺跡（20）上のマッカ遺跡（43）、北ノ沢Ⅰ遺跡（163）などがある。平成 27 年度（2015）洋野町教育委員会によるゴッソー遺跡の本発掘調査では、中期初頭の竪穴住居跡が 1 軒発見され、三重の入れ子にした土器埋設炉と単体の土器埋設炉が並列した状態で検出された。その入れ子の土器埋設炉の中からヒエの胚乳が検出された。

後期の遺跡として、平内Ⅱ遺跡（65）、上水沢Ⅱ遺跡（92）、西平内Ⅰ遺跡（185）、南川尻遺跡（194）、サンニヤⅠ遺跡（195）、北鹿糠遺跡（196）、下向遺跡（202）、サンニヤⅢ遺跡（218）などがある。町内の縄文時代の遺跡で、後期前葉に位置付けられる遺跡が一番多く、その中でも溝状土坑（陥し穴状遺構）と遺構外から後期前

葉の土器が出土する遺跡が多数を占める。平内Ⅱ遺跡は洋野町教育委員会により、平成11 年度（1999）から平成25年度（2013）の間、延べ6箇年発掘調査が行われた。屋外炉、集石、焼土遺構、溝状土坑が検出されており、出土した土器は主に後期前葉に位置付けられるものである。上水沢Ⅱ遺跡は平成12年度（2000）に岩文振埋文により本発掘調査が行われ、後期前葉から後葉の竪穴住居跡が11軒発見された。

なお、三陸沿岸道路建設事業に伴い発掘調査が行われた遺跡で、後期に属する竪穴住居跡が検出された遺跡は、西平内Ⅰ遺跡（185）、南川尻遺跡（194）、サンニヤⅠ遺跡（195）、北鹿糠遺跡（196）、南鹿糠Ⅰ遺跡（206）があり、南川尻遺跡は後葉、それ以外は前葉のものである。

晩期の遺跡として、たけの子遺跡（21）、大平遺跡（32）、ニサクドウ遺跡（58）、戸類家遺跡（61）、田ノ沢遺跡（63）などがある。特にたけの子遺跡は町内で晩期を代表する遺跡である。昭和36年度岩手県遺跡台帳作成調査において、戦争中開墾の際多数の土器が出土し、現在は植林されており包含層は良好で重要な遺跡であるとの報告がある。洋野町立種市歴史民俗資料館収蔵の考古資料の多くはこの遺跡からの出土である。戸類家遺跡は昭和32年（1957）に慶応義塾大学江坂輝彌氏により発掘調査が行われており、土器、石器の他に土偶が出土している。この時の土偶は現在慶応義塾大学考古学研究室に収蔵されている。また、昭和7年（1932）には岩手県史跡名勝天然記念物調査会委員であった小田島禄郎氏が同町を訪れており、その時に採集された田ノ沢遺跡、八木貝塚の出土遺物が岩手県立博物館に収蔵されている。

なお、貝塚遺跡としてホックリ貝塚（33）、八木貝塚（37）、小子内貝塚（40）、黒マッカ貝塚（41）がある。ホックリ貝塚からは岩手県で初めて縄文時代の製塩土器が出土しており、久慈市の大芦Ⅰ遺跡で平成9年（1997）に発見されるまで、製塩土器が発見された県内唯一の遺跡であった。海岸付近に位置する同貝塚は、昭和24年(1949)に行われた造船所の建設工事によりほぼ壊滅したとみられるが、製塩遺跡であった可能性がある。洋野町の故玉沢重作氏により製塩土器が発見され、その後岡山大学名誉教授近藤義郎氏が、芹沢長介氏、伊東信雄氏、江坂輝彌氏から情報を得て昭和35年（1960）同遺跡を調査し、土器の検討を行っている。このほか縄文時代の製塩土器は、ゴッソー遺跡の平成12年度（2000）岩文振埋文による本発掘調査でコンテナ1箱分出土している。洋野町立種市歴史民俗資料館には、たけの子遺跡で採取された縄文時代の製塩土器片が多数収蔵されている。また、平成16年度（2004）の種市町内遺跡詳細分布調査において、南平内Ⅰ遺跡（182）より製塩土器片が晩期の縄文土器とともに発見された。同遺跡は現在の汀線まで約150mの距離であるが、時代によっては汀線付近であった可能性もある。遺跡の残存状況も良くないため詳細は不明であるが、位置から推測すると製塩を行った遺跡であることも考えられる。

弥生時代の遺跡として、大平遺跡（32）、大宮Ⅱ遺跡（47）、大宮Ⅰ遺跡（48）、平内Ⅱ遺跡（65）、上水沢Ⅱ遺跡（92）などがある。先述した平内Ⅱ遺跡では、平成25年度の調査で弥生時代前期後葉の竪穴住居跡が2軒検出されている。上水沢Ⅱ遺跡では弥生時代後期の竪穴住居跡が1軒検出され、土器がコンテナ約1箱分出土している。なお、西平内Ⅰ遺跡では、沈線間に交互刺突文を有する弥生時代後期の土器片が出土している。

古墳時代の遺跡については集落遺跡の確認はないが、袖山遺跡（38）において、剣形の石製模造品が表面採集されている。同品もまた故玉沢重作氏により発見されたもので、長さ4.2㎝、最大幅1.5㎝、厚さは最大で4㎜、重さは3.6g、石材は北上山地が産出地の蛇紋岩で、色調は暗緑灰色である。茎の表現が簡略化された二等辺三角形に三角形を付加した形状で、全体が丁寧に研磨されて、頭部には垂下孔とみられる径2㎜の穿孔があり、表面は鎬が表現されている。形状から5世紀後葉より古い可能性がある。袖山遺跡は標高約50mの海岸段丘上に立地し、現状は山林などで、主な時代は縄文時代であるが、石製模造品の他には当該期の遺物は発見されていない。昭和28年（1953）に東北大学伊東信雄教授が東北地方の石製模造品の集成を行い発表した「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」により同品が紹介され知られるようになった。この石製模造品も岩手県で初めて発見されたもので、昭和58年（1983）に一戸町馬場平遺跡から剣形の石製模造品が発見されるまで県内唯一のものであった。

奈良・平安時代の遺跡として、城内遺跡（11）、ニサクドウ遺跡（58）、八森遺跡（73）、サンニヤⅡ遺跡（205）、

南鹿糠Ⅰ遺跡(206)などがある。サンニヤⅡ遺跡では、三陸沿岸道路事業に伴い平成26年度(2014)・27年度(2015)の岩手県教育委員会による発掘調査で、8世紀後半から9世紀前半の時期の竪穴住居跡が3軒検出されている。また、国道45号線種市登坂車線整備事業に伴い、岩文振埋文により平成28年度（2016）に調査が行われた、八森遺跡でも8世紀代の竪穴住居跡が1軒検出されている。城内遺跡からは8世紀代と考えられる土師器の長胴甕、球胴甕、甑、土師器坏が出土している。なお、草間教授の報告書によるとニサクドウ遺跡で土製支脚、土師器坏が出土している。

二十一平遺跡（69）では古代（平安時代）の製塩土器が出土している。同遺跡は岩手県と青森県境を流れる二十一川の南側の汀線付近に位置する。海岸整地に伴う重機の掘削により遺跡の存在が明らかになり、平成15年度（2003）に新規登録された。製塩土器片、土製支脚片が多量に散布し、被熱したような円礫もみられた。現在までにコンテナで約5箱分が採取されている。遺跡の立地、発見された遺物の状況から製塩を行った可能性が高いが、保存状況は重機の掘削により一部破壊されていると考えられる。また、未登録の遺跡ではあるが、駒木野智寛氏、相原淳一氏による古津波堆積層の調査に伴い海岸付近で採集されている製塩土器もある。なお、古代の製塩土器は海岸から6.2kmの舘野遺跡（207）でも採集されており、町内には縄文時代や古代の製塩土器、土製支脚を伴う遺跡が多く所在することが予想され、製塩遺跡の発見や製塩土器の資料の増加が見込まれる。

中世の遺跡として中世城館跡の分布調査が昭和59年（1984）に岩手県教育委員会により行われており、岩手県遺跡台帳には28遺跡が登録されているが、ほとんどが城主などの詳細が不明である。

種市の城内地区には種市氏の居城である種市城跡が所在する。種市氏は中世～近世初期に当地方を領有していた三戸南部氏（後の盛岡南部氏）の家臣である。『南部藩参考諸家系図』（以後系図）によれば、種市中務（実名不詳）が三戸南部氏24代晴政から種市村、蛇口村（軽米町）ならびに傍村賜り種市村に居住したとある。およそ16世紀半ば頃と推測されるが、それ以前のことは不明である。『奥南旧指録』には、三戸南部氏25代晴継の股肱の臣として中務が久慈備前らと名を連ねており、三戸南部氏の有力家臣であったとみられる。系図によると、種市中務の長男光徳は同じく中務と称した。光徳は三戸南部氏26代信直（初代盛岡藩主）から種市村ならびに傍村に600石を賜ったとある。『聞老遺事』によると、天正19年（1951）九戸政実の乱の際、信直方に属し18人の部下と鉄砲三挺、弓三張で参陣している。また、2代盛岡藩主利直の時に起きた慶長5年（1600）の岩崎合戦では、部下18人と参陣している。なお、系図には光徳の妻は根城南部氏（後の遠野南部氏）18代八戸政栄の弟新田政盛の娘であることが記されている。

その後光徳の長男孫三郎が家督を継いだ。『聞老遺事』によれば大坂夏の陣に出陣している。光徳と孫三郎父子は、初代盛岡藩主信直、2代盛岡藩主利直父子に仕え活躍した家臣であったが、孫三郎は3代盛岡藩主重直の時、罪ありということで禄を没収され、慶安2年（1649）に没している。

光徳の次男吉広は系図によれば、天正15年（1587）に初代盛岡藩主信直から閉伊口村（久慈市）を賜り住んでいたが、天正17年（1589）に蛇口村に替地を賜り、蛇口氏に姓を変えている。

岩手県遺跡台帳には、平時居住していた平城の種市城跡（16）と非常時に立てこもったとされる山城の種市城跡（17）が登録されている。平城の種市城跡はJR八戸線種市駅より西へ約9kmに所在し、平城跡は現在でも馬場屋敷、的場、神楽屋敷など当時の名残と思われる地名が存在する。そこから南西へ約1kmに山城の種市城跡が位置する。

天正18年（1590）、豊臣秀吉の朱印状により初代盛岡藩主信直が「南部内七郡」を安堵されると、八戸・九戸地方一帯は信直が直接支配することとなり、寛永4年（1627）に根城南部氏が伊達氏に対する備えを理由に遠野へ転封されると盛岡藩の直轄地になった。八戸には八戸城代が配置され、さらに八戸地方には八戸代官、九戸郡には久慈代官を派遣し支配にあたったようである。

寛文4年（1664）9月、3代盛岡藩主重直が跡継ぎを決めないままに死去した。同年11月、幕府は重直の次弟の重信と末弟の直房を呼び、盛岡藩10万石のうち8万石を重信に相続させ、残り2万石を直房に与え、新規に一藩をおこさせる処置を取った。寛文5年（1665）2月、盛岡藩より領地の配分が行われ、八戸を居城とし、三

戸郡 41 箇村、九戸郡 38 箇村、志和郡 4 箇村、都合 83 箇村が付与された。八戸藩は、各村の支配のため通制という行政区域を用い、三戸郡には八戸廻・名久井通・長苗代通、九戸郡には軽米通・久慈通、志和郡には志和の行政区を設定し、各通には代官所を配置した。種市は八戸廻、大野は久慈通に属していた。

八戸藩の主な産業は、商業、林業、漁業、製塩業、鉄産業、造船業などがあり、特に製鉄業は原料である砂鉄と燃料の薪炭材が豊富であったため盛んに行われた。製鉄に関する史料は八戸藩の藩庁の日記である目付所日記、勘定所日記、民間の史料では晴山家文書、淵沢家文書、西町屋（石橋）文書などがあり、様相を知ることができる。

製鉄の中心地は大野で、鉄山会所として日払所がおかれ、鉄山支配人が詰めて生産方を指揮した。天保 9 年（1838）には、大野の鉄山として玉川山、 金取山、葛柄山、水沢山、大谷山、川井山、滝山の七山があった。晴山家文書の天保 8 年（1837）「寛政年中より拾書」は鉄山支配人の経緯が記されているが、晴山文史郎から安永 7 年（1778）に初代晴山吉三郎へ受け継がれ、その後数人の支配人を経て、享和 2 年（1802）からは飛騨の浜谷（屋）茂八郎が引き継いだ。そして、文政 6 年（1823）には、鉄山は藩営となり、石橋徳右衛門が支配人に就任して、その下支配人に二代目晴山吉三郎が就いた。さらに天保 5 年（1834）の百姓一揆後は、軽米の淵沢円右衛門が支配人を命じられ、天保 9 年（1838）からは江戸の美濃屋宗（惣）三郎（家臣名金子丈右衛門）へと移った経過が記されている。

近世の遺跡として町指定史跡の有家台場（46）がある。目付所日記によると、八戸藩では幕府から異国船警戒の命を受けて、寛政 3 年（1791）に鉄砲堅・目付御用掛を任命し、異国船の警戒に当たらせたようである。寛政 5 年（1793）の中里覚右衛門書き上げの「堅場」には「大堅」として鮫村、麦生、「小堅」として八太郎浦、湊浦、小船渡浦、有家浦、中野浦の名があげられている。藩の日記などには異国船の出没記録がいくつかあるが、目付所日記によると文政 8 年（1825）有家浦の沖合 15 里に異国船一隻が近寄り、伝馬船二隻を出して上陸の様子をみせたので、弓・鉄砲衆など計 34 人の藩士が同日に派遣されたことが記されている。その後、安政元年（1854）八太郎・湊場尻・館鼻・塩越・鮫・小船渡・有家・久慈湊に台場が築かれ、有家にも陣屋堅の役人が任命された。有家台場跡の現況は、八戸線の建設工事などで破壊されているものの、保存状況は概ね良好で、盛土遺構の一部が残存している。

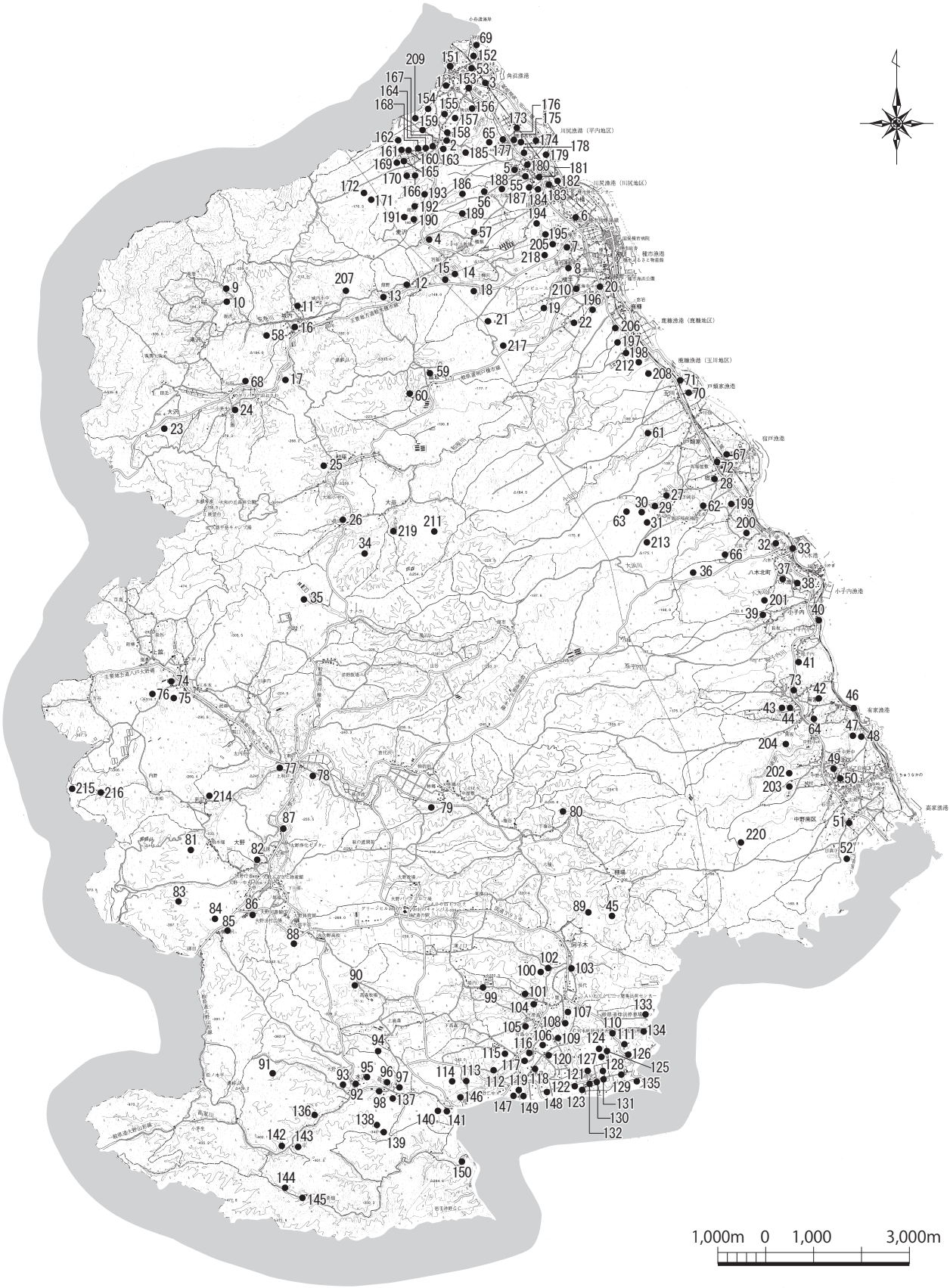
当町の特徴を示す製鉄関連の遺跡は、21 箇所（旧種市町 16 箇所、旧大野村 5 箇所）登録されている。先述した七山の一つである大谷鉄山（26）は大谷地区にあり、鉄山操業により形成された集落とみられ、製鉄に関わった人々の子孫が多く居住している。製鉄関連の遺跡調査については、岩手県教育委員会の製鉄関連遺跡の詳細分布調査において、旧種市町 5 箇所、旧大野村 35 箇所の遺跡の所在を確認している。また、元野田村教育長、田村栄一郎氏によるたたら遺跡の踏査によると、旧種市町は鉄山跡 12 箇所の他、密銭場跡や鍛冶場跡など 15 箇所、旧大野村は 42 箇所と鍛冶場跡の調査結果報告（1987『みちのくの砂鉄いまいずこ』）がある。鉄滓が採集される遺跡が少なくとも 60 箇所以上にのぼり、未発見のものも含めると相当数になると考えられる。

なお、三陸沿岸道路建設事業に伴う発掘調査において南八木遺跡（201）で古代～中世の製鉄関連の遺跡が発見された。少なからず近世以前のものも所在することが予想されるが、町内の製鉄関連遺跡を踏査された佐々木清文氏によると、ほとんどが近世のもので、それ以前のものは所在しても少数であろうとのご教示をいただいている。今後製鉄関連の詳細な町内全域の分布調査を行い、製鉄関連遺跡分布図の作成、遺跡の登録作業が必要である。

製鉄以外の金・銀・銅・鉛鉱山のいわゆる非鉄鉱業については、八戸藩の日記類に僅かにみられるが、盛岡藩領に比べ八戸藩領内には大きな金山はなく、小規模な金山がいくつかあるのみのようである。梅内家文書の慶安 2 年（1649）の「砂金採取運上金請取状」によると、沢尻、雪畑、小手沢、野そうけ山に金山があったことが記されている。岩手県遺跡台帳には金山跡として、小手野沢金山（14）、ノソウケ金山（23）の 2 遺跡が登録されている。

＜引用・参考文献＞

伊東信雄 1953「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」『歴史第 6 輯』東北史学会
草間俊一 1963『種市の歴史（原始－ 中世）種市町諸遺跡の調査報告』種市町役場
角川書店 1985『角川　日本地名大辞典 3 岩手県』
岩手県教育委員会 1986『岩手県中世城館分布調査報告書』岩手県文化財調査報告書第 82 集
田村栄一郎 1987『みちのくの砂鉄いまいずこ』
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 238 集
岩手県教育委員会 1998『岩手の貝塚』岩手県文化財調査報告書第 102 集
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 357 集
岩手県久慈地方振興局久慈農村整備事務所・（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
2002『上水沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 391 集
種市町教育委員会 2004『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』種市町埋蔵文化財調査報告書第 1 集
種市町教育委員会 2005『種市町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ』種市町埋蔵文化財調査報告書第 2 集
洋野町 2006『種市町史第六巻通史編（上）』種市町史編さん委員会
大野村 2006『大野村誌第二巻史料編 1』大野村誌編さん委員会
岩手県教育委員会 2006『岩手の製鉄遺跡』岩手県文化財調査報告書第 122 集
洋野町教育委員会 2013『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第 1 集
洋野町教育委員会 2015『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第 2 集
（公財）岩手県文化振興事業団 2015『平成 26 年度発掘調査報告書 南川尻遺跡　下向遺跡　沼袋Ⅱ遺跡
沼袋Ⅲ遺跡 八幡沖遺跡 ほか調査概報（39 遺跡）』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 647 集
（公財）岩手県文化振興事業団 2016『平成 27 年度発掘調査報告書 サンニヤ遺跡　房の沢Ⅳ遺跡　白石遺跡
ほか調査概報（33 遺跡）』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 661 集
岩手県教育委員会 2016『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成 26 年度　復興関係）』岩手県文化財調査報告書第 146 集
洋野町教育委員会 2017『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第 3 集
岩手県教育委員会 2017『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成 27 年度　復興関係）』岩手県文化財調査報告書第 149 集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団 2017『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 673 集
（公財）岩手県文化振興事業団 2017『平成 28 年度発掘調査報告書 岩洞湖Ⅰ遺跡・栃洞Ⅳ遺跡・八森遺跡
ほか調査概報（28 遺跡）』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 676 集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団 2018『北鹿糠遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 686 集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団 2018『サンニヤⅠ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 687 集
（公財）岩手県文化振興事業団 2018『平成 29 年度発掘調査報告書 岩洞湖Ⅰ・Ⅱ遺跡 和野新墾神社遺跡 北野Ⅻ遺跡
木戸場遺跡 中野城内遺跡 沼里遺跡 根井沢穴田Ⅳ遺跡 耳取Ⅰ遺跡 千厩城遺跡　ほか調査概報（23 遺跡）』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 692 集
岩手県教育委員会 2018『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成 28 年度　復興関係）』岩手県文化財調査報告書第 152 集



第 5 図　町内の遺跡位置図

No.	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	所在地	時 代	種　別	出土遺構・遺物	備考
1	IF37-1386	角浜	かどのはま	種市第42地割	縄文	散布地	縄文土器	別記※2、範囲変更（平成23年度）
2	IF37-2396	伝吉Ⅰ	でんきちいち	種市第43地割	縄文、古代	散布地	縄文土器（早・前・後期）、剥片石器、礫石器、土師器等	別記※2、伝吉遺跡から名称・範囲変更（平成23年度）　範囲変更（平成25年度）
3	IF38-1086	角川目Ⅰ	かどかわめいち	種市第39地割	縄文	散布地	縄文土器（前・中・晩期）、石斧、敲石、礫器	別記※2、蝦夷森（アイヌ森）遺跡から名称・範囲変更（平成23年度）
4	IF47-2334	千敷平	せんじきだいら	種市第48地割	縄文	集落跡	縄文土器（前・中・晩期）、石棒、剥片	
5	IF48-0170	平内Ⅰ	ひらないいち	種市第34地割	縄文	散布地	縄文土器（前・中期）、剥片	別記※2、平内遺跡から名称・範囲変更（平成23年度）
6	IF48-1276	南館	みなみだて	種市第28地割	中世	城館跡	堀跡（破壊）	昭和59年度調査
7	IF48-2234	横手	よこて	種市第24地割	縄文、古代	散布地	縄文土器（晩期）、土師器	範囲変更（平成23年度）
8	IF48-2283	トチの木	とちのき	種市第21地割	縄文	散布地	縄文土器（後・晩期）	
9	IF56-0330	荒巻	あらまき	種市第59地割	縄文、弥生	集落跡	縄文土器（中期）、弥生土器	
10	IF56-0370	八幡堂館（八幡蝦夷館）	はちまんどうだて	種市第61地割	中世	城館跡	単郭、堀跡	昭和59年度調査、八幡館より名称変更（平成13年度）
11	IF57-0086	城内	じょうない	種市第56地割	縄文、古代	集落跡	土師器長胴甕、土師器壷	
12	IF57-0229	荒屋敷館（蝦夷館）	あらやしきだて	種市第50地割	中世	城館跡	堀跡（破壊）	昭和59年度調査
13	IF57-0264	舘野館	たてのだて	種市第50地割	中世	城館跡	単郭、堀跡、竪穴	昭和59年度調査
14	IF57-0309	小手野沢金山	こてのさわきんざん	種市第51地割	近世	砂金採取跡	石垣	小手野山金山より名称変更（平成13年度）
15	IF57-0317	土橋館	どばしだて	種市第51地割	中世	城館跡	屋敷跡、採掘跡	昭和59年度調査
16	IF57-1023	種市城（平城）	たねいちじょう	種市第60地割	中世	城館跡	堀跡	昭和59年度調査
17	IF57-2033	種市城（山城）	たねいちじょう	種市第60地割	中世	城館跡	堀跡、平場	
18	IF58-0034	小手野沢館	こてのさわだて	種市第51地割	中世	城館跡	堀跡、平場	昭和59年度調査
19	IF58-0169	板橋館	いたばしだて	種市第21地割	中世	城館跡	単郭、堀跡	昭和59年度調査
20	IF58-0341	ゴッソー	ごっそー	種市第18地割	縄文	集落跡、狩猟場跡	竪穴住居跡、陥し穴状遺構、焼土遺構、柱穴状小土坑、土坑、縄文土器（早～晩期）、製塩土器、弥生土器、石器	別記※5・※6、平成6年度・12年度・27年度本発掘調査
21	IF58-1006	たけの子	たけのこ	種市第21地割	縄文	散布地	縄文土器（後・晩期）、製塩土器	
22	IF58-1205	大久保	おおくぼ	種市第19地割	縄文、古代	散布地	縄文土器（前・後・晩期）、石斧、土師器	
23	IF66-0156	ノソウケ金山	のそうけきんざん	種市第70地割	近世	砂金採取跡	石垣	
24	IF66-0300	小茅生館（タテッコ）	こがようだて	種市第70地割	中世	城館跡		昭和59年度調査
25	IF67-1131	和座館	わざだて	種市第71地割	中世	城館跡	単郭、堀跡、平場	昭和59年度調査
26	IF67-2146	大谷鉄山	おおやてつざん	種市第73地割	近世	製鉄関連	鉄滓	八戸藩大野村鉄山
27	IF69-1094	西の館	にしのだて	種市第8地割	縄文、中世	散布地、城館跡	縄文土器（後期）、石器、平場	
28	IF69-1157	宿戸館	しゅくのへだて	種市第7地割	中世	城館跡	単郭、堀跡、平場	昭和59年度調査
29	IF69-2013	西の館	にしのだて	種市第7地割	中世	城館跡	土塁、堀跡、平場	昭和59年度調査
30	IF69-2020	西舘の田	にしだてのた	種市第7地割	縄文	散布地	縄文土器（晩期）、石器、土偶	
31	IF69-2041	上岡谷	かみおかや	種市第7地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）	
32	IF69-2380	大平	おおだいら	種市第3地割	縄文、弥生	集落跡	縄文土器（早・晩期）、弥生土器	
33	IF69-2393	ホックリ貝塚	ほっくりかいづか	種市第2地割	縄文、古代	貝塚	縄文土器、製塩土器、カキ、ミルクイ、土師器	
34	IF77-0201	細沢鉄山	ほそざわてつざん	種市第74地割	近世	製鉄関連	鉄滓	
35	IF77-1027	濁川鉄山	にごりがわてつざん	種市第73地割	近世	製鉄関連	鉄滓	
36	IF79-0123	小田の沢鉄山	おだのさわてつざん	種市第3地割	近世	製鉄関連	鉄滓	
37	IF79-0351	八木貝塚	やぎかいづか	種市第1地割	縄文	貝塚	縄文土器（晩期）、鹿角	
38	IF79-0373	袖山	そでやま	種市第1地割	縄文、古墳	集落跡	縄文土器（中・後期）、石製模造品（古墳時代）	
39	IF79-1245	長坂	ながさか	小子内第1地割	縄文	散布地	縄文土器（後・晩期）	
40	IF79-1358	小子内貝塚	おこないかいづか	小子内第5地割	縄文	貝塚	染付磁器、鉄片、ミルクイ、イシダタミ	
41	IF79-2344	黒マッカ貝塚	くろまっかかいづか	有家第2地割	縄文、古代	貝塚	縄文土器（後期）、石器、土師器	
42	IF89-0339	向折戸	むかいおりど	有家第3地割	縄文	集落跡	縄文土器（晩期）、石斧	
43	IF89-0340	上のマッカ	うえのまっか	有家第5地割	縄文	集落跡	縄文土器（前～後期）、石斧、剥片	範囲変更（平成23年度）
44	IF89-0353	有家館	うげだて	有家第5地割	中世	城館跡	単郭、堀跡（破壊）	昭和59年度調査、範囲変更（平成23年度）

第１表　町内の遺跡一覧（１）

No.	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	所在地	時 代	種　別	出土遺構・遺物	備考
45	IF99-1153	芦毛渡鉄山	あしげわたりてつざん	中野第7地割	近世	製鉄関連	鉄滓	
46	IG80-0056	有家台場	うげだいば	有家第8地割	近世	砲台場跡	土塁	昭和59年度調査
47	IG80-1006	大宮Ⅱ	おおみやに	中野第2地割	縄文、弥生	散布地	縄文土器（早期）、弥生土器	
48	IG80-1008	大宮Ⅰ	おおみやいち	中野第2地割	縄文、弥生	集落跡	縄文（早・前・晩期）、石錘、弥生土器	
49	IG80-1063	長根塚	ながねづか	中野第2地割	縄文	散布地	縄文土器	
50	IG80-2004	中野館（館桜・蝦夷館）	なかのだて	中野第4地割	中世	城館跡	単郭、堀跡（破壊）	昭和59年度調査
51	IG90-0005	蝦夷塚	えぞづか	中野第11地割	縄文	集落跡	縄文土器	範囲変更（平成23年度）
52	IG90-0085	藤好沢	ふじよしざわ	中野第7地割	縄文	集落跡	縄文土器（前・晩期）、石刀	
53	IF38-1072	アイヌ森	あいぬもり	種市第39地割	縄文、弥生、古代	散布地	縄文土器（前～晩期）、縄文晩期後葉～弥生前期の土器、石器、土師器	別記※2、浜通遺跡から名称・範囲変更（平成23年度）
54	欠番	–	–	–	–	–	–	北ノ沢遺跡登録抹消（範囲・名称変更のため）
55	IF48-0194	平内Ⅲ	ひらないさん	種市第34地割	縄文	散布地	縄文土器（中期）、磨石	別記※2、範囲変更（平成23年度）
56	IF48-1025	石倉	いしくら	種市第37地割	縄文、古代	散布地	縄文土器（後期）、敲石、礫器、土師器	別記※2、範囲変更（平成23年度）
57	IF48-2023	櫃割	ひつわり	種市第30地割	縄文	散布地	石棒	
58	IF56-1358	ニサクドウ	にさくどう	種市第63地割	縄文、古代	散布地	縄文土器（晩期）、土師器、支脚	
59	IF57-2323	高取Ⅰ	たかとりいち	種市第21地割	縄文	散布地	縄文土器	
60	IF57-2279	高取Ⅱ	たかとりに	種市第21地割	縄文	集落跡	縄文土器（中・晩期）	
61	IF69-0042	戸類家	へるけ	種市第11地割	縄文	散布地	縄文土器（晩期）、土偶	
62	IF69-2113	向山	むかいやま	種市第6地割	縄文	散布地	縄文土器	
63	IF68-2337	田ノ沢	たのさわ	種市第7地割	縄文	散布地	縄文土器（晩期）	
64	IF89-0378	向長根	むかいながね	有家第8地割	縄文	散布地	縄文土器	
65	IF48-0017	平内Ⅱ	ひらないに	種市第43地割	縄文、弥生、近世	散布地、狩猟場跡	竪穴住居跡、屋外炉、土坑、溝状遺構、集石、溝跡、焼土遺構、縄文土器（早期中葉・中期末～後期前葉）、弥生土器（前期後半）、土製品、石器、石製品、鉄製品、煙管、銭貨	別記※1～※4、平成11～13年度・23～25年度本発掘調査、範囲変更（平成23年度）
66	IF79-0119	大浜	おおはま	種市第3地割	縄文	集落跡	縄文土器、石器	
67	IF69-1109	舘	たて	種市第7地割	縄文	集落跡	縄文土器（中期）	
68	IF56-2350	大沢	おおさわ	種市第66地割	縄文	散布地	縄文土器	平成13年度新規発見
69	IF38-0098	二十一平	にじゅういちたい	種市第41地割	古代	製塩遺跡	製塩土器、土製支脚、土師器	別記※2、平成15年度新規発見、範囲変更（平成23年度）
70	IF59-2161	玉川Ⅰ	たまがわいち	種市第13地割	縄文	散布地	縄文土器（早期）	
71	IF59-2038	玉川Ⅱ	たまがわに	種市第14地割	縄文	散布地	縄文土器（前期）	
72	IF69-1126	馬場	ばば	種市第7地割	縄文	散布地	縄文土器	平成16年度新規発見、範囲変更（平成23年度）
73	IF89-0314	八森	はちもり	有家第3地割	縄文、奈良	集落跡	竪穴住居跡、縄文土器、石器、土師器	別記※11、平成16年度新規発見、範囲変更（平成23年度）、平成28年度本発掘調査
74	IF86-0118	向田Ⅱ	むかいだに	大野第20地割	縄文	散布地	縄文土器	
75	IF86-0137	向田	むかいだ	大野第23地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）、石器	
76	IF86-0144	向田Ⅰ	むかいだいち	大野第20地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）、石器	
77	IF87-1082	明戸館	あけどだて	大野第29地割	中世	城館跡	単郭、土塁、堀跡、平場	昭和59年度調査
78	IF87-2100	萩の渡	はぎのわたり	大野第36地割	近世	製鉄関連	鉄滓	
79	IF87-2366	沢山館（蝦夷館）	さわやまだて	大野第49地割	中世	城館跡	堀跡、単郭	昭和59年度調査
80	IF88-2284	牛転ばし林館	うしころばしばやしだて	大野第55地割	中世	城館跡	堀跡、平場	昭和59年度調査
81	IF96-0272	たてひら館	たてひらやかた	大野第13地割	中世	城館跡	郭跡、堀跡、平場	昭和59年度調査
82	IF96-0387	長根	ながね	大野第72地割	縄文	散布地	縄文土器（後・晩期）、石器	
83	IF96-1280	蝦夷森館	えぞもりだて	大野第10地割	中世	城館跡	郭跡、堀跡、平場	昭和59年度調査
84	IF96-2238	横岸沢Ⅱ	よこぎしざわに	大野第4地割	縄文	散布地	石器、壷	
85	IF96-2249	横岸沢Ⅰ	よこぎしざわいち	大野第5地割	縄文	散布地	壷、石器	
86	IF96-2316	大野館	おおのだて	大野第5地割	中世	城館跡	平場	昭和59年度調査
87	IF97-0012	ひともっこ館	ひともっこだて	大野第69地割	中世	城館跡	単郭、堀跡、平場、竪穴	昭和59年度調査
88	IF97-2055	金ケ沢	かねがさわ	大野第59地割	縄文	散布地	縄文土器（前期）	
89	IF98-1299	阿子木館	あこぎだて	阿子木第4地割	中世	城館跡	単郭、堀跡、竪穴	昭和59年度調査
90	JF07-0168	高森Ⅱ	たかもりに	大野第57地割	縄文	散布地	縄文土器	

第１表　町内の遺跡一覧（２）

No.	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	所在地	時 代	種　別	出土遺構・遺物	備考
91	JF07-2061	上水沢Ⅰ	かみみずさわいち	水沢第5地割	縄文	散布地	縄文土器	
92	JF07-2188	上水沢Ⅱ	かみみずさわに	水沢第7地割	縄文、弥生	集落跡	縄文土器（早～後期）、弥生土器、土製品、石器、アスファルト塊、鉄製品、銭貨、陶磁器（近・現代）	別記※7、平成12年度本発掘調査
93	JF07-2196	上水沢Ⅲ	かみみずさわさん	水沢第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
94	JF07-2204	高森Ⅰ	たかもりいち	水沢第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
95	JF07-2272	上水沢Ⅳ	かみみずさわよん	水沢第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
96	JF07-2275	上水沢Ⅴ（蝦夷館）	かみみずさわご	水沢第7地割	中世	城館跡	単郭	昭和59年度調査
97	JF07-2288	下水沢Ⅰ	しもみずさわいち	水沢第8地割	縄文	散布地	剥片	
98	JF07-2294	上水沢Ⅵ	かみみずさわろく	水沢第9地割	縄文	散布地	縄文土器	
99	JF08-0067	堤内	つつみない	大野第57地割	縄文	散布地	縄文土器	
100	JF08-0129	日当Ⅰ	ひなたいち	大野第57地割	古代	散布地	土師器	
101	JF08-0186	下帯島Ⅰ	しもたいしまいち	帯島第11地割	縄文	散布地	縄文土器	
102	JF08-0221	日当Ⅱ	ひなたに	阿子木第9地割	縄文	散布地	縄文土器	
103	JF08-0225	阿子木	あこぎ	阿子木第12地割	縄文	散布地	縄文土器	
104	JF08-1108	下帯島Ⅱ	しもたいしまに	帯島第11地割	縄文	散布地	縄文土器	
105	JF08-1156	蝦夷館Ⅰ	えぞだていち	帯島第5地割	中世	城館跡	平場、堀跡	昭和59年度調査
106	JF08-1199	上帯島Ⅰ	かみたいしまいち	帯島第8地割	縄文	散布地	縄文土器	
107	JF08-1225	二ツ屋	ふたつや	阿子木第18地割	縄文	散布地	縄文土器	
108	JF08-1254	下帯島Ⅲ	しもたいしまさん	阿子木第18地割	古代	散布地	土師器	
109	JF08-1272	下帯島Ⅳ	しもたいしまよん	帯島第9地割	縄文	散布地	縄文土器	
110	JF08-1375	二ツ屋向	ふたつやむかい	阿子木第12地割	縄文	散布地	縄文土器	
111	JF08-1398	長塚森Ⅰ	ちょうづかもりいち	阿子木第12地割	縄文	散布地	縄文土器	
112	JF08-2059	高森Ⅲ	たかもりさん	帯島第4地割	縄文	散布地	縄文土器	
113	JF08-2073	大渡Ⅳ	おおわたりよん	帯島第1地割	縄文	散布地	縄文土器	
114	JF08-2081	大渡Ⅴ（蝦夷館）	おおわたりご	帯島第1地割	中世	城館跡か?	単郭、堀跡	昭和59年度調査
115	JF08-2111	蝦夷館	えぞだて	帯島第4地割	中世	城館跡	単郭、堀跡	昭和59年度調査
116	JF08-2117	関口Ⅰ	せきぐちいち	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
117	JF08-2127	関口Ⅱ	せきぐちに	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
118	JF08-2148	上帯島Ⅱ	かみたいしまに	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
119	JF08-2194	上帯島Ⅲ	かみたいしまさん	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
120	JF08-2211	上帯島Ⅳ	かみたいしまよん	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
121	JF08-2269	弥栄Ⅰ	いやさかいち	弥栄	縄文	散布地	縄文土器	
122	JF08-2287	弥栄Ⅲ	いやさかさん	弥栄	縄文	散布地	縄文土器	
123	JF08-2298	弥栄Ⅳ	いやさかよん	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
124	JF08-2301	弥栄Ⅴ	いやさかご	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
125	JF08-2304	弥栄Ⅵ	いやさかろく	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
126	JF08-2318	長塚森Ⅱ	ちょうづかもりに	阿子木第12地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）、壷	
127	JF08-2322	弥栄Ⅶ	いやさかなな	弥栄	縄文	散布地	縄文土器	
128	JF08-2353	弥栄Ⅷ	いやさかはち	弥栄	縄文	散布地	縄文土器	
129	JF08-2357	弥栄Ⅸ	いやさかきゅう	弥栄	縄文	散布地	縄文土器	
130	JF08-2371	弥栄Ⅹ	いやさかじゅう	弥栄	縄文	散布地	縄文土器	
131	JF08-2373	弥栄Ⅺ	いやさかじゅういち	弥栄	縄文	散布地	縄文土器	
132	JF08-2380	弥栄Ⅻ	いやさかじゅうに	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
133	JF09-1022	長塚森Ⅲ	ちょうづかもりさん	阿子木第12地割	縄文	散布地	石鏃	
134	JF09-1051	長塚森Ⅳ	ちょうづかもりよん	阿子木第12地割	縄文	散布地	縄文土器	
135	JF09-2071	弥栄Ⅱ	いやさかに	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
136	JF17-0140	上水沢Ⅶ	かみみずさわなな	水沢第3地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）	
137	JF17-0218	下水沢Ⅱ	しもみずさわに	水沢第9地割	縄文	散布地	縄文土器	
138	JF17-0296	金間部Ⅰ	かなまぶいち	水沢第12地割	近世	製鉄関連	鞴の羽口、鉄滓	
139	JF17-0297	金間部Ⅱ	かなまぶに	水沢第12地割	縄文、古代、近世	散布地	縄文土器、土師器、寛永通宝	
140	JF17-0337	大渡Ⅰ	おおわたりいち	水沢第10地割	縄文	散布地	縄文土器	

第１表　町内の遺跡一覧（３）

№.	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	所在地	時 代	種　別	出土遺構・遺物	備考
141	JF17-0339	大渡Ⅱ	おおわたりに	水沢第10地割	縄文	散布地	縄文土器	
142	JF17-1022	生平Ⅰ	おいたいらいち	水沢第2地割	縄文	散布地	縄文土器	
143	JF17-1024	生平Ⅱ	おいたいらに	水沢第2地割	縄文	散布地	縄文土器	
144	JF17-2003	青菜畑Ⅱ	あおなはたに	水沢第14地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）	
145	JF17-2027	青菜畑	あおなはた	水沢第13地割	縄文	散布地	縄文土器、石器	
146	JF18-0002	大渡Ⅲ	おおわたりさん	帯島第2地割	縄文	散布地	縄文土器	
147	JF18-0103	帯島開拓地Ⅰ	たいしまかいたくちいち	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
148	JF18-0108	帯島開拓地Ⅱ	たいしまかいたくちに	弥栄	縄文	散布地	縄文土器	
149	JF18-0116	帯島開拓地Ⅲ	たいしまかいたくちさん	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
150	JF18-1052	太田	おおた	水沢第11地割	縄文	散布地	縄文土器	
151	IF37-1367	堆中山Ⅰ	たいなかやまいち	種市第41地割	縄文	散布地	石斧	別記※2、平成23年度新規発見
152	IF38-1042	堆中山Ⅱ	たいなかやまに	種市第41地割	縄文	散布地	縄文土器、礫器	別記※2、平成23年度新規発見
153	IF38-2001	角川目Ⅱ	かどかわめに	種市第39地割	縄文	散布地	縄文土器	別記※2、平成23年度新規発見
154	IF37-2343	田ノ端Ⅰ	たのはたいち	種市第42地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）	別記※2、平成23年度新規発見
155	IF37-2356	笹花Ⅰ	ささはないち	種市第43地割	縄文	散布地	縄文土器	別記※2、平成23年度新規発見
156	IF38-2053	笹花Ⅱ	ささはなに	種市第43地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）	別記※2、平成23年度新規発見
157	IF37-2379	笹花Ⅲ	ささはなさん	種市第43地割	縄文	散布地	縄文土器	別記※2、平成23年度新規発見
158	IF37-2397	笹花Ⅳ	ささはなよん	種市第43地割	縄文	散布地	縄文土器、石斧、敲石、礫器	別記※2、平成23年度新規発見
159	IF37-2392	伝吉Ⅱ	でんきちに	種市第43地割	縄文	散布地	縄文土器（前期）、石鏃	別記※2、平成23年度新規発見
160	IF47-0239	伝吉Ⅲ	でんきちさん	種市第44地割	縄文	散布地	縄文土器	別記※2、平成23年度新規発見
161	IF47-0238	伝吉Ⅳ	でんきちよん	種市第44地割	不明	製鉄関連	鉄滓	別記※2、平成23年度新規発見
162	IF47-0216	伝吉Ⅴ	でんきちご	種市第44地割	不明	製鉄関連	鉄滓	別記※2、平成23年度新規発見
163	IF47-0345	北ノ沢Ⅰ	きたのさわいち	種市第45地割	縄文	散布地	縄文土器（中期）、石鏃、削掻器、石斧、敲石、剥片	別記※2、平成23年度新規発見、範囲変更（平成25年度）
164	IF47-0333	北ノ沢Ⅱ	きたのさわに	種市第45地割	縄文、古代	散布地	縄文土器、土師器	別記※2、平成23年度新規発見
165	IF47-0258	北ノ沢Ⅲ	きたのさわさん	種市第45地割	縄文	散布地	縄文土器	別記※2、平成23年度新規発見
166	IF47-0390	北ノ沢Ⅳ	きたのさわよん	種市第45地割	縄文、古代	散布地	縄文土器（前期）、土師器	別記※2、平成23年度新規発見
167	IF47-0344	北ノ沢Ⅴ	きたのさわご	種市第45地割	不明	製鉄関連	鉄滓	別記※2、平成23年度新規発見
168	IF47-0341	北ノ沢Ⅵ	きたのさわろく	種市第45地割	不明	製鉄関連	鉄滓	別記※2、平成23年度新規発見
169	IF47-0257	北ノ沢Ⅶ	きたのさわなな	種市第45地割	不明	製鉄関連	鉄滓	別記※2、平成23年度新規発見
170	IF47-0299	北ノ沢Ⅷ	きたのさわはち	種市第45地割	不明	製鉄関連	鉄滓	別記※2、平成23年度新規発見
171	IF47-1250	北ノ沢Ⅸ	きたのさわきゅう	種市第45地割	不明	製鉄関連	鉄滓	別記※2、平成23年度新規発見
172	IF47-1138	北ノ沢Ⅹ	きたのさわじゅう	種市第45地割	不明	製鉄関連	鉄滓	別記※2、平成23年度新規発見
173	IF38-2192	北平内Ⅰ	きたひらないいち	種市第38地割	縄文	散布地	縄文土器、石斧、礫器	別記※2、平成23年度新規発見
174	IF48-0127	北平内Ⅱ	きたひらないに	種市第38地割	縄文、古代	散布地	縄文土器、土師器	別記※2、平成23年度新規発見
175	IF48-0123	北平内Ⅲ	きたひらないさん	種市第38地割	縄文	散布地	縄文土器	別記※2、平成23年度新規発見
176	IF48-0121	北平内Ⅳ	きたひらないよん	種市第38地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）、剥片	別記※2、平成23年度新規発見
177	IF48-0110	北平内Ⅴ	きたひらないご	種市第38地割	縄文、弥生	散布地	縄文土器（後・晩期）、縄文晩期後葉～弥生前期の土器	別記※2、平成23年度新規発見
178	IF48-0143	北平内Ⅵ	きたひらないろく	種市第38地割	縄文	散布地	縄文土器、石斧、敲石	別記※2、平成23年度新規発見
179	IF48-0158	浜平内	はまひらない	種市第36地割	縄文	散布地	縄文土器（早・晩期）、石斧、敲石	別記※2、平成23年度新規発見
180	IF48-0174	平内Ⅳ	ひらないよん	種市第35地割	縄文、古代	散布地	縄文土器（前期）、石斧、敲石、土師器、須恵器	別記※2、平成23年度新規発見
181	IF48-0197	平内Ⅴ	ひらないご	種市第35地割	縄文	散布地	縄文土器（前期）、石斧、礫器	別記※2、平成23年度新規発見
182	IF48-1200	南平内Ⅰ	みなみひらないいち	種市第33地割	縄文	散布地	縄文土器（晩期）、製塩土器	別記※2、平成23年度新規発見
183	IF48-1119	南平内Ⅱ	みなみひらないに	種市第32地割	縄文	散布地	縄文土器、剥片石器	別記※2、平成23年度新規発見
184	IF48-1126	南平内Ⅲ	みなみひらないさん	種市第32地割	縄文	散布地	縄文土器、剥片	別記※2、平成23年度新規発見
185	IF48-0041	西平内Ⅰ	にしひらないいち	種市第37地割	縄文、弥生	散布地	竪穴住居跡、竪穴状遺構、掘立柱建物跡、陥し穴状遺構、土坑、焼土遺構、炉跡、埋設土器、柱穴、配石遺構、集石遺構、整地層、縄文土器（早・前・後期）、弥生土器（後期）、石器、土製品、石製品	別記※2・※10、平成23年度新規発見、平成26年度・27年度本発掘調査、平成28年度ハンドボーリング調査、範囲変更（平成29年度）
186	IF48-1040	西平内Ⅱ	にしひらないに	種市第37地割	縄文	散布地	縄文土器（前期）、石器	別記※2、平成23年度新規発見

第１表　町内の遺跡一覧（４）

No.	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	所在地	時 代	種　別	出土遺構・遺物	備考
187	IF48-1115	東平内Ⅰ	ひがしひらないいち	種市第34地割	縄文	散布地	縄文土器、石斧、敲石、礫器、剥片	別記※2、平成23年度新規発見
188	IF48-1039	東平内Ⅱ	ひがしひらないに	種市第34地割	縄文	散布地	縄文土器	別記※2、平成23年度新規発見
189	IF48-1080	東平内Ⅲ	ひがしひらないさん	種市第34地割	不明	製鉄関連	羽口、鉄滓	別記※2、平成23年度新規発見
190	IF47-1390	姥沢Ⅰ	うばさわいち	種市第47地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）、石鏃、石斧、剥片	別記※2、平成23年度新規発見
191	IF47-1288	姥沢Ⅱ	うばさわに	種市第47地割	縄文、古代	散布地	縄文土器、石斧、土師器	別記※2、平成23年度新規発見
192	IF47-1360	姥沢Ⅲ	うばさわさん	種市第47地割	縄文	散布地	縄文土器（前・後期）、削掻器、石斧、剥片、古銭	別記※2、平成23年度新規発見
193	IF47-1342	姥沢Ⅳ	うばさわよん	種市第47地割	縄文	散布地	縄文土器（中期）、削掻器、ピエスエスキーユ、剥片	別記※2、平成23年度新規発見
194	IF48-1197	南川尻	みなみかわしり	種市第28地割	縄文	集落跡、狩猟場跡	竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構、焼土、墓壙、縄文土器、石器	別記※8・※17、平成25年度新規発見、平成26年度・28年度本発掘調査
195	IF48-2128	サンニヤⅠ	さんにやいち	種市第25地割	縄文	集落跡、狩猟場跡、散布地	竪穴住居跡、陥し穴状遺構、土坑、焼土遺構、縄文土器、石器、鐸形土製品	別記※9・※13・※17、平成25年度新規発見、平成27年度・28年度本発掘調査
196	IF58-0288	北鹿糠	きたかぬか	種市第18地割	縄文	集落跡、狩猟場跡	竪穴住居跡、陥し穴状遺構、土坑、焼土、縄文土器、石器	別記※12、平成25年度新規発見、平成27年度・28年度本発掘調査
197	IF58-1354	鹿糠浜Ⅱ	かぬかはまに	種市第15地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）、石器	平成25年度新規発見
198	IF58-1399	鹿糠浜Ⅰ	かぬかはまいち	種市第15地割	縄文	散布地	縄文土器、石器	平成25年度新規発見、範囲変更（平成29年度）
199	IF69-1199	宿戸	しゅくのへ	種市第5地割	縄文	散布地	縄文土器、石器	平成25年度新規発見
200	IF69-2273	小田ノ沢	こだのさわ	種市第3地割	縄文	散布地	石器	平成25年度新規発見
201	IF79-1217	南八木	みなみやぎ	種市第1地割	平安	製鉄関連	羽口、鉄滓	平成25年度新規発見
202	IF89-1394	下向Ⅰ	しもむかいいち	中野第1地割	縄文、弥生	狩猟場跡	陥し穴状遺構、土坑、縄文土器、弥生土器、石器	別記※8、平成25年度新規発見、平成26年度本発掘調査
203	IF89-2323	中野城内	なかのじょうない	中野第1地割	縄文	狩猟場跡	陥し穴状遺構、土坑、土器、石器	別記※14、平成25年度新規発見、平成29年度本発掘調査
204	IF89-1322	黒坂	くろさか	有家第9地割	縄文	集落跡	陥し穴状遺構	別記※15、平成26年度新規発見、平成26年度本発掘調査
205	IF48-2231	サンニヤⅡ	さんにやに	種市第25地割	縄文、古代	集落跡	竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構、土師器、石器	別記※15・※16、平成26年度新規発見、平成26年度・27年度本発掘調査
206	IF58-1333	南鹿糠Ⅰ	みなみかぬかいち	種市第16・17地割	縄文	集落跡	竪穴住居跡、溝跡、土坑、陥し穴状遺構、縄文土器、石器	別記※15、平成26年度新規発見、平成26年度本発掘調査
207	IF57-0174	舘野	たての	種市第53地割	古代	散布地、製鉄関連	製塩土器（古代）、鉄滓	平成27年度新規発見、製鉄関連は時代不明
208	IF59-2021	北玉川	きたたまがわ	種市第14地割	縄文	散布地	縄文土器	平成27年度新規発見
209	IF37-2343	田ノ端Ⅱ	たのはたに	種市第44地割	縄文	狩猟場跡、散布地	陥し穴状遺構、縄文土器、フレイク	平成25年度新規発見
210	IF58-0245	荒津内	あらつない	種市第20地割	縄文	狩猟場跡、散布地	陥し穴状遺構、土坑、焼土、土師器片	平成28年度新規発見
211	IF67-2355	松ヶ沢Ⅰ	まつがさわいち	種市第73地割	縄文	散布地	土器、石器	平成28年度新規発見
212	IF58-2312	鹿糠浜Ⅲ	かぬかはまさん	種市第15地割	縄文	散布地	陥し穴状遺構	平成28年度新規発見
213	IF79-0012	続石	つづくいし	種市第4地割	縄文	散布地	縄文土器、石器	平成29年度新規発見
214	IF86-2265	新田	しんでん	大野第14地割	近世	製鉄関連	鉄滓	平成29年度新規発見
215	IF85-2335	一本松向Ⅰ	いっぽんまつむかいいち	大野第15地割	縄文、古代、近世	散布地、製鉄関連	縄文土器、土師器、鉄滓	平成29年度新規発見、製鉄関連は時代不明
216	IF86-2053	一本松向Ⅱ	いっぽんまつむかいに	大野第15地割	縄文、近世	散布地、製鉄関連	縄文土器、鉄滓	平成29年度新規発見、製鉄関連は時代不明
217	IF58-1170	板橋	いたばし	種市第21地割	縄文	狩猟場跡	陥し穴状遺構	平成29年度新規発見
218	IF48-2250	サンニヤⅢ	さんにやさん	種市第25地割	縄文	狩猟場跡	陥し穴状遺構、縄文土器、石器	別記※17、平成29年度本発掘調査
219	IF67-2265	松ヶ沢Ⅱ	まつがさわに	種市第74地割	不明	製鉄関連	鉄滓	平成29年度新規発見
220	IF99-0251	下向Ⅱ	しもむかいに	中野第1地割	縄文	狩猟場跡	陥し穴状遺構、土坑	平成30年度新規発見

第１表　町内の遺跡一覧（５）

〈備考欄の文献について、それぞれ次のように略した〉

「別記※１」　岩手県種市町教育委員会 2004 『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』　種市町埋蔵文化財調査報告書第1集

「別記※２」　岩手県種市町教育委員会 2005 『種市町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ』　種市町埋蔵文化財調査報告書第2集

「別記※３」　岩手県洋野町教育委員会 2013 『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』　洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集

「別記※４」　岩手県洋野町教育委員会 2015 『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』　洋野町埋蔵文化財調査報告書第2集

「別記※５」　岩手県洋野町教育委員会 2017 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』　洋野町埋蔵文化財調査報告書第3集

「別記※６」　（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996・2001『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 238 集・第 357 集

「別記※７」　岩手県久慈地方振興局久慈農村整備事務所（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 『上水沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第391集

「別記※８」　（公財）岩手県文化振興事業団 2015『平成 26 年度発掘調査報告書 南川尻遺跡　下向遺跡　沼袋Ⅱ遺跡　沼袋Ⅲ遺跡　八幡沖遺跡　ほか調査概報（39 遺跡）』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 647 集

「別記※９」　（公財）岩手県文化振興事業団 2016『平成 27 年度発掘調査報告書 サンニヤ遺跡　房の沢Ⅳ遺跡　白石遺跡　ほか調査概報（33 遺跡）』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 661 集

「別記※10」　国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団 2017 『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集

「別記※11」　（公財）岩手県文化振興事業団 2017『平成 28 年度発掘調査報告書 岩洞湖Ⅰ遺跡　栃洞Ⅳ遺跡　八森遺跡　ほか調査概報（28 遺跡）』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 676 集

「別記※12」　国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団 2018 『北鹿糠遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第686集

「別記※13」　国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団 2018 『サンニヤⅠ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第687集

「別記※14」　（公財）岩手県文化振興事業団 2018『平成 29 年度発掘調査報告書 岩洞湖Ⅰ・H遺跡　和野新墾神社遺跡　北野Ⅻ遺跡　木戸場遺跡　中野城内遺跡　沼里遺跡　根井沢穴田Ⅳ遺跡　耳取Ⅰ遺跡　千厩城遺跡　ほか調査概報（23 遺跡）』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 692 集

「別記※15」　岩手県教育委員会 2016 『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成26年度　復興関係）』 岩手県文化財調査報告書第146集

「別記※16」　岩手県教育委員会 2017 『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成27年度　復興関係）』 岩手県文化財調査報告書第149集

「別記※17」　岩手県教育委員会 2018 『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成28年度　復興関係）』 岩手県文化財調査報告書第152集

Ⅳ. 遺跡の地形と地質

1. 位置と地形・地質の概要

洋野町は海岸付近を除けば山間部ないし山岳地帯を中心とする地形を呈し、西に控える階上岳（標高 739.6 m）と久慈平岳（標高 706.3 m）とその支脈の山地を起点に、太平洋に向かって延びる丘陵と段丘群で構成される。これらの丘陵と段丘群は西の山地を水源とする幾筋もの小河川によって開析され、帯状の台地が南北に並ぶ一定の地形配列が形成されている。主な小河川には北から渋谷川・川尻川・和座川・大浜川・原子内川・有家川・高家川などがあり、いずれも東流して太平洋へと注いでいる。

段丘群は海岸・谷底平野から続き、低い方から大谷段丘－種市段丘－白前段丘－九戸段丘に区分され、そのうち種市段丘は低い方から平内面－横手面に、白前段丘は雪畑面－伝吉面に、九戸段丘は姥沢面－麦沢面－高取面にそれぞれ細分されている。段丘の基盤地質はほぼ花崗閃緑岩で占められ、この上に第四紀の砂礫層・砂層・泥層といった段丘堆積物が堆積し、さらに風化火山砕屑物で構成される褐色火山灰層群、腐植土（いわゆる黒ボク土）の土層序で現地表面に至る（松山 2013・2019）。

2. 層序

尺沢遺跡は九戸段丘上に立地し、遺跡内は標高 160 ～ 170 m前後を測る丘陵地帯となっている。九戸段丘は九戸火山灰層が載る段丘で、上位に高館火山灰層、八戸火山灰層が堆積し、褐色火山灰層群を形成している。遺跡の地形は、西側から海岸線に伸びる尾根上の台地にあたる。尾根上の台地は、遺跡東北端でいったん狭まるがまた海側に向かい撥状にひろがる。台地南側は急傾斜となり、谷戸内は湿地状となっている。北側も同様急傾斜地となるが、斜面下方は小河川が東側に伸びている。

今回の調査では、土層序観察のための深掘部分（いわゆるテストピット）で地表下 2 メートル程度まで掘削を行い、地層の確認を行った。深掘部分の観察は尾根の平坦面南端部（深掘 1）と、平坦面北端部（深掘 2）とで行った。中野地区の埋蔵文化財調査は前例に乏しいため、土層の自然科学分析を合わせて行った。これについては、第Ⅴ章において詳細に述べられている。

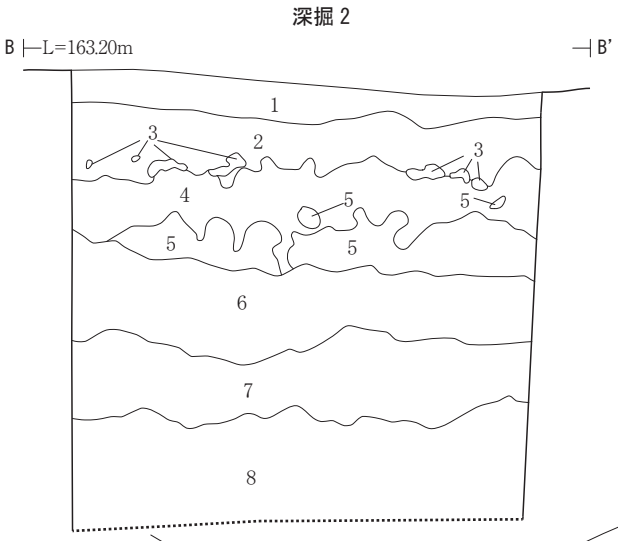
深掘 1 と深掘 2 の様相は上層部分において異なる観察結果となっている。深掘 2 においては、4 層下部・5 層上部において植物根などによる攪乱の影響が大きく、4 層下部とした遺構確認面で特にそれが激しい。

深掘 1 と深掘 2 の両地点の標高差は、現況の地表面で約 0.9 mほどである。道路近接側（深掘 2）において土層の攪乱が大きいことは、人間の活動の結果である可能性もある。昭和中葉の空撮写真などを観察すると周辺地域と比べ本遺跡付近が低灌木となっていたことがよみとれ、人為的な山林調整があったと思われる。実際、遺跡の所在地やその近辺は、製炭が盛んに行われた地域である。

また、土層序の乱れは、ローム上面でも激しく、深掘 1・深掘 2 の異なりを考えると、さらに古い時代の人の営為によってそれが起きている可能性もある。

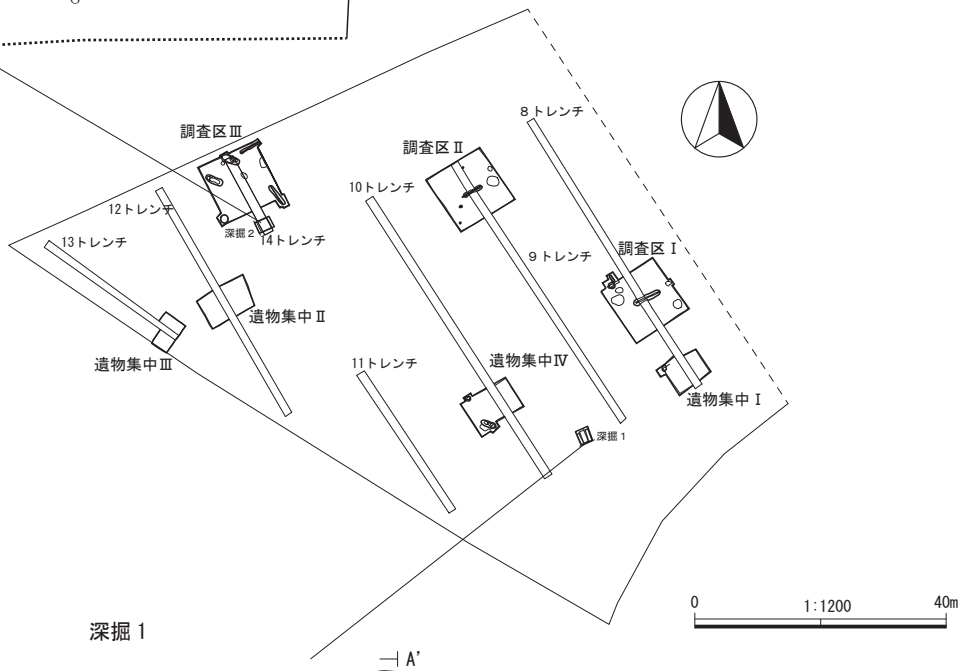
土層番号は両地点を比較して、対応関係を検証したが、土地の利用歴の差が大きく影響しているものと思われ、対応関係をつかむことは困難であった。深掘 1 については、深掘 2 に比べてプライマリな部分を残しているものと思われ、火山灰分析を行っていることもあり、今後の中野地区周辺における調査の参考になるものと思われる。

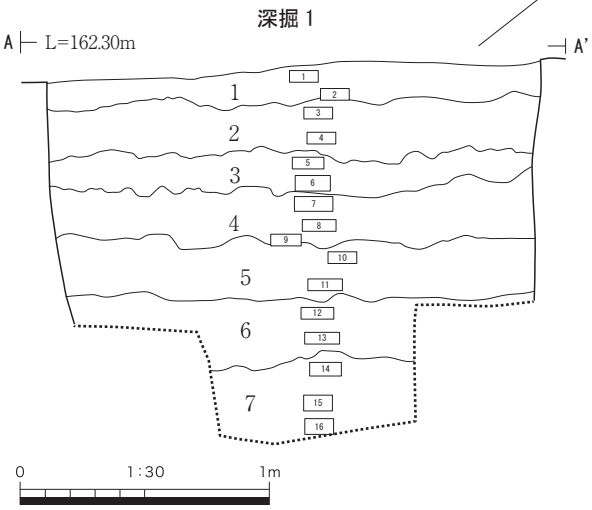
土層の観察結果については第 6 図に示したとおりである。



基本土層序 2（南西壁）

1 10YR3/4 暗褐色土　粘性中　締まりやや疎　草根、礫入る
　表土層
2 10YR3/3 暗褐色土　粘性中　締まりやや密　草根入る
　10YR7/6 明黄褐色軽石　径 4mm 程度 1%入る
3 10YR3/4 暗褐色土　粘性中　締まり弱
　10YR3/1 黒褐色火山灰　径 1mm 程度 10%入る
4 10YR3/4 暗褐色土　粘性弱　締まりやや疎
　10Y4/4 褐色粘土　30%、10YR7/6 明黄褐色軽石　3 ～ 20mm　3% 入る
5 10YR5/6 黄褐色シルト　粘性弱、締まり極めて密
　10YR7/6 明黄褐色軽石　径 6mm 程度 5%入る
6 10YR4/4 褐色粘土　粘性極めて強　締まり密
　10YR7/6 明黄褐色軽石　径 6mm 程度 2%入る
7 10YR5/6 黄褐色シルト　粘性中、締まり密
　10YR5/1 褐灰色礫　径 2mm 程度 1% 入る
8 7.5YR5/6 明褐色シルト　粘性強　締まり密





基本土層序 1（南東壁）

1 10YR3/3 暗褐色土　粘性弱　締まり疎　草根、礫入る
2 10YR4/4 褐色シルト　粘性中　締まりやや疎　草根、木根入る
　10YR6/8 明黄褐色軽石　径 2 ～ 8mm1%入る
3 10YR4/6 褐色シルト　粘性中　締まり密　草根入る
　10YR6/8 明黄褐色軽石　径 1 ～ 5mm1%入る
4 10YR5/6 黄褐色シルト　粘性強　締まり密　草根、木根入る
5 7.5YR5/6 明褐色シルト　粘性強　締まり極めて密
　10YR5/1 褐灰色礫　径 2mm 程度 1% 入る
6 7.5YR5/6 明褐色シルト　粘性中　締まり密
7 10YR4/6 褐色シルト　粘性弱　締まり密

1 ～ 16 は、土層試料採取箇所

第 6 図　基本土層序

以下、今回観察した層序の結果について記す。

第 1 層：暗褐色土の現表土で、第 2 層が風化や草木根の撹乱などにより軟化した層である。また、落葉等の植物片が混じる腐食層である。

第 2 層：暗褐色または褐色の色相をなす層で、深掘 1 ではシルト層となっている。植物根の影響もみられる。自然科学分析でこの層の上層試料と様相を同じとする遺物集中Ⅱの上層で十和田八戸テフラが観察されているが、再堆積と推測されている。年代観としては、15,000 年前以降のものと考えられている。

第 3 層：暗褐色または褐色の色相をなす層で、深掘 1 ではシルト層となる。深掘 2 では、ブロック状となり 2 層下部 4 層上面に点在する。火山灰・軽石の混入が認められる。

第 4 層：深掘 1 では、黄褐色シルト、深掘 2 では暗褐色土の様相となる。

第 5 層：密な締まりをもつ、風化火山灰層である。自然科学分析の結果、5 層から採取された試料番号 10 が十和田大不動テフラ（To-0f）の可能性を指摘され、35,000 年前ごろの年代観を得ている。

第 6 層：深掘 1 では明褐色シルト、深掘 2 では褐色粘土層の様相を呈する。深掘 1 の試料番号 12 はこの層から採取され、十和田大不動テフラ（To-0f）以前のものであるという観察を得ている。

第 7 層：黄褐色ないしは褐色のシルト層である。

第 8 層：明褐色のシルト層である。深掘 1 では、この層まで調査が達していない。

＜引用・参考文献＞

東北地方第四紀研究グループ 1969「東北地方における第四紀海水準変化」『日本の第四系』専報 15　地学団体研究会

松山力 2013「Ⅳ．平内Ⅱ遺跡の地学的環境」『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町教育委員会埋蔵文化財報告書第 1 集

松山力 2019「Ⅲ．遺跡の地形と地質」『西平内Ⅰ遺跡ハンドボーリング調査報告書』洋野町教育委員会埋蔵文化財報告書第4集

西澤正晴 2019「Ⅱ．遺跡の立地・環境」『荒津内遺跡発掘調査報告書』（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書 701 集

Ⅴ.尺沢遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

岩手県洋野町に所在する尺沢遺跡は、北上山地北部周縁に形成された海成段丘上に位置する。発掘調査では、縄文時代を中心とする遺構・遺物が確認されている。

本分析調査では、地山とされる層準および、礫集中部が確認された層準の重鉱物組成や火山ガラスの産状を明らかにすることにより、その層序と年代に関わる指標を獲得する。また、出土した縄文土器の胎土分析および礫集中範囲の礫種組成や礫の岩質を詳細に記載することにより、出土遺物に関わる資料を作成する。

1.ローム層の層序対比

(1) 試料

①深掘1断面

調査区内で作成された深掘1断面では、現地表面下約1.5ｍまでの土層断面が確認された。現地表面下約20cmは暗褐色を呈する火山灰土いわゆる黒ボク土であり、その下位は褐色の火山灰土いわゆるロームである。

試料は、黒ボク土層の上部と下部からそれぞれ試料番号1と2を採取し、ローム層については、最上部から断面の最下部まで、試料番号3～16までを適宜層位間隔をとって採取した。断面の状況を第Ａ図に掲載する。分析には、試料番号2から16までの偶数番号の試料8点を選択し、これらのうち、試料番号2から10までの5点については重鉱物・火山ガラス比分析を行い、試料番号12から16までの3点については重鉱物分析のみを行う。

さらに、テフラの降灰層準に関わると考えられる試料の火山ガラスを対象に屈折率の測定を行う。分析結果に従い、選択した試料は、深掘り断面の試料番号2、4、10、14の4点である。

②礫集中範囲

礫集中範囲（遺物集中Ⅱ、第14図1層に相当）では、現地表面下約30cmの土層断面（第Ｂ図）が作成されている。試料は、遺物集中Ⅱ調査区南西壁北側コーナー付近の断面の中部よりT1を採取し、断面の下部よりT2を採取した。これら2点について重鉱物・火山ガラス比分析を行う。

(2) 分析方法

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。重鉱物同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。火山ガラス比は、重液分離した軽鉱物分における砂粒を250粒数え、その中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

屈折率の測定は、古澤（1995）のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

(3) 結果

①深掘１断面

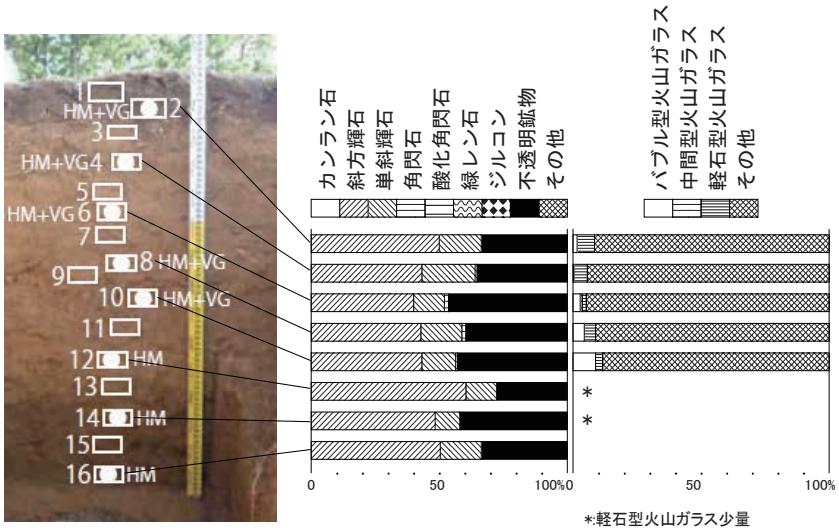
結果を第Ａ表、第Ａ図、および写真図版Ａに示す。重鉱物組成は、全層位にわたって斜方輝石と不透明鉱物を主体とし、少量の単斜輝石を伴い、微量の角閃石を含むという組成である。斜方輝石と単斜輝石および不透明鉱物の量比は層位によって若干の変化がある。斜方輝石の量比は、試料番号 12 で最も高く、試料番号 4 ～ 10 では低い。単斜輝石は、試料番号 2、4 と 16 で比較的高い量比が認められる。不透明鉱物の量比は、斜方輝石と概ね負の相関関係にあり、試料番号 12 で最も低く、試料番号 6 から 10 までの層位と試料番号 14 で高い傾向を示す。

火山ガラス比では、試料番号 2 と 4 で少量の軽石型火山ガラスが含まれ、試料番号 10 には少量のバブル型火山ガラスが含まれる。試料番号 6 と 8 には少量または微量のバブル型火山ガラスと軽石型火山ガラスが混在する。

火山ガラスの屈折率測定結果は第Ｃ図に示す。試料番号 2、4、10 の 3 点は、概ね同様のレンジを示す。レンジの下限は n1.501 または 1.503 であり、上限は n1.510 または 1.511 である。試料番号 14 の火山ガラスの屈折率は、他の 3 点よりも有意に高く、n1.517-1.524 というレンジを示す。

試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	緑レン石	ジルコン	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
2	0	125	41	0	0	0	0	84	0	250	4	0	17	229	250
4	0	108	52	2	0	0	0	88	0	250	1	0	13	236	250
6	0	100	30	4	0	0	0	116	0	250	7	2	4	237	250
8	0	107	40	4	0	0	0	99	0	250	11	0	11	228	250
10	0	108	33	2	0	0	0	107	0	250	22	0	7	221	250
12	0	151	30	0	0	0	0	69	0	250	−	−	−	−	−
14	0	121	24	0	0	0	0	105	0	250	−	−	−	−	−
16	0	126	40	1	0	0	0	83	0	250	−	−	−	−	−

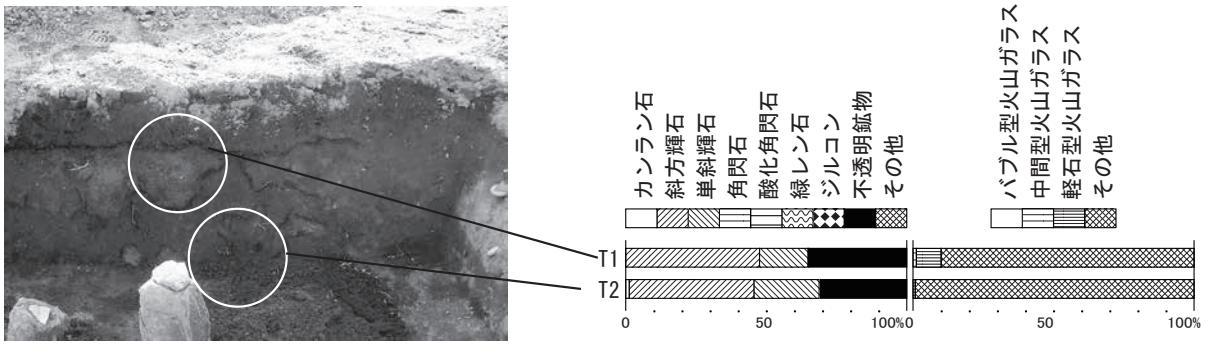
第Ａ表　深掘１断面の重鉱物・火山ガラス比分析結果



第Ａ図　深掘１断面の重鉱物組成および火山ガラス比

試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	緑レン石	ジルコン	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
T1	0	119	43	1	0	0	0	87	0	250	0	3	22	225	250
T2	3	111	58	0	0	0	0	78	0	250	0	0	2	248	250

第Ｂ表　礫集中範囲の重鉱物・火山ガラス比分析結果



第Ｂ図　礫集中範囲の重鉱物組成および火山ガラス比

②礫集中範囲

結果を第Ｂ表、第Ｂ図、および写真図版Ａに示す。重鉱物組成は、2 点の試料ともに斜方輝石と不透明鉱物を主体とし、単斜輝石を伴う組成である。また、T2 には極めて微量のカンラン石も認められる。

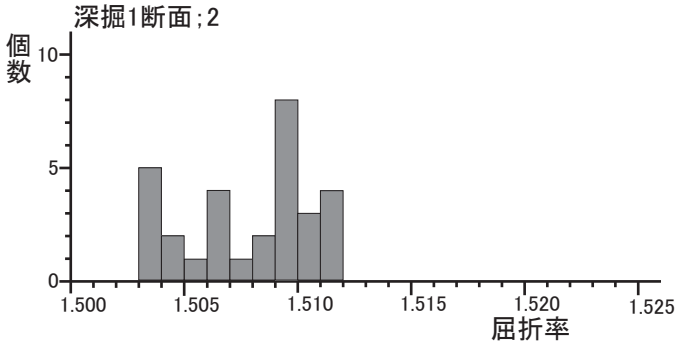
火山ガラス比は、T1 に少量の軽石型火山ガラスと極めて微量の中間型火山ガラスが含まれ、T2 には極めて微量の軽石型火山ガラスが含まれる。

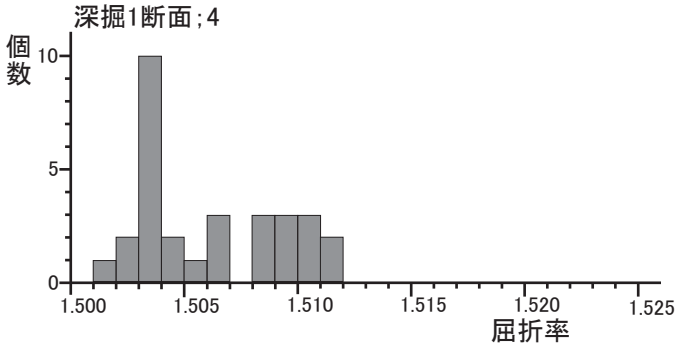
(4) 考察

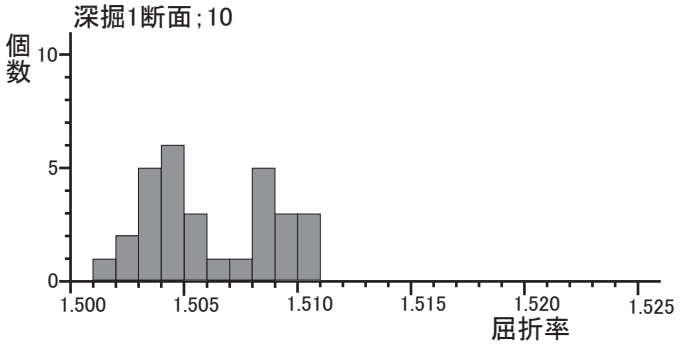
①深掘１断面

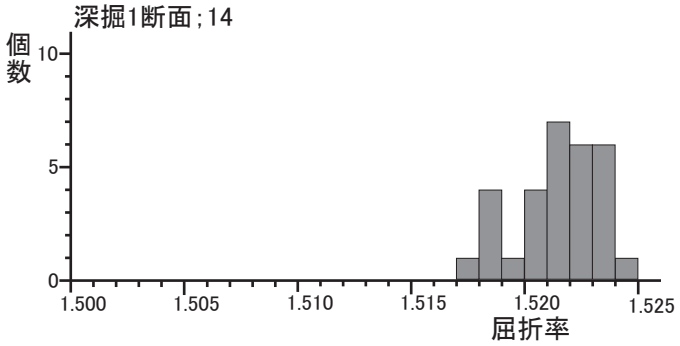
本分析調査結果の中で、最も有効な対比指標は、試料番号 10 に認められた少量のバブル型火山ガラスと軽石型火山ガラスの混在する火山ガラス質テフラである。このテフラは、その屈折率の値から、十和田カルデラを給源とするテフラと考えられ、バブル型火山ガラスを含むという形態的特徴により、十和田大不動テフラ（To-0f：Hayakawa, 1985）であると考えられる。バブル型火山ガラスの産状を指標にすると、試料番号 8 や 6 にも少量～微量含まれ、上位に向かって減少する傾向が認められる。このような産状は、To-0f が降下堆積後に撹乱を受けて土壌中に再堆積した状況を示している。また、概査により試料番号 12 には、バブル型火山ガラスが極めて微量しか認められなかったことから、試料番号 10 は To-0f の火山ガラスの濃集層準の下限に近いと考えられる。土壌中に特定のテフラが拡散して含まれる場合は、その濃集層準の下限がテフラの降灰層準に近いと考えられている（早津 1988）ことから、本地点における To-0f の降灰層準は、試料番号 10 採取層準付近にあると考えられる。To-0f の噴出年代は 3.2 万年前より若干古いとされている（町田・新井 2003）ことから、本地点のローム層の試料番号 10 採取層準付近は、おおよそ 3.5 万年前頃の年代観を与えることができる。

試料番号 2 と 4 に含まれる少量の軽石型火山ガラスは、その形態的特徴と屈折率の値および To-0f の降灰層準よりも上位の試料番号 4 付近に降灰層準が推定できること、さらには既存資料（町田・新井 2003 など）による洋野町付近のテフラ分布を考慮すると、十和田カルデラを給源とする十和田八戸テフラ（To-H：Hayakawa1985）に









第Ｃ図　火山ガラスの屈折率

由来すると考えられる。To-H の噴出年代は、1.5 万年前とされている（町田・新井 2003）ことから、本地点のローム層最上部付近の年代観は、1.5 万年前頃とすることができる。

To-Of より下位の試料については、火山ガラス比分析を行っていないが、概査により少量の軽石型火山ガラスを認めることができた。この火山ガラスについては、火山ガラスの形態的特徴と To-Of よりも下位であること、さらには高い屈折率の値から、町田・新井（2003）に記載されている十和田カルデラを給源とする酸素同位体ステージ 5a 付近のテフラである十和田レッドテフラや十和田オコシ 2 テフラなどに由来すると考えられる。現時点では、特定のテフラに対比することはできず、その降灰層準も不明であるため、試料番号 14 付近のローム層に具体的な年代観を与えることはできないが、酸素同位体ステージの年代観に従えば、おおよそ 8 万年前以降 3.5 万年前までの範囲内にあると考えられる。

②礫集中範囲

T1 からは、少量の軽石型火山ガラスが検出された。深掘 1 断面との比較では、試料番号 2 か 4 のいずれかに対比されるが、重鉱物組成も考慮すれば、試料番号 2 の方に近い。したがって、T1 の火山ガラスは、To-H に由来するものではあるが、降灰層準を示す可能性は低く、To-H の再堆積物であると考えられる。T1 の火山ガラスの検出により、その採取層準付近は 1.5 万年前以降であると評価されるが、より詳細な年代は不明である。

２. 土器胎土分析

(1) 試料

試料は、尺沢遺跡から出土した縄文土器片 2 点である。ここでは便宜上、試料 A と試料 B とする。各試料の出土区は、第Ｃ表 に示す。

試料	出土区（掲載図版）
A	試掘 13 トレンチ（第 28 図 3）
B	遺物集中Ⅲ（第 23 図 10）

第Ｃ表　胎土分析試料

(2) 分析方法

胎土分析には、現在様々な分析方法が用いられているが、大きく分けて鉱物組成や岩片組成を求める方法と化学組成を求める方法とがある。前者は切片による薄片作製が主に用いられており、後者では蛍光Ｘ線分析が最もよく用いられている方法である。前者の方法は、胎土の特徴が捉えやすいこと、地質との関連性を考えやすいことなどの利点があり、胎土中における砂粒の量や、その粒径組成、砂を構成する鉱物片、岩石片および微化石の種類なども捉えることが可能であり、得られる情報は多い。したがって、ここでは薄片作製観察を用いる。

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断、正確に 0.03㎜ の厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

ここでは薄片観察結果を松田ほか（1999）の方法に従って表記する。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いを見出すことができるために、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて 0.5㎜ 間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により 200 個あるいはプレパラート全面で行った。なお、径 0.5㎜ 以上の粗粒砂以上の粒子については、ポイント数ではなく粒数を計数した。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の 3 次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

試料	砂粒区分		砂粒の種類構成																	合計
			鉱物片							岩石片										
			石英	カリ長石	斜長石	斜方輝石	角閃石	黒雲母	不透明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	流紋岩・デイサイト	多結晶石英	花崗岩類	ホルンフェルス	粘板岩	炭質物	酸化鉄結核	
A	砂	細礫																		0
		極粗粒砂		1											1					2
		粗粒砂	3	13	3	1	1			3				1	7			2	1	35
		中粒砂	4	15	3		1			4				1	5			1		34
		細粒砂	3	9	4		2	5		2		1	1	2	3				1	33
		極細粒砂	12	4	2		1	10	1	2					2				1	35
		粗粒シルト	3	1					1											5
		中粒シルト																		0
	基質																			598
	孔隙																			44
	備考		基質は、雲母鉱物、石英、セリサイトなどで埋められる。孔隙は不定形状を示し、定向配列を示さない。内部に充填鉱物は認められない。																	
B	砂	細礫																		0
		極粗粒砂		1											3					4
		粗粒砂	3	2	2	2				11	1				6					27
		中粒砂	8	7	3	2				13	1			4	6		1	1		46
		細粒砂	12	4	4	3		1	1	2	3			3	3	2				38
		極細粒砂	6	1	2	1					2				1					13
		粗粒シルト	1			1														2
		中粒シルト	1																	1
	基質																			464
	孔隙																			22
	備考		基質は、雲母鉱物、石英、セリサイトなどで埋められる。孔隙は不定形状を示し、定向配列を示さない。内部に充填鉱物は認められない。																	

第Ｄ表　胎土薄片観察結果

(3) 結果

結果を第Ｄ表、第Ｄ・Ｅ図及び写真図版Ｂに示す。以下、砂粒の鉱物・岩石組成、砕屑物の粒径組成、砕屑物・基質・孔隙の割合の順に述べる。

①鉱物・岩石組成

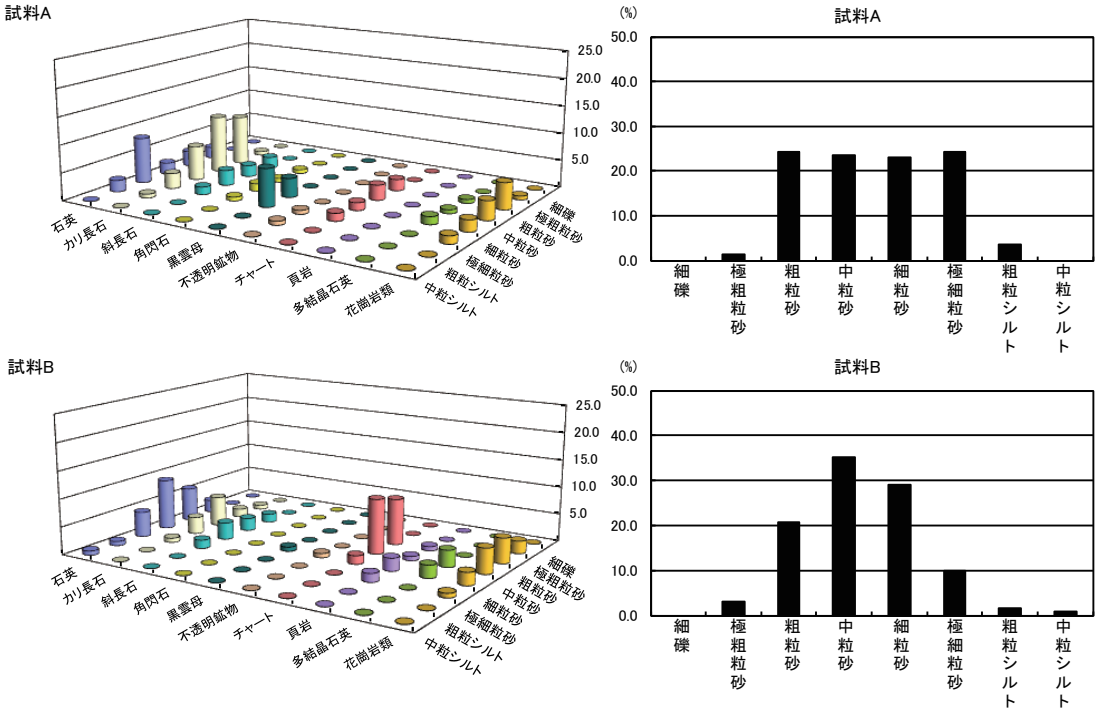
2 点の試料は、互いに類似した傾向が認められる。比較的多く含まれる砕屑物は、石英とカリ長石および斜長石の各鉱物片とチャートと花崗岩類の岩石片である。これらに加えて黒雲母や不透明鉱物の各鉱物片と頁岩や多結晶石英などの岩石片が少量または微量含まれる。

②粒径組成

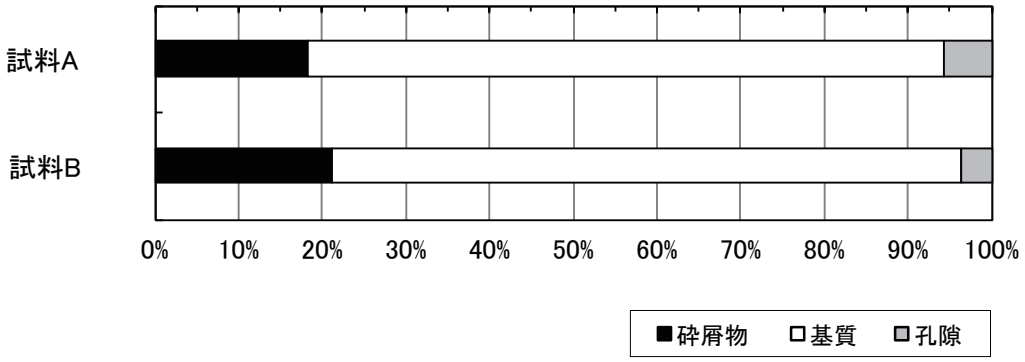
砕屑物の粒径組成は、2 点間で若干傾向が異なる。試料 A は粗粒砂から極細粒砂までの各粒径の割合がほぼ同程度で多く含まれるが、試料 B は中粒砂が最も多く、次いで細粒砂、粗粒砂の順に多い。

③砕屑物・基質・孔隙の割合

砕屑物の割合は、2 点ともに 20% 前後を示し、大きな違いはない。



第Ｄ図　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度および砕屑物の粒径組成



第E図　砕屑物･基質･孔隙の割合

(4) 考察

胎土中の鉱物や岩石の種類構成は、土器の材料となった粘土や砂の採取地の地質学的背景を反映していると考えられる。したがって、それらの組成が土器間で類似していることは、各土器の材料採取地が、ひいてはその製作地が共通した地質学的背景を有する地域内にあることを示唆している。

洋野町の地質学的背景は、北上山地北部の地質になるが、鎌田ほか (1991) などによる地質記載では、主要な地質として、古生代から中生代にかけて形成された堆積岩類からなる安家－田野畑帯や葛巻－釜石帯などがあげられる。これらの地質を構成する岩石は、チャートや砂岩、頁岩などである。一方、北上山地北部の主要な地質には、中生代白亜紀に貫入した花崗岩類の岩体もあげられる。洋野町周辺では階上岩体と呼ばれる花崗岩や花崗閃緑岩からなる岩体が広く分布している。

今回の２点の試料の胎土から窺える地質学的背景は、上述した洋野町周辺における地質学的背景とよく一致し

ており、どちらの土器も洋野町およびその周辺域で作られた可能性が高いと考えられる。ただし、胎土中の砕屑物の粒径組成では、2 点間に有意な差が認められたことから、同一の製作地とまでは言えない可能性が高い。粒径組成の違いの由来を明らかにするためには、周辺域における同時期の土器の分析事例の蓄積と比較検討が必要であろう。

3. 礫集中範囲の礫の分析

(1) 試料

岩石肉眼鑑定の対象とした試料は、角礫状～薄板状を示す礫 361 点であり、最大 12.4cm 程度の礫径を示す。試料は 20 点の袋にそれぞれ収納されており、「その他」と記載されている袋以外に袋番号 1 ～ 19 までを付した。袋番号 1 ～ 19 に収納されている試料は 462 まで注記番号（遺物集中Ⅱ点上げ№）が付されているが、「その他」に収納されている表採や一括試料については注記番号が付されていないため、便宜的に 463 から 479 まで付した。岩石肉眼鑑定に際しては、長軸、短軸、重量までを計測したほか、被熱痕跡の有無に加えて、石器の判定、自然礫か、円礫か破礫かなどの判定を大久保・藤田編 (2006) に基づいて行った。

また、被熱痕跡が認められる試料 2 点について薄片作製鑑定を実施し、被熱温度などを検討する。

(2) 分析方法

①肉眼鑑定

野外用ルーペもしくは実体顕微鏡を用いて試料を観察し、肉眼で鑑定できる範囲の岩石名を付した。岩石名の決定に際しては、五十嵐 (2006) の分類に基づく。試料の大部分は薄片作製鑑定、Ｘ線回折分析、蛍光Ｘ線分析を実施していないため、鑑定された岩石名は概査的なものである点に留意されたい。代表的な岩相を示す石材については、写真撮影を行い、写真図版Ｃに示した。

②薄片作製鑑定

薄片観察は、岩石を 0.03 ｍｍの厚さに研磨した薄片を顕微鏡下で観察すると、岩石を構成する鉱物の大部分は透光性となり、鉱物の性質・組織などが観察できるようになるということを利用している。

薄片用の岩石チップは、ダイヤモンドカッターにより切断・整形する。チップの片面を #180 ～ #800 の研磨剤を用いて研磨機上で研磨した後、プレパラートに貼り付ける。プレパラートに貼り付けたチップは、ダイヤモンドカッターにより薄く切断する。プレパラート上のチップは、#180 ～ #800 の研磨剤を用い、研磨機上で厚さ 0.05㎜以下になるまで研磨する。さらに、メノウ板上で #2500 の研磨剤を用いて研磨し、正確に 0.03㎜ の厚さに調整する。プレパラート上で薄くなった薄膜状の岩石片の上にカバーガラスを貼り付け、観察用の薄片とする。薄片は偏光顕微鏡下において観察記載を行う。

(3) 結果

①肉眼鑑定

岩石肉眼鑑定結果を第Ｅ表、石質組成を第Ｆ表に示す。深成岩類は、角閃石黒雲母花崗岩 3 点、黒雲母花崗岩 47 点、花崗岩 34 点、角閃石黒雲母花崗閃緑岩 2 点、黒雲母角閃石花崗閃緑岩 2 点、細粒花崗岩 4 点、石英花崗岩 1 点、花崗斑岩 2 点、アプライト 2 点、火山岩類は、流紋岩 3 点、デイサイト 1 点、輝石安山岩 1 点、火山砕屑岩類は、デイサイト質凝灰岩 2 点、デイサイト質溶結凝灰岩 4 点、火山礫凝灰岩 1 点、溶結凝灰岩 1 点、凝灰岩 1 点、スコリア 1 点、堆積岩類は礫質砂岩 1 点、砂岩 30 点、砂岩 (新第三紀)2 点、砂質頁岩 5 点、頁岩 23 点、珪質頁岩 4 点、チャート 176 点、変成岩類はホルンフェルス 5 点、菫青石ホルンフェルス 1 点、鉱物は石英 2 点に鑑定された。堆積岩類のチャートのほか、花崗岩類が卓越する組成を示す。

注記No.	石質	被熱の有無	注記No.	石質	被熱の有無	注記No.	石質	被熱の有無	注記No.	石質	被熱の有無	注記No.	石質	被熱の有無
1	チャート	有	108	花崗岩	有	204	チャート	無	316	頁岩	無	430	チャート	無
2	チャート	有	111	チャート	無	206①	花崗岩	有	320	チャート	無	431	黒雲母花崗岩	有
3	砂岩	無	112	ホルンフェルス	有	206②	チャート	無	323	頁岩	無	433	黒雲母花崗岩	有
4	砂岩	有	113	アプライト	有	207	チャート	有	329	黒雲母花崗岩	無	434	チャート	無
5	チャート	有	116	チャート	有	208	チャート	有	330	凝灰岩	有	435	砂岩	無
6	砂岩	無	117	黒雲母花崗岩	有	211	チャート	有	334	チャート	有	436	黒雲母花崗岩	有
7	チャート	有	118	チャート	有	212	黒雲母花崗岩	有	343	花崗岩	有	437	黒雲母花崗岩	有
8	花崗岩	有	121	砂岩	無	213	チャート	有	344	チャート	有	439	黒雲母花崗岩	有
9	チャート	有	122	黒雲母花崗岩	有	215①	黒雲母角閃石花崗閃緑岩	有	345	チャート	無	440	チャート	無
10	チャート	有	123	チャート	無	215②	黒雲母角閃石花崗閃緑岩	有	347	花崗岩	有	442	チャート	無
11	チャート	有	124	デイサイト質溶結凝灰岩	無	218	チャート	無	348	チャート	無	443	チャート	無
12	チャート	無	125	チャート	有	219	チャート	無	349	チャート	有	444	チャート	有
14	チャート	有	126	チャート	有	219	頁岩	無	351	ホルンフェルス	無	446	デイサイト質凝灰岩	無
17	チャート	有	127	チャート	有	220	砂岩	無	352	頁岩	無	449	チャート	無
18	チャート	無	128	黒雲母花崗岩	有	221	花崗岩	有	353	砂岩	無	450	チャート	無
19	チャート	無	129	チャート	有	222	チャート	有	354	チャート	有	451	チャート	有
20	花崗岩	有	131	細粒花崗岩	有	224	チャート	有	358	頁岩	無	452	砂岩	無
21	流紋岩	無	132	チャート	無	225	チャート	有	359	花崗岩	無	453	デイサイト質凝灰岩	無
23	チャート	有	133①	花崗岩	無	227	チャート	有	360	砂岩	有	454	チャート	無
25	花崗岩	無	133②	黒雲母花崗岩	有	228	チャート	有	361	チャート	有	457	チャート	無
26	アプライト	無	134	チャート	有	230	砂岩	無	362①	チャート	有	460	黒雲母花崗岩	有
27	砂岩	無	135	チャート	有	231	チャート	無	362②	チャート	有	461	チャート	無
28	角閃石黒雲母花崗岩	有	137	花崗岩	有	232	チャート	有	363	花崗岩	有	462	砂岩	無
29	砂岩	無	138	黒雲母花崗岩	無	233	チャート	無	364	頁岩	無	463	チャート	無
30	デイサイト質溶結凝灰岩	無	139	チャート	有	238	黒雲母花崗岩	有	365	頁岩	無	464	砂質頁岩	無
31	角閃石黒雲母花崗閃緑岩	無	140	チャート	無	239	花崗岩	有	366	チャート	無	465	チャート	無
32	チャート	有	144	チャート	有	240	砂岩	無	367	チャート	無	466	チャート	無
33	チャート	有	145	チャート	有	241	頁岩	無	368	チャート	無	467	チャート	無
36	ホルンフェルス	無	146	火山礫凝灰岩	無	243	チャート	無	371	チャート	無	468	頁岩	無
38	花崗岩	有	147	黒雲母花崗岩	有	244	チャート	無	372	黒雲母花崗岩	有	469	チャート	無
39	チャート	有	148	黒雲母花崗岩	無	245	チャート	有	373	黒雲母花崗岩	有	470①	チャート	無
40	チャート	有	149	チャート	無	247	チャート	有	374	チャート	無	470②	頁岩	無
41	チャート	無	150	黒雲母花崗岩	有	248	チャート	有	375	珪質頁岩	無	471	砂岩	無
42	チャート	無	151	チャート	無	249	礫質砂岩	無	376	頁岩	無	472①	チャート	有
43	砂岩（新第三紀）	有	153	花崗岩	有	250	花崗斑岩	無	377	黒雲母花崗岩	有	472②	黒雲母花崗岩	有
44	砂岩（新第三紀）	有	154	砂岩	有	251	花崗岩	有	378	チャート	有	472③	チャート	有
45	チャート	有	155	花崗岩	有	253	チャート	有	379	チャート	有	472④	チャート	無
46	細粒花崗岩	有	156	チャート	有	255	花崗岩	有	380	珪質頁岩	無	473①	砂岩	有
47	チャート	無	157	砂岩	無	261	チャート	無	381	頁岩	無	473②	チャート	有
48	チャート	無	158	花崗岩	有	262	チャート	無	382	チャート	無	474	黒雲母花崗岩	無
49	チャート	有	159	チャート	有	264	チャート	有	385	頁岩	無	475	黒雲母花崗岩	有
50	チャート	無	160	チャート	有	265	チャート	有	387	チャート	有	476	チャート	有
53	砂質頁岩	無	161	花崗斑岩	有	266	チャート	有	389①	黒雲母花崗岩	有	477①	黒雲母花崗岩	有
54	花崗岩	有	162	チャート	有	268	チャート	有	389②	黒雲母花崗岩	有	477②	黒雲母花崗岩	有
55	頁岩	無	163	スコリア	無	269	チャート	有	390	黒雲母花崗岩	有	478①	頁岩	無
56	頁岩	無	164	チャート	無	270	角閃石黒雲母花崗岩	有	391	黒雲母花崗岩	有	478②	チャート	無
57	珪質頁岩	無	165	チャート	有	271	花崗岩	有	392	チャート	無	478③	砂岩	無
58	チャート	無	166	チャート	有	272	チャート	無	393	チャート	無	479①	花崗岩	有
59	頁岩	無	167	花崗岩	無	273	チャート	無	394	チャート	有	479②	チャート	無
60	チャート	無	171	チャート	有	274	チャート	有	395	ホルンフェルス	無			
61	チャート	無	172	チャート	有	275	チャート	有	396	チャート	無			
63	チャート	有	173	チャート	有	276	チャート	有	400	黒雲母花崗岩	有			
64	デイサイト質溶結凝灰岩	無	174	花崗岩	有	277	黒雲母花崗岩	有	401	チャート	有			
65	珪質頁岩	無	175	花崗岩	有	278	チャート	有	402	チャート	無			
66	チャート	無	177	黒雲母花崗岩	有	279	黒雲母花崗岩	有	403	石英花崗岩	有			
67	細粒花崗岩	有	178	デイサイト	有	281	チャート	有	404	黒雲母花崗岩	有			
68	ホルンフェルス	無	179	花崗岩	有	282	黒雲母花崗岩	有	405	黒雲母花崗岩	有			
69	頁岩	無	180	砂岩	無	283	黒雲母花崗岩	有	406	砂岩	無			
71	チャート	有	181	石英	無	284	花崗岩	有	407	チャート	無			
74	頁岩	無	184	角閃石黒雲母花崗岩	有	285	チャート	無	409	チャート	無			
77	チャート	無	185	チャート	有	286	輝石安山岩	無	410	チャート	無			
79	砂岩	無	186	頁岩	無	288	チャート	有	411	チャート	無			
82	花崗岩	無	187	砂岩	有	289	チャート	有	412	花崗岩	有			
83	チャート	無	188	チャート	有	290	頁岩	有	413	デイサイト質溶結凝灰岩	無			
84	砂岩	無	189	黒雲母花崗岩	有	295	黒雲母花崗岩	有	414	砂岩	有			
85	黒雲母花崗岩	有	190	黒雲母花崗岩	有	296	砂岩	無	416	黒雲母花崗岩	有			
86	黒雲母花崗岩	有	191	チャート	有	297	砂質頁岩	無	417	チャート	有			
88	チャート	有	192	砂質頁岩	無	299	頁岩	無	418	チャート	無			
89	花崗岩	有	193	チャート	有	300	チャート	無	419	チャート	無			
92	流紋岩	有	194	花崗岩	有	301	黒雲母花崗岩	有	420	砂岩	無			
93	砂岩	無	195	流紋岩	有	302	黒雲母花崗岩	無	421	砂岩	無			
94	チャート	有	196	チャート	無	302	黒雲母花崗岩	無	422	チャート	無			
97	石英	無	197	チャート	有	303	チャート	無	423	チャート	無			
98	砂質頁岩	無	198	花崗岩	有	307	細粒花崗岩	有	424	チャート	無			
100	角閃石黒雲母花崗閃緑岩	無	199	菫青石ホルンフェルス	無	308	黒雲母花崗岩	無	425	花崗岩	無			
105	チャート	有	200	チャート	無	309	チャート	無	427	チャート	無			
105	チャート	有	202	チャート	有	310	チャート	無	428	頁岩	無			
106	溶結凝灰岩	有	203	花崗岩	有	311	チャート	有	429	砂岩	無			

第Ｅ表　岩石肉眼鑑定結果

石質	点数
深成岩類	
角閃石黒雲母花崗岩	3
黒雲母花崗岩	47
花崗岩	34
細粒花崗岩	4
角閃石黒雲母花崗閃緑岩	2
黒雲母角閃石花崗閃緑岩	2
石英花崗岩	1
半深成岩類	
花崗斑岩	2
アプライト	2
火山岩類	
流紋岩	3
デイサイト	1
輝石安山岩	1
火山砕屑岩類	
デイサイト質凝灰岩	2
デイサイト質溶結凝灰岩	4
火山礫凝灰岩	1
溶結凝灰岩	1
凝灰岩	1
スコリア	1

石質	点数
堆積岩類	
礫質砂岩	1
砂岩	30
砂岩（新第三紀）	2
砂質頁岩	5
頁岩	23
珪質頁岩	4
チャート	176
変成岩類	
ホルンフェルス	5
菫青石ホルンフェルス	1
鉱物	
石英	2
合計	361

第Ｆ表　石質組成

②薄片作製鑑定

偏光顕微鏡下における観察から構成鉱物および組織の特徴を明らかにした。構成物の量比は、観察面全体に対して多量（＞50%）、中量（20 ～ 50%）、少量（5 ～ 20%）、微量（＜5%）およびきわめて微量（＜1%）という基準で目視により判定した。顕微鏡観察に際しては下方ポーラーおよび直交ポーラー下において代表的な箇所を撮影し、写真図版Ｄに示した。以下に鏡下観察結果を述べる。

1) 遺物集中Ⅱ No.400

岩石名：黒雲母花崗岩

岩石の組織：完晶質花崗岩状組織（holocrystalline granitic texture）

主成分鉱物

石英：中量存在し、粒径 0.01 ～ 1.8㎜ の他形で不定形状を呈し、一部、粒径 0.1㎜ 以下で粒間充填状をなすものやミルメカイト組織を形成するものが認められる。波動消光を示すものが散見される。

カリ長石:中量存在し、粒径 0.6 ～ 1.6㎜ の半自形～他形で不定形板状を呈し、マイクロパーサイト組織を示す。

副成分鉱物

斜長石：微量存在し、粒径最大 1.6㎜ の半自形で厚板状～不定形板状を呈し、集片双晶が発達する。

黒雲母：きわめて微量存在し、粒径 0.4 ～ 1.2㎜ の他形で板状～不定形板状を呈し、淡褐色～緑色の多色性を示す。

緑簾石：きわめて微量存在し、粒径最大 0.21㎜ の他形～自形で粒状～短柱状を呈し、淡緑色を示す。

不透明鉱物：きわめて微量存在し、粒径 0.1 ～ 1.0㎜ の他形で不定形粒状を呈し、石英や長石類と接して分布する。

変質鉱物

セリサイト：きわめて微量存在し、粒径 0.03㎜ 以下の他形で葉片状を呈し、斜長石内部に存在する。

赤鉄鉱：少量存在し、粒径最大 1.5㎜ の他形～半自形で細脈状～不定形状を呈し、水酸化鉄を伴って分布する。血赤色を示す。

その他

水酸化鉄：少量存在し、他形で不定形状を呈し、偏在して分布する。主成分鉱物などに発達するクラックや、粒間に沿って生じている。

2) 遺物集中Ⅱ No.403

岩石名：黒雲母石英花崗岩

岩石の組織：完晶質花崗岩状組織（holocrystalline granitic texture）

主成分鉱物

石英：多量存在し、粒径 0.03 ～ 1.1㎜ の他形で不定形状を呈し、粒間充填状をなすものやミルメカイト組織を形成するものが認められる。

副成分鉱物

カリ長石：少量存在し、粒径 0.1 ～ 1.0㎜ の他形で不定形状を呈し、やや変質して汚濁しており、不明瞭なマイクロパーサイト組織を示すものが散見される。

斜長石：少量存在し、粒径 0.3 ～ 0.73㎜ の半自形で厚板状～不定形板状を呈し、集片双晶が発達する。

黒雲母：きわめて微量存在し、粒径 0.2㎜ 以下の他形で板状～不定形板状を呈し、淡褐色～暗褐色の多色性を示す。

不透明鉱物：きわめて微量存在し、粒径 0.2㎜ 以下の半自形～他形で不定形状を呈し、石英や長石の粒間に分布する。

変質鉱物

赤鉄鉱：きわめて微量存在し、粒径最大 0.3㎜ の他形～半自形を呈し、水酸化鉄を伴って分布する。

その他

水酸化鉄：きわめて微量存在し、他形で不定形状を呈し、偏在して分布する。石英などに発達するクラックや、斜長石のアルバイト双晶に沿って生じている。

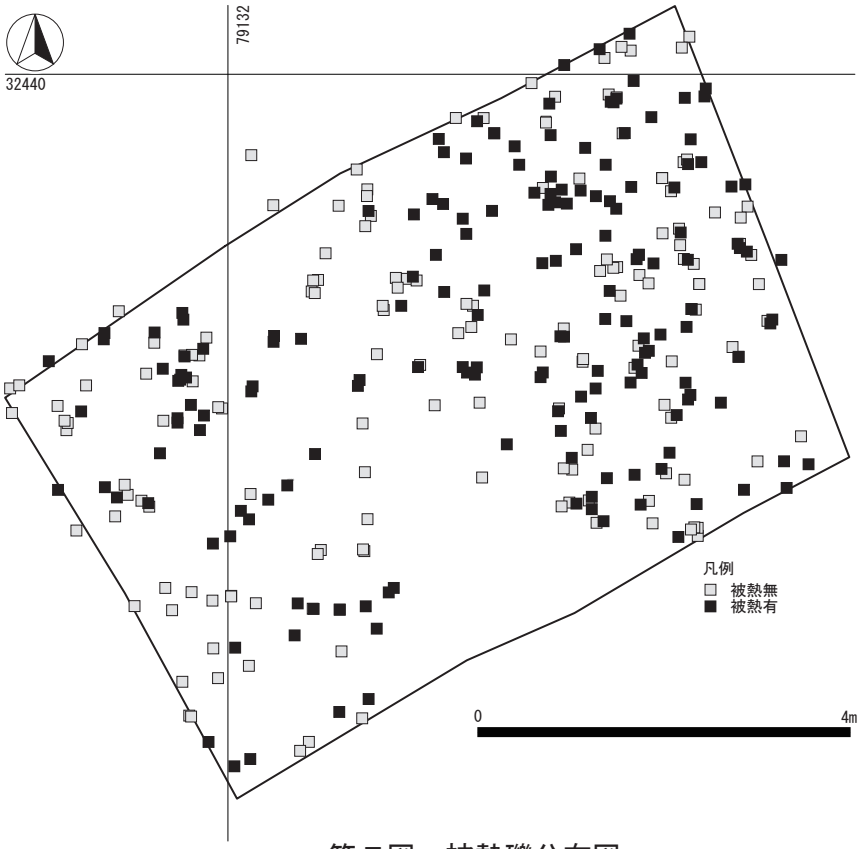
(4) 考察

尺沢遺跡が所在する洋野町の地質については、鎌田ほか (1991) の 20 万分の 1 地質図幅「八戸」などで概観できる。洋野町では、安家－田野畑帯の粘板岩および砂岩、チャート、石灰岩など、前期白亜紀の中粒および細粒黒雲母花崗岩、角閃石黒雲母花崗閃緑岩で構成される階上岩体、前期白亜紀のデイサイト－流紋岩溶岩および火砕岩からなる原地山層、後期白亜紀の砂岩、礫岩、凝灰岩などから構成される種市層、前期更新世の砂などからなる水無層、完新統の火山灰および軽石が分布する。

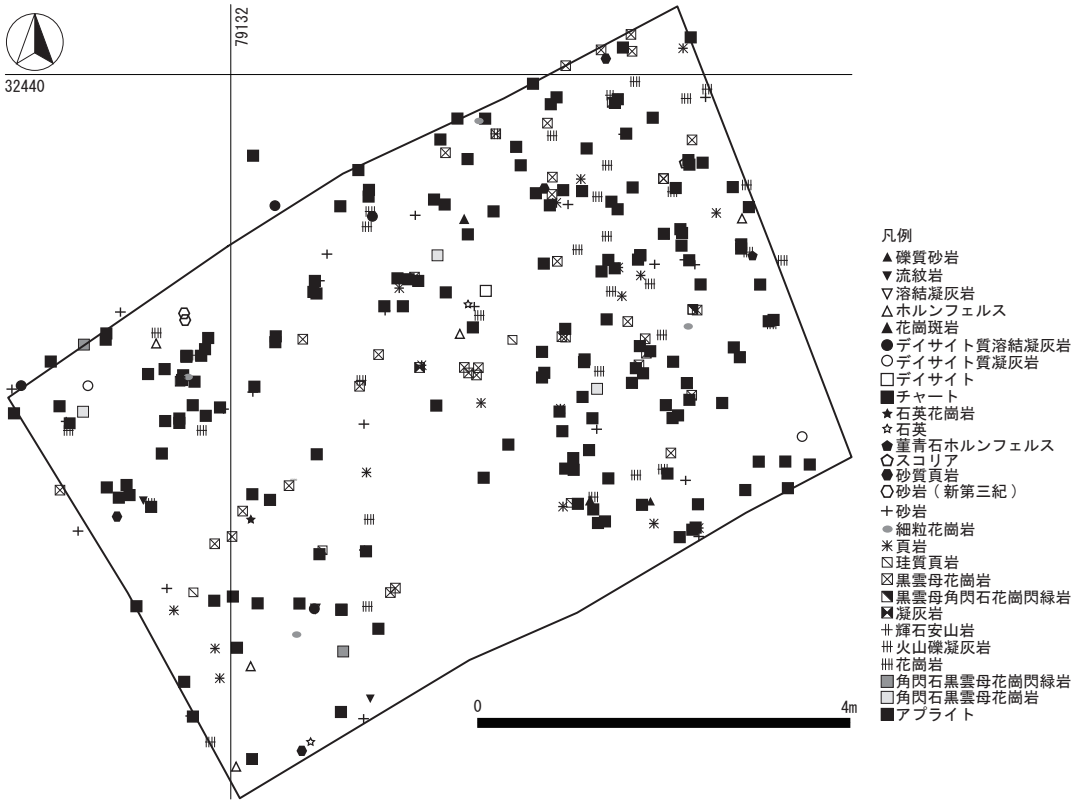
上記の地質背景を考慮すると、礫群を構成する礫は、遺跡周辺や近隣地域で採取可能な石材で構成されているとみることができる。

それらは、深成岩類、半深成岩類、火山岩類、火山砕屑岩類の凝灰岩類、堆積岩類の中でも新第三紀以外の岩石、花崗岩類との接触変成作用により生じた変成岩類のホルンフェルス、鉱物の石英などである。その多くは安家－田野畑帯や階上岩体、原地山層に由来する石材と判断することができる。珪質頁岩は、チャートと泥岩の中間にあたり、東北地方に産するいわゆる硬質頁岩とは岩相が異なっている。この他、遺跡周辺には分布していない火山砕屑岩類のスコリアについては、多孔質で軽量な性状を示すことから、海岸に漂着した石材を採取した可能性が指摘できる。石材の多くは、自然礫と推定され、被熱の痕跡が認められる。礫は平滑な破断面を示すものが多く、被熱・冷却の繰り返しにより熱膨張と収縮を繰り返し破砕したと考えられる。堅硬緻密質の岩相を示すことから、チャートや頁岩などは完形礫が認められる傾向がある。

本遺跡より出土している花崗岩類は風化作用を受けて細片化しやすいものが認められる。花崗岩類は、石英や



第Ｆ図　被熱礫分布図



第Ｇ図　礫の岩種別分布図

長石類を主成分鉱物とし、縦横に節理が発達する。それらの節理に沿って天水が岩体深くまで長時間かけて浸透し、長石類の風化作用が進行する。風化作用によって粘土鉱物が生じ、真砂土化が進む。他方、花崗岩は玉ねぎ状構造と呼ばれる薄板状に剥離する性質をもつことがあり、薄板状の花崗岩類については、玉ねぎ状構造により生じた自然礫の可能性も視野に入れる必要がある。

薄片作製鑑定を実施したNo.400は、黒雲母を含む黒雲母花崗岩に鑑定された。肉眼では被熱の痕跡と推定された褐色を呈する部分が薄片上では岩石の縁部に偏在しているが、これらは水酸化鉄の濃集部にあたり、赤鉄鉱が生じている。基質に偏在する水酸化鉄には、水酸化鉄が赤鉄鉱へ変化する270～325℃程度以上（吉木1959）の熱を受けていると判断できる。

同じく薄片作製鑑定を実施したNo.403については、No.400に比較して水酸化鉄の分布が小さく、赤鉄鉱の分布も限定的である。きわめて微量の赤鉄鉱が生じており、No.400と同程度の温度で熱を受けたと考えられる。No.403は肉眼では中粒～粗粒のアレナイト質砂岩に類似する岩相を示している。

本分析調査によって上述のように岩種、被熱の状況が確認された。第Ｆ図に被熱礫分布図を、第Ｇ図に礫の岩種別分布図を示す。礫全体の出土状況を見ると、調査区東側でやや濃く、中央から西側で薄い。特に中央南側には空白範囲が確認される。被熱礫分布について、調査区東側でやや多く、西側では少ない。散漫な分布状況を示す。岩種別の図を見ると、確認された数が最も多いチャートは、やや東側が多いが、ほぼ偏り無く出土している。いずれの岩種においても目立った集中などは確認されなかった。

４.放射性炭素年代測定

（1）試料

試料は、尺沢遺跡より出土した2点の土器片の付着炭化物と試掘11トレンチの礫に認められた付着炭化物1点および遺物集中Ⅳ2層上部より出土した炭化材片1点の合計4点である。付着物を採取した土器片を、それぞれ試料C（第30図86）と試料D（第19図20）とする。

（2）分析方法

試料は、試料の状況を観察後、塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lであるが、試料が脆弱な場合や少ない場合は、アルカリの濃度を調整して試料の損耗を防ぐ（AaAと記載）。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）はElementar社のvario ISOTOPE cube とIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を用いて、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX-Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。

δ ^{13}Cは試料炭素の^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver & Polach,1977)。また､暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウエアは、Oxcal4.3(Bronk,2009）を用いる。較正曲線はIntcal13（Reimer et al.,2013）を用いる。

試料	種別／性状	方法	補正年代（暦年較正用）BP	δ 13C (‰)	暦年較正年代 年代値																			確率％	code-No.
試料C	付着炭化物	AaA	8770 ± 30 (8772 ± 33)	-20.97 ± 0.23	σ	cal	BC	7938	-	cal	BC	7895	9887	-	9844	cal	BP	15.0	IAAA-191144
						cal	BC	7871	-	cal	BC	7748	9820	-	9697	cal	BP	53.2	
					2σ	cal	BC	7962	-	cal	BC	7679	9911	-	9628	cal	BP	95.4	
試料D	付着炭化物	AaA	8800 ± 30 (8796 ± 34)	-23.11 ± 0.23	σ	cal	BC	7947	-	cal	BC	7792	9896	-	9741	cal	BP	68.2	IAAA-191145
					2σ	cal	BC	8170	-	cal	BC	8117	10119	-	10066	cal	BP	4.8	
						cal	BC	7986	-	cal	BC	7726	9935	-	9675	cal	BP	90.6	
試掘11トレンチ出土礫付着炭化物	付着炭化物	AAA	140 ± 20 (140 ± 23)	-20.81 ± 0.26	σ	cal	AD	1680	-	cal	AD	1697	270	-	254	cal	BP	9.6	IAAA-191146
						cal	AD	1725	-	cal	AD	1764	225	-	187	cal	BP	19.3	
						cal	AD	1801	-	cal	AD	1815	149	-	136	cal	BP	7.3	
						cal	AD	1835	-	cal	AD	1877	115	-	73	cal	BP	19.3	
						cal	AD	1917	-	cal	AD	1939	33	-	12	cal	BP	12.7	
					2σ	cal	AD	1670	-	cal	AD	1709	281	-	241	cal	BP	15.9	
						cal	AD	1717	-	cal	AD	1780	233	-	171	cal	BP	27.0	
						cal	AD	1798	-	cal	AD	1890	153	-	61	cal	BP	36.2	
						cal	AD	1910	-	cal	AD	1944	41	-	7	cal	BP	16.4	
遺物集中Ⅳ出土炭化材	炭化材（コナラ亜属）	AAA	2920 ± 20 (2917 ± 23)	-23.89 ± 0.22	σ	cal	BC	1188	-	cal	BC	1182	3137	-	3131	cal	BP	3.2	IAAA-191147
						cal	BC	1157	-	cal	BC	1146	3106	-	3095	cal	BP	6.8	
						cal	BC	1129	-	cal	BC	1053	3078	-	3002	cal	BP	58.2	
					2σ	cal	BC	1207	-	cal	BC	1141	3156	-	3090	cal	BP	28.4	
						cal	BC	1135	-	cal	BC	1028	3084	-	2977	cal	BP	67.0	

1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。

2)BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68.2% が入る範囲）を年代値に換算した値。

4)AAA は、酸・アルカリ・酸処理を示す。AaA は試料が脆弱なため、アルカリの濃度を薄くして処理したことを示す。

5) 暦年の計算には、Oxcal v4.3.2 を使用

6) 暦年の計算には、補正年代に () で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。

7)1 桁目を丸めるのが慣例だが、較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。

8) 統計的に真の値が入る確率は、σが 68.2%、2σが 95.4% である

第Ｇ表　放射性炭素年代測定結果

(3) 結果

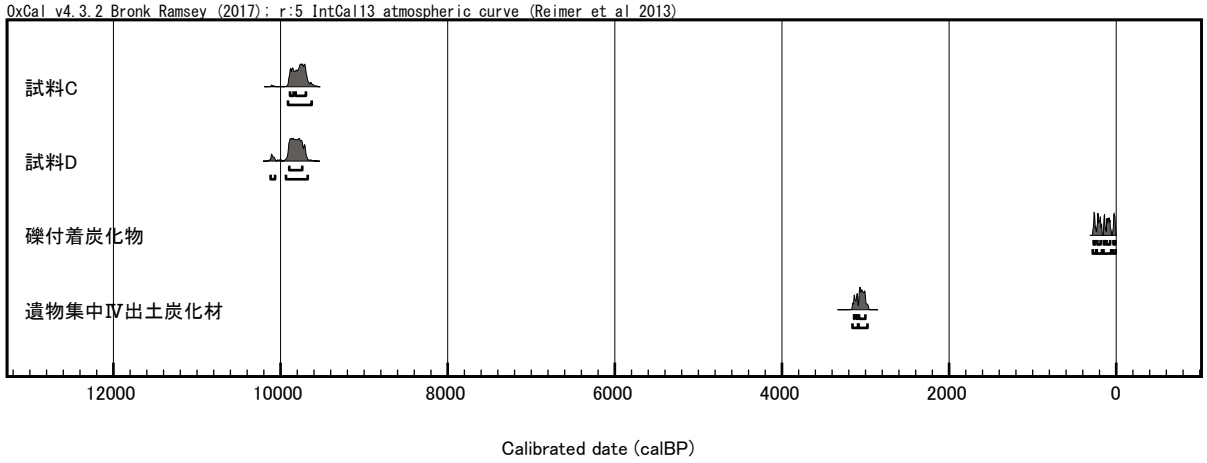
結果を第Ｇ表、第Ｈ図に示す。土器付着試料２点については付着物が微量のため、アルカリ処理を十分できなかった（AaA）。ただし、いずれも加速器質量分析計による年代測定に必要な炭素量は十分回収できている。同位体補正を行った測定値は、試料Ｃは 8,770 ± 30BP、試料Ｄは 8,800 ± 30BP であり、礫付着炭化物は 140 ± 20BP、遺物集中Ⅳ出土炭化材は 2,920 ± 20BP であった。

第Ｇ表には較正暦年代も表示する。暦年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、その後訂正された半減期（^{14}C の半減期 5,730 ± 40 年）とのずれを較正することによって、暦年代に近づける手法である。測定誤差２σの暦年代は、試料Ｃは 9,911 ～ 9,628calBP、試料Ｄは 10,119 ～ 9,675calBP である。礫付着炭化物の暦年代については 17 世紀後半から 20 世紀前半までの値が得られ、遺物集中Ⅳ出土炭化材については 3,156 ～ 2,977 calBP であった。

(4) 考察

小林（2017）は、土器付着物の放射性炭素年代測定によって得られた結果を集成することによって、縄文時代の各時期に対応する暦年代を与えている。それに従えば、今回の縄文土器付着物から得られた年代は、２点ともに縄文時代早期の前半に相当する。この結果は、発掘調査所見による土器の年代観を支持していると言える。

一方、礫付着物から得られた年代は、近代を示しており、遺跡の年代観とはかけ離れた結果となった。おそらく、後代の礫が混入した可能性があると考えられる。また、遺物集中Ⅳ出土炭化材からは、縄文時代晩期前半を示す暦年代が得られており、尺沢遺跡においては、縄文時代早期の他、縄文時代後晩期において人間活動があったことの証左といえる。



第Ｈ図　暦年較正結果

＜引用文献＞

Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon ,51, 337-360.

古澤　明,1995,火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別．地質学雑誌,101,123-133.

Hayakawa,Y.,1985,Pyroclastic Geology of Towada Volcano. Bulletin of The Earthquake Reserch Institute University of Tokyo,vol.60 ,507-592.

早津賢治,1988, テフラおよびテフラ性土壌の堆積機構とテフロクロノロジー-AT にまつわる議論に関係して-. 考古学研究,34,18-32.

五十嵐俊雄,2006, 考古資料の岩石学．パリノ・サーヴェイ株式会社,194p.

鎌田耕太郎・秦　光男・久保和也・坂本　亨,1991,20 万分の 1 地質図幅「八戸」, 地質調査所．

大久保雅弘・藤田至則,2006, 地学ハンドブック　第 6 版．築地書館,242p.

小林謙一,2017, 縄紋時代の実年代－土器型式編年と炭素 14 年代－, 同成社,263p.

町田　洋・新井房夫,1976, 広域に分布する火山灰－姶良 Tn 火山灰の発見とその意義－．科学,46,339-347.

町田　洋・新井房夫,2003, 新編　火山灰アトラス．東京大学出版会,336p.

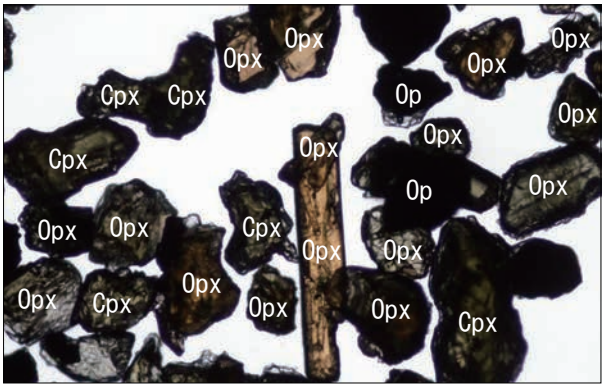
松田順一郎・三輪若葉・別所秀高,1999, 瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察－岩石学的・堆積学的による－．日本文化財科学会第 16 回大会発表要旨集,120-121.

Reimer PJ., Bard E., Bayliss A., Beck JW., Blackwell PG., Bronk RC., Buck CE., Cheng H., Edwards RL., Friedrich M., Grootes PM., Guilderson TP., Haflidason H., Hajdas I., Hatté C., Heaton TJ., Hoffmann DL., Hogg AG., Hughen KA., Kaiser KF., Kromer B., Manning SW., Niu M., Reimer RW., Richards DA., Scott EM., Southon JR., Staff RA., Turney CSM., van der Plicht J., 2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon, 55, 1869-1887.

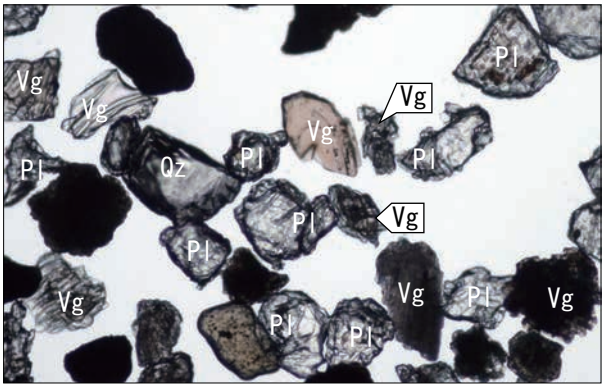
Smith, V.C., Staff, R.A., Blockley, S.P.E., Ramsey, C.B., Nakagawa, T., Mark, D.F., Takemura, K., Danhara, T., Suigetsu 2006 Project Members, 2013, Identification and correlation of vesible tephras inthe Lake Suigetsu SG06 sedimentary archive, Japan: chronostratigraphic markers for synchronizing of east Asian/west Pacific palaeoclimatic records across the last 150 ka. Quarternary Science Reviews, 67, 121-137.

Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

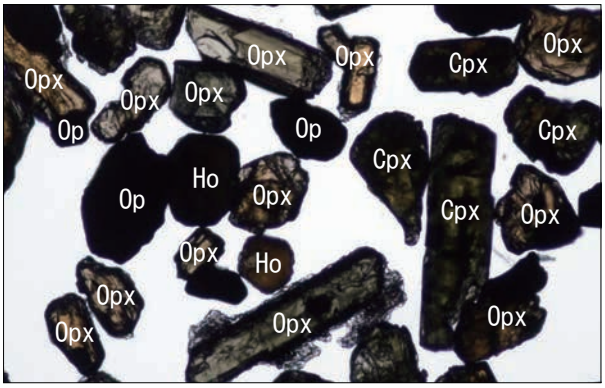
吉木文平,1959, 鉱物工学．技報堂,710p.



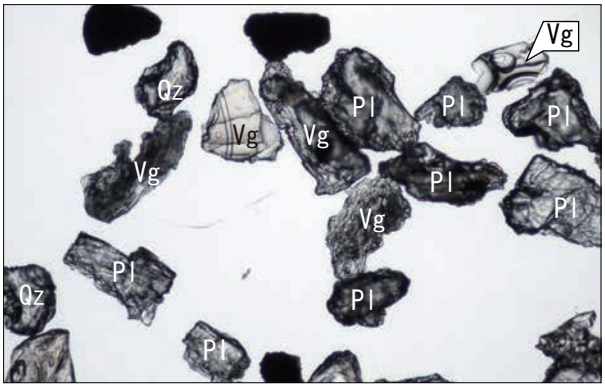
1. 重鉱物(深掘1断面;2)



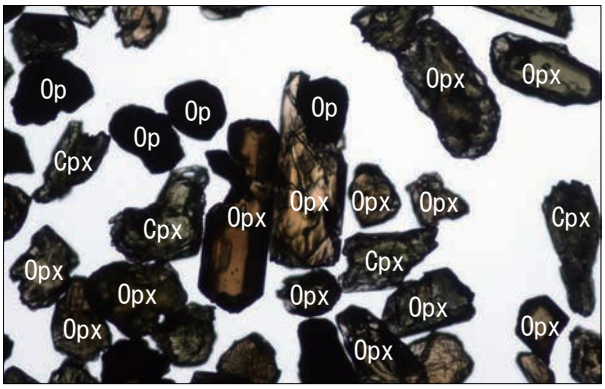
2. 火山ガラス(深掘1断面;2)



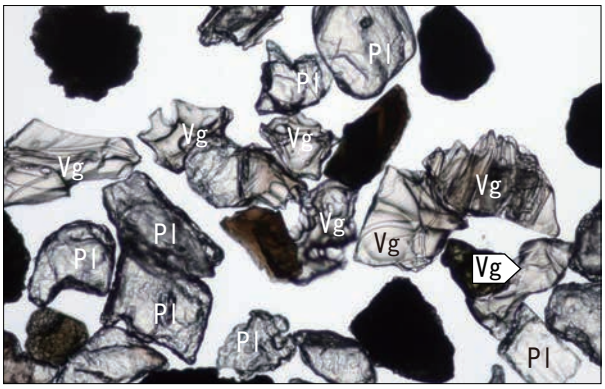
3. 重鉱物(深掘1断面;6)



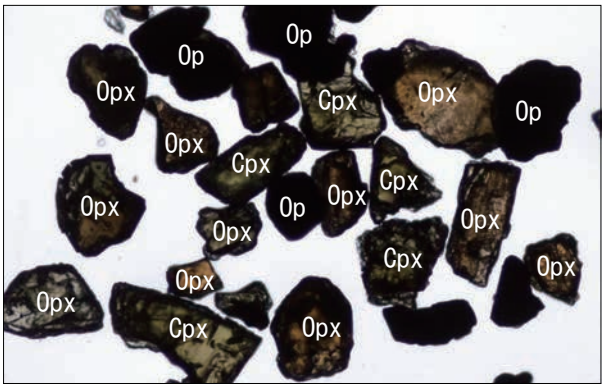
4. 火山ガラス(深掘1断面;4)



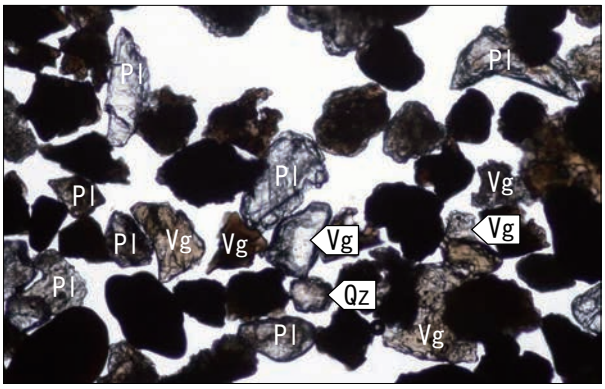
5. 重鉱物(深掘1断面;12)



6. 火山ガラス(深掘1断面;10)



7. 重鉱物(礫集中範囲;T2)

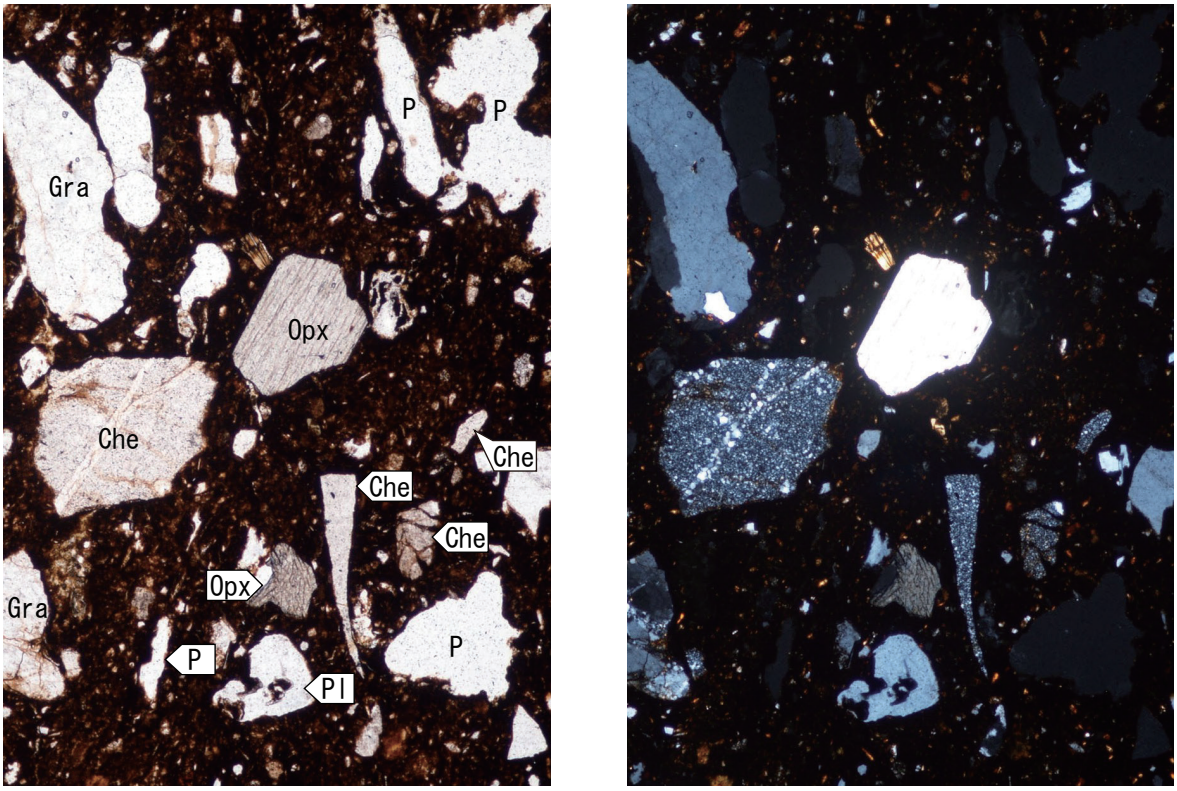


8. 火山ガラス(深掘1断面;14)

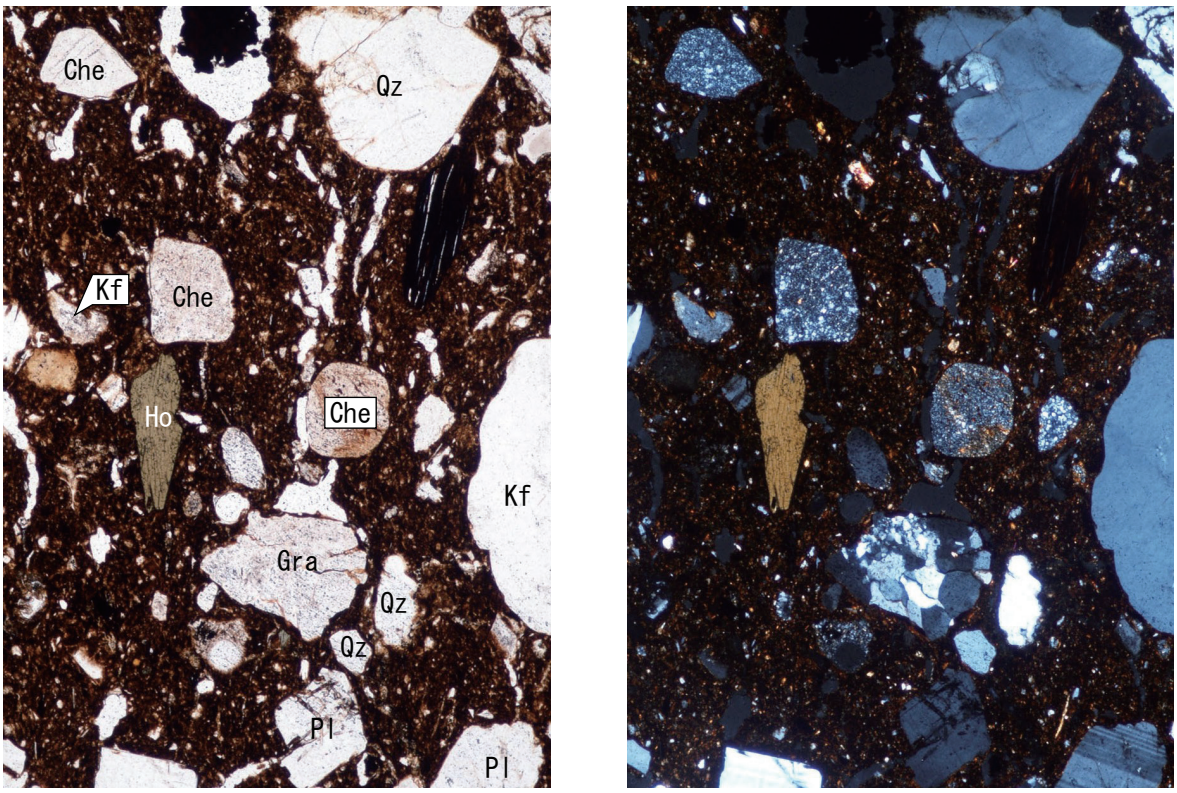
Opx:斜方輝石. Cpx:単斜輝石. Ho:角閃石. Op:不透明鉱物. Vg:火山ガラス.
Qz:石英. Pl:斜長石.

0.5mm

写真図版Ａ　重鉱物・火山ガラス



1. 試料A



2. 試料B

Qz:石英. Kf:カリ長石. Pl:斜長石. Opx:斜方輝石. Ho:角閃石. Che:チャート.
Gra:花崗岩. P:孔隙. 写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

写真図版B　胎土薄片

1.遺物集中Ⅱ　No.400　黒雲母花崗岩

2.遺物集中Ⅱ　No.100　角閃石黒雲母花崗閃緑岩

3.遺物集中Ⅱ　No.403　石英花崗岩

4.遺物集中Ⅱ　No.124　デイサイト質溶結凝灰岩

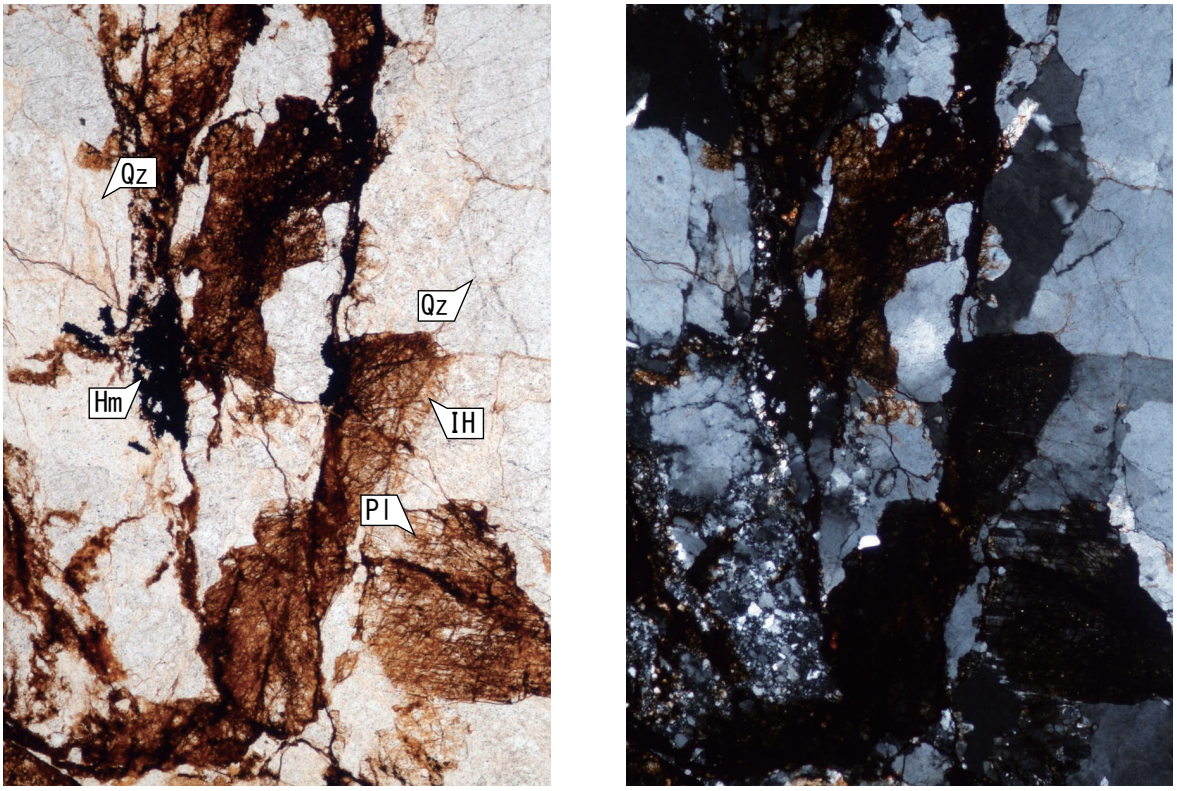
5.遺物集中Ⅱ　No.163　スコリア

6.遺物集中Ⅱ　No.140　チャート

7.遺物集中Ⅱ　No.6　砂岩

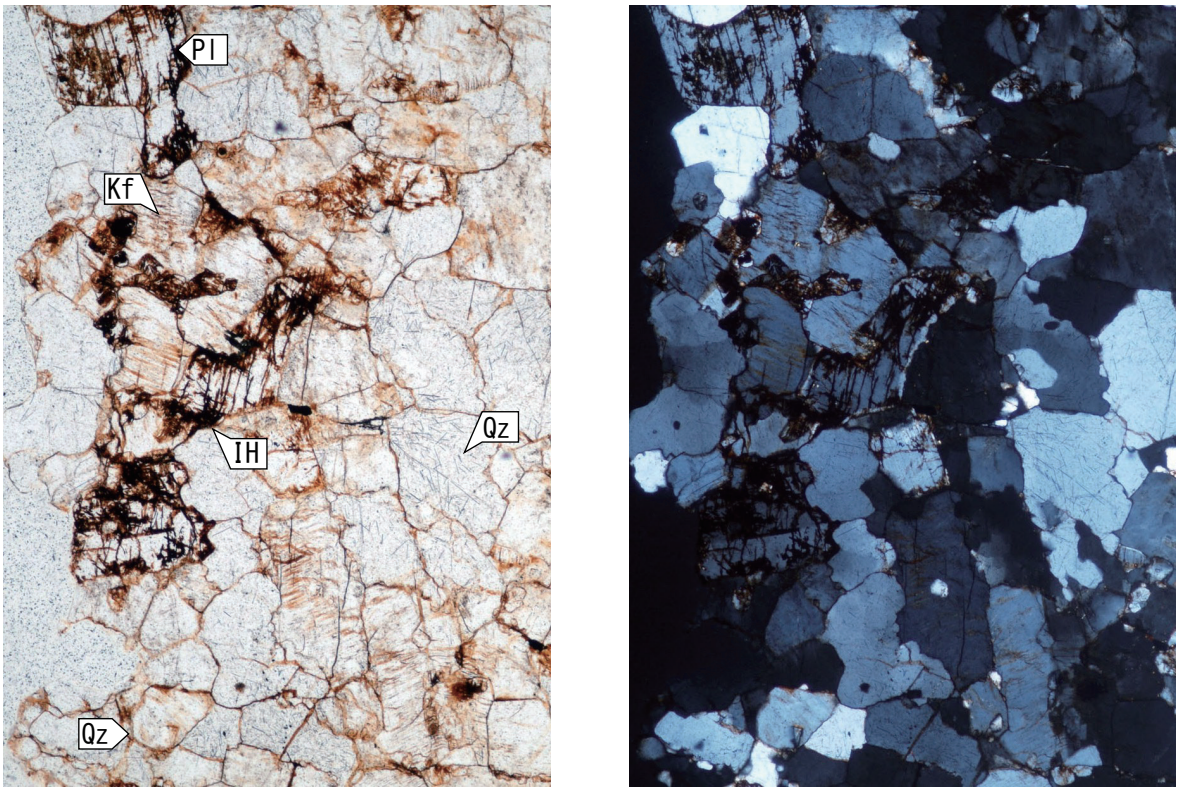
8.遺物集中Ⅱ　No.112　ホルンフェルス

写真図版Ｃ　岩石



1. 遺物集中Ⅱ　No. 400　角閃石黒雲母花崗閃緑岩

0. 5mm



2. 遺物集中Ⅱ　No. 403　黒雲母石英花崗岩

0. 5mm

Qz:石英. Kf:カリ長石. Pl:斜長石. Hm:赤鉄鉱. IH:水酸化鉄.

写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

写真図版Ｄ　岩石薄片

Ⅵ. 尺沢遺跡の土器圧痕分析

株式会社パレオ・ラボ

はじめに

岩手県洋野町に位置する尺沢遺跡（洋野町中野第 7 地割）は、縄文時代早期の遺跡と推定されている。ここでは、土器に確認された種実などの可能性がある圧痕について、レプリカ法により観察、同定した。

1. 試料と方法

試料は、洋野町教育委員会によってあらかじめ選定された土器片 2 点である。1 点については、種実の可能性のある圧痕が 2 か所確認され、もう 1 点については、縄の可能性のある圧痕が 1 か所確認されていた。土器の時期は、いずれも縄文時代早期と推定されている。

レプリカの作製方法は、丑野・田川（1991）などを参考にした。はじめに、圧痕内を水で洗い、パラロイド B72 の 9%アセトン溶液を離型剤として圧痕内および周辺に塗布した後、シリコン樹脂（JM シリコン レギュラータイプ）を圧痕部分に充填した。レプリカ作製後は、アセトンを用いて圧痕内および周囲の離型剤を除去した。

次に、作製したレプリカについて実体顕微鏡下で観察し、同定の根拠となる部位が残っている圧痕レプリカを同定した。その後、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製 超深度マルチアングルレンズ VHX-D500/D510）で撮影を行った。土器は、洋野町教育委員会に保管されている。

圧痕番号	遺物	出土遺構	時期	部位	圧痕位置	分類群	法量（mm）		備考
							長さ	幅	
No. 1	第 26 図 56	遺物集中Ⅳ	縄文時代早期	胴部	外面	不明	21. 1	2. 3	最大幅
No. 2-1	第 30 図 103	試掘 8 トレンチ		胴部	内面	種実圧痕ではない	4. 5	3. 1	
No. 2-2						種実圧痕ではない	3. 3	2. 8	

第Ｈ表　尺沢遺跡出土土器の圧痕同定結果

2. 結果

土器片 2 点から、計 3 か所の圧痕についてレプリカを作製し、同定した結果、1 点は不明の圧痕で、残り 2 点は種実圧痕ではなかった（第Ｈ表）。以下に、圧痕について記載を行う。

（1）不明　Unknown　（No.1）

細長く、湾曲する形態。長軸方向の 1/3 程度には細い隆線が見られるが、残りの 2/3 程度には見られず、平滑である。撚りなどの構造は観察されない。太さは均一ではなく、圧痕の原体については不明である。

（2）種実圧痕ではない　（No.2-1、No.2-2）

不整形で緩やかな凹凸がある。着点や、表面構造など、種実と考えられる特徴は見られない。礫が抜け落ちたか、土器表面の剥落などの痕跡の可能性がある。

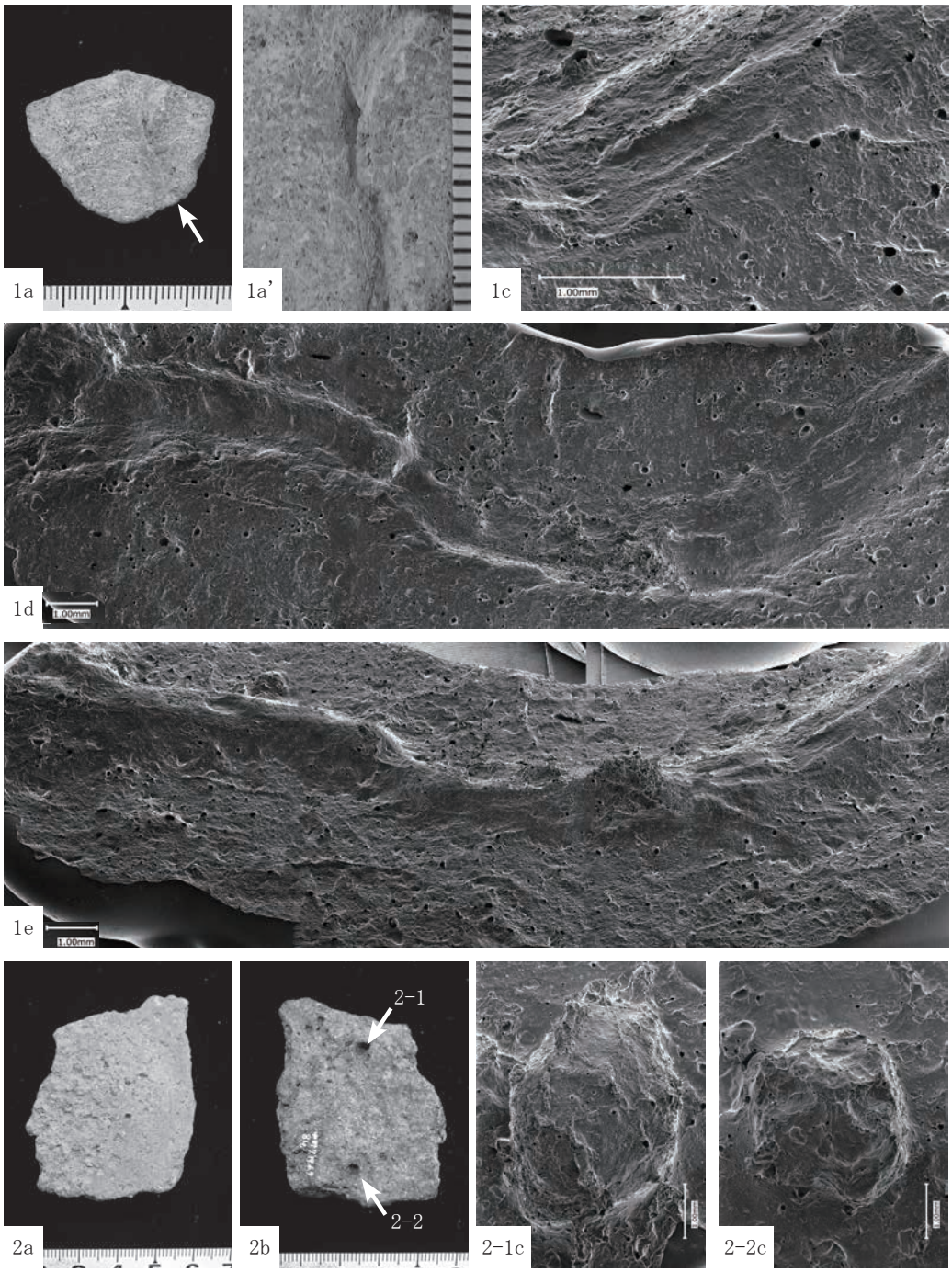
3. 考察

縄文時代早期と推定される土器に確認された圧痕 3 点について、レプリカを作製して観察したところ、不明の圧痕が 1 点確認された。細長く、表面に細い隆線が見られるが、1 本ずつ独立した繊維ではなく、まとまりで 1

個体分と考えられる。撚りなども観察されなかった。また、太さが均一ではなく、両端が太いため、植物の茎や枝とも断定できないが、割れて裂けた形態の可能性はある。粘土の段階で練りこまれていた可能性と、成形以降の段階で付いた可能性が考えられる。

＜引用文献＞

丑野　毅・田川裕美 1991 レプリカ法による土器圧痕の観察．考古学と自然科学，24，13-36.



1．不明（No.1）

2．種実圧痕ではない（No.2-1、No.2-2）

a：土器外面の写真、a'：a の拡大写真、b：土器内面の写真、c-e：圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真
矢印は圧痕の位置．スケール a-b：1 目盛り 1mm、c-e：1mm.

写真図版Ｅ　尺沢遺跡出土土器の写真と圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真

Ⅶ. 検出された遺構と遺物

発掘調査の結果、第７図に示したように調査区から土坑８基、溝状土坑４基、ピット３基が検出された。おもに調査区Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで検出されたが、遺物集中区から検出されたものもある。

以下、確認された遺構を土坑・溝状土坑・ピットの順に記述し、続いて遺物集中区Ⅰ～Ⅳについて記述する。次に、遺構外の遺物について記述する。

遺物については、土器土製品は、試掘調査分 81 点を含め本調査で出土した 322 点とあわせて 403 点を掲載し、石器については、試掘調査分 29 点を含め本調査で出土した 57 点とあわせて 86 点を掲載した。

１. 遺構

（1）土坑

SK01　土坑（第８図、写真図版５）

調査区Ⅰ北西コーナーから検出され、設定した調査区を拡張して調査した。標高 162.0 m程を測る尾根上平坦部に位置している。平面形状は細長楕円形を呈し、長軸方向はＮ－ 35°－Ｗを示す。規模は開口部で長軸 361cm ×短軸 48cm、底部で長軸 135cm ×短軸 38.4cm、深さは中央で 16cm を測り、平坦な底面形状をなしている。堆積土は２層に分層され、黒褐色土を主体とする。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK02　土坑（第８図、写真図版５）

調査区Ⅰ北西コーナーから検出された。標高 162.0 m程を測る尾根上平坦部に位置している。規模は開口部で長径 102cm ×短径 135cm、底部で長径 125cm ×短径 90cm で不整円形の形状をなす。深さは最深部で 32cm を測る。底面は平坦であるが、北東方向に若干傾斜している。壁は底部から外傾して立ち上がる。断面形状は逆台形に近い。堆積土は２層に分層され、褐色土を主体とする。土坑内からの遺物の出土はなかった。

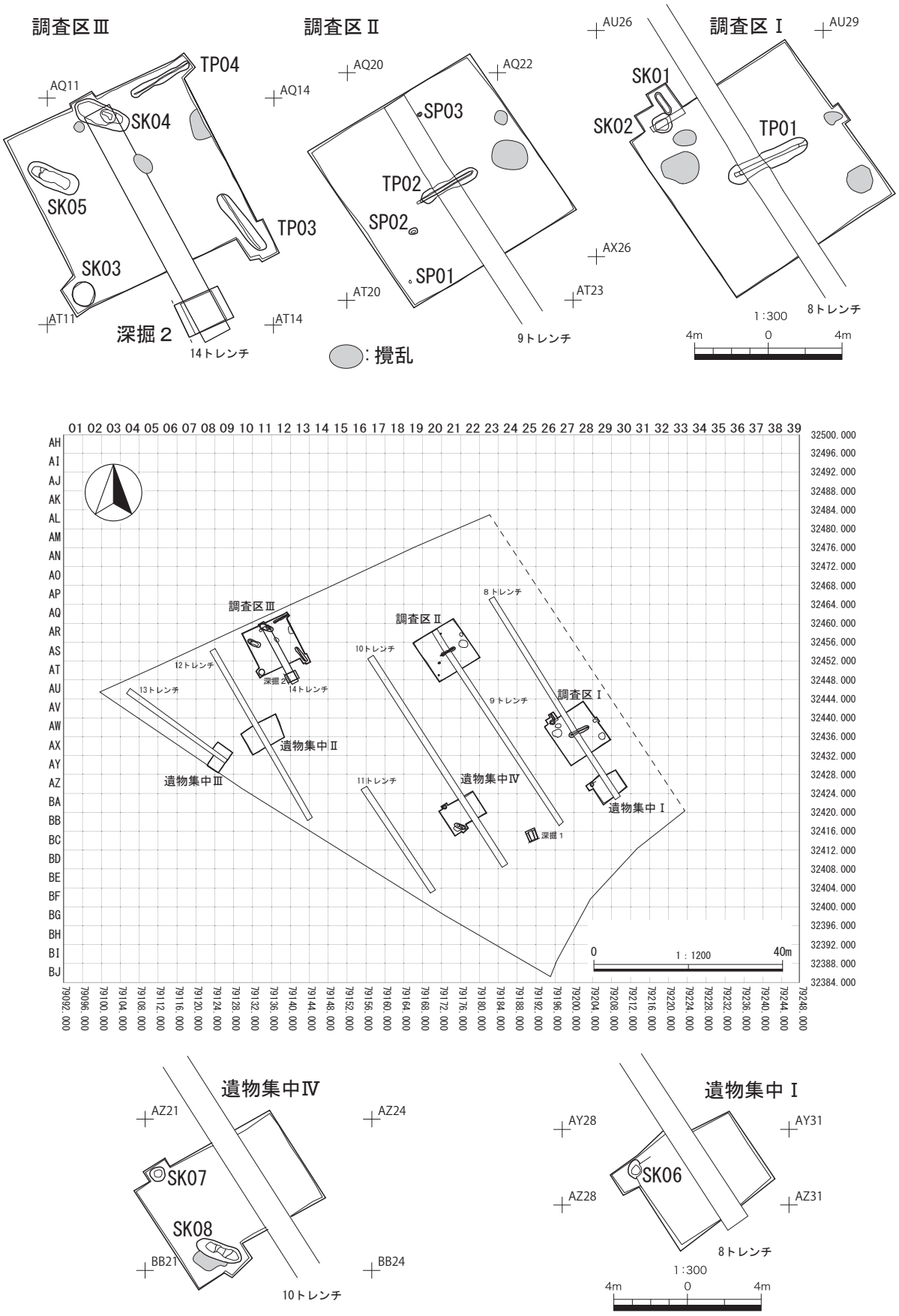
SK03　土坑（第８図、写真図版５）

調査区Ⅲ南西コーナーから検出され、設定した調査区を拡張して調査した。標高 162.5 m程を測る尾根上に位置している。規模は開口部で長径 126cm ×短径 120cm、底部で長径 132cm ×短径 111cm で不整円形の形状をなす。深さは最深部で 51cm を測る。底面は平坦であるが、北東方向に若干傾斜している。壁は底部から垂直に立ち上がるが、若干オーバーハングしている。堆積土は３層に分層され、褐色土を主体とする。各層においては、明黄褐色土の粒子が確認できる。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK04　土坑（第８図、写真図版６）

調査区Ⅲ北西中央から検出された。標高 162.0 m程を測る尾根上に位置している。規模は開口部で長径 303cm ×短径 117cm、底部で長径 248cm ×短径 96cm で長楕円形の形状をなす。長軸方向はＮ－ 69°－Ｗを示す。尾根の北西側斜面に向いている。深さは最深部で 69cm を測る。底面は平坦であるが、舟底形の形状をなす。南東方向に若干傾斜している。壁は底部から外傾して立ち上がる。堆積土は４層に分層され、褐色土を主体とする。

遺物は、土器小片１点が堆積層中から出土した（第 17 図 1）。やや厚手で、胎土に繊維を含んでいる。非結束羽状縄文（LR、RL）が横帯施文されている（A3 類）。


調査区Ⅲ
TP04
AQ11
AQ14
SK04
SK05
TP03
SK03
AT11
AT14
深掘２
14トレンチ
調査区Ⅱ
AQ20
AQ22
SP03
TP02
SP02
SP01
AT20
AT23
9トレンチ
AU26
AX26
調査区Ⅰ
AU29
SK01
SK02
TP01
8トレンチ
1:300
4m
0
4m
：攪乱
遺物集中Ⅳ
AZ21
AZ24
SK07
SK08
BB21
BB24
10トレンチ
遺物集中Ⅰ
AY28
AY31
SK06
AZ28
AZ31
8トレンチ
1:300
4m
0
4m
調査区Ⅲ
調査区Ⅱ
調査区Ⅰ
12トレンチ
13トレンチ
深掘２
14トレンチ
10トレンチ
9トレンチ
8トレンチ
遺物集中Ⅱ
遺物集中Ⅲ
11トレンチ
遺物集中Ⅳ
遺物集中Ⅰ
深掘１
0
1：1200
40m

第７図　遺構配置図

SK05　土坑（第９図、写真図版６）

調査区Ⅲ北西コーナー付近から検出された。標高 162.0 m程を測る尾根上に位置している。規模は開口部で長径 284cm ×短径 106cm、底部で長径 214cm ×短径 56cm で長楕円形の形状をなす。長軸方向はＮ－ 61°－Ｗを示す。ほぼ、SK04 と平行し、尾根の北西側斜面に向いている。深さは最深部で 66cm を測る。底面は平坦であるが、舟底形の形状をなす。南東方向に若干傾斜している。壁は底部から外傾して立ち上がる。堆積土は４層に分層され、褐色土を主体とする。２層及び３層においては、微細な炭化物の混入が確認できる。土坑内からの出土遺物はなかった。

SK06　土坑（第９図、写真図版７）

遺物集中Ⅰ北西コーナー付近から検出された。標高 162.0 m程を測る尾根上に位置している。規模は開口部で長径 91cm ×短径 66cm、底部で長径 50cm ×短径 46cm で不整円形の形状をなす。深さは最深部で 39cm を測る。底面は平坦である。壁は底部から外傾して立ち上がる。堆積土は３層に分層され、褐色土を主体とする。２層において若干の炭化物を含む。

遺物は、土器小片１点が堆積層中から出土した（第 17 図 2）。胎土に繊維を含んでおらず、やや厚手の縄文（RL）が施された土器（B2 類）である。

SK07　土坑（第９図、写真図版７）

遺物集中Ⅳ北西コーナー付近から検出された。標高 162.0 m程を測る尾根上に位置している。規模は開口部で長径 79cm ×短径 78cm、底部で長径 47cm ×短径 42cm で不整円形の形状をなす。深さは最深部で 46cm を測る。底面は平坦である。壁は底部から外傾して立ち上がる。堆積土は２層に分層され、褐色土を主体とする。

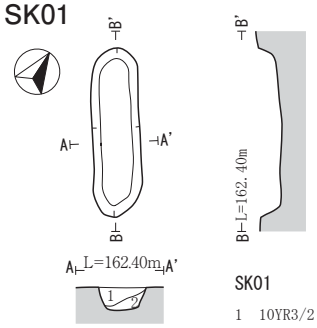
遺物は、土器小片２点が堆積層中から出土した（第 17 図３・4）。やや薄手の繊維土器で、ともに平縁、口唇外縁には深い斜位刻目文が配されている。３の縄文（RL）は横走し、４の土器は縄文施文後、２本の横位平行沈線文が配されている（A3 類）。

SK08　土坑（第９図、写真図版７）

遺物集中Ⅳ南西コーナー付近から検出された。標高 162.0 m程を測る尾根上に位置している。規模は開口部で長径 252cm ×短径 87cm、底部で長径 186cm ×短径 31cm で長楕円形の形状をなす。長軸方向はＮ－ 67°－Ｗを示す。ほぼ、SK04・SK05 と平行し、尾根の南東側斜面に向いている。深さは最深部で 66cm を測る。底面はやや凹凸を有し、舟底形の形状をなす。南東方向に若干傾斜している。壁は底部から外傾して立ち上がる。堆積土は４層に分層され、にぶい黄褐色土を主体とする。

遺物は、土器小片４点が堆積層中から出土した（第 17 図５～８）。いずれも胎土に繊維を含んでいる。５・６は縄文が施文された土器（A3 類）、７・８は無文土器（A4 類）である。

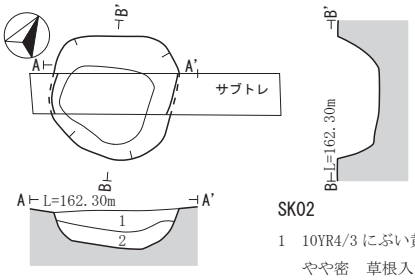
SK01



SK01

1　10YR3/2 黒褐色土 粘性中 締まりやや密
　草根入る
　10YR5/6 黄褐色土　小・中粒 2%入る
2　10YR4/4 褐色土　粘性強　締まりやや密
　10YR5/6 黄褐色土小・中粒 10%入る

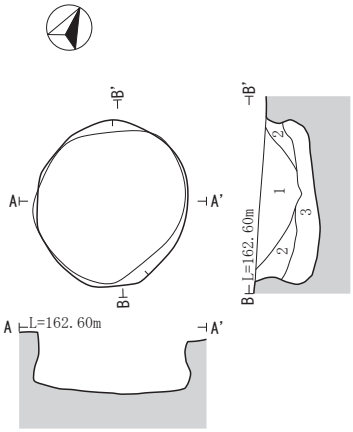
SK02



SK02

1　10YR4/3 にぶい黄褐色土　粘性中　締まりやや密　草根入る
　10UR5/8 黄褐色土　径 5cm のブロック壁際に入る
　10YR5/6 黄褐色土　極小～中粒 2%入る
2　10YR4/6 褐色土　粘性強　締まりやや密
　草根入る
　10YR5/6 黄褐色土　極小・小粒 2 %入る

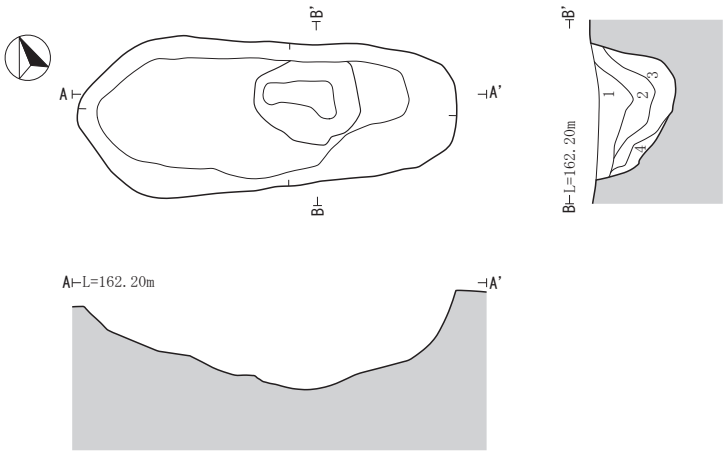
SK03



SK03

1　10YR2/2 黒褐色土　粘性中
　締まりやや密　草根入る
　10YR6/6 明黄褐色土　極小～中粒
　5%入る
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土　粘性中
　締まりやや密 草根入る
　10YR6/8 明黄褐色土　極小～中粒
　5%入る
3　10YR4/4 褐色土　粘性強　締まり密
　10YR6/4 にぶい黄褐色土　極小～中粒
　20%入る
　10YR6/8 明黄褐色土　小・中粒 5%入る

SK04



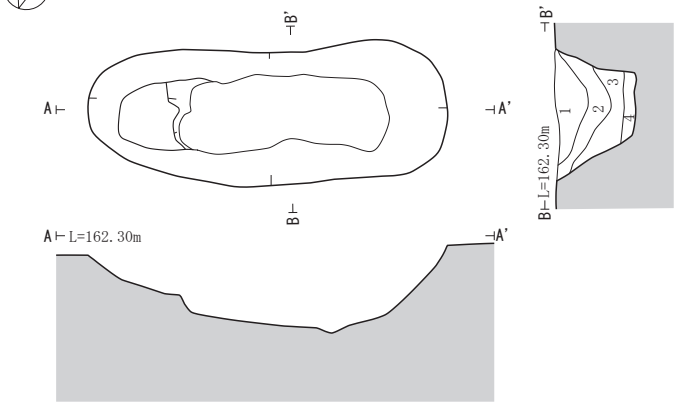
SK04

1　10YR3/3 暗褐色土　粘性弱　締まりやや密
　10YR5/6 黄褐色土　小・中粒 5% 入る
2　10YR3/4 暗褐色土　粘性中　締まりやや疎
　10YR5/6 黄褐色土　小～大粒 10%入る
3　10YR4/4 褐色土　粘性中　締まりやや疎
　10YR5/8 黄褐色土　中～大粒 10% 入る
4　10YR5/6 黄褐色土　粘性強　締まりやや密

0　1:60　2m

第 8 図　土坑 SK01～SK04

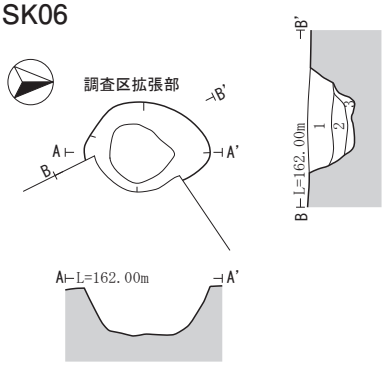
SK05



SK05

1　10YR3/4 暗褐色土　粘性弱　締まりやや疎
　草根入る
　10YR5/6 黄褐色土　小～中粒 10%入る
2　10YR4/4 褐色土　粘性中　締まりやや密
　径 1 ～ 2mm の炭化物 1%未入る
3　10YR4/6 褐色土　粘性中　締まり疎
　径 1 ～ 2mm の炭化物 1%入る
4　10YR5/6 黄褐色土　粘性強　締まりやや密

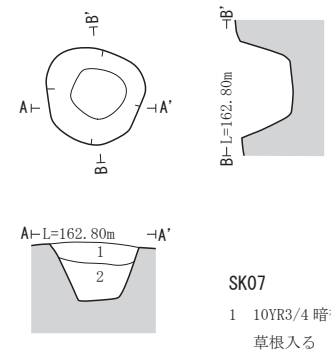
SK06



SK06

1　10YR4/4 褐色土　粘性中　締まりやや密
　草根入る
　10YR6/6 明黄褐色土　小～大粒 15%入る
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土　粘性中　締まり
　やや疎
　草根入る　径 1 ～ 2mm の炭化物 1%入る
3　10YR5/4 にぶい黄褐色土　粘性中　締まり
　やや密

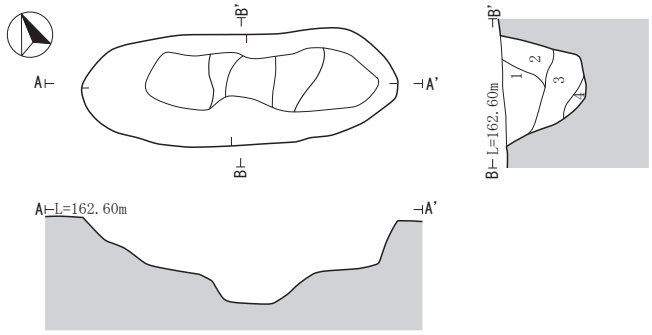
SK07



SK07

1　10YR3/4 暗褐色土 粘性中 締まりやや疎
　草根入る
　10YR5/8 黄褐色土　径 7cm のブロックが
　入る
2　10YR4/6 褐色土　粘性強　締まりやや密
　10YR5/8 黄褐色土　小粒 1%入る

SK08



SK08

1　10YR4/4 褐色土 粘性弱 締まりやや疎
　草根入る　　径 2 ～ 4mm の炭化物 1%入る
　10YR5/6 黄褐色土　小・中粒 5%入る
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土　粘性中
　締まりやや疎　草根入る
　径 1 ～ 2mm の炭化物 1%入る
3　10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘性中 締まりやや密
　径 1 ～ 2mm の炭化物 1%入る
4　7.5YR5/6 明褐色 粘性強 締まり密

0　1:60　2m

第 9 図　土坑 SK05～SK08

(2) 溝状土坑

TP01　溝状土坑（第 10 図、写真図版 8）

調査区Ⅰの中央において検出された。標高 162.0 m程を測る尾根上平坦部に位置している。平面形状は細長楕円形を呈し、長軸方向はN－69°－Eを示す。尾根筋と平行し、等高線とは直交する。規模は開口部で長軸457cm×短軸 99cm、底部で長軸 420cm×短軸 16cm、深さは中央で 132cm を測る。開口部の長軸両端の比高差は3cm ほどでありほぼ平坦である。底面は不規則に起伏し、地形に沿って傾斜する。短軸の断面形状はV字形を呈す。堆積土は 4 層に分層され、上層～中層は黒褐色土・暗褐色土、下層は褐色土・黄褐色土を主体とする。

遺物は、土器小片 2 点が堆積層中から出土した（第 17 図 9･10）。ともに胎土に繊維を含む無文の胴部片（A4 類）である。

TP02　溝状土坑（第 10 図、写真図版 8）

調査区Ⅱの中央において検出された。標高 162.0 m程を測る尾根上平坦部に位置している。平面形状は細長楕円形を呈し、長軸方向はN－59°－Eを示す。尾根筋と平行し、等高線とは直交する。規模は開口部で長軸300cm×短軸 64cm、底部で長軸 342cm×短軸 11cm、深さは中央で 117cm を測る。開口部の長軸両端の比高差は2cm ほどでありほぼ平坦である。底面は不規則に起伏し、地形に沿って傾斜する。長軸両側の壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸の断面形状はY字形を呈する。堆積土は 4 層に分層され、上層～中層は黒褐色・褐色土、下層は黒褐色土が主体を占める。

遺物は、土器小片 1 点が堆積層中から出土した（第 17 図 11）。やや厚手で胎土に繊維を含んでいる。押型文（重層山形文）が 2 段一部重複して施文された土器（A1 類）である。

TP03　溝状土坑（第 11 図、写真図版 9）

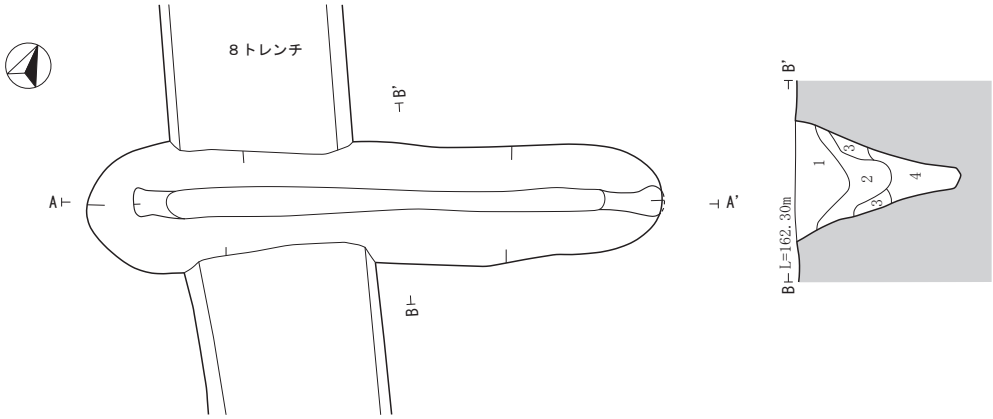
調査区Ⅲの南東コーナーより検出され、調査区を拡張して調査した。標高 162.0 m程を測る尾根上の北側傾斜部に位置している。平面形状は細長楕円形を呈し、長軸方向はN－31°－Wを示す。尾根筋と平行し、等高線とも平行する。規模は開口部で長軸 372cm×短軸 72cm、底部で長軸 342cm×短軸 10cm、深さは中央で 134cm を測る。開口部の長軸両端の比高差は 17cm ほどでありやや北側に傾斜する。底面はほぼ平坦である。長軸両端は、ほぼ垂直に立ち上がる。短軸の断面形状はY字形を呈する。堆積土は 4 層に分層され、上層～中層は黒褐色・褐色土、下層は褐色土・黄褐色土となる。

遺物は、土器小片 1 点が堆積層中から出土した（第 17 図 12）。胎土に繊維を含んでいる。無文の胴部片（A4 類）である。

TP04　溝状土坑（第 11 図、写真図版 9）

調査区Ⅲの北東コーナーより検出され、調査区を拡張して調査した。標高 162.0 m程を測る尾根上の北側傾斜部に位置している。平面形状は細長楕円形を呈し、長軸方向はN－53°－Eを示す。尾根筋と直交し、等高線とも直交する。規模は開口部で長軸 348cm×短軸 43cm、底部で長軸 325cm×短軸 7cm、深さは中央で 77cm を測る。開口部の長軸両端の比高差は 7cm ほどでありやや北側に傾斜する。底面は不規則な起伏も若干みられるがほぼ平坦である。長軸両端は、やや外傾しながら、ほぼ垂直に立ち上がる。短軸の断面形状はY字形を呈する。堆積土は 4 層に分層され、上層～中層は暗褐色土・褐色土、下層は褐色土となる。遺物の出土はなかった。

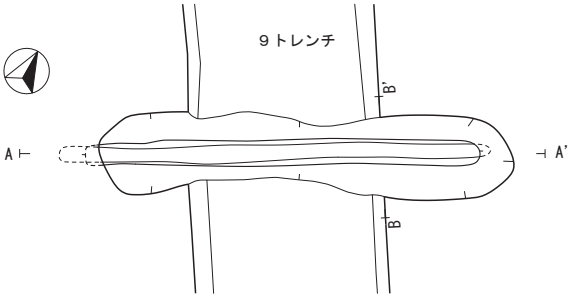
TP01

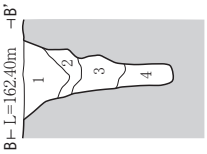


TP01

1　10YR3/2 黒褐色土 粘性中　締まり密　草根入る
　10YR2/1 黒色土 20%入る
　10YR5/6 黄褐色土　極小～中粒 2%入る
2　10YR3/3 暗褐色土 粘性中 締まりやや密 草根入る
　10YR2/1 黒色土　20%・黄褐色土 20%入る
　10YR5/6 黄褐色土　小・中粒 5%入る
3　10YR4/4 褐色土　粘性強　締まりやや疎　草根入る
4　10YR5/8 黄褐色土　粘性強　締まり疎
　10YR2/1 黒色土　径 8cm のブロック上方に入る

TP02





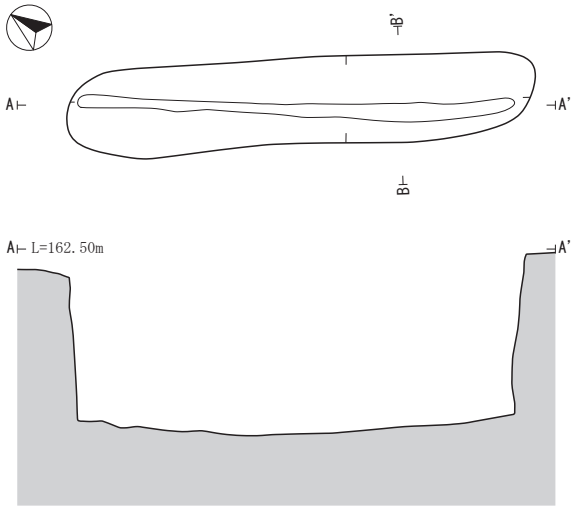
TP02

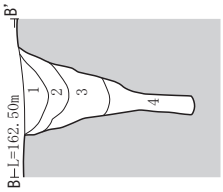
1　10YR3/1 黒褐色土 粘性中 締まりやや密 草根入る
　10YR5/8 黄褐色土　小・中粒 5%入る
2　10YR4/4 褐色土　粘性中　締まりやや疎
　10YR5/8 黄褐色土　小・中粒 5%入る
3　10YR4/4 褐色土　粘性中　締まりやや密
　10YR5/6 黄褐色土　径 15cm のブロック入る
　10YR5/8 黄褐色土　小・中粒 5%入る
4　10YR4/4 褐色土　粘性中　締まり疎
　10YR5/8 黄褐色土　極小・小粒 5%入る

0　1:60　2m

第10図　溝状土坑 TP01・TP02

TP03





TP03

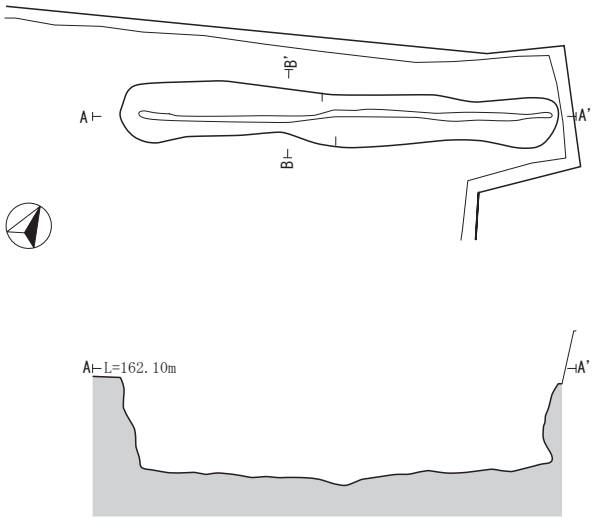
1　10YR2/2 黒褐色土　粘性弱　締まりやや疎　草根入る 10YR4/4 褐色土　径 5cm のブロック入る 10YR5/6 黄褐色土　極小・小粒のブロック 5%入る

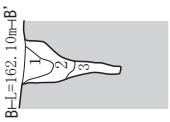
2　10YR4/4 褐色土　粘性中　締まり密　草根入る 10YR5/6 黄褐色土　小～中粒 10%入る

3　10YR4/6 褐色土 粘性中 締まりやや疎 草根入る 10YR5/8 黄褐色土 径 8cm のブロック下方に入る 10YR5/6 黄褐色土　極小～大粒 30%入る

4　10YR5/6 黄褐色土　粘性強　締まり疎

TP04





TP04

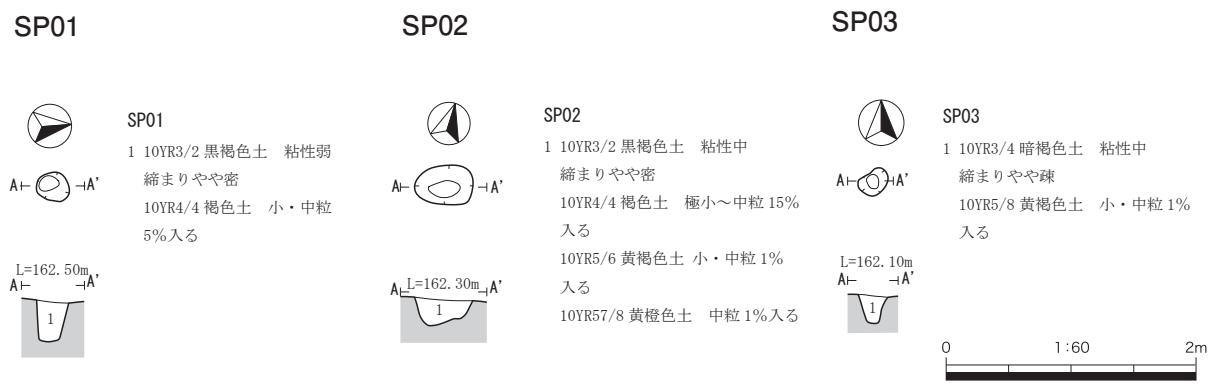
1　10YR3/4 暗褐色土　粘性弱　締まりやや疎 10YR5/6 黄褐色土　小・中粒 10%入る

2　10YR4/4 褐色土　粘性強　締まりやや疎 10YR5/8 黄褐色土　小・中粒 30%入る

3　10YR4/4 褐色土　粘性強　締まり密 10YR5/8 黄褐色土　小・中粒 5%入る

0　1:60　2m

第11図　溝状土坑 TP03・TP04



第12図　ピット SP01～SP03

(3) ピット

SP01　ピット（第 12 図、写真図版 10）

調査区Ⅱの南西コーナーより検出された。標高 162.0 m程を測る尾根上の平坦部に位置している。平面形状は不整円形を呈する。規模は開口部で長径 28cm ×短軸 22cm、底部で長径 18cm ×短径 11cm、深さは中央で 33cm を測る。堆積土は単層の黒褐土である。遺物の出土はなかった。

SP02　ピット（第 12 図、写真図版 10）

調査区Ⅱの中央西側より検出された。標高 162.0 m程を測る尾根上の平坦部に位置している。平面形状は不整円形を呈する。規模は開口部で長径 46cm ×短径 32cm、底部で長径 25cm ×短径 13cm、深さは中央で 21cm を測る。堆積土は単層の黒褐土である。遺物の出土はなかった。

SP03　ピット（第 12 図、写真図版 10）

調査区Ⅱの北側より検出された。標高 162.0 m程を測る尾根上の平坦部に位置している。平面形状は不整円形を呈する。規模は開口部で長径 24cm ×短径 16cm、底部で径 12cm、深さは中央で 22cm を測る。堆積土は単層の暗褐色土である。遺物の出土はなかった。

(4) まとめ

土坑、溝状土坑の堆積層中から土器が出土した。ほとんどはやや摩滅した小片であり、流れ込みによるものとみられる。繊維土器と繊維を含まない土器がある。

2. 遺物集中

土器や石器、礫（特に被熱痕のある礫が多い）等の遺物が集中している箇所が 4 箇所（Ⅰ～Ⅳ）検出された。表土は薄く、層位的には木の根などによる攪乱が著しい。遺物のほとんどはやや摩滅しており、破片の多くは立った状態で出土している。遺物の主体をなす縄文早期の土器はほとんどがやや摩滅した小片で、接合する個体や同一個体もほとんどみられない。このうち、遺物集中Ⅰから発見された縄文後期の土器は接合する破片や同一個体の土器が含まれており、比較的原位置に近い状況を呈している。

（1）遺物集中Ⅰ（第 13 図、写真図版 11）

試掘時に 8 トレンチおよび拡張区の調査区Ⅰ及び遺物集中Ⅰから出土、あるいはその付近で表面採集された遺物である。なお、遺物集中Ⅰの調査区内では土坑 SK06 が検出されている。

①土器（第 18・19 図、写真図版 16・17）

接合する破片を含む、繊維を含まない縄文後期土器が比較的多く出土した。

1a ～ k は口縁部から胴下部までの破片で、13 点出土し、4 点が接合した。やや厚手で大型の深鉢形土器である。胎土には繊維を含まない。内削ぎ状を呈する平縁の口縁外角には、1.3 ～ 1.1 ㎝の間隔で、縦位のごく短い刻目文が施されている。外面には約 1.5 ㎝幅の粘土帯の継ぎ目を残し、ナデ調整が施された後に、指一本幅ほどのやや粗い縄文（RL）が少し間隔を置きながら、横帯施文されている（B2 類）。

2a ～ f は大型の深鉢形土器の同一個体で、6 点出土した。胎土には繊維を含まず、砂粒（長石ほか）が多く含まれている。大型の深鉢形土器で、外面には指一本幅ほどの斜行～横走する縄文（LR）がやや間隔を置きながら、横帯施文されている（B2 類）。縄文後期の B2 類土器と考えられる。

3a・b は壺形土器の同一個体で、2 点出土し、接合した。胎土には繊維を含まず、砂粒（長石ほか）が多く含まれている。割れ口には板状剥離を呈する箇所がある。外面は無文で、丁寧なミガキ調整が施されている（B2 類）。

4 ～ 12 は胎土に繊維を含まない土器である。4･5 は大型の深鉢型土器で、口縁部周辺にはミガキ調整が施され、胴部には指一本幅ほどの縄文（RL）がやや間隔を置き、横帯施文されている。6 ～ 12 の縄文には RL、LR があり、撚り戻しの加えられた縄（RL1）や撚糸文（L）もある（B2 類）。

13 ～ 30 は胎土に繊維を含む土器である。13a・b は大型の深鉢形土器の同一個体で、胎土にはわずかに繊維を含んでいる。外面には横走～斜行する貝殻条痕が施され、粗い縄文（RL）が施文されている。内面にも貝殻条痕が用いられ、一部縄文が施され、ミガキが加えられている（A7 類）。

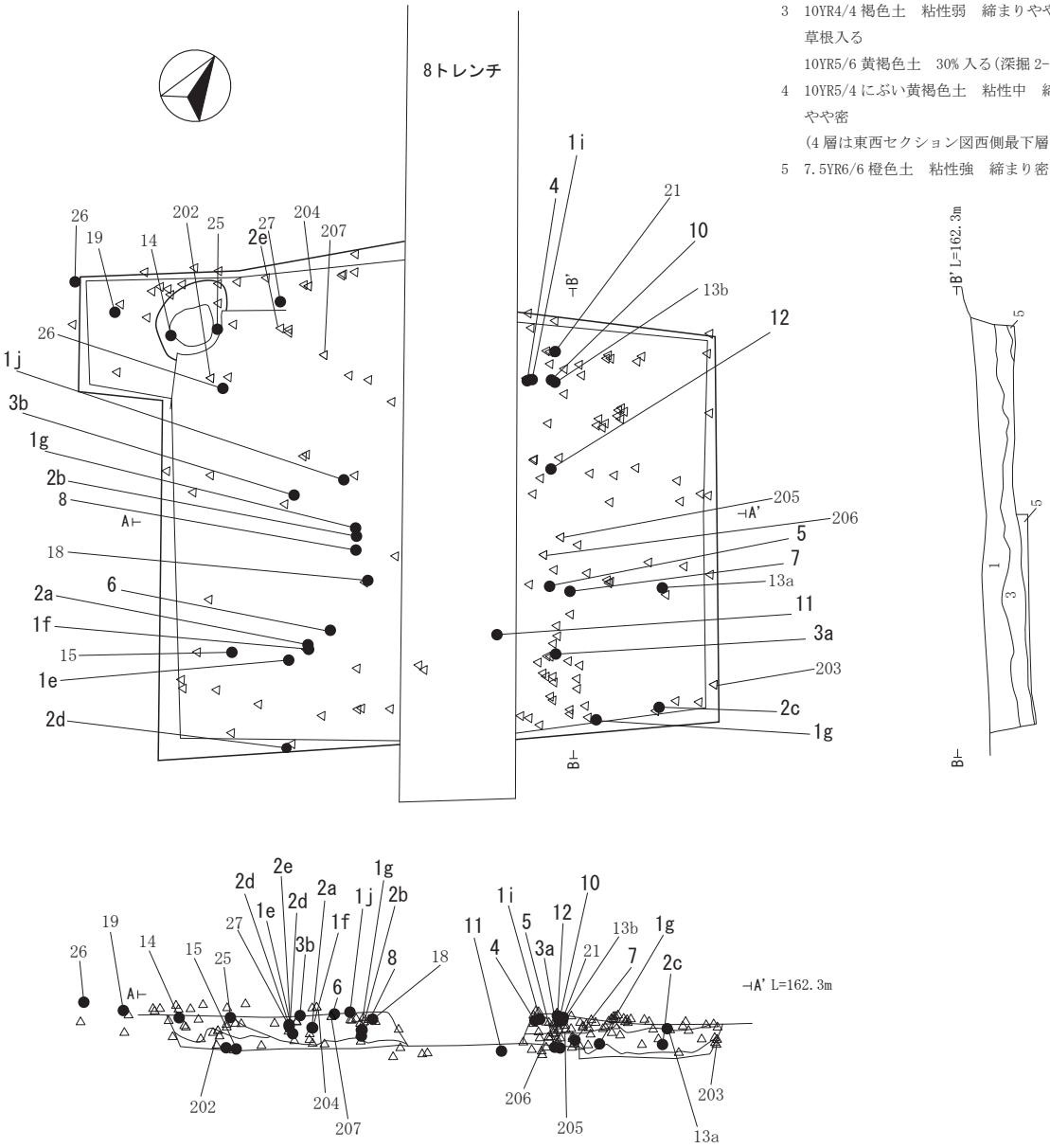
14 は口唇上縁に深い斜位刻目文が連続して施され、縄文（LR）が施され、2 本の横位平行沈線文が配されている。15 ～ 22 は斜行縄文（LR、RL）が施されている。23 ～ 29 は無文の胴部片である。胴下部は外面に被熱痕が残るものが多い。器厚の変化や湾曲から 29 は尖底になるものと思われる。30 は縦位の平行沈線文である。ごく小片のため、文様意匠は不明である。縄文施文土器が A3 類、無文部ないしは無文土器が A4 類、沈線文土器が A5 類である。

②石器（第 31・32 図、写真図版 22）

7 点検出され、すべて図示した。201 は、大型の剥片を素材とした石核である。202 は、自然面を打面とする剥片である。203 は、線状打面の剥片であり、背面に自然面を大きく残す。204 は、複剥離打面の剥片である。205 は、扁平な円礫の裏面を磨いた磨石である。206 は、棒状の礫を全体的に磨いた磨石である。207 は、礫の端部に刃部を作出した礫器であり、被熱による剥落が認められる。

遺物集中Ⅰ

1　10YR3/3 暗褐色土　粘性弱　締まり疎
　　礫入る　(表土)
2　10YR4/4 褐色土　粘性中　締まりやや疎
　　草根入る（深掘 1-2 相当）
　　(2 層は東西セクション図西側最上層)
　　10YR6/8 明黄褐色軽石　小・中粒 1%入る
3　10YR4/4 褐色土　粘性弱　締まりやや疎
　　草根入る
　　10YR5/6 黄褐色土　30% 入る(深掘 2-5 相当)
4　10YR5/4 にぶい黄褐色土　粘性中　締まり
　　やや密
　　(4 層は東西セクション図西側最下層)
5　7.5YR6/6 橙色土　粘性強　締まり密



●：土器（数字は土器図版掲載番号、**ゴシックはB2類[縄文後期]**）
◁ △：石器・礫(200番台は石器図版掲載番号を表す)

0　1:80　2m

第13図　遺物集中Ⅰ　遺物出土状況

（2）遺物集中Ⅱ（第 14 図、写真図版 11・12）

試掘時に 12 トレンチおよび拡張区の遺物集中Ⅱから出土、あるいはその付近で表面採集された遺物である。最も多く遺物が出土した。

①土器（第 20・21・22 図、写真図版 17・18）

1 ～ 100 は胎土に繊維を含む土器である。やや摩滅した土器が多い。

1 ～ 9 は押型文が施される土器（A1 類）である。1 は口縁部に大ぶりな重層山形文（A1-1 類：原体直径 1.0 ㎝、原体長さ 4.2 ㎝以上）が施文された後に、4 本の横位平行沈線文が配されている。口唇は平坦に整えられ、その外角に縦位刻目文が 5 ～ 8 ㎜の間隔で施されている。2 ～ 8 も同様の重層山形文（A1-1 類）が施されている。8 はさらに帯を違えて、平行線状文（A1-3 類）が配されている。9 は底部近くの小片で横位平行線状押型文（A1-3 類 ）あるいは横位平行沈線文が施されている。土器の湾曲から丸底あるいは尖底と推定される。

10・11 は魚骨回転文が施される土器（A2 類）である。10 の口唇外縁には斜位の浅い刻目文が施されている。ごく細い 2 条 1 単位の条線に縦位櫛歯状の突起痕が付されている。口唇直下にはごく細かい縄文（RL）が施されている。11 は横位条線に結節状の突起痕が残されている。

12 ～ 50 は縄文が施文される土器（A3 類）である。12 はやや内湾するごく薄手の土器である。口唇外縁は外削ぎ状を呈し、浅い斜位刻目文が加えられている。以下には縄文（RL）が施されている。13 は口唇が平坦に整えられ、縄文（RL）が施された後に、2 本の横位平行沈線文が配されている。14 ～ 18 が縄文ないしは非結束羽状縄文が施された後に、横位平行沈線文が施されている。17 は横位沈線文が 1 本だけ確認されるが、同様の土器とみられる。0 段多条の縄文（LR､RL）がある。19 ～ 24 は非結束羽状縄文が施された土器である。0 段多条の縄文（LR、RL）がある。25 ～ 50 は斜行縄文が施されている。縄文の種類は単節（RL､LR）のほかに複節（RLR､LRL）がある。

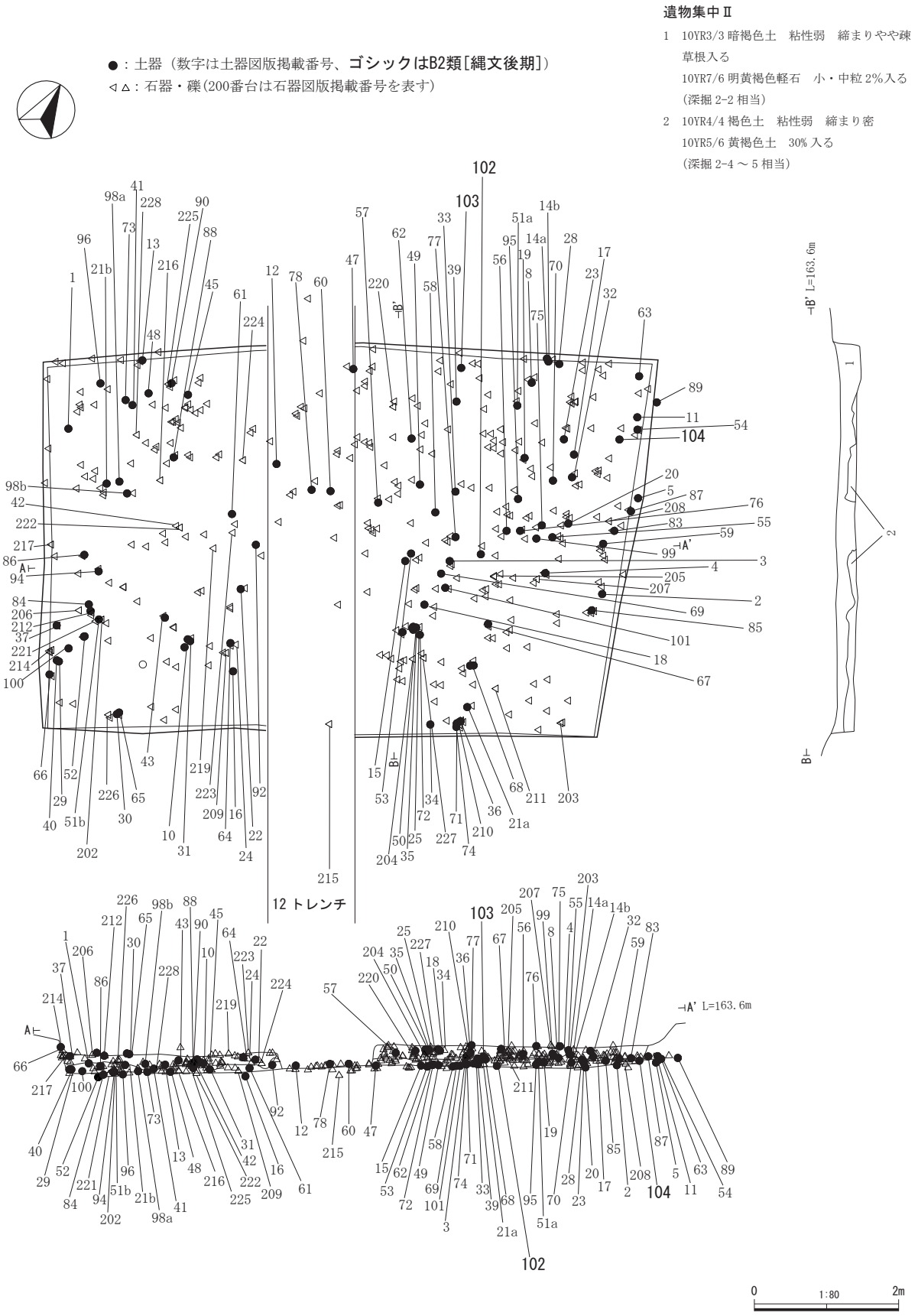
51 ～ 100 は無文の土器（A4 類）である。51 ～ 53 は口縁部である。51 は口唇部内縁が指頭状のオサエによって薄く整形され、平坦～円頭状に整えられている。外面は縦位のナデ、内面は横位のナデ調整が施されている。胎土には大量の繊維が混和されている。52 は口唇上端が平坦に整えられ、内外ともにナデ調整が施されている。ごく薄手で、やや内湾している。53 は口唇上縁が尖頭状に薄く整えられ、内外ともにナデ調整が施されている。54 ～ 91・100 は胴部である。胴下部は外面に被熱痕が残るものが多い。92 ～ 98 は底部近くの破片である。器厚の変化や湾曲から 92 ～ 93 は丸底､94 ～ 97 は尖底､98 は平底になるものと推定される。99 は平底外縁部片である。

101 は胎土に繊維を含まない外面に貝殻条痕の施された土器（B1 類）である。

102 ～ 104 は胎土に繊維を含まない無文の土器（B2 類 ）である。いずれも焼成堅緻で、3 ㎜以下の砂粒を含んでいる。102 は壺の胴下半部。104 は平底の底面である。

②石器（第 33・34・35 図、写真図版 23・24）

28 点検出され、すべて図示した。201 は、ナイフ形石器の基部であり、先端部が折損している。202 は、折れた剥片の一端を利用した石錐であり、錐部に摩滅が認められる。203 は、表面がよく擦られている石棒ないしは石剣類の破片と考えられる。204 は、打面部の折れた剥片の縁辺に二次加工を施した石器であり、背面に自然面を大きく残している。205 は、線状打面の剥片の腹面側に二次加工を施した石器であり、背面に自然面を大きく残している。206 は、板状の素材の周縁に二次加工を施した石器である。207 は、自然面打面の剥片の一端に二次加工を施した石器である。208 は、打面部の折れた剥片の縁辺に二次加工を施した石器である。209 は、打面部の折れた剥片である。210 は、複剥離打面の剥片である。211 は、打面部の折れた剥片である。212 は、単剥離打面の剥片である。213 は、線状打面の剥片である。214 は、単剥離打面の剥片である。215 は、自然面打面の剥片である。216 は、打面部の折れた剥片である。217 は、線状打面の剥片であり、一端に微細剥離が確認できる。218 は、線状打面の剥片である。219 は、線状打面の剥片である。220 は、打面部の折れた剥片である。221 は、熱破砕によって生じた剥片である。222 は、線状打面の剥片である。223 は、打面部の折れた剥片である。224 は、スタンプ形石器の破片である。225 は、礫素材のハンマーの破片である。表面には列状の敲打痕が認められる。



第14図　遺物集中Ⅱ　遺物出土状況

226 は、扁平な円礫の一部を磨いた小形の磨石である。227 は、礫素材のハンマーである。上下端部に敲打痕が認められる。228 は、剥片の端部に刃部を作出した礫器である。

(3) 遺物集中Ⅲ（第 15 図、写真図版 12）

試掘時に 13 トレンチで検出され、拡張して調査された。拡張区の遺物集中Ⅲから出土、あるいはその付近で表面採集された遺物である。

①土器（第 23・24 図、写真図版 18・19）

1 ～ 41 は胎土に繊維を含む土器である。やや摩滅した土器が多い。

1 は押型文（重層山形文：A1-1 類）が施されたやや薄手の土器（A1-1 類）である。押型文施文の後に、3 本の横位平行沈線文が配されている。口唇は平坦に整えられ、刻目文は施されていない。

2 ～ 30 は縄文が施文される土器（A3 類）である。2 ～ 4 は口縁部破片である。いずれもやや薄手の土器である。2 は口唇上端に指頭状圧痕が連続して施されている。縄文（LR 0 段多条）施文の後に、3 本の横位平行沈線文が配されている。3 は縄文（LR ？）施文の後に、4 本の横位平行沈線文が配されている。口唇はごく薄く、面取りが加えられている。刻目文は施されていない。4 は縄文（RL 0 段多条）が施されている。口唇はやや円頭状に整えられ、わずかに内湾している。刻目文は施されていない。5 ～ 14 は非結束羽状縄文が施されている。縄文の種類には、単節（LR、RL 0 段多条を含む）のほかに、複節がある。5・6 は非結束羽状縄文施文の後に、横位平行沈線文を配している。ともに縄の撚りや太さ，内面調整、器厚、色調、胎土が類似しており、同一個体の可能性が高い。15 は斜行縄文（RL）施文の後に､細く鋭い横位沈線文が施されている。16 は斜行縄文（LR）施文の後に、細く鋭い縦位沈線文が施されている。ともに小片のために、全体の文様構成は不明である。16 ～ 30 は斜行縄文が施されている。縄文の種類は単節（RL、LR）である。RL には撚り戻しを合わせた RL1 がある。

31 ～ 41 は無文土器（A4 類）である。31 は口縁部の小片である。口唇は薄く整えられやや内湾し、口唇外縁にはやや斜位の浅い刻目文が施されている。内外ともにナデ調整が施されている。32 は無文地に細く鋭い横位平行沈線文が 1.1 ㎝の間隔を置いて配されている。33 ～ 40 は胴部片である。胴下部の外面には被熱痕が残るものが多い。41 は底部近くの破片で、胎土に繊維を含んでいる。

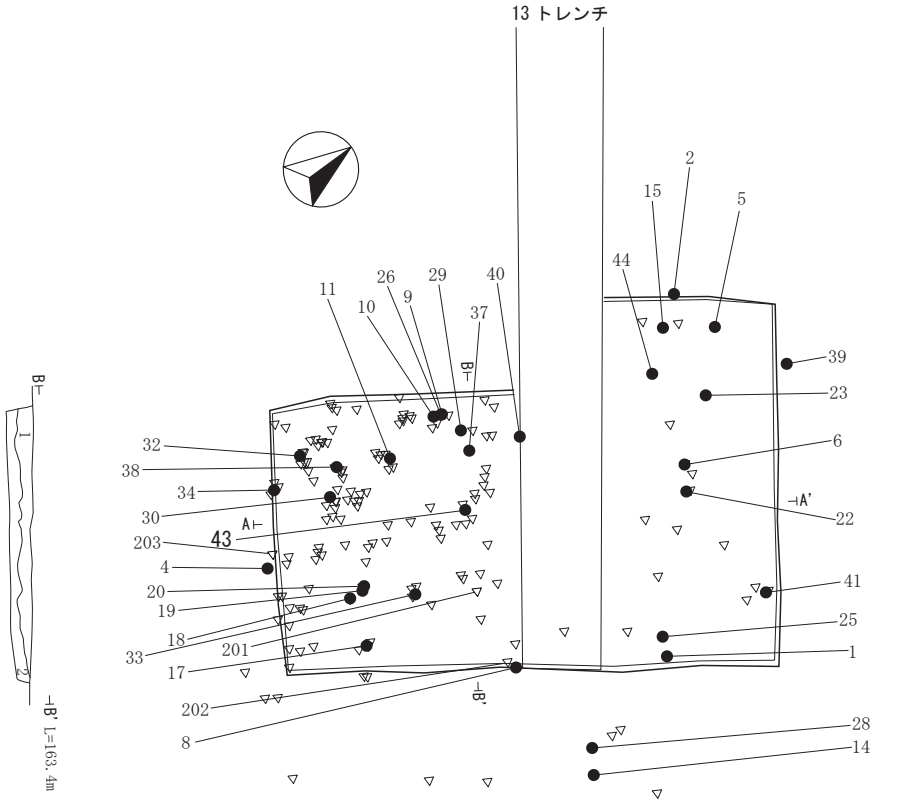
42 ～ 43 は繊維を含まない土器である。42 は外面にナデ調整の後に、やや細かい貝殻条痕文を 8 ㎜の間隔を置いて装飾的に配している（B1 類）。43 は厚手の胴下部片である。外面には指幅 1 本分ほどの斜行縄文（RL1）がやや間隔をあけて粗雑に施文されている（B2 類）。

②土製品（第 24 図、写真図版 19）

44 は胎土にわずかに繊維を含む不明土製品である。端部は弧状をなし、横位集合沈線文が施されている。背面はナデ調整の無文である。

③石器（第 36 図、写真図版 24）

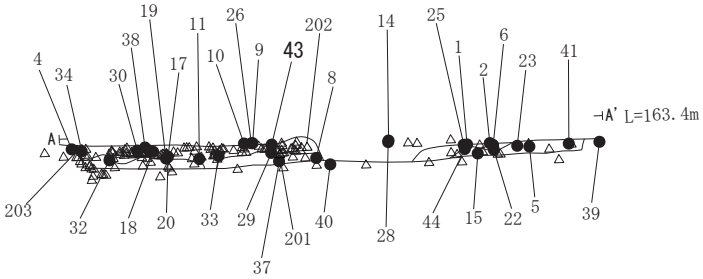
3 点検出され、すべて図示した。201 は、打面部の折れた剥片である。202 は、打面部の折れた剥片であり、背面に自然面を大きく残している。203 は、単剥離打面の剥片である。



遺物集中Ⅲ

1　10YR3/3 暗褐色土　粘性弱　締まり疎
　　草根入る
　　10YR5/6 黄褐色土　　小・中粒 1%入る
　　(深掘 2-2 相当)

2　10YR4/4 褐色土　粘性弱　締まり密
　　10YR5/6 黄褐色土　40% 入る
　　(深掘 2-4 ～ 5 相当)



●：土器（数字は土器図版掲載番号、**ゴシックはB2類[縄文後期]**）
▽△：石器・礫(200番台は石器図版掲載番号を表す)

0　1:80　2m

第15図　遺物集中Ⅲ　遺物出土状況

（4）遺物集中Ⅳ（第 16 図、写真図版 13）

試掘時において 10 トレンチで検出され、拡張して調査した。拡張区の遺物集中Ⅳから出土、あるいはその付近で表面採集された遺物である。なお、遺物集中Ⅳの調査区内では土坑 SK07 と SK08 が検出され、ともに堆積層中に流れ込んだ土器片が出土している。

①土器（第 25・26・27 図、写真図版 19・20）

1 ～ 70 は胎土に繊維を含む土器である。やや摩滅した土器が多い。

1 ～ 7 は押型文が施される土器（A1 類）である。1 は胴下部片で押型文（重層山形文：A1-1 類）を施した後に、浅い斜位・縦位・横位沈線文を配し、さらに平行線状押型文(A1-3 類)を加えている。2・3 の押型文は重層山形文(A1-1 類)、4 は重複菱形文（A1-2 類）、5 ～ 7 は平行線状文（A1-3 類）である。

8 ～ 11 は魚骨回転文が施される土器(A2 類)である。ごく細い 2 条 1 単位の条線と縦位の突起痕が付されている。8 は胴下部片で魚骨回転文からやや離れて横位沈線文が配されている。

12 ～ 36 は縄文が施文される土器(A3 類)である。12 は口縁部で、口唇外縁に連続する斜位刻目文が施されている。縄文（RL ？）施文の後、太い 2 条の横位平行沈線文が配されている。13・14 は横位回転による斜行縄文（RL）に、同一原体の縦位回転による斜行縄文（RL）縄文を重ねた交差状縄文である。綾杉状ないしは矢羽根状を呈する条の走行となっている。15 ～ 36 は斜行縄文が施されている。縄文の種類は単節（RL､LR）のほかに､複節（LRL,RLR）がある。

37 ～ 68 は無文(A4 類)の胴部片である。胴下部外面に被熱痕が残るものが多い。60 ～ 63 は底部近くの破片で、器厚の変化や湾曲から 60・61 は尖底ないしは丸底になるものと推定される。66 は外面が剥落しており、不明である。

69 はやや厚手で外面に貝殻条痕を施した後に、丸棒状工具による沈線（凹線）文が施されている（A6 類）。70 はやや厚手の焼成堅緻の土器で、胎土に繊維をわずかに含んでいる。粗い斜行縄文（LR）が横位に施文されている（A7 類）。

71 ～ 78 は繊維を含まない土器である。71 ～ 72 はやや厚手で斜行縄文が施されている。71 は指幅 1 本分のほどの斜行縄文（LR）が横帯施文されている。外面には幅 1.0cm の粘土帯の継ぎ目を残し、内面はケズリの後に、ナデ調整が施されている。72 は撚り戻しを合わせた RL1 である(B2 類)。73 ～ 78 はやや厚手で無文の土器である。全体に砂粒が多く含まれ、5 ㎜程の礫を含むものもある（B2 類）。

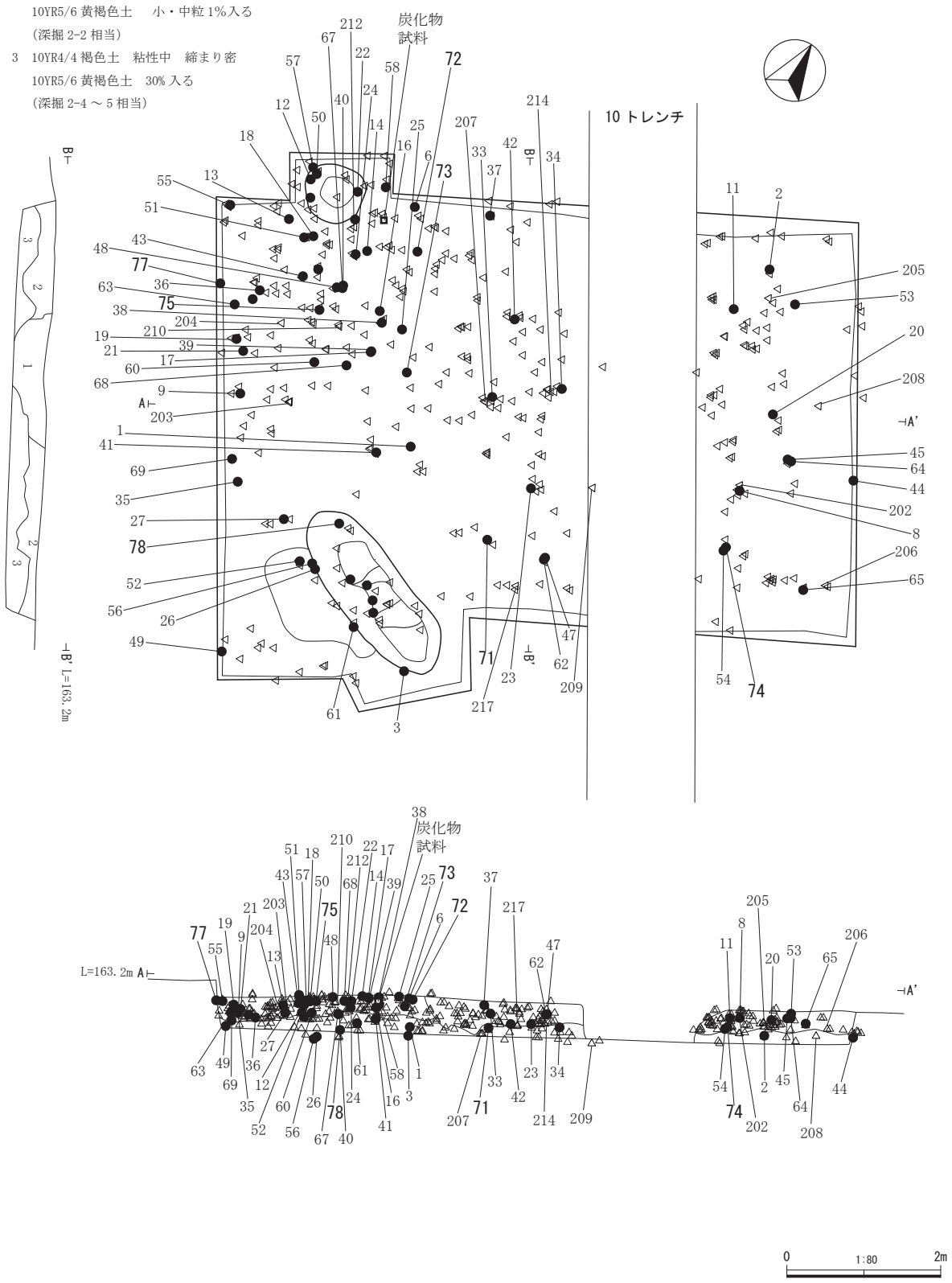
②石器（第 37・38 図、写真図版 25・26）

17 点検出され、すべて図示した。201 は、剥片の側縁を加工した石箆であり、刃部は直線的となる。202 は、断面楕円形の小形磨製石斧である。203 は、剥片を素材として、その縁辺から主剥離面にかけて敲打または擦りの痕跡がみとめられる石器である。スタンプ形石器の底面の特徴と類似している。204 は、打面部の折れた剥片の縁辺に二次加工を施した石器である。205 は、打面部の折れた剥片であり、使用による摩滅、微細剥離が観察できる。206 は、自然面打面の剥片である。207 は、自然面打面の剥片である。208 は、単剥離打面の剥片である。209 は、打面部の折れた剥片である。210 は、単剥離打面の剥片である。211 は、単剥離打面の剥片である。212 は、打面部の折れた剥片である。213 は、打面部の折れた剥片である。214 は、打面部の折れた剥片である。215 は、線状打面の剥片である。216 は、打面部の折れた剥片である。217 は、剥片の端部に刃部を作出した礫器である。

遺物集中Ⅳ

1　10YR3/2 黒褐色土　粘性中　締まりやや疎
　草根入る
2　10YR3/3 暗褐色土　粘性中　締まりやや密
　草根入る
　10YR5/6 黄褐色土　小・中粒 1%入る
　(深掘 2-2 相当)
3　10YR4/4 褐色土　粘性中　締まり密
　10YR5/6 黄褐色土　30% 入る
　(深掘 2-4 ～ 5 相当)

●：土器（数字は土器図版掲載番号、ゴシックはB2類[縄文後期]）
◁△：石器・礫(200番台は石器図版掲載番号を表す)
◘：炭化物試料



第16図　遺物集中Ⅳ　遺物出土状況

3. 遺構外出土遺物

遺跡の西側の試掘８トレンチ～14トレンチ、遺構が検出されたため拡張した調査区Ⅰ～Ⅲからも散漫に遺物が検出された。これらから出土した遺構・遺物集中外の土器は111点である。土器の内訳は８トレンチ２点、9トレンチ２点、10トレンチ６点、11トレンチ３点、12トレンチ52点、13トレンチ５点、14トレンチ７点、調査区Ⅰ７点、調査区Ⅱ17点、調査区Ⅲ10点である。本調査で遺物集中Ⅱとして精査された12トレンチからの出土が際立っている。いずれも、表土は薄く、層位的には木の根などによる攪乱が著しい。遺物のほとんどはやや摩滅し、破片の多くは立った状態で出土している。遺構・遺物集中外出土の石器は２点であるが、試掘調査の遺物29点を加えて図示した。

(1) 土器（第28・29・30図、写真図版20・21）

1～96は胎土に繊維を含む土器である。やや摩滅した土器が多い。

1～4は押型文が施される土器(A1類)である。1は胴部片で押型文(重層山形文:A1-1類)が２段施文されている。文様の繰り返しから、押型文原体の直径は0.9cm、長さ3.8cm以上である。2～3は押型文（重層山形文:A1-1類）の施された小片である。

5～47は縄文が施文される土器（A3類）である。5は口縁部で、口唇外縁に連続する斜位刻目文が施されている。縄文（LR？）施文の後、3条の横位平行沈線文が配されている。6～9は縄文施文の後に、横位平行沈線文ないしは横位沈線文が配された胴部片である。6～8は斜行縄文（LR、RL）、9は非結束羽状縄文（LR、RL）が施されている。10・11は非結束羽状縄文、12～42・44～47は斜行縄文が施されている。43は底部近くの破片で横走縄文となっている。単節縄文（RL、LR）には、0段多条や撚り戻しを合わせたRL1が含まれている。

48～88は無文の土器（A4類）である。48は口縁部である。口唇は薄く整えられ、口唇外縁には4～5㎜置きに斜位の浅い刻目文が施されている。外面は斜位のケズリを施した後に、口縁部を中心にヘラ状工具によるナデ調整が加えられている。下半は被熱により赤変している。49～53は無文を地とし、横位平行沈線文が配されている。胎土の特徴などから本類に含める。49は口縁部近くの破片で、口縁に向かって薄く整えられている。ナデ調整の後に、4本の横位平行沈線文が配されている。50～53は胴部破片で、細く鋭い横位平行沈線文が配されている。54～79は胴部、80～87は底部近く、88は底部破片である。胴下部の外面には被熱痕を残しているものが多い。器厚の変化や湾曲から80～83は尖底、84～85は丸底、86～87は平底になるものと推定される。88は平底外縁部片である。

89・90は胎土に繊維が混和される沈線・貝殻文土器（A5類）である。焼成は堅緻である。89は縄文（LR）施文の後に細沈線による格子目文、縦位平行沈線文が施されている。90は無文地に貝殻腹縁文を横位に平行して配されている。91～96は外面が剥落ないしは摩滅しており、不明である。

97は胎土に繊維を含まない貝殻文土器（B1類）である。横走する貝殻条痕地に大ぶりな貝殻腹縁文を斜位・縦位に平行して施文している。内面はミガキ調整が施され、焼成堅緻である。

98～105は胎土に繊維を含まない深鉢と壺である(B2類)。99の土器は例外的に長繊維が若干混和されている。そのほかの土器の特徴は他のB2類土器と同様であり、B2類土器に含める。

98の深鉢は粗い縄文が指幅1本分ほどでやや間隔を置き、横位帯状施文されている。内面は粗いミガキ調整が施されている。99の深鉢は前述のとおり、胎土に長繊維を含んでいる。口縁部近くは無文で補修孔が穿たれている。LR縄文が指幅1本分ほどで横位帯状施文されている。内面には粗いミガキ調整が施されている。100～102の深鉢も同様に指幅1本分ほどの縄文（LR、RL）が横帯施文されている。

103・104は深鉢の底部近くの無文部破片である。胎土には礫・粗砂を含み、外面はミガキ調整が施されている。

105は壺の胴上部片である。外面には磨り消し縄文による弧状文が配されている。

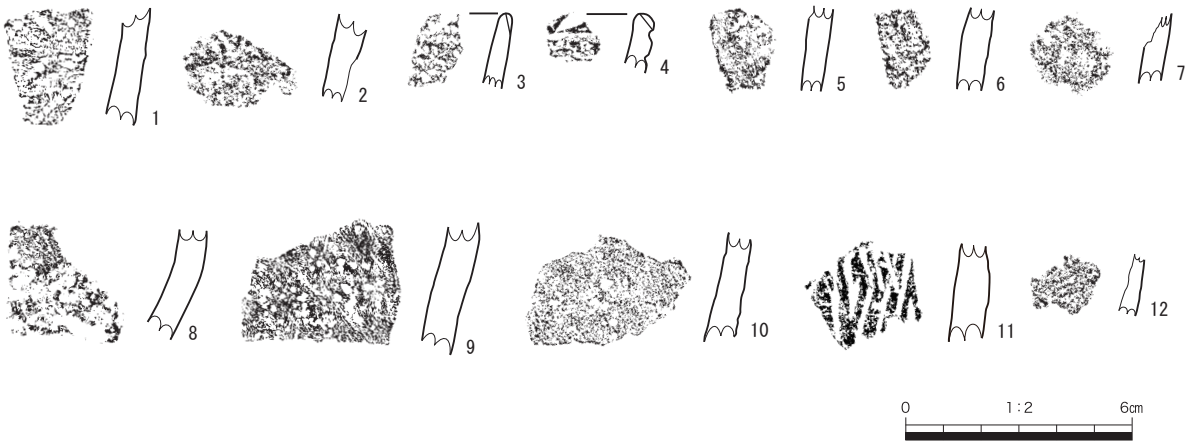
106・107は胎土に繊維を含まない。106の深鉢はごく浅い半截竹管による平行沈線文が横位に施されている（B3

類)。107 の壺は無文（ミガキ）地にごく細い平行沈線によって山形状の区画を作り、内部に縦位の平行沈線を充填している（B3 類)。

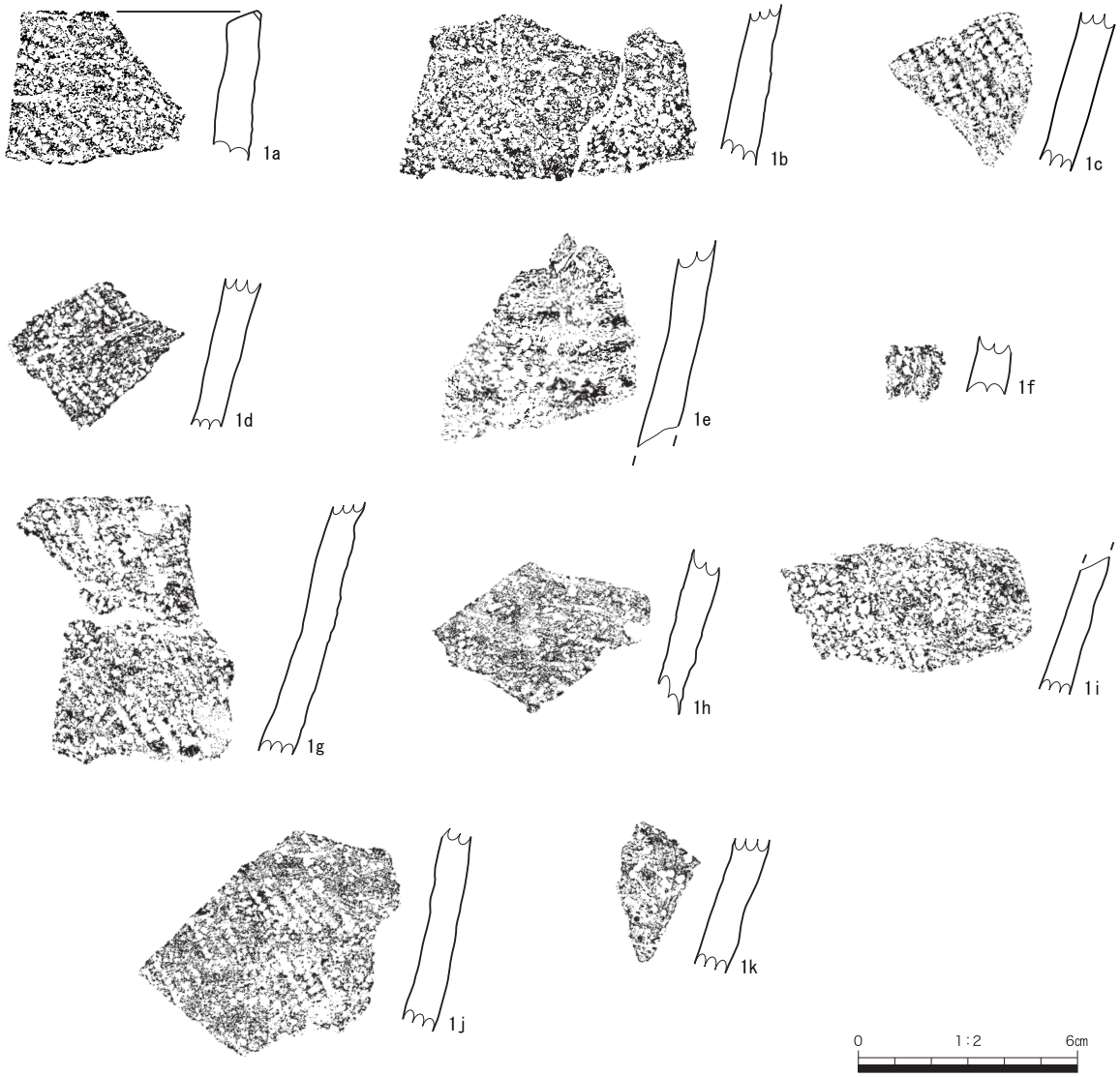
(2) 石器（第 39・40・41・42・43 図、写真図版 26・27・28)

遺構外の石器は、本調査においては 2 点の検出であった。ここではその他に、29 点の試掘調査で出土した遺物や表採資料を合わせて図化して掲載した。選択に当たっては、縄文時代早期押型文式土器が多く出土した遺物集中Ⅱが含まれる 12 トレンチの遺物を中心に資料化し、時代の様相がつかめるようにした。

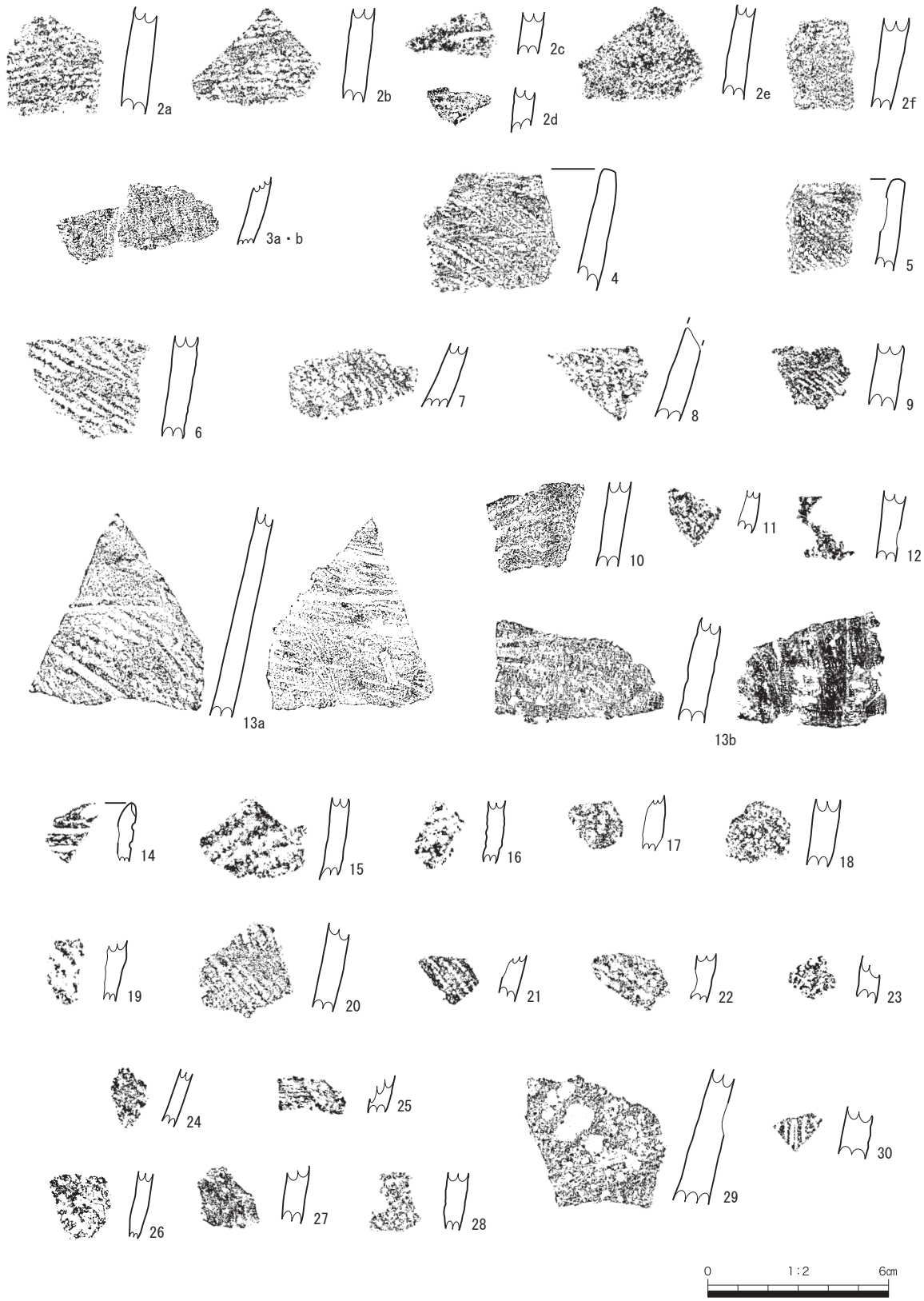
201 は、剥片の側縁を加工した石箆であり、本調査で調査区Ⅲより検出された。202 から 207 は、二次加工剥片である。202 は、大型の剥片の縁辺に二次加工を施した石器である。10 トレンチより出土した。203 は、折れた剥片の縁辺に二次加工を施した石器である。11 トレンチより出土した。204 は、線状打面の剥片の縁辺に二次加工を施した石器である。205 は、線状打面の剥片の腹面側に二次加工を施した石器であり、背面に自然面を大きく残している。204・205 は 12 トレンチより出土した。206 は、折れた剥片の縁辺に二次加工を施した石器である。14 トレンチより出土した。207 は、剥片を素材として、その縁辺から主剥離面にかけて敲打または擦りの痕跡がみとめられる石器である。スタンプ形石器の底面の特徴と類似する。表採資料である。208 から 218 は剥片資料である。208 は、線状打面の剥片であり、被熱による剥落が認められる。11 トレンチの資料である。209 は、単剥離打面の剥片である。210 は、線状打面の剥片である。211 は、自然面打面の剥片である。212 は、打面部の折れた剥片である。213 は、自然面打面の剥片である。214 は、単剥離打面の剥片である。215 は、線状打面の剥片である。209 から 215 は、12 トレンチより出土した。216 は、複剥離打面の剥片である。217 は、自然面打面の剥片である。216・217 は 13 トレンチより出土した。218 は、線状打面の剥片である。調査区Ⅱより出土した。219 から 225 は、スタンプ形石器である。219 は、円礫を半割し、その切断面には研磨が認められる。一部欠損している。11 トレンチの資料である。220 は、円礫を半割し、その切断面の綾上に敲打、分割面には研磨が認められる。背部にも敲打痕が認められる。一部欠損している。221 は、円礫を半割し、その切断面の綾上に敲打が認められる。全体的に研磨が認められる。一部欠損している。222 は、円礫を半割し、その切断面の綾上に敲打および研磨、分割面には研磨が認められる。一部欠損している。223 は、円礫を半割し、その切断面の綾上に敲打が認められる。全体的に研磨が認められる。一部欠損している。220 から 223 は 12 トレンチの資料である。224 は、円礫を半割し、その切断面の綾上に敲打、研磨が施されている。裏面側にも研磨が及んでいる。225 は、円礫を半割し、その切断面の綾上に敲打、研磨が認められる。224・225 は表採資料である。226 は、特殊磨石の破片である。227 は、扁平な円礫の全面を磨いた磨石の破片である。226・227 は 11 トレンチより出土した。228 は、扁平な円礫の全面を磨いた磨石の破片である。14 トレンチより出土した。229 は、礫素材のハンマーである。表裏平坦部に敲打痕が認められる。10 トレンチより出土した。230 は、偏平な円礫の一端に刃部を作出した礫器である。11 トレンチより出土した。231 は、偏平な円礫を素材として、刃部を作出した礫器である。8 トレンチより出土した。



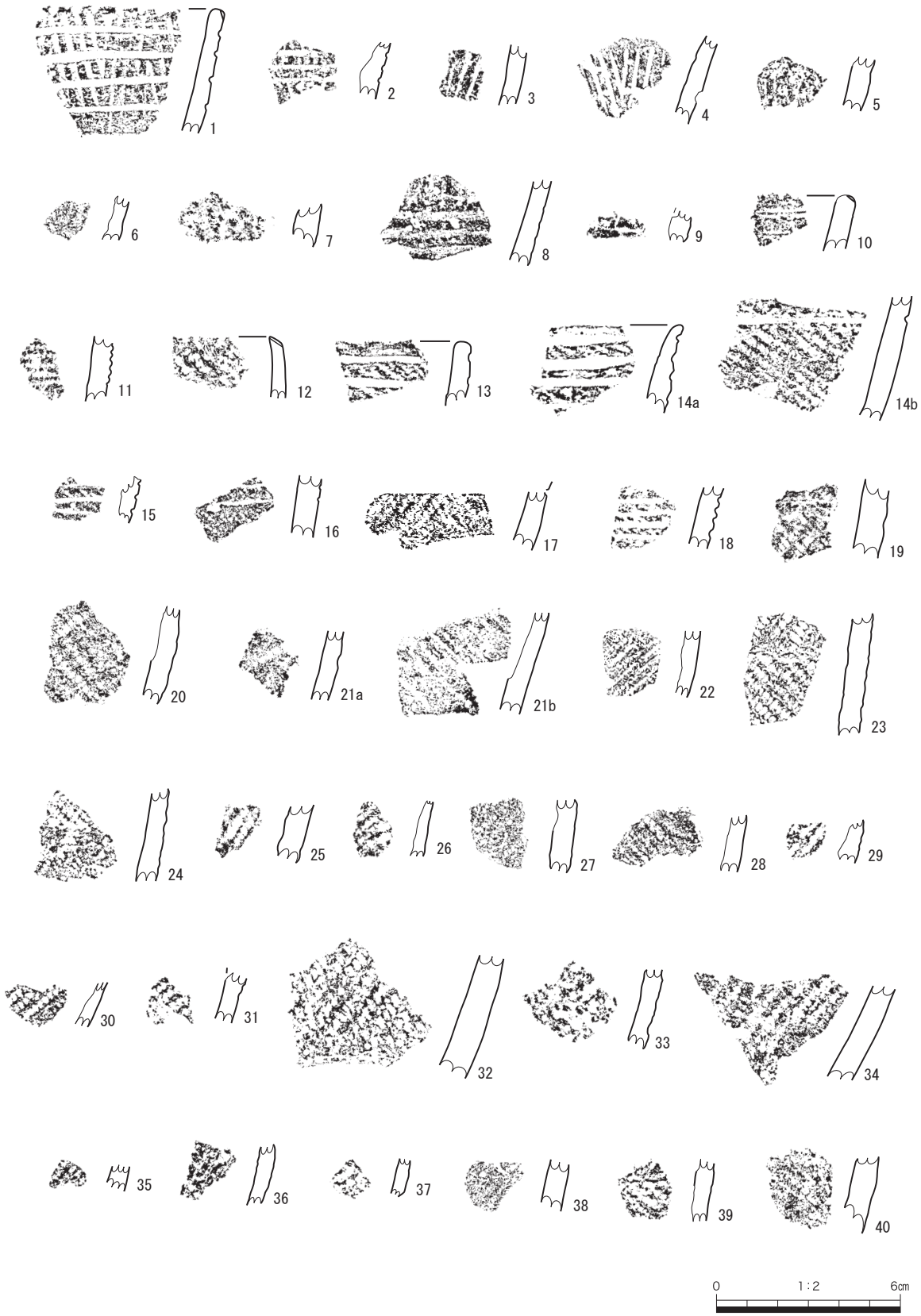
第17図　遺構内出土遺物　土器



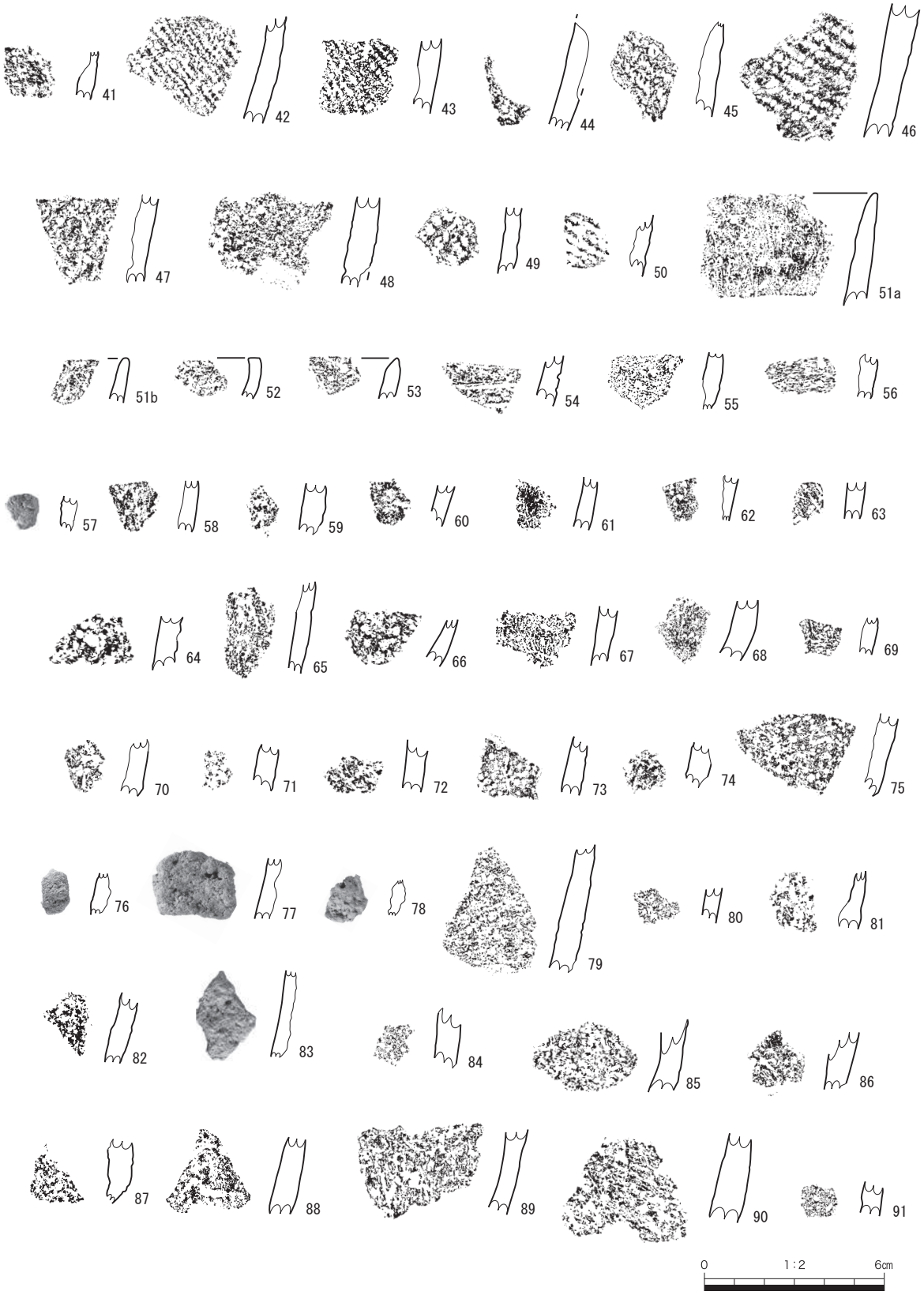
第18図　遺物集中Ⅰ出土遺物　土器（1）



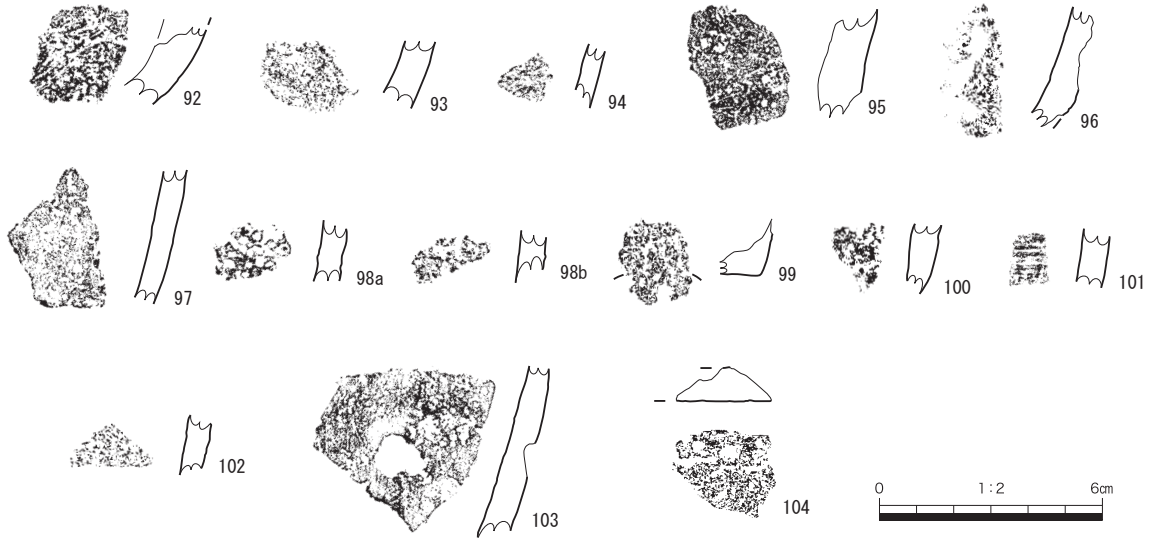
第19図　遺物集中Ⅰ出土遺物　土器（2）



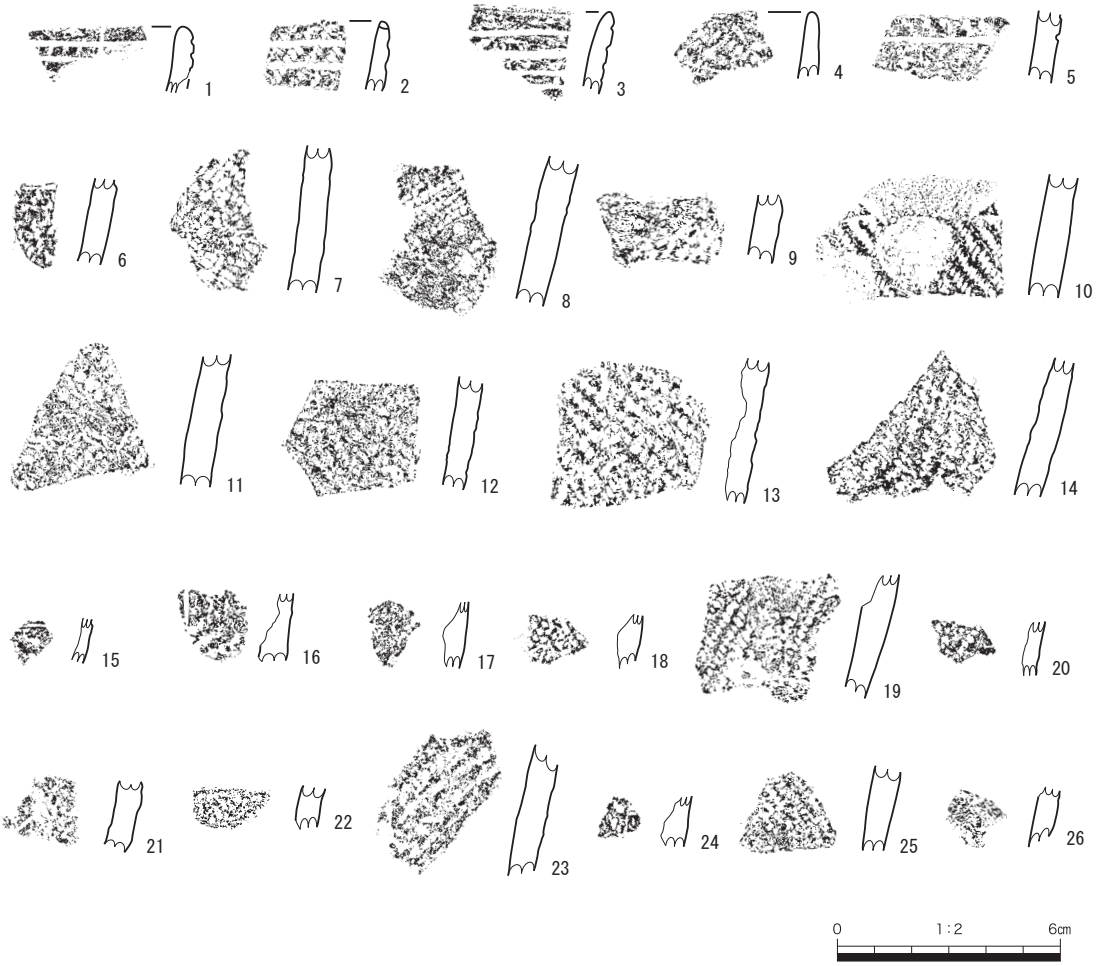
第20図　遺物集中Ⅱ出土遺物　土器（1）



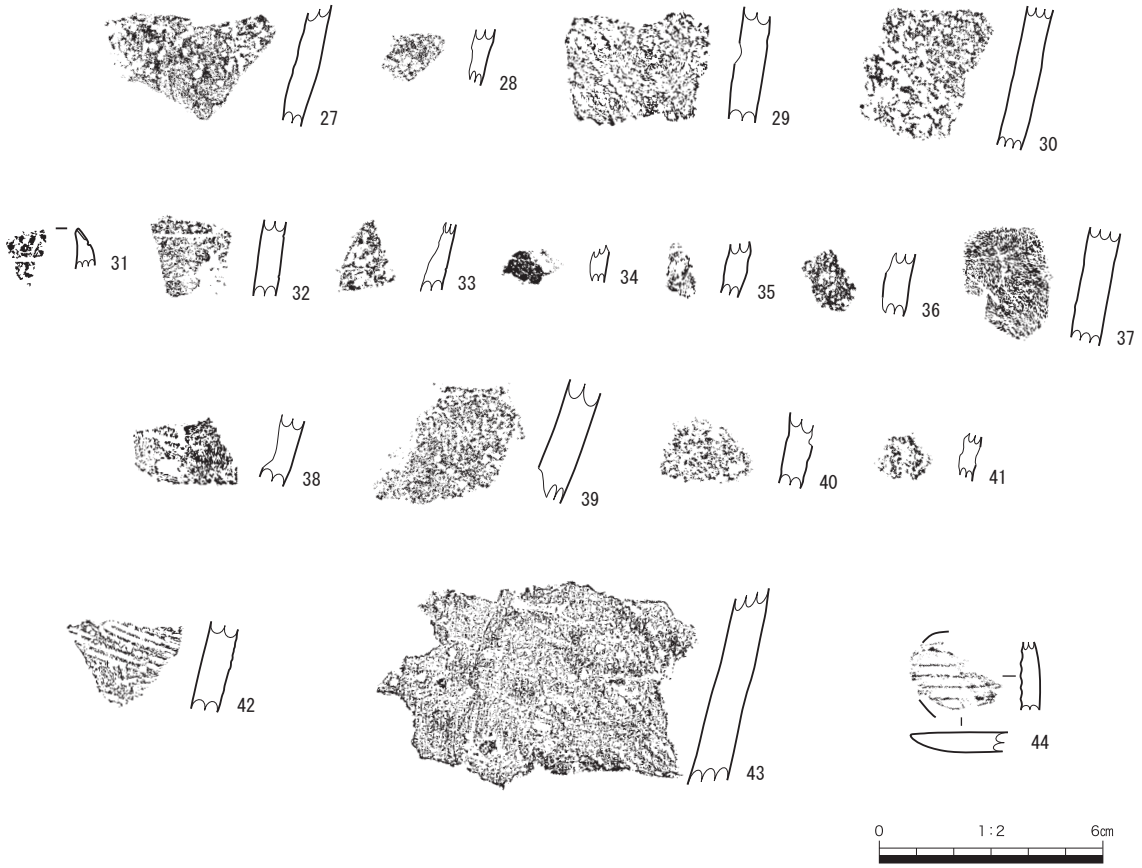
第21図　遺物集中Ⅱ出土遺物　土器（2）



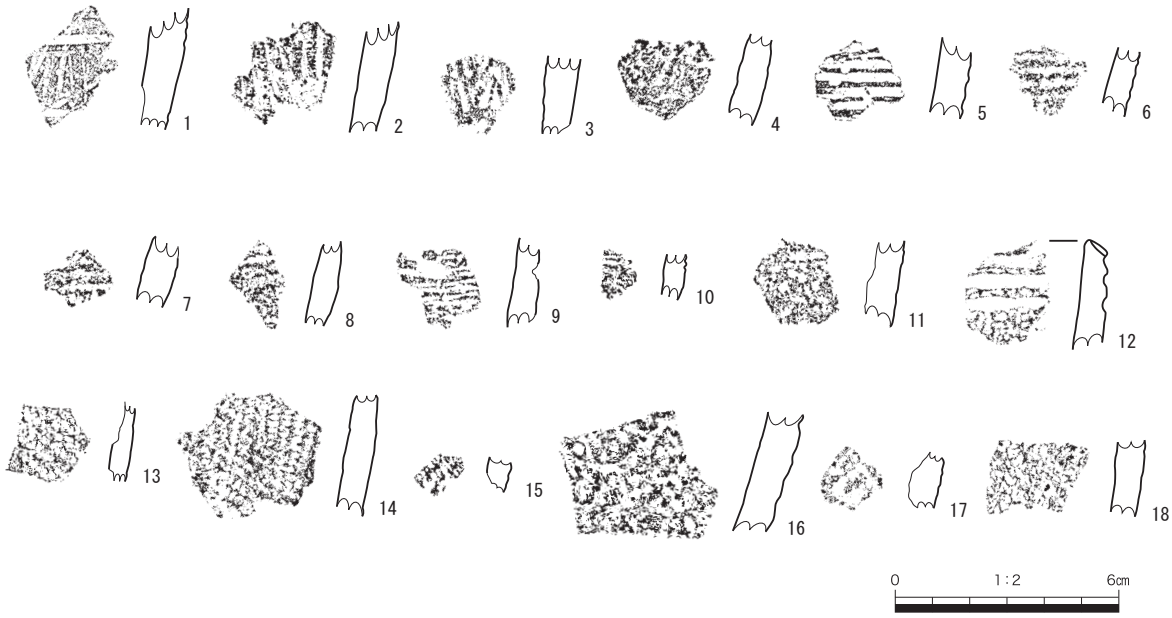
第22図　遺物集中Ⅱ出土遺物　土器（3）



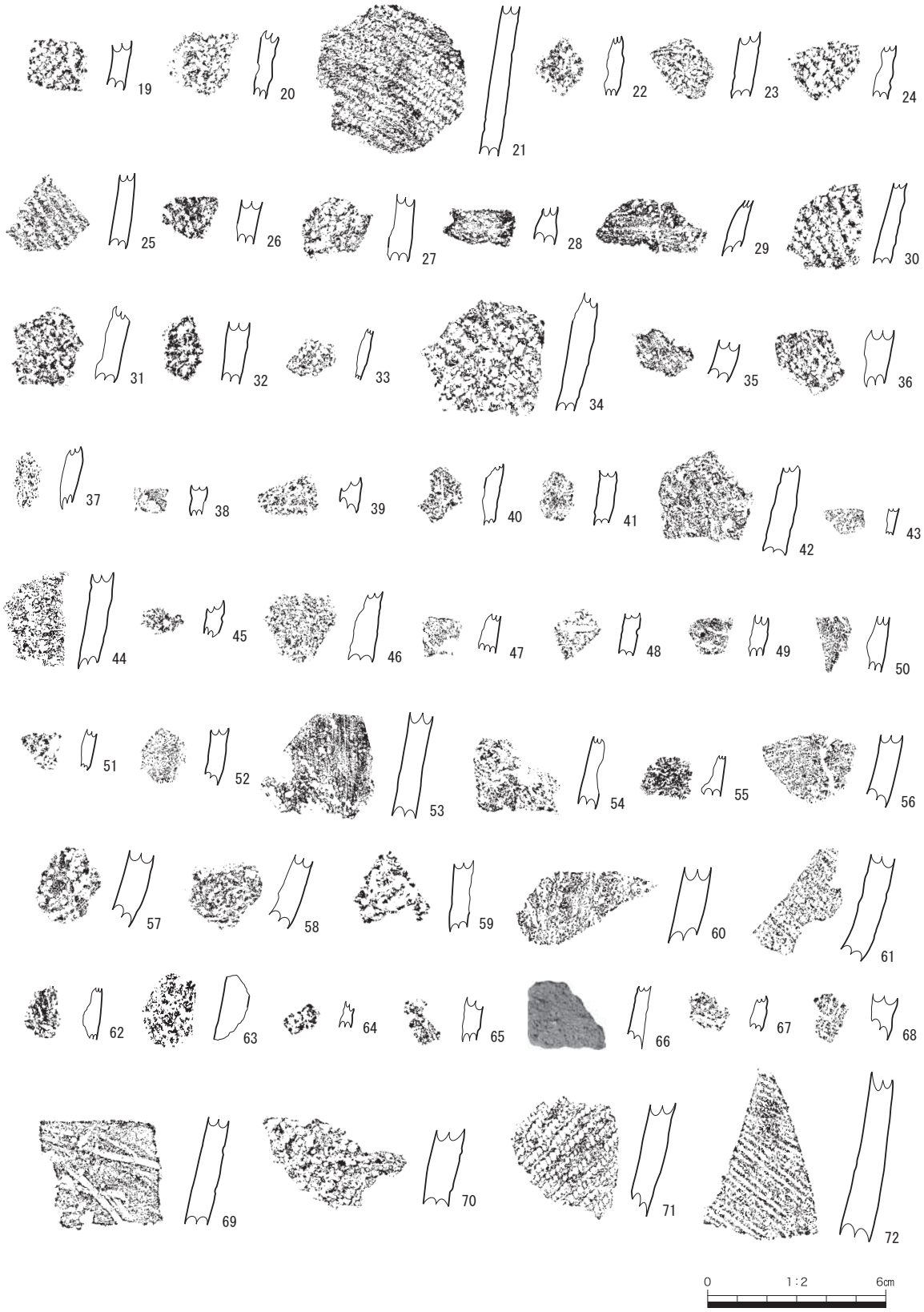
第23図　遺物集中Ⅲ出土遺物　土器（1）



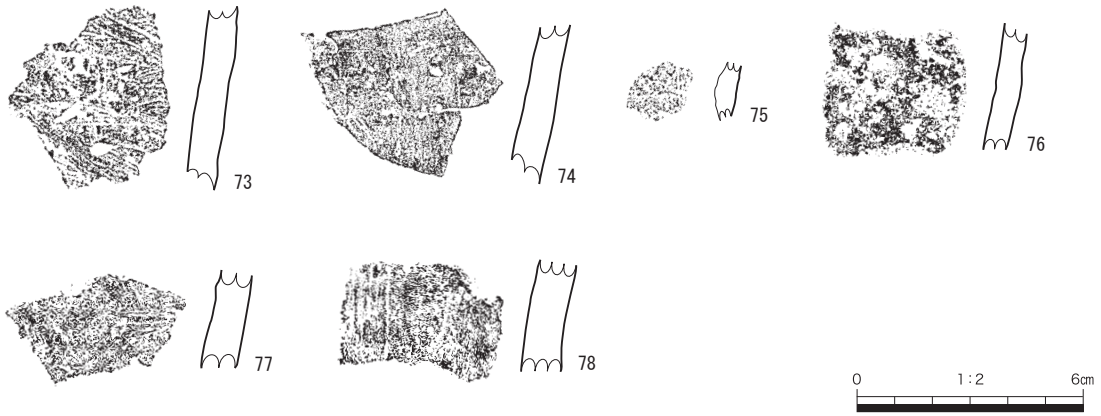
第24図　遺物集中Ⅲ出土遺物　土器（２）



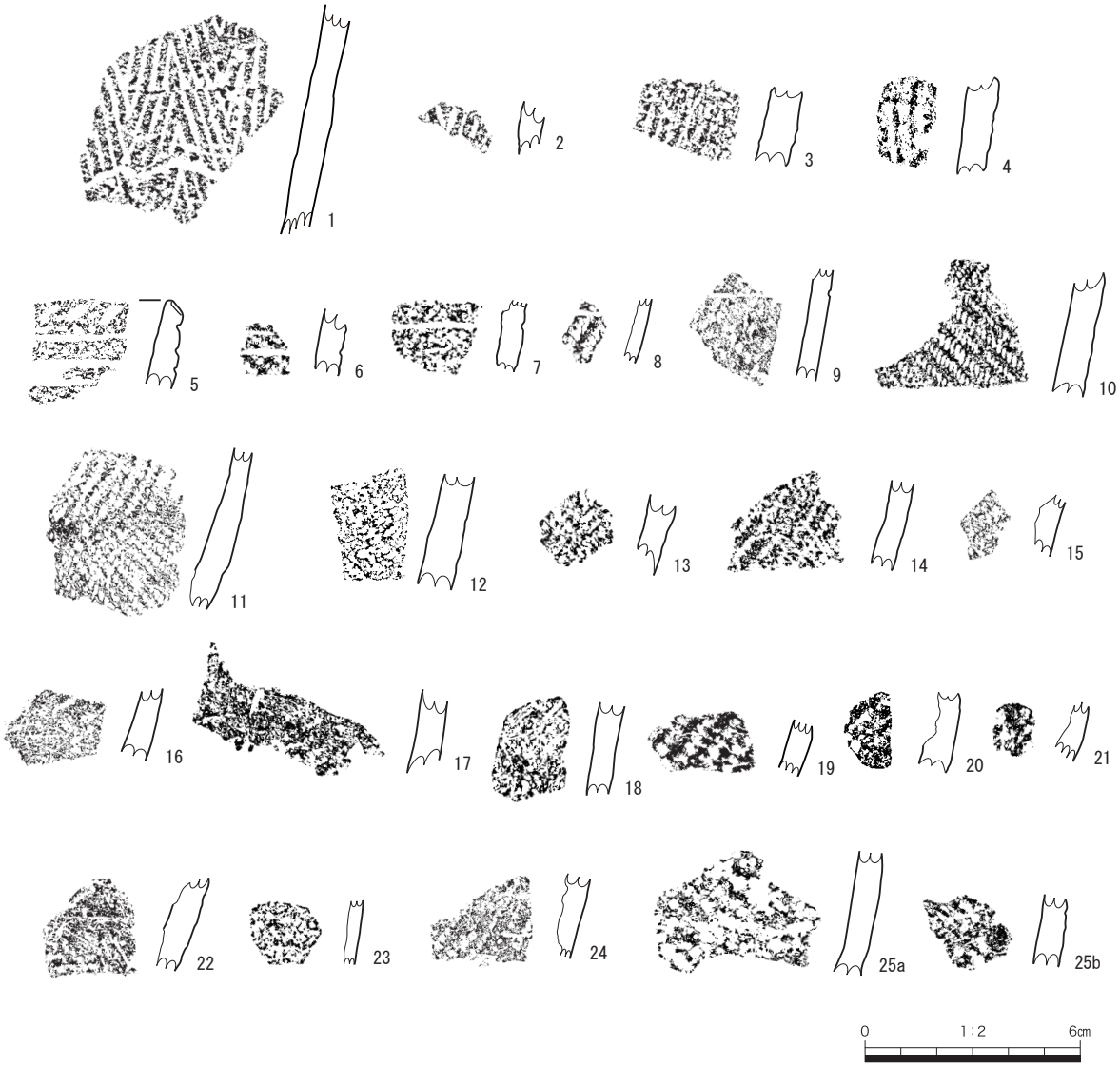
第25図　遺物集中Ⅳ出土遺物　土器（１）



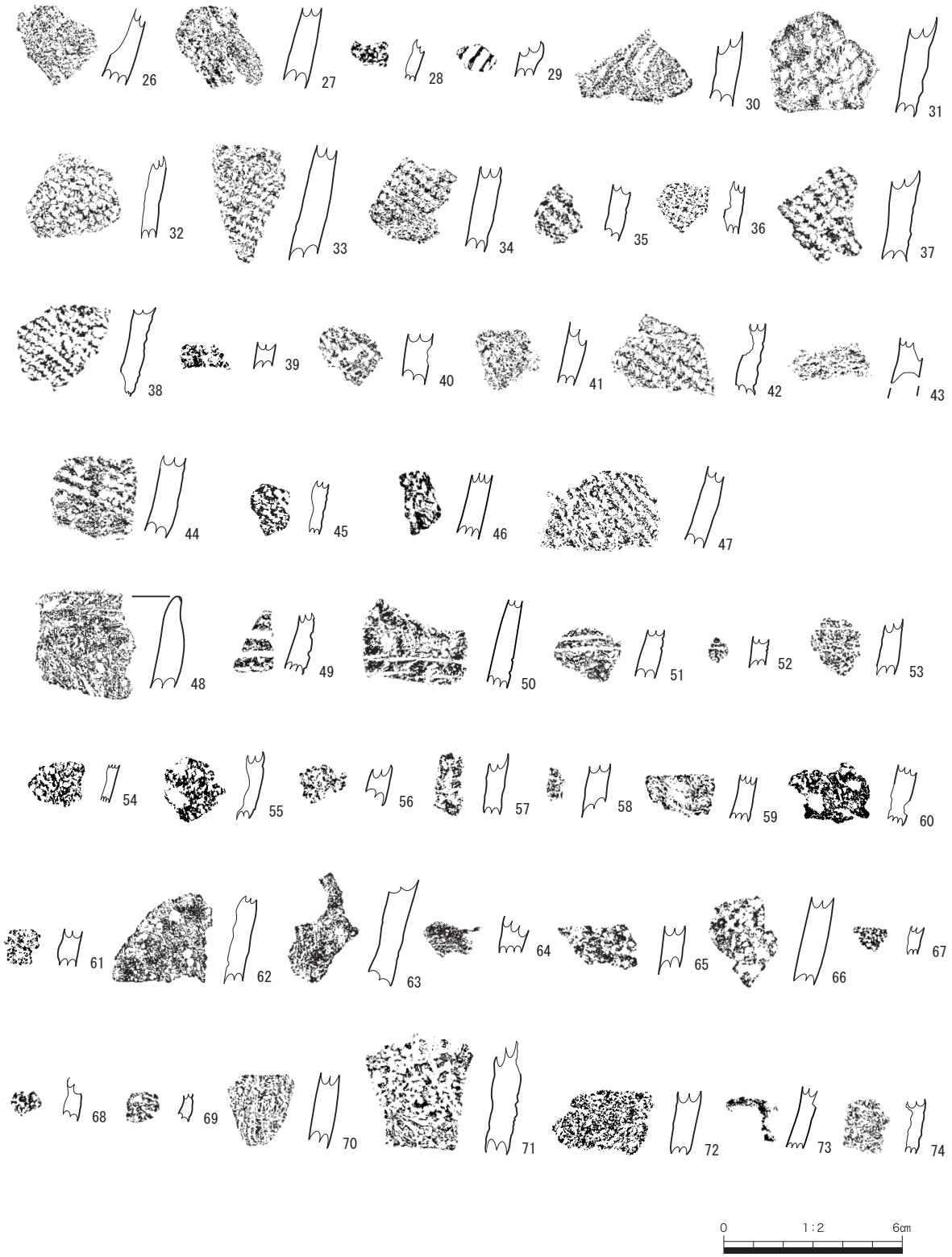
第26図　遺物集中Ⅳ出土遺物　土器（2）



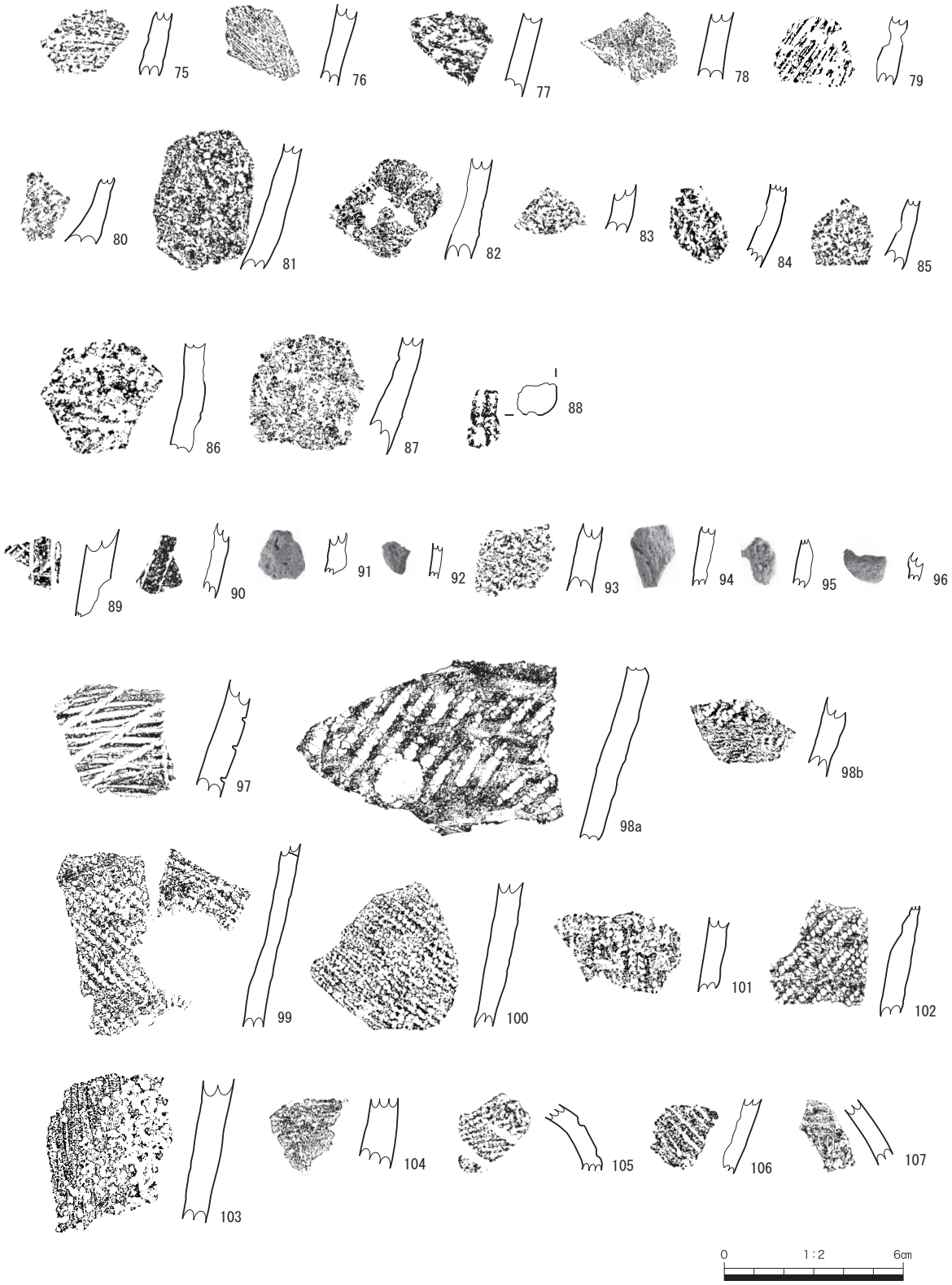
第27図　遺物集中Ⅳ出土遺物　土器（3）



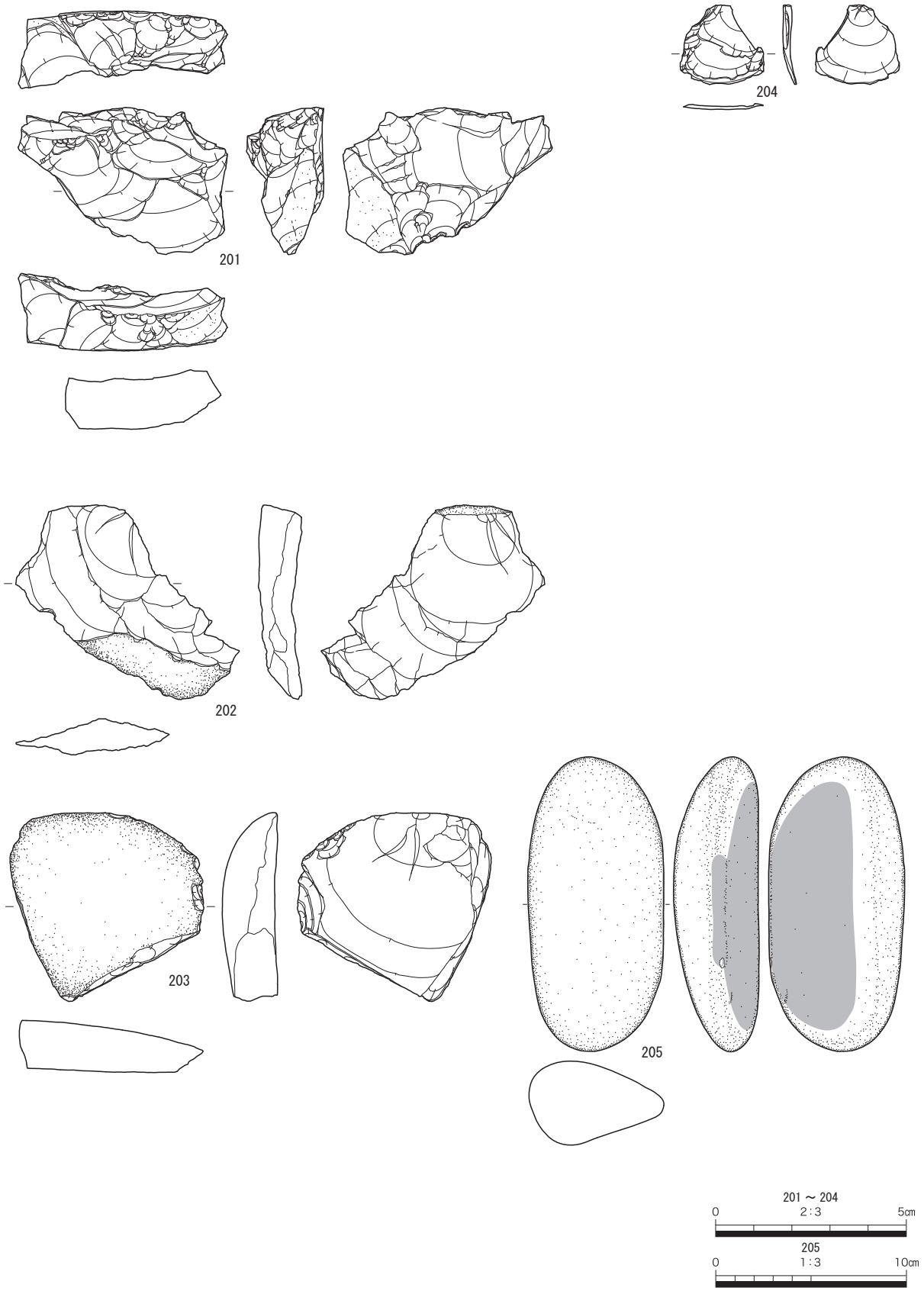
第28図　遺構外出土遺物　土器（1）



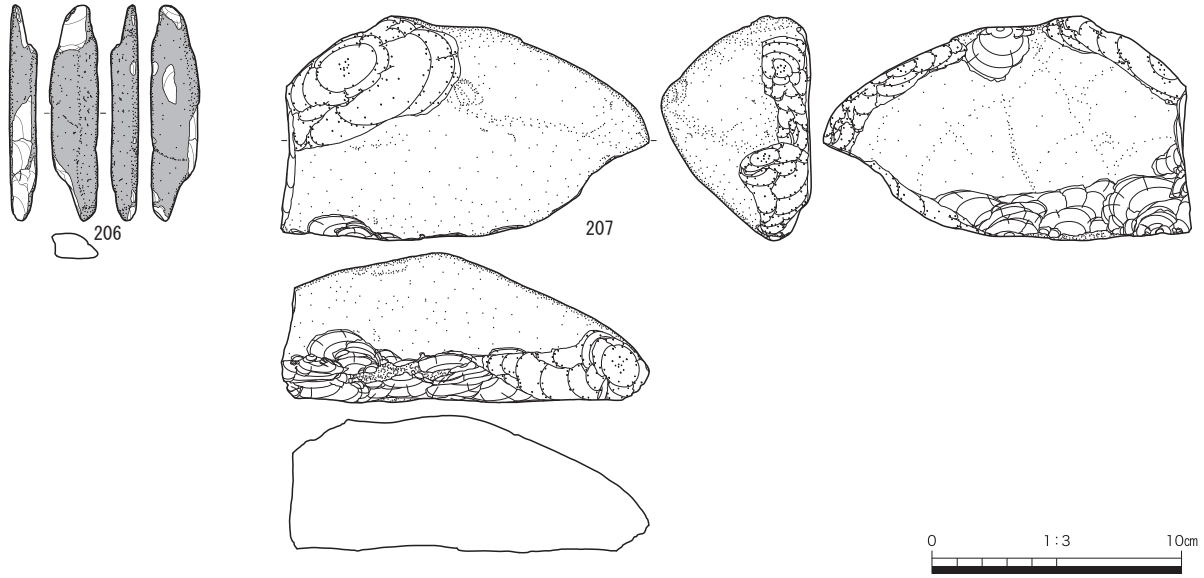
第29図　遺構外出土遺物　土器（2）



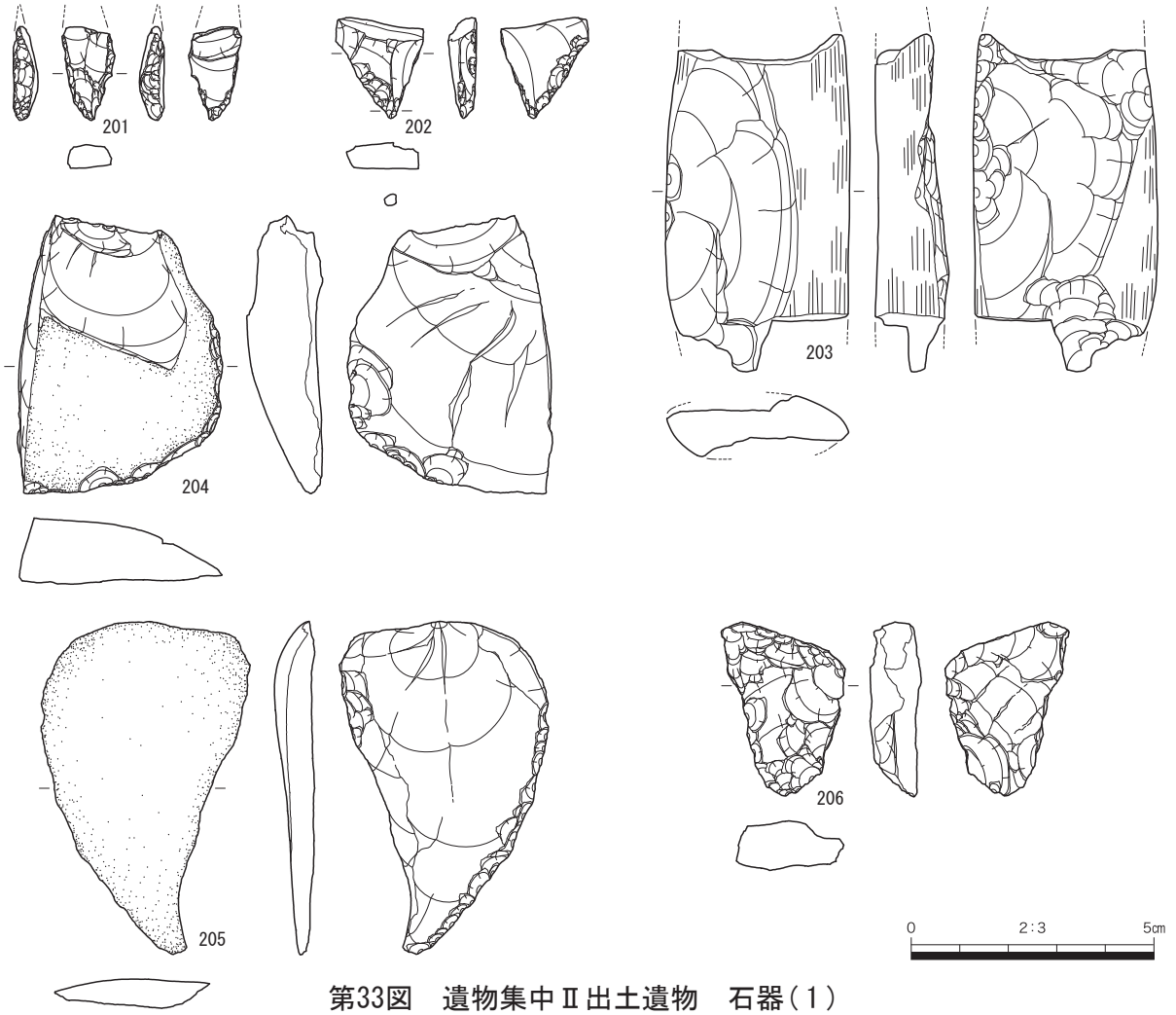
第30図　遺構外出土遺物　土器（3）



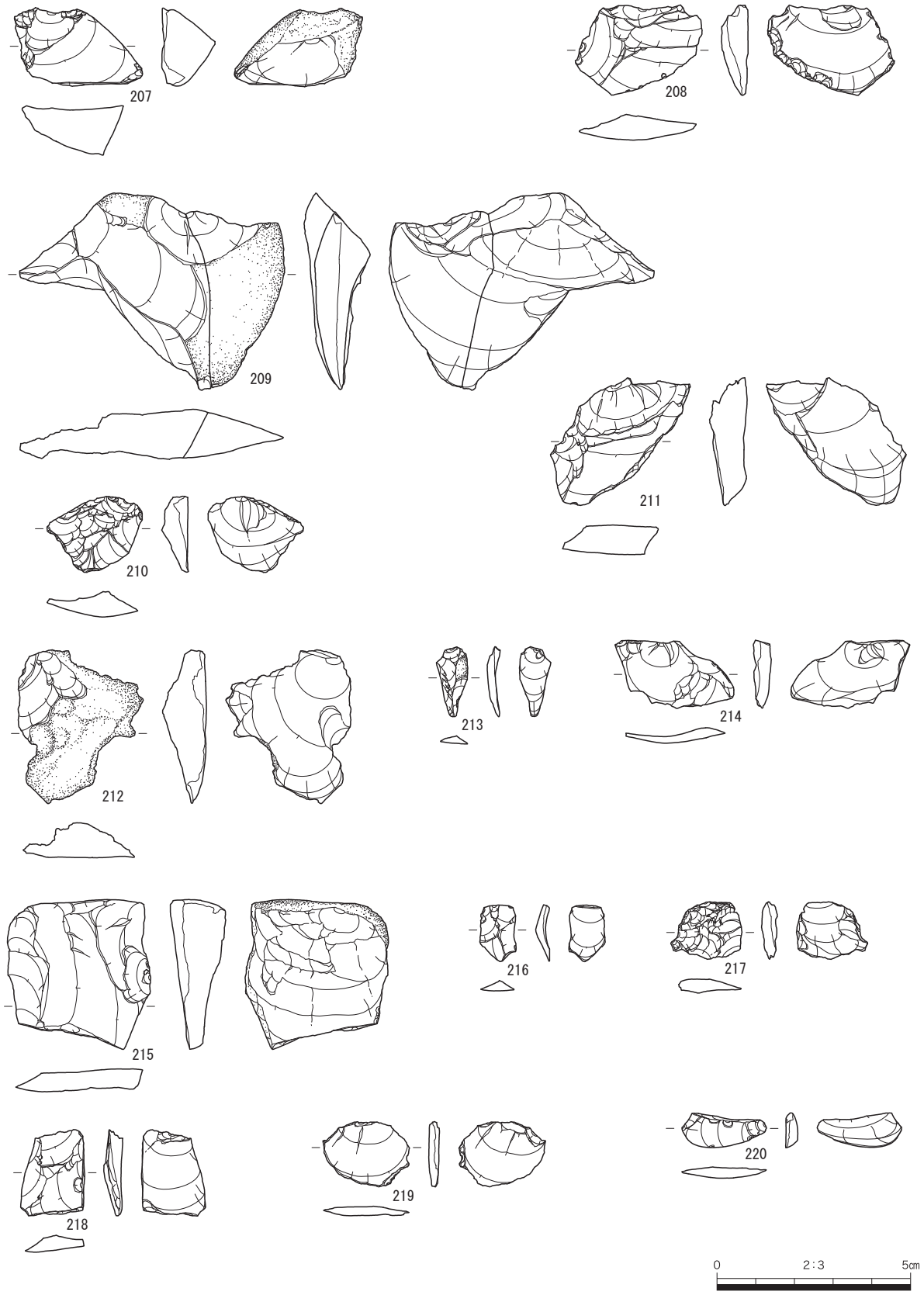
第31図　遺物集中Ⅰ出土遺物　石器(1)



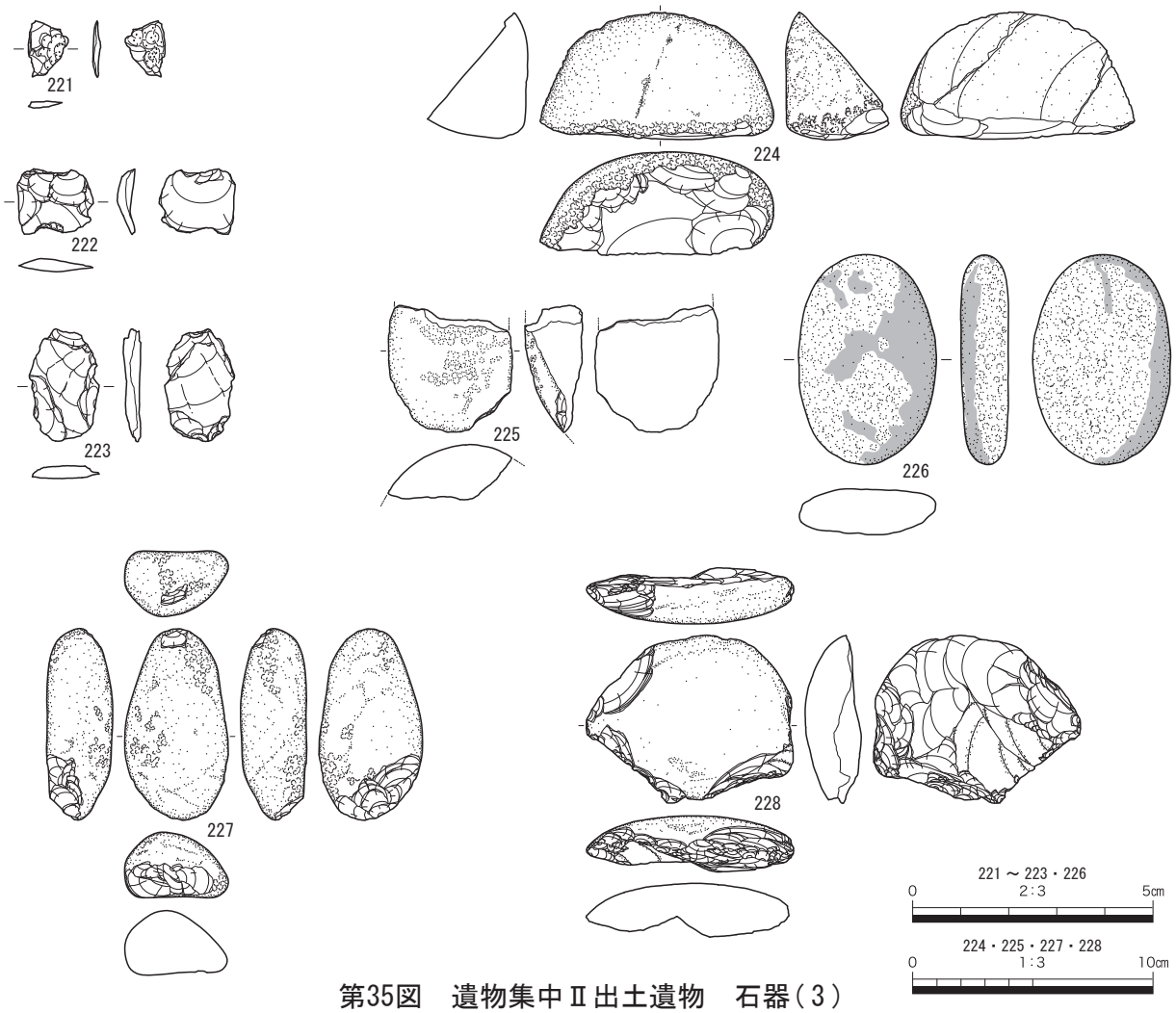
第32図　遺物集中Ⅰ出土遺物　石器（2）



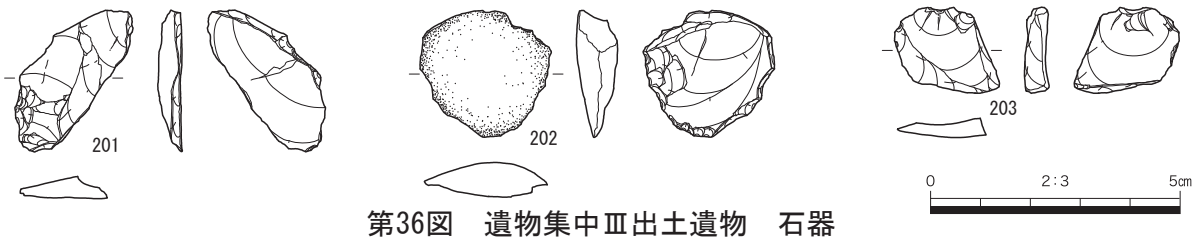
第33図　遺物集中Ⅱ出土遺物　石器（1）



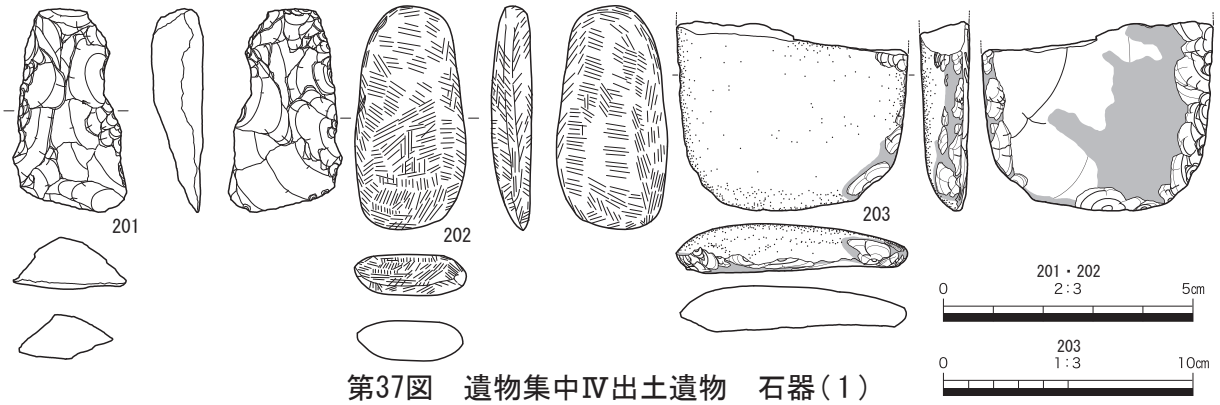
第34図　遺物集中Ⅱ出土遺物　石器（2）



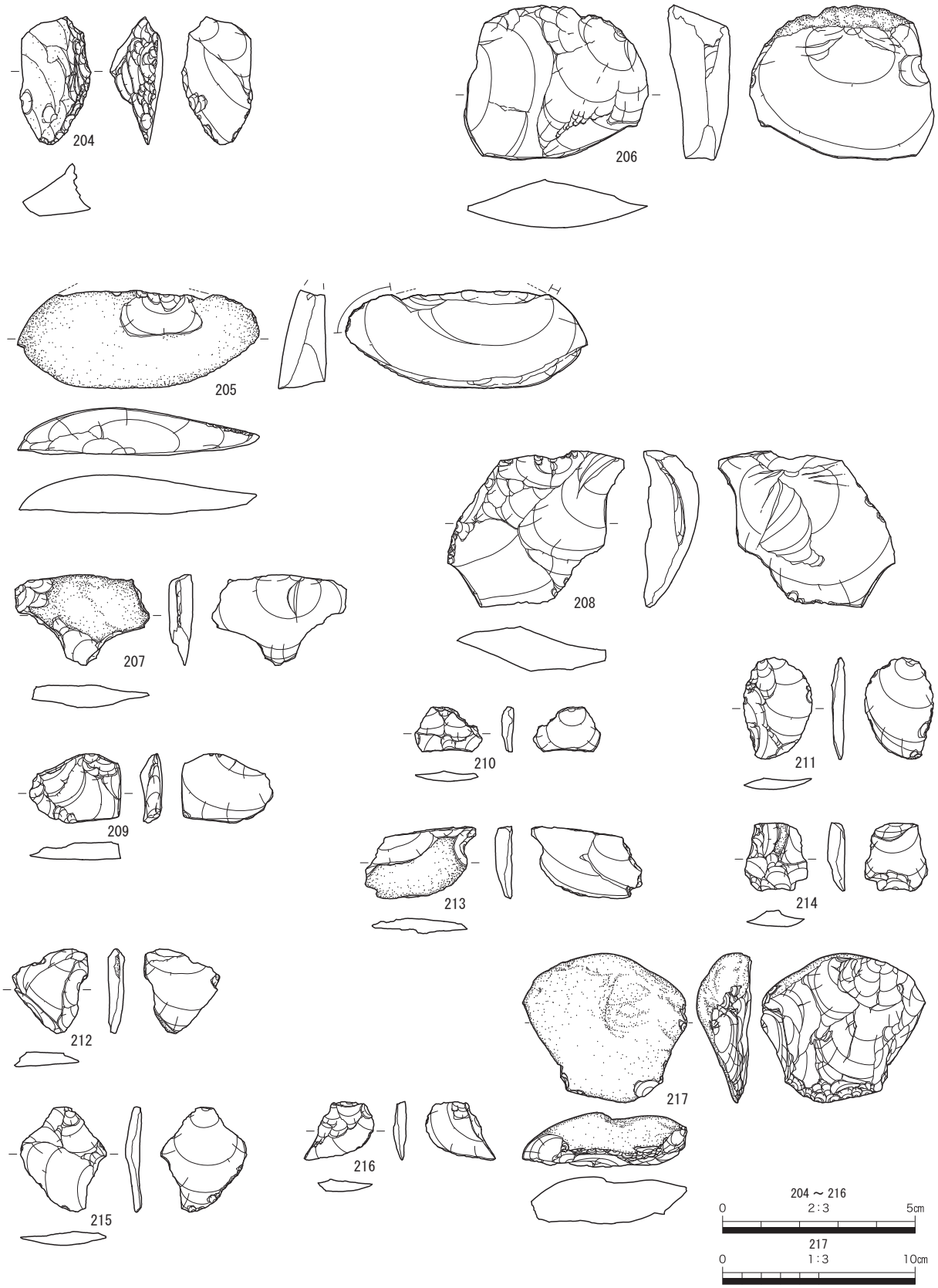
第35図　遺物集中Ⅱ出土遺物　石器（3）



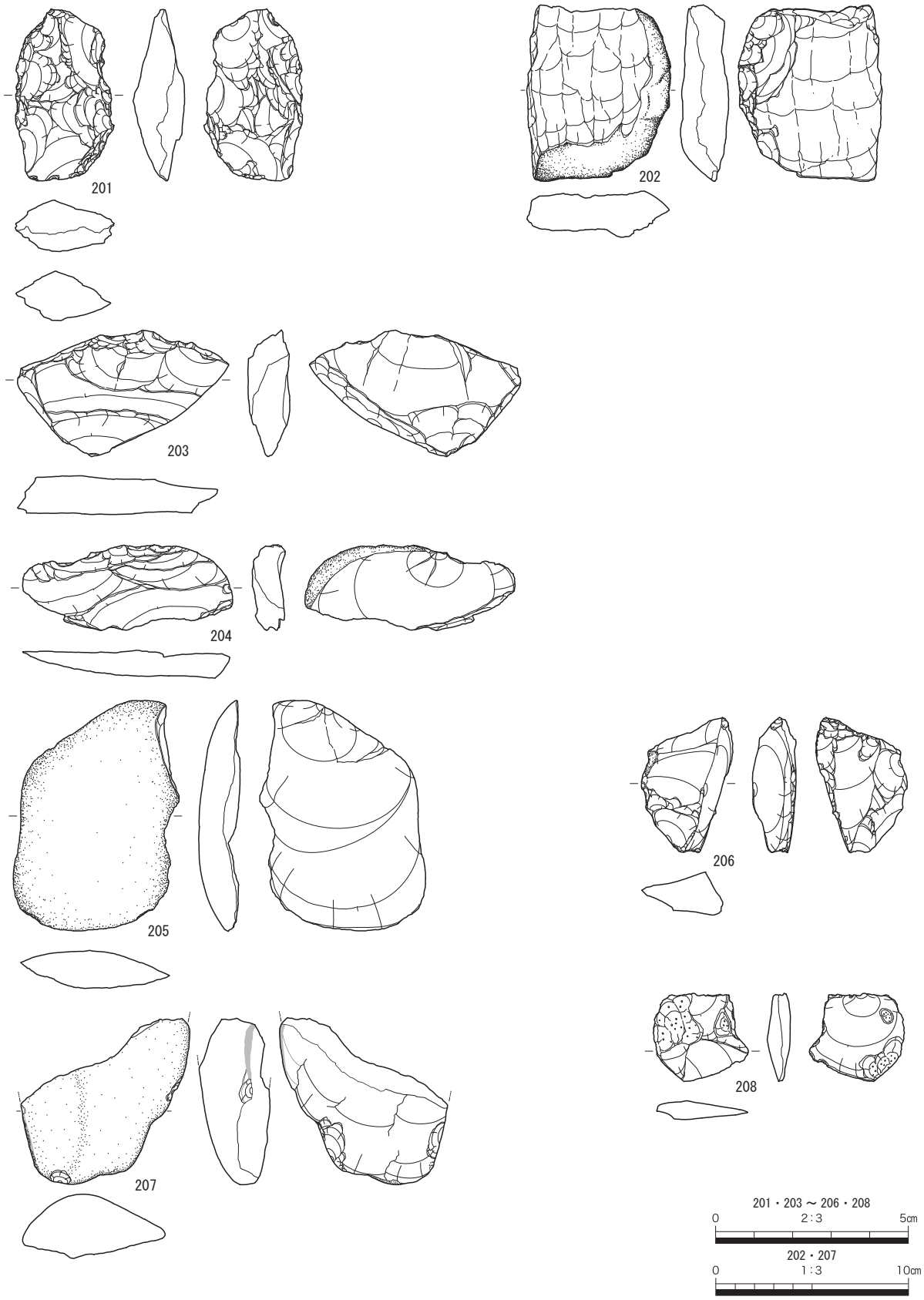
第36図　遺物集中Ⅲ出土遺物　石器



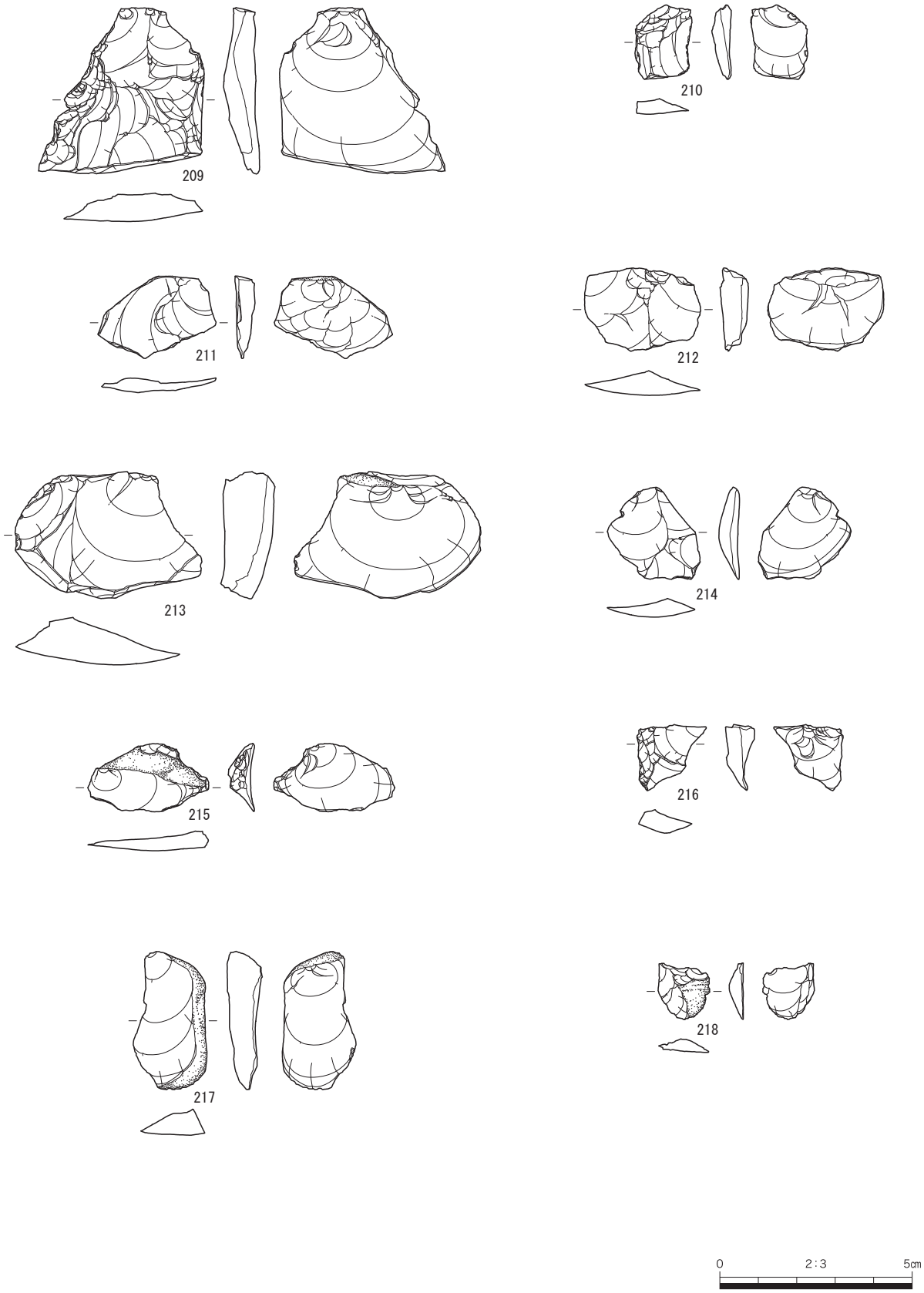
第37図　遺物集中Ⅳ出土遺物　石器（1）



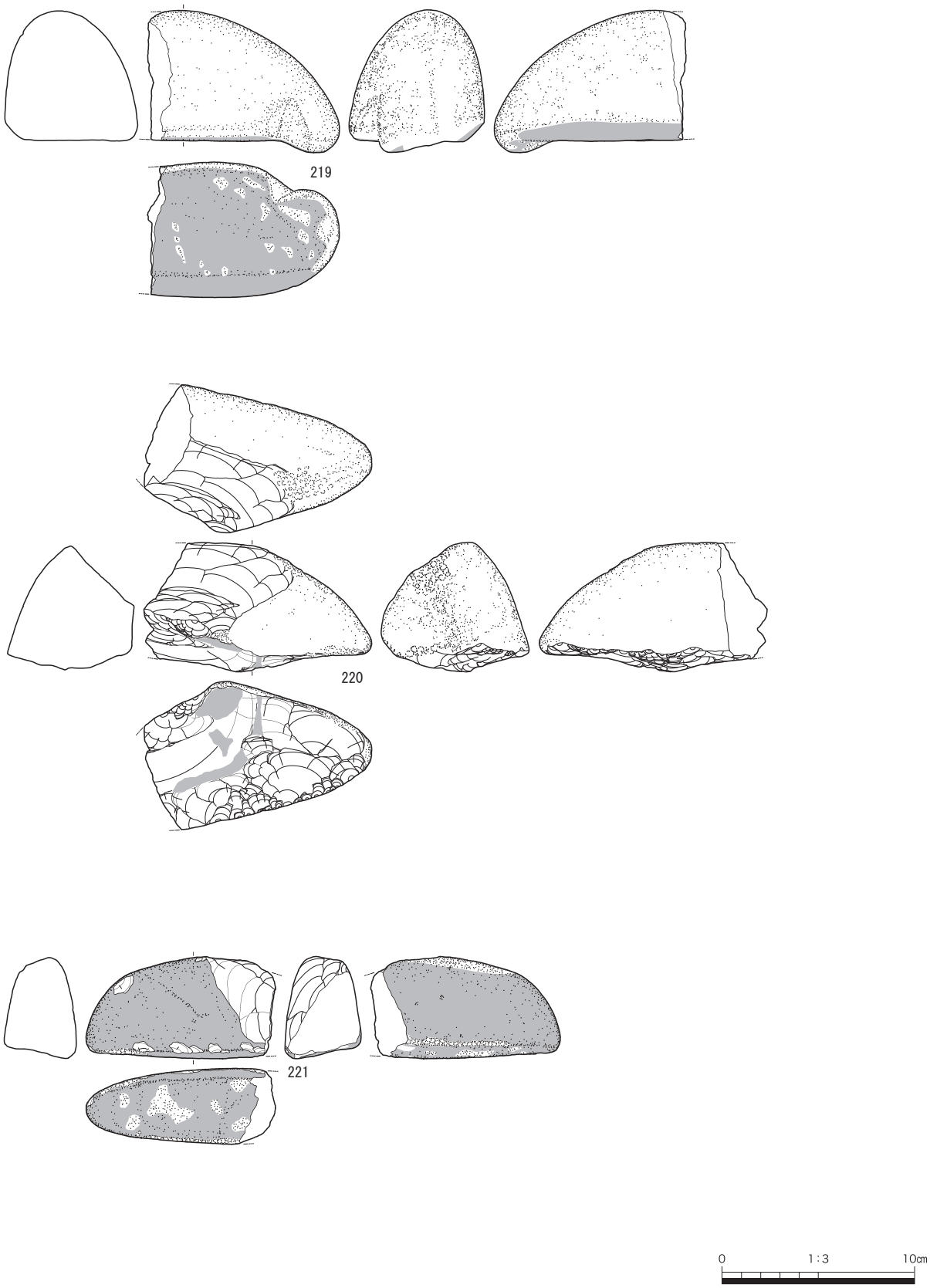
第38図　遺物集中Ⅳ出土遺物　石器（2）



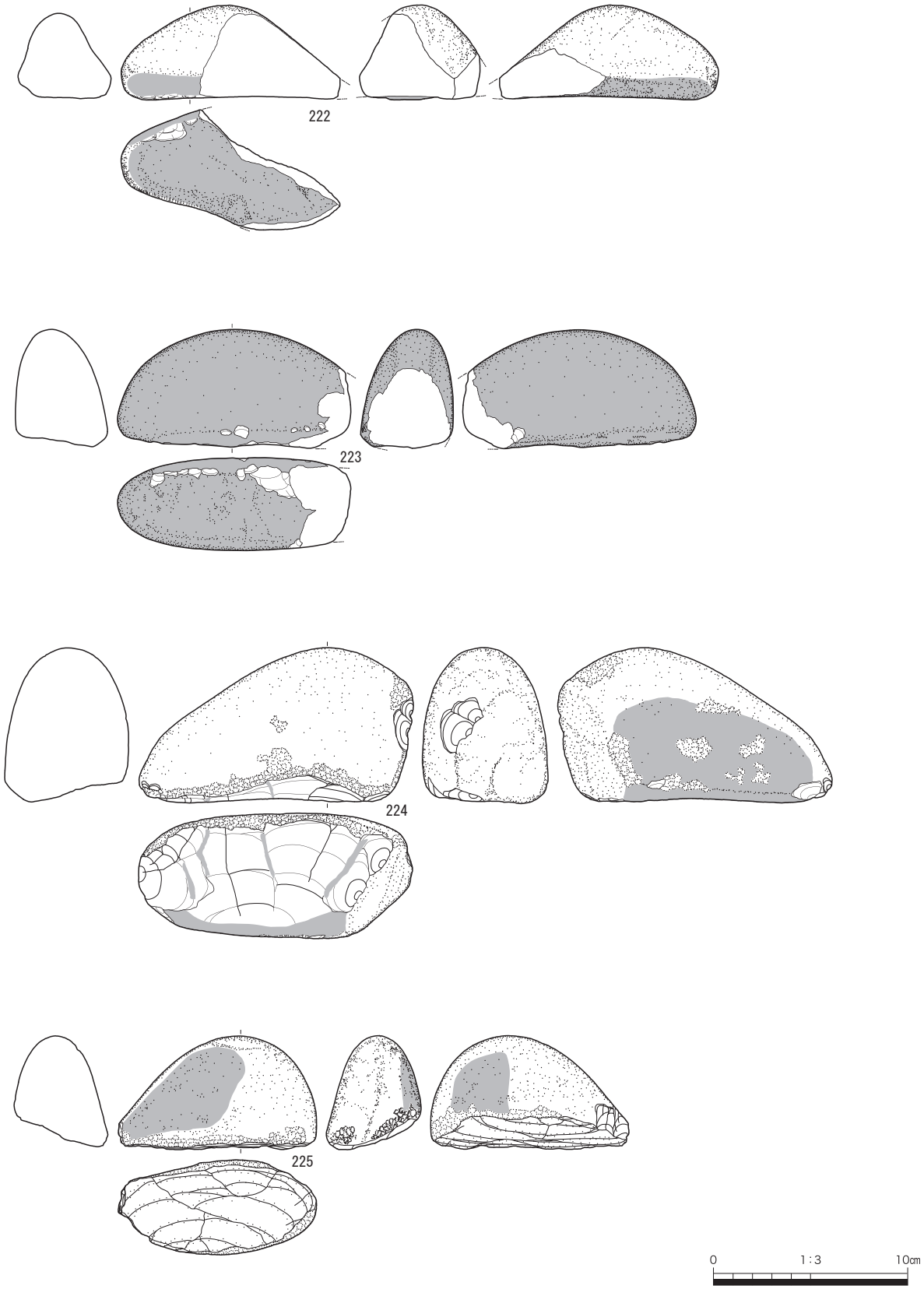
第39図　遺構外出土遺物　石器（1）



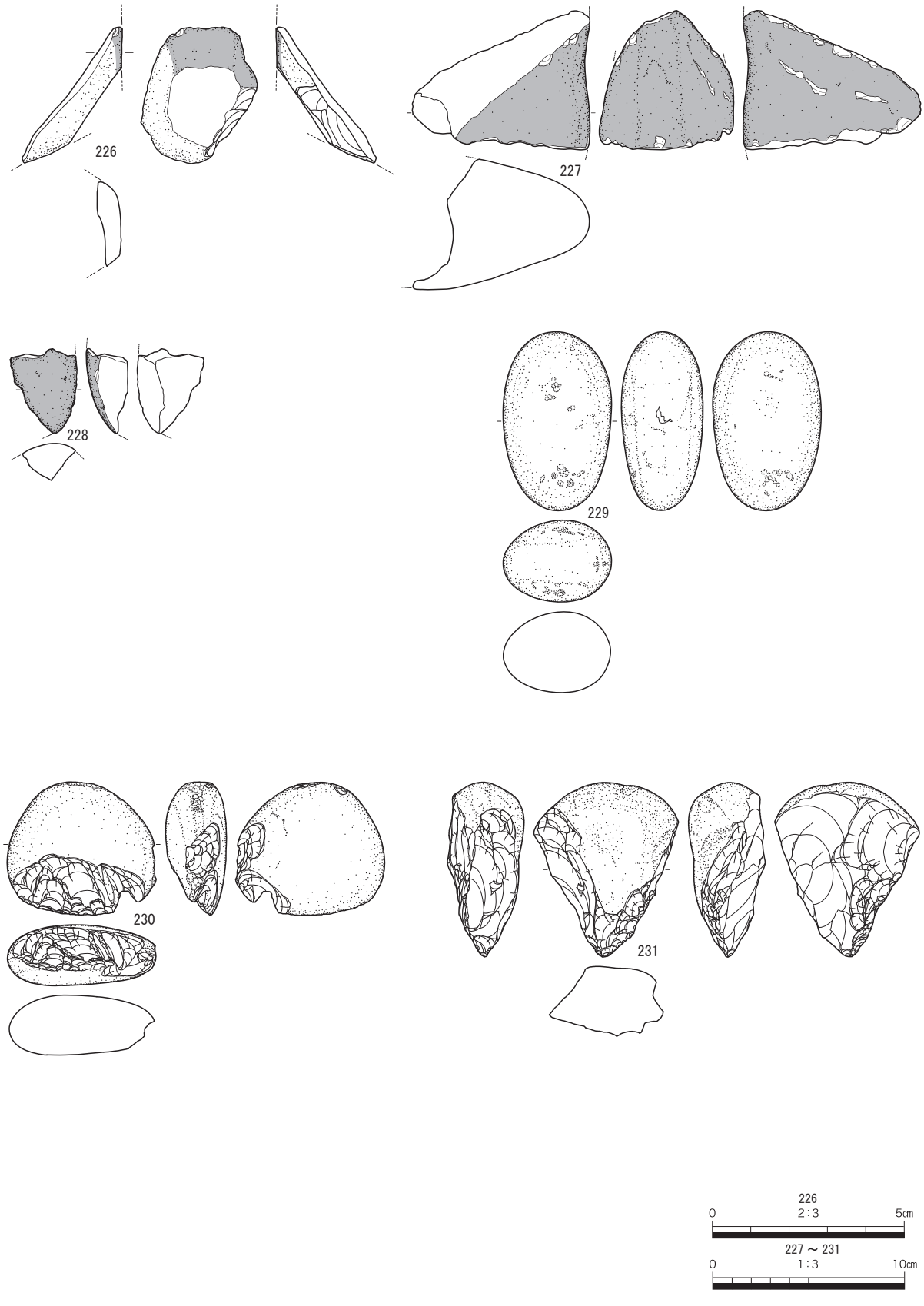
第40図　遺構外出土遺物　石器（2）



第41図　遺構外出土遺物　石器（3）



第42図　遺構外出土遺物　石器（4）



第43図　遺構外出土遺物　石器（5）

番号	出土区	遺構・層位	器種		文様・調整	胎土		備考	分類	遺存状況	器厚	色調				原寸図
						繊維	その他					外面		内面		
遺構（第 17 図、写真図版 16 上）																
1	調査区Ⅲ	SK04	深鉢	胴部	外面:非結束羽状縄文(LR,RL)、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む		A3	やや摩滅	8.5 ㎜	灰黄褐色	10YR5/2	灰黄褐色	10YR5/2	
2	遺物集中Ⅰ	SK06	深鉢	胴部	外面：縄文（RL）→剥落、内面：ナデ	含まない	砂粒（～2㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む		B2		7.7 ㎜	灰黄褐色	10YR5/2	灰褐色	7.5YR4/2	
3	遺物集中Ⅳ	SK07・2 層	深鉢	口縁部	口縁：平縁（外縁に斜位刻目文）、外面：横走縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・黒色粒ほか）含む		A3		4.8 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい黄褐色	10YR5/4	第 45 図 7
4	遺物集中Ⅳ	SK07	深鉢	口縁部	口縁：平縁（外縁に斜位刻目文）、外面：縄文＋平行沈線文(横位)、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）含む		A3	やや摩滅	5.6 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	灰黄褐色	10YR4/2	第 45 図 4
5	遺物集中Ⅳ	SK08	深鉢	胴部	外面：縄文（LR 0 段多条）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）わずかに含む		A3	やや摩滅	5.8 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	にぶい褐色	7.5YR6/3	
6	遺物集中Ⅳ	SK08	深鉢	胴下部	外面：縄文（RL）？、内面：ナデ	含む	砂粒（～4㎜、赤褐色粒・長石ほか）多く含む	外面被熱	A3	やや摩滅	7.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい赤褐色	5YR5/4	
7	遺物集中Ⅳ	SK08	深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	6.5 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	灰黄褐色	10YR4/2	
8	遺物集中Ⅳ	SK08	深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	8～9㎜	明赤褐色	2.5YR5/6	にぶい黄褐色	10YR5/3	
9	調査区Ⅰ	TP01	深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）→小剥落、内面：ナデ	わずかに含む	砂粒（～3㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	8.2 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	褐灰色	10YR4/1	
10	調査区Ⅰ	TP01	深鉢	胴部	外面：無文（ミガキ／縦位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、長石・黒色粒ほか）多く含む	外面被熱	A4	やや摩滅	6.8 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい橙色	7.5YR6/4	
11	調査区Ⅱ	TP02	深鉢	胴部	外面：押型文（重層山形文）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む		A1-1	やや摩滅	9.3 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	第 45 図 6
12	調査区Ⅲ	TP03	深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、長石ほか）含む		A4	やや摩滅	(4.9㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	
遺物集中Ⅰ（第 18・19 図、写真図版 16 下・17 上）																
1a	8 トレンチ		深鉢	口縁部	口縁：平縁（内削ぎ・外角に縦位刻目文）、外面：縄文（RL　横位帯状）→小ハジケ、内面：ナデ［同一個体］	含まない	砂粒（～2㎜、石英ほか）含む	外面炭化物付着	B2	やや摩滅	9.9 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい黄橙色	10YR6/4	
1b	8 トレンチ			胴部							10.2 ㎜					
	調査区Ⅰ付近	表採		胴部							9.7 ㎜					
1c	8 トレンチ			胴部							9.9 ㎜					
1d	8 トレンチ			胴部							8.4 ㎜					
1e	遺物集中Ⅰ			胴部							10.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	
1f	遺物集中Ⅰ			胴部							9.7 ㎜					
1g	遺物集中Ⅰ			胴部							9.9 ㎜					
	遺物集中Ⅰ			胴部							9.9 ㎜					
1h	調査区Ⅲ付近	表採		胴部							8.9 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい黄橙色	10YR6/3	
1i	遺物集中Ⅰ			胴部							9.1 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	
1j	遺物集中Ⅰ			胴部							9.0 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい黄褐色	10YR5/3	
1k	調査区Ⅰ			胴下部				外面被熱			9.4 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/4	にぶい黄橙色	10YR6/3	
2a	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴部	外面：横走縄文（LR）、内面：ナデ［同一個体］	含まない	砂粒（～2㎜、長石ほか）多く含む		B2		7.8 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/3	
2b	遺物集中Ⅰ			胴部							7.4 ㎜					
2c	遺物集中Ⅰ			胴部							6.9 ㎜					
2d	遺物集中Ⅰ			胴部							6.4 ㎜					
2e	調査区Ⅰ			胴部							7.1 ㎜					
2f	調査区Ⅰ付近	表採		胴部							7.5 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/3	
3a	遺物集中Ⅰ		壺	胴部	外面：無文（ミガキ）、内面：ナデ［同一個体］	含まない	砂粒（～2㎜、長石ほか）多く含む		B2		6.1 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	褐色	10YR4/4	
3b	遺物集中Ⅰ			胴部							5.9 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	にぶい赤褐色	5YR5/4	
4	遺物集中Ⅰ		深鉢	口縁部	口縁：平縁、外面：縄文（RL 横位帯状）、内面：ナデ→粗いミガキ	含まない	砂粒（～3㎜、灰褐色粒ほか）含む	外面炭化物付着	B2		7.7 ㎜	灰黄褐色	10YR5/2	にぶい黄橙色	10YR6/3	
5	遺物集中Ⅰ		深鉢	口縁部	口縁：平縁、外面：縄文（RL 横位帯状）、内面：ナデ	含まない	砂粒（～2㎜、石英・長石・黒色粒ほか）含む		B2		6.2 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/3	にぶい黄橙色	10YR6/3	
6	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL 横位帯状）、内面：ナデ→粗いミガキ	含まない	砂粒（～2㎜、石英・長石ほか）含む		B2		8.4 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	灰黄褐色	10YR5/2	
7	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL 横位帯状）→小剥落、内面：ナデ→小剥落	含まない	砂粒（～2㎜、石英・長石・黒色粒ほか）含む		B2		6.6 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/3	にぶい黄橙色	10YR6/3	
8	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含まない	砂粒（～2㎜、石英ほか）わずかに含む		B2		8.5 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	灰黄褐色	10YR5/2	
9	遺物集中Ⅰ周辺	表採	深鉢	胴部	外面：縄文（RL1）、内面：ナデ	含まない	砂粒（～2㎜、石英・長石ほか）多く含む		B2		9.9 ㎜	黄褐色	2.5Y5/6	にぶい褐色	7.5YR5/3	
10	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：ナデ→ミガキ	含まない	砂粒（～3㎜、石英ほか）含む		B2		7.1 ㎜	黄褐色	2.5Y5/3	にぶい赤褐色	5YR4/4	
11	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴部	外面：沈線文？→小剥落、内面：剥落	含まない	砂粒（～2㎜、長石ほか）含む		B2		(5.0㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	オリーブ褐色	2.5Y4/3	

第 2 表　土器観察表（1）

番号	出土区	遺構・層位	器種		文様・調整	胎土		備考	分類	遺存状況	器厚	色調				原寸図
						繊維	その他					外面		内面		
遺物集中Ⅰ（第 18・19 図、写真図版 16 下・17 上）																
12	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴部	外面：撚糸文（L）→剥落、 内面：ナデ→ミガキ	含まない	砂粒（～2㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む		B2		6.7 ㎜	暗褐色	10YR3/3	黒褐色	10YR3/1	
13a	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴部	外面：条痕→縄文（RL）、 内面：条痕→縄文（LR）→粗いミガキ	わずかに含む	砂粒（～3㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む		A7		7.6 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	灰黄褐色	10YR5/2	
13b	遺物集中Ⅰ										7.9 ㎜	黄褐色	2.5Y5/4	灰黄褐色	10YR5/2	
14	遺物集中Ⅰ		深鉢	口縁部	口縁：平縁（口唇外縁に斜位刻目文）、外面：縄文（LR）+平行沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・赤褐色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	5.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい橙色	7.5YR6/4	第 45 図 2
15	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴下部	外面：縄文（LR）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石ほか）含む	内面炭化物付着	A3	やや摩滅	6.5 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR4/2	
16	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴下部	外面：縄文（LR）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石ほか）含む	外面被熱	A3		5.8 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/3	
17	遺物集中Ⅰ周辺	表採	深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、 内面：剥落	含む	砂粒（～3㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	(6.6 ㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい赤褐色	5YR5/3	
18	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石ほか）含む		A3	やや摩滅	8.5 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/3	灰黄褐色	10YR5/2	
19	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、 内面：剥落	含む	砂粒（～3㎜、石英・長石ほか）含む		A3	やや摩滅	(6.6 ㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい赤褐色	5YR5/4	
20	遺物集中Ⅰ付近	排土	深鉢	胴部	外面：縄文（RL 横位帯状）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石ほか）含む		A3		7.3 ㎜	灰褐色	7.5YR4/2	灰褐色	7.5YR4/2	
21	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）少し含む		A3		6.3 ㎜	黄褐色	2.5Y5/3	明赤褐色	2.5YR5/6	
22	遺物集中Ⅰ周辺	表採	深鉢	底部近く	外面：縄文（RL？）→小剥落、 内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、石英・長石ほか）含む	内面炭化物付着	A3	摩滅	6.6 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	黒色	5Y2/1	
23	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石ほか）含む		A4		7.5 ㎜	灰黄褐色	10YR5/2	にぶい黄褐色	10YR5/3	
24	遺物集中Ⅰ周辺	表採	深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	わずかに含む	砂粒（～1㎜、石英・長石ほか）含む		A4		3.8 ㎜	灰黄褐色	10YR4/2	灰黄褐色	10YR5/2	
25	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）少し含む	外面被熱	A4	やや摩滅	7.2 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	黒色	5Y2/1	
26	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英ほか）わずかに含む	外面被熱	A4	やや摩滅	4.9 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR5/2	
27	遺物集中Ⅰ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）わずかに含む	内面炭化物付着	A4		5.8 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	灰褐色	7.5YR4/2	
28	遺物集中Ⅰ付近	表採	深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、 内面：剥落	含む	砂粒（～3㎜、石英・暗褐色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	(7.1 ㎜)	にぶい赤褐色	2.5YR4/4	褐色	7.5YR4/4	
29	遺物集中Ⅰ周辺	表採	深鉢	底部近く	外面：無文（ケズリ→ナデ）、 内面：ナデ	わずかに含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	9 ～ 11 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	
30	遺物集中Ⅰ周辺	表採	深鉢	胴部	外面：平行沈線文（縦位）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、石英・長石ほか）含む	外面被熱	A5		8.9 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	黄灰色	2.5Y5/1	第 45 図 25
遺物集中Ⅱ（第 20 ～ 22 図、写真図版 17 下・18 上）																
1	遺物集中Ⅱ		深鉢	口縁部	口縁：平縁（口唇外角に縦位刻目文）、外面：押型文（重層山形文：原体直径 1.0 ㎝、原体長さ 4.2 ㎝以上）+平行沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石・褐色ほか）含む		A1-1		7.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	にぶい褐色	7.5YR5/4	第 44 図 1
2	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：押型文（重層山形文？）+平行沈線文（横位）、 内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、長石・黒色粒ほか）含む		A1-1		(7.0 ㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	第 44 図 3
3	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：押型文（重層山形文）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、石英・長石ほか）含む		A1-1		6.2 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	灰黄褐色	10YR5/2	第 44 図 13
4	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：押型文（重層山形文）、 内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、長石・黒色粒ほか）わずかに含む	外面炭化物付着	A1-1	やや摩滅	5.6 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	灰褐色	7.5YR5/2	第 44 図 5
5	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：押型文（重層山形文）、 内面（ナデ）	含む	砂粒（～2㎜、長石・黒色粒ほか）わずかに含む	外面被熱	A1-1		6.4 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	灰黄褐色	10YR5/2	第 44 図 7
6	遺物集中Ⅱ南西		深鉢	胴部	外面：押型文（重層山形文）、 内面：剥落	含む	砂粒（～1㎜、長石・石英・赤褐色粒ほか）含む		A1-1		(4.8 ㎜)	にぶい黄橙色	10YR6/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	第 44 図 12
7	遺物集中Ⅱ周辺	表採	深鉢	底部近く	外面：押型文（重層山形文）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A1-1	やや摩滅	(8.4 ㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	褐色	7.5YR4/3	
8	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：押型文（重層山形文）+押型文（平行線状文）、内面：ナデ→小ハジケ	含む	砂粒（～3㎜、石英・長石・黒色粒ほか）含む		A1-1.3	やや摩滅	6.6 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	明赤褐色	5YR5/6	第 44 図 20
9	遺物集中Ⅱ		深鉢	底部近く	外面：押型文（平行線状文）or 沈線文（横位）？、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む		A1-3？	やや摩滅	6.4 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	灰褐色	5YR5/2	第 44 図 21
10	遺物集中Ⅱ		深鉢	口縁近く	口縁？：平縁+斜位刻目文、外面:縄文(RL)+魚骨回転文？、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石ほか）わずかに含む		A2	やや摩滅	7.0 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい黄褐色	10YR5/3	第 44 図 25
11	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：魚骨回転文、 内面：ミガキ	含む	砂粒（～2㎜、長石ほか）含む		A2		7.3 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	にぶい褐色	7.5YR5/3	第 44 図 23
12	遺物集中Ⅱ		深鉢	口縁部	口縁：平縁（斜位刻目文）、外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石・石英ほか）含む		A3		5.1 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	灰褐色	5YR5/2	第 45 図 6

第 2 表　土器観察表（2）

番号	出土区	遺構・層位	器種		文様・調整	胎土		備考	分類	遺存状況	器厚	色調				原寸図
						繊維	その他					外面		内面		
遺物集中Ⅱ（第 20 ～ 22 図、写真図版 17 下・18 上）																
13	遺物集中Ⅱ		深鉢	口縁部	口縁：平縁、外面：縄文（RL）+ 平行沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む		A3	やや摩滅	6.5 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/3	にぶい黄褐色	10YR5/3	第 45 図 8
14a	遺物集中Ⅱ		深鉢	口縁部	口縁：平縁、外面：縄文（RL）+ 平行沈線文（横位）、内面:ナデ→粗いミガキ（縦位）	含む	砂粒（～ 3 ㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	7.7 ㎜	褐色	7.5YR4/3	にぶい黄褐色	10YR5/3	第 45 図 9
14b	遺物集中Ⅱ			胴部						やや摩滅	7.3 ㎜					
15	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL 0 段多条）+ 平行沈線文（横位）、内面：剥落	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石ほか）含む		A3	やや摩滅	(4.3 ㎜)	にぶい黄褐色	10YR5/3	黄灰色	2.5Y4/1	
16	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）+ 平行沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 1 ㎜、長石ほか）わずかに含む		A3	やや摩滅	7.1 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	橙色	7.5YR6/6	
17	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：非結束羽状縄文（RL、LR 0 段多条）+ 沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、石英ほか）含む		A3	やや摩滅	7.2 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/4	にぶい黄褐色	10YR5/4	
18	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面:縄文(LR)+ 平行沈線文(横位)、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む	内面炭化物付着	A3		7.2 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	灰褐色	7.5YR4/2	
19	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：非結束羽状縄文（LR、RL 0 段多条）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む	外面炭化物付着	A3		8.7 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	暗灰黄色	2.5Y5/2	
20	遺物集中Ⅱ		深鉢	底部近く	外面：非結束羽状縄文（LR、RL 0 段多条）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	7.1 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	灰褐色	7.5YR4/2	
21a	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：非結束羽状縄文（LR、RL）、内面：ナデ［同一個体］	含む	砂粒（～ 3 ㎜、黒色・長石ほか）含む	内面炭化物付着	A3		6.7 ㎜	褐色	7.5YR4/3	灰黄褐色	10YR4/2	
21b	遺物集中Ⅱ										7.0 ㎜					
22	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面:非結束羽状縄文(LR,RL)、内面：剥落	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英ほか）わずかに含む	上部外面煤汚れ	A3	やや摩滅	(5.5 ㎜)	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい黄褐色	10YR5/3	
23	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面:非結束羽状縄文(LR,RL)、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英・灰褐色粒ほか）含む	外面被熱	A3		6.8 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	黒褐色	2.5Y3/1	
24	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：非結束羽状縄文（RL、LR 6 ㎜の無文帯）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む	内面炭化物付着	A3		6.8 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰褐色	7.5YR4/2	
25	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR 0 段多条）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英・黒色粒ほか）含む		A3		7.6 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰褐色	7.5YR4/2	
26	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR 0 段多条）、内面：剥落	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石ほか）わずかに含む		A3	やや摩滅	(4.3 ㎜)	にぶい黄褐色	10YR5/3	灰黄褐色	10YR5/2	
27	遺物集中Ⅱ付近	表採	深鉢	胴部	外面：縄文（LR 0 段多条）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む		A3	やや摩滅	6.2 ㎜	灰黄褐色	10YR5/2	にぶい赤褐色	2.5YR5/3	
28	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、沈線文？、内面：剥落	含む	砂粒（～ 4 ㎜、長石ほか）含む		A3 ?		(5.0 ㎜)	褐灰色	5YR5/1	灰褐色	7.5YR5/2	
29	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：剥落	含む	砂粒（～ 1 ㎜、長石ほか）わずかに含む		A3	やや摩滅	(6.6 ㎜)	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	
30	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：剥落	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英ほか）わずかに含む		A3	やや摩滅	3.7 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	にぶい黄褐色	10YR5/3	
31	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 1 ㎜、長石ほか）わずかに含む		A3	やや摩滅	5.8 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	暗灰黄色	2.5Y5/2	
32	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む		A3	やや摩滅	9.7 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR4/2	
33	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：縄文（LR）→小ハジケ、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A3		6.6 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	灰黄褐色	10YR4/2	
34	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：縄文（LR）→小ハジケ、内面：ナデ→小ハジケ	含む	砂粒（～ 5 ㎜、石英・長石ほか）多く含む		A3		6.7 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい橙色	7.5YR6/4	
35	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：剥落	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石ほか）含む		A3	やや摩滅	5.0 ㎜	にぶい赤褐色	5YR4/4	にぶい赤褐色	5YR4/4	
36	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR ？）→小剥落、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 1 ㎜、長石・黒褐色粒ほか）含む	外面被熱	A3		4.7 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰褐色	7.5YR4/2	
37	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR ？）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石ほか）わずかに含む		A3	やや摩滅	4.1 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい黄褐色	10YR5/3	
38	遺物集中Ⅱ南西		深鉢	胴下部	外面：縄文（LR）？、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 1 ㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A3		6.7 ㎜	赤褐色	5YR4/6	にぶい赤褐色	2.5YR4/4	
39	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外部：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 1 ㎜、長石ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	6.1 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR4/2	
40	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）わずかに含む	外面被熱	A3	やや摩滅	7.6 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	にぶい赤褐色	5YR5/4	
41	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 1 ㎜、長石ほか）わずかに含む		A3	やや摩滅	5.9 ㎜	黄灰色	2.5Y4/1	灰黄色	2.5Y6/2	
42	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ→小ハジケ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む		A3	やや摩滅	7.4 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/3	にぶい黄橙色	10YR6/4	
43	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）わずかに含む		A3	やや摩滅	7.0 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい黄褐色	10YR5/3	
44	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	7.0 ㎜	明褐色	7.5YR5/6	にぶい褐色	7.5YR5/4	
45	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：剥落	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む		A3		(6.5 ㎜)	にぶい赤褐色	5YR4/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
46	遺物集中Ⅱ付近	表採	深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、長石・黒色粒ほか）多く含む		A3	やや摩滅	8.6 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	

第 2 表　土器観察表（3）

番号	出土区	遺構・層位	器種		文様・調整	胎土		備考	分類	遺存状況	器厚	色調				原寸図
						繊維	その他					外面		内面		
遺物集中Ⅱ（第 20 ～ 22 図、写真図版 17 下・18 上）																
47	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（LRL）、 内面：ナデ→剥落	含む	砂粒（～3㎜、長石・石英・赤褐色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	5.5 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	
48	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：縄文（LRL）、 内面：ナデ→剥落	含む	砂粒（～3㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	8.6 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい褐色	7.5YR5/4	
49	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（LRL）、 内面：剥落	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）含む		A3		(5.5㎜)	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい黄褐色	10YR5/3	
50	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（RLR 0段多条）、 内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石ほか）含む		A3	やや摩滅	5.4 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	灰黄褐色	10YR5/2	
51a	遺物集中Ⅱ		深鉢	口縁部	口縁：平縁（平坦～円頭状）、 外面：ナデ、内面：ナデ ［同一個体］	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む	外面炭化物付着	A4		4.0～7.2㎜	灰褐色	7.5YR4/2	灰褐色	7.5YR5/2	第45図14・15
51b	遺物集中Ⅱ										4.7 ㎜					
52	遺物集中Ⅱ		深鉢	口縁部	口縁：平縁（平坦）、外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）わずかに含む		A4	やや摩滅	3.0～4.0㎜	灰黄褐色	10YR4/2	にぶい黄褐色	10YR5/3	第45図16
53	遺物集中Ⅱ		深鉢	口縁部	口縁：平縁（尖頭状）、外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、長石・石英ほか）含む		A4	やや摩滅	2.0～5.8㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	第45図17
54	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：平行沈線文（横位）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、石英ほか）わずかに含む		A4	やや摩滅	7.4 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR4/2	第45図19
55	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・黒色粒ほか）含む		A4		5.0 ㎜	灰黄褐色	10YR6/2	黄灰色	2.5Y5/1	
56	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、石英・黒色粒ほか）含む		A4	やや摩滅	(5.8㎜)	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	
57	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（摩滅）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）含む	外面被熱	A4	摩滅	(5.0㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/3	灰赤色	2.5YR5/2	
58	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：剥落	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）含む		A4	やや摩滅	(4.2㎜)	灰オリーブ色	5Y5/2	褐灰色	5YR5/1	
59	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む	外面被熱	A4		7.8 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	
60	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）含む	外面被熱	A4		5.5 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	褐色	7.5YR4/3	
61	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・褐色粒ほか）含む		A4		5.3 ㎜	褐灰色	7.5YR5/1	灰黄褐色	10YR5/2	
62	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：剥落	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）含む		A4	やや摩滅	(4.8㎜)	灰黄褐色	10YR5/2	暗灰黄色	2.5Y5/2	
63	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む		A4		6.1 ㎜	灰褐色	7.5YR6/2	灰黄褐色	10YR5/2	
64	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面:無文（ナデ）→小ハジケ、 内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、長石・石英ほか）多く含む	外面被熱	A4		7.4 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい褐色	7.5YR5/4	
65	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む		A4	やや摩滅	5.6 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	灰黄褐色	10YR4/2	
66	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面:無文（ナデ）→小ハジケ、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	6.3 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/3	
67	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・黒色粒ほか）含む		A4	やや摩滅	6.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
68	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む		A4	やや摩滅	7.8 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい橙色	7.5YR6/4	
69	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：剥落	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）わずかに含む		A4		4.6 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/4	灰黄褐色	10YR5/2	
70	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ　擦痕）→小剥落、内面：剥落	含む	砂粒（～3㎜、黒色粒ほか）含む		A4	やや摩滅	(5.5㎜)	にぶい橙色	7.5YR6/4	灰黄褐色	10YR5/2	
71	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、石英・長石ほか）含む		A4		7.5 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい橙色	5YR6/4	
72	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石・黒色粒ほか）含む		A4		6.7 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい橙色	7.5YR6/4	
73	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）→小剥落、 内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、長石ほか）含む		A4	やや摩滅	6.1 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
74	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む		A4		8.1 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	褐色	7.5YR4/3	
75	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	(6.6㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい赤褐色	5YR5/4	
76	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：剥落、 内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、灰褐色粒ほか）含む		A4	摩滅	(4.5㎜)	灰褐色	7.5YR5/2	灰褐色	7.5YR5/2	
77	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：剥落、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）多く含む		A4	摩滅	(5.0㎜)	灰褐色	7.5YR5/2	灰褐色	7.5YR5/2	
78	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：剥落、 内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む		A4		4.5 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/4	にぶい黄橙色	10YR6/4	
79	遺物集中Ⅱ付近	表採	深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	8.1 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	灰黄褐色	10YR5/2	
80	遺物集中Ⅱ周辺	表採	深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石・石英ほか）含む		A4		4.6 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい黄褐色	10YR5/4	
81	遺物集中Ⅱ周辺	表採	深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A4		7.3 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	

第2表　土器観察表（4）

番号	出土区	遺構・層位	器種		文様・調整	胎土		備考	分類	遺存状況	器厚	色調				原寸図
						繊維	その他					外面		内面		
遺物集中Ⅱ（第 20 ～ 22 図、写真図版 17 下・18 上）																
82	遺物集中Ⅱ付近	表採	深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 1 ㎜、長石・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	5.7 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	暗灰黄色	2.5Y4/2	
	遺物集中Ⅱ付近	表採									6.2 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	にぶい黄褐色	10YR4/3	
83	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：剥落、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A4	摩滅	(4.4 ㎜)	灰褐色	5YR5/2	黒褐色	2.5Y3/1	
84	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 1 ㎜、長石ほか）含む	外面被熱	A4		7.0 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	にぶい赤褐色	5YR5/4	
85	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英・暗赤褐色粒ほか）含む	外面被熱	A4		4.3 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
86	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	7.1 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR6/3	
87	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石ほか）含む	外面被熱	A4		7.3 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	褐灰色	7.5YR5/1	
88	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面:無文（ナデ）→小ハジケ、内面：ナデ→小ハジケ、	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英・黒色粒ほか）含む		A4		7.5 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい褐色	7.5YR5/4	
89	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：無文（ケズリ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 4 ㎜、長石・石英・赤褐色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	6.5 ㎜	にぶい橙色	5YR6/3	褐灰色	10YR5/1	
90	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：無文（ケズリ→ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 4 ㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む	内面炭化物付着	A4	やや摩滅	9 ～ 10 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	
91	遺物集中Ⅱ南西		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 1 ㎜、長石ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	7.1 ㎜	明赤褐色	2.5YR5/6	にぶい褐色	7.5YR5/4	
92	遺物集中Ⅱ		深鉢	底部近く	外面：無文（ケズリ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	8.5 ～ 9.5 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	暗オリーブ色	7.5Y4/3	
93	遺物集中Ⅱ		深鉢	底部近く	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、石英・長石ほか）含む		A4	やや摩滅	7 ～ 8 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
94	遺物集中Ⅱ		深鉢	底部近く	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 1 ㎜、長石・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	4.9 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい黄褐色	10YR5/3	
95	遺物集中Ⅱ		深鉢	底部近く	外面：無文（ナデ）、内面：剥落	含む	砂粒（～ 4 ㎜、石英・長石ほか）含む		A4	やや摩滅	(12.0 ㎜)	暗灰黄色	2.5Y5/2	暗灰黄色	2.5Y5/2	
96	遺物集中Ⅱ		深鉢	底部近く	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、石英・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	8.5 ㎜	明赤褐色	2.5YR5/6	にぶい赤褐色	5YR5/4	
97	遺物集中Ⅱ		深鉢	底部近く	外面：無文（ナデ→ミガキ）→小ハジケ、内面：ナデ	わずかに含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む	内面炭化物付着	A4	やや摩滅	6 ～ 7 ㎜	にぶい黄色	2.5Y6/3	黄灰色	2.5Y4/1	
98a	遺物集中Ⅱ		深鉢	底部近く	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、黒色・長石ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	7.5 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい褐色	7.5YR5/4	
98b	遺物集中Ⅱ		深鉢		［同一個体］					やや摩滅	7.4 ㎜	明赤褐色	2.5YR5/6	にぶい褐色	7.5YR5/4	
99	遺物集中Ⅱ		深鉢	底部	底面：平底（ナデ）、外面：無文（ナデ）、内面：剥落	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	(6.8 ㎜)	にぶい赤褐色	5YR5/4	褐灰色	7.5YR5/1	
100	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英・ほか）含む		A4	やや摩滅	6.8 ㎜	灰黄褐色	10YR5/2	褐灰色	10YR5/1	
101	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴部	外面：貝殻条痕、内面（ミガキ）	含まない	砂粒（～ 3 ㎜、長石ほか）含む		B1		6.7 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	灰黄褐色	10YR5/2	
102	遺物集中Ⅱ		壺	胴下部	外面：無文（ミガキ）、内面：ナデ	含まない	砂粒（～ 2 ㎜、長石ほか）多く含む		B2		5.6 ㎜	褐色	7.5YR4/3	にぶい赤褐色	5YR5/3	
103	遺物集中Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：無文（ミガキ／縦位）→ハジケ、内面：ナデ	含まない	砂粒（～ 3 ㎜、石英・長石ほか）含む		B2	やや摩滅	8.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	にぶい黄橙色	10YR6/3	
104	遺物集中Ⅱ		深鉢	底部	底面：平底（ナデ）、内面：剥落	含まない	砂粒（～ 3 ㎜、石英ほか）含む		B2	やや摩滅	(8.6㎜)	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい褐色	7.5YR5/4	
遺物集中Ⅲ（第 23・24 図、写真図版 18 下・19 上）																
1	遺物集中Ⅲ		深鉢	口縁部	口縁：平縁、外面：押型文（重層山形文）+ 平行沈線文(横位)、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英・長石ほか）含む		A1-1		5.9 ㎜	灰黄褐色	10YR4/2	灰褐色	7.5YR4/2	第 44 図 2
2	遺物集中Ⅲ		深鉢	口縁部	口縁：平縁（指頭状圧痕）、外面：縄文（LR 0 段多条）+ 平行沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英・黒色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	5.7 ㎜	にぶい赤褐色	5YR4/4	にぶい赤褐色	5YR4/4	第 45 図 5
3	遺物集中Ⅲ周辺	表採	深鉢	口縁部	口縁:平縁、外面:縄文（LR ?）+ 平行沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	4.9 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい橙色	7.5YR6/4	第 45 図 10
4	遺物集中Ⅲ		深鉢	口縁部	口縁：平縁、外面：縄文（RL 0 段多条）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 1 ㎜、長石・黒色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	5.7 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	明赤褐色	5YR5/6	第 45 図 11
5	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴上部	外面:非結束羽状縄文(LR,RL)+ 平湖沈線文（横位）、内面：ミガキ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英・長石・赤褐色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	6.5 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	褐色	7.5YR4/4	
6	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴上部	外面:非結束羽状縄文(LR,RL)+ 沈線文（横位）、内面：ナデ→ミガキ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	6.1 ㎜	にぶい赤褐色	5YR4/4	褐色	7.5YR4/3	
7	遺物集中Ⅲ周辺	表採	深鉢	胴部	外面：非結束羽状縄文（RL,LR 0 段多条）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	7.2 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/4	にぶい赤褐色	5YR5/4	
8	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴部	外面:非結束羽状縄文(LR,RL)、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、石英・長石・黒色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	7.6 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	黒褐色	7.5YR3/2	

第 2 表　土器観察表（5）

番号	出土区	遺構・層位	器種		文様・調整	胎土		備考	分類	遺存状況	器厚	色調				原寸図
						繊維	その他					外面		内面		
遺物集中Ⅲ（第 23・24 図、写真図版 18 下・19 上）																
9	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴下部	外面:非結束羽状縄文（LR,RL）、内面：ミガキ→ミガキ	含む	砂粒（～5㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	6.3 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/4	黒褐色	10YR3/2	
10	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴部	外面：非結束羽状縄文（LR,RL）→剥落、内面：ナデ→ミガキ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	8.3 ㎜	灰黄褐色	10YR4/2	にぶい黄褐色	10YR4/3	
11	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴部	外面:非結束羽状縄文（LR,RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	8.1 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	黒褐色	10YR3/1	
12	遺物集中Ⅲ周辺	表採	深鉢	胴部	外面:非結束羽状縄文（LR,RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む		A3		6.4 ㎜	灰黄褐色	10YR5/2	灰黄褐色	10YR4/2	
13	遺物集中Ⅲ周辺	表採	深鉢	胴部	外面:非結束羽状縄文（RLR,LRL 0 段多条）、内面：剥落	含む	砂粒（～3㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	7.2 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	灰褐色	7.5YR5/2	
14	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴部	外面：非結束羽状縄文（LRL,RLR ？ 1 段多条）、内面：ナデ→粗いミガキ	含む	砂粒（～2㎜、褐色粒・赤褐色粒ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	7.2 ㎜	橙色	7.5YR6/6	にぶい黄橙色	10YR6/4	
15	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴部	外面:縄文(RL)+沈線文(横位)、内面：剥落	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）含む	外面被熱	A3		(3.3㎜)	明赤褐色	5YR5/6	にぶい褐色	7.5YR5/3	
16	遺物集中Ⅲ周辺	表採	深鉢	胴部	外面:縄文(LR)+沈線文(縦位)、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石ほか）含む		A3	やや摩滅	8.0 ㎜	黄灰色	2.5Y4/1	灰オリーブ色	7.5Y5/2	
17	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴下部	外面：縄文（LR）？、内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	(5.8㎜)	明赤褐色	5YR5/6	灰黄褐色	10YR4/2	
18	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴下部	外面：縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、赤褐色粒・長石ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	(6.3㎜)	にぶい黄褐色	10YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
19	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英・赤褐色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	6.7 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	褐色	7.5YR4/3	
20	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	(3.6㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	暗褐色	7.5YR3/4	
21	遺物集中Ⅲ付近	表採	深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石・黒色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	6.7 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい赤褐色	5YR5/4	
22	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・黒色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	6.5 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	灰褐色	5YR5/2	
23	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴下部	外面：縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、長石・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	7.3 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
24	遺物集中Ⅲ北西		深鉢	胴下部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）含む	外面被熱	A3		(5.5㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
25	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石・黒色粒ほか）含む		A3		6.7 ㎜	にぶい赤褐色	2.5YR4/3	黒褐色	10YR3/2	
26	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴下部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ→ミガキ	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）わずかに含む	外面被熱	A3	やや摩滅	5.9 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	黄灰色	2.5Y5/1	
27	遺物集中Ⅲ周辺	表採	深鉢	底部近く	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	7.3 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	
28	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）？、内面：剥落	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）わずかに含む		A3	やや摩滅	(6.0㎜)	暗灰黄色	2.5Y4/2	灰黄褐色	10YR5/2	
29	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴下部	外面：縄文（RL1）、内面：ケズリ→ナデ	含む	砂粒（～3㎜、石英・長石ほか）多く含む	外面被熱	A3		7.4 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/4	黒褐色	10YR3/2	
30	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴下部	外面：縄文（RL1）、内面：ナデ	含む	砂粒（～4㎜、石英、赤褐色粒ほか）含む	外面被熱	A3		7.5 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	黒褐色	10YR3/2	
31	遺物集中Ⅲ北西		深鉢	口縁部	口縁：平縁（尖頭状、上縁に斜位刻目文）、外面:沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）含む		A4	やや摩滅	2.0～4.7㎜	暗褐色	7.5YR3/3	黒褐色	7.5YR3/2	
32	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴部	外面：平行沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～4㎜、黒色粒・長石ほか）含む		A4	やや摩滅	6.2 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい橙色	7.5YR6/4	
33	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：剥落	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）わずかに含む		A4	やや摩滅	(4.8㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	黄褐色	2.5Y5/3	
34	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、褐色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	(5.7㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR5/2	
35	遺物集中Ⅲ北西		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	5.8 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/3	黒褐色	7.5YR3/2	
36	遺物集中Ⅲ北西		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	5.4 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	灰褐色	5YR5/2	
37	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、黒色粒・石英・長石ほか）含む		A4	やや摩滅	8.7 ㎜	橙色	5YR6/6	橙色	5YR6/6	
38	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A4		6.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR4/2	
39	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A4		8.8 ㎜	橙色	5YR6/6	黒褐色	7.5YR3/1	
40	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む		A4	やや摩滅	6.8 ㎜	明赤褐色	2.5YR5/6	にぶい赤褐色	5YR5/4	
41	遺物集中Ⅲ		深鉢	底部近く	外面：剥落、内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む	被熱	A4	やや摩滅	(4.9㎜)	にぶい赤褐色	5YR4/4	黄褐色	10YR5/6	
42	遺物集中Ⅲ周辺	表採	深鉢	胴下部	外面：ナデ→貝殻条痕文、内面：ミガキ	含まない	砂粒（～3㎜、長石ほか）含む		B1	やや摩滅	7.7 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
43	遺物集中Ⅲ		深鉢	胴下部	外面：縄文（RL1）、内面：ナデ	含まない	砂粒（～5㎜、赤褐色粒・黒色粒・長石ほか）含む	外面被熱	B2	やや摩滅	10.4 ㎜	にぶい橙色	5YR6/4	にぶい黄橙色	10YR6/3	

第 2 表　土器観察表（6）

番号	出土区	遺構・層位	器種		文様・調整	胎土		備考	分類	遺存状況	器厚	色調				原寸図
						繊維	その他					外面		内面		
遺物集中Ⅲ（第 23・24 図、写真図版 18 下・19 上）																
44	遺物集中Ⅲ		土製品？		表面：多重平行沈線文、背面：無文（ナデ）	わずかに含む	砂粒（～5㎜、長石ほか）わずかに含む				4.8 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい橙色	7.5YR6/4	
遺物集中Ⅳ（第 25 ～ 27 図、写真図版 19 下・20 上）																
1	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：押型文（重層山形文）→沈線文→押型文（平行線状文）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石ほか）わずかに含む	外面被熱	A1-1.3	やや摩滅	9.1 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	暗灰黄色	2.5Y4/2	第 44 図 17
2	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：押型文（重層山形文）、内面：ミガキ	含む	砂粒（～3㎜、長石ほか）含む		A1-1		7.7 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	灰黄褐色	10YR5/2	第 44 図 9
3	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：押型文（重層山形文）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む	外面被熱	A1-1	やや摩滅	9.2 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい黄褐色	10YR5/3	第 44 図 10
4	遺物集中Ⅳ	表土	深鉢	胴部	外面：押型文（重複菱形文）、内面：ナデ→小剥落	含む	砂粒（～2㎜、石英・黒色粒ほか）含む		A1-2	やや摩滅	8.2 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	第 44 図 15
5	遺物集中Ⅳ	表採	深鉢	胴部	外面：押型文（平行線状文）、内面：ミガキ	わずかに含む	砂粒（～1㎜、石英ほか）わずかに含む		A1-3	やや摩滅	8.4 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい褐色	7.5YR5/3	第 44 図 16
6	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：押型文（平行線状文）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英・暗褐色粒ほか）含む		A1-3		7.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい赤褐色	5YR5/4	第 44 図 18
7	遺物集中Ⅳ	表採	深鉢	胴部	外面：押型文（平行線状文）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石・黒色粒ほか）含む		A1-3	やや摩滅	7.5 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい橙色	7.5YR6/4	第 44 図 19
8	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：魚骨回転文＋沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A2		6.6 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/3	第 44 図 24
9	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：魚骨回転文、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A2	やや摩滅	7.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	黒褐色	7.5YR3/2	第 44 図 22
10	遺物集中Ⅳ北東		深鉢	胴部	外面：魚骨回転文、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石・黒色粒ほか）含む		A2	やや摩滅	5.6 ㎜	灰黄褐色	10YR5/2	褐灰色	10YR4/1	第 44 図 26
11	遺物集中Ⅳ		深鉢	底部近く	外面：魚骨回転文？、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A2？		7.5 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR4/2	第 44 図 27
12	遺物集中Ⅳ		深鉢	口縁部	口縁：平縁（外縁に斜位刻目文）、外面：縄文（RL ？）＋平行沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石・黒色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	7.2 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい黄褐色	10YR5/4	第 45 図 3
13	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：交差状縄文（RL/ 横位、RL/ 縦位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石・黒色粒ほか）わずかに含む	外面被熱	A3	やや摩滅	5.9 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	灰黄褐色	10YR5/2	
14	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：交差状縄文（RL/ 横位、RL/ 縦位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む		A3	やや摩滅	7.1 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい橙色	7.5YR6/4	
15	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR 0 段多条）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石・黒色粒ほか）含む		A3		6.5 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	褐灰色	10YR4/1	
16	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：縄文（LR 0 段多条）→小剥落、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、石英ほか）含む	内面炭化物付着	A3		8.9 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	褐色	7.5YR4/3	
17	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英・赤褐色粒ほか）含む		A3		7.9 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	
18	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A3		7.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR5/2	
19	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石・石英・赤褐色粒ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	6.1 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/3	にぶい褐色	7.5YR5/4	
20	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：縄文（LR ？）→小剥落、内面：ナデ→小剥落	含む	砂粒（～3㎜、長石・石英ほか）多く含む		A3		5.6 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい赤褐色	5YR5/4	
21	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL 0 段多条）、外面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、黒色粒・赤褐色粒・長石ほか）含む	外面被熱	A3		6.2 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR5/2	
22	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：縄文（RL 0 段多条）、内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	(4.5 ㎜)	明赤褐色	5YR5/6	にぶい褐色	7.5YR5/3	
23	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石ほか）わずかに含む	外面被熱	A3		6.8 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい黄褐色	10YR5/3	
24	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む		A3		(5.2 ㎜)	にぶい橙色	7.5YR6/4	褐色	7.5YR4/3	
25	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・黒色粒ほか）含む		A3		5.6 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	にぶい黄褐色	10YR5/3	
26	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石・石英ほか）含む		A3	やや摩滅	7.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/3	
27	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、石英・長石ほか）含む	外面被熱	A3		7.1 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
28	遺物集中Ⅳ付近	表採	深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	6.1 ㎜	暗灰黄色	2.5Y4/2	黄褐色	2.5Y5/3	
29	遺物集中Ⅳ付近	表採	深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ→剥落	含む	砂粒（～1㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	5.6 ㎜	灰黄褐色	10YR4/2	オリーブ褐色	2.5Y4/3	
30	遺物集中Ⅳ	表土	深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ミガキ→小剥落	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む		A3	やや摩滅	6.1 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
31	遺物集中Ⅳ	表土	深鉢	胴下部	外面：縄文（RL）、内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A3		(6.3 ㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/3	
32	遺物集中Ⅳ北西		深鉢	底部近く	外面:縄文（LRL 0 段多条）？、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	7.5 ㎜	にぶい赤褐色	5YR4/4	にぶい褐色	7.5YR5/3	
33	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：縄文（LRL）、内面：剥落	わずかに含む	砂粒（～2㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む		A3		(5.7 ㎜)	にぶい黄褐色	10YR5/3	黄灰色	2.5Y4/1	
34	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：縄文（RLR）→小剥落、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英・赤褐色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	7.7 ㎜	橙色	7.5YR6/6	橙色	7.5YR6/6	

第 2 表　土器観察表（7）

番号	出土区	遺構・層位	器種		文様・調整	胎土		備考	分類	遺存状況	器厚	色調				原寸図
						繊維	その他					外面		内面		
遺物集中Ⅳ（第 25 ～ 27 図、写真図版 19 下・20 上）																
35	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、灰褐色粒・長石ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	6.2 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
36	遺物集中Ⅳ		深鉢	底部近く	外面：縄文（RL,LR）、 内面：剥落	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	(8.0㎜)	橙色	5YR6/6	にぶい褐色	7.5YR5/3	
37	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：摩滅	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	(5.9㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/3	
38	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：摩滅	含む	砂粒（～1㎜、長石・石英ほか）わずかに含む		A4		5.3 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい褐色	7.5YR5/3	
39	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英ほか）わずかに含む		A4		6.7 ㎜	灰黄褐色	10YR5/2	にぶい褐色	7.5YR5/3	
40	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む		A4		5.5 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	灰褐色	7.5YR5/2	
41	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石ほか）含む		A4		5.7 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰褐色	7.5YR5/2	
42	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	7.8 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい黄褐色	10YR5/3	
43	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：剥落	含む	砂粒（～1㎜、長石・黒色粒ほか）わずかに含む	外面被熱	A4		(2.5㎜)	橙色	7.5YR6/6	にぶい橙色	7.5YR6/4	
44	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ） →粗いミガキ、 内面：ナデ→粗いミガキ	含む	砂粒（～2㎜、石英ほか）含む		A4		7.2 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい褐色	7.5YR5/4	
45	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石ほか）含む		A4		6.8 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	褐色	7.5YR4/3	
46	遺物集中Ⅳ	表土	深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英ほか）含む		A4	やや摩滅	(7.9㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/3	にぶい褐色	7.5YR5/3	
47	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、長石ほか）含む		A4	やや摩滅	(5.9㎜)	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	
48	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：沈線文（横位）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石ほか）わずかに含む		A4		5.6 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/3	
49	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）→小剥落、 内面：剥落	わずかに含む	砂粒（～1㎜、長石・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	(5.1㎜)	明赤褐色	5YR5/6	明赤褐色	5YR5/6	
50	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：剥落	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）含む		A4	やや摩滅	(5.9㎜)	褐灰色	7.5YR4/1	灰黄褐色	10YR5/2	
51	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	わずかに含む	砂粒（～1㎜、長石・黒色粒ほか）含む		A4		(4.3㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR5/2	
52	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石ほか）わずかに含む	外面被熱	A4	やや摩滅	6.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR5/2	
53	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）→小剥落、 内面：ナデ→小剥落	含む	砂粒（～2㎜、石英ほか）含む	外面被熱	A4		8.4 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい橙色	7.5YR6/4	
54	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）→剥落、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A4		6.8 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	灰黄褐色	10YR4/2	
55	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、 内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、長石・赤褐色粒・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	(6.6㎜)	にぶい赤褐色	5YR5/4	にぶい赤褐色	5YR5/3	
56	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む		A4	やや摩滅	7.7 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰褐色	7.5YR4/2	
57	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、灰褐色粒・長石ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	8.6 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	褐色	7.5YR4/3	
58	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	(8.3㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	暗褐色	7.5YR3/3	
59	遺物集中Ⅳ周辺	表採	深鉢	胴下部	外面：著しい小剥落、 内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	7.0 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい赤褐色	5YR5/4	
60	遺物集中Ⅳ		深鉢	底部近く	外面：無文（ケズリ→ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～4㎜、長石・赤褐色粒ほか）多く含む	外面被熱	A4	やや摩滅	9 ～ 10 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	黒褐色	10YR3/1	
61	遺物集中Ⅳ		深鉢	底部近く	外面：無文（ナデ）、 内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、石英・長石ほか）含む		A4	やや摩滅	8.7 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
62	遺物集中Ⅳ		深鉢	底部近く	外面：無文（ナデ）、 内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、長石ほか）含む		A4	やや摩滅	(6.2㎜)	にぶい橙色	7.5YR6/4	灰黄褐色	10YR5/2	
63	遺物集中Ⅳ		深鉢	底部近く	外面：無文（ナデ）、 内面：剥落	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	8.7㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい橙色	5YR6/3	
64	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：摩滅	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	(3.9㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰褐色	7.5YR5/2	
65	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：摩滅	含む	砂粒（～2㎜、石英ほか）含む		A4	やや摩滅	(5.4㎜)	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	
66	遺物集中Ⅳ	表土	深鉢	胴部	外面：剥落、 内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英ほか）含む		A	やや摩滅	(5.3㎜)	黒褐色	10YR3/2	灰黄褐色	10YR4/2	
67	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、 内面：摩滅	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）わずかに含む		A4	やや摩滅	(5.4㎜)	黄灰色	2.5Y4/1	褐灰色	7.5YR5/1	
68	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（刷毛目状のナデ）、 内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、長石ほか）含む		A4	やや摩滅	(8.7㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰褐色	5YR6/2	
69	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面:貝殻条痕文→沈線（凹線）文、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、灰褐色粒・長石ほか）含む	外面被熱	A6	やや摩滅	7 ～ 8㎜	にぶい橙色	5YR6/4	にぶい黄橙色	10YR6/4	
70	遺物集中Ⅳ	表土	深鉢	胴部	外面：縄文（LR）→小剥落、 内面（ナデ）→小剥落	わずかに含む	砂粒（～3㎜、長石・石英・赤褐色粒ほか）含む		A7	摩滅	10.0 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	

第 2 表　土器観察表（8）

番号	出土区	遺構・層位	器種		文様・調整	胎土		備考	分類	遺存状況	器厚	色調				原寸図
						繊維	その他					外面		内面		
遺物集中Ⅳ（第 25 ～ 27 図、写真図版 19 下・20 上）																
71	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面（ケズリ→ナデ）	含まない	砂粒（～4㎜、長石・黒色粒・赤褐色粒ほか）含む		B2		8.0 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/3	灰黄褐色	10YR5/2	
72	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL1）、内面（ナデ）	含まない	砂粒（～3㎜、長石・石英ほか）多く含む		B2		10.4 ㎜	暗灰黄色	2.5Y5/2	灰黄褐色	10YR4/2	
73	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ミガキ（縦位）	含まない	砂粒（～2㎜、石英ほか）わずかに含む	外面被熱	B2		8.2 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR4/2	
74	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ミガキ）、内面：ナデ→ミガキ	含まない	砂粒（～3㎜、長石・石英ほか）含む		B2		8.8 ㎜	暗灰黄色	2.5Y5/2	にぶい黄褐色	10YR5/3	
75	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：剥落	含まない	砂粒（～2㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む		B2		(5.7 ㎜)	にぶい赤褐色	5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/3	
76	遺物集中Ⅳ付近		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含まない	砂粒（～3㎜、長石・石英ほか）多く含む	外面被熱	B2	やや摩滅	6.7 ㎜	にぶい赤褐色	5YR4/3	にぶい褐色	7.5YR5/4	
77	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含まない	砂粒（～5㎜、黒色粒・赤褐色粒ほか）多く含む	外面被熱	B2		9.6 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	
78	遺物集中Ⅳ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含まない	砂粒（～5㎜、赤褐色粒・黒色粒・長石ほか）含む		B2	やや摩滅	10.1 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	黄灰色	2.5Y5/1	
その他　調査区・試掘トレンチ（第 28 ～ 30 図、写真図版 20 下・21）																
1	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：押型文（重層山形文：原体直径 0.9 ㎝、原体長さ 3.8 ㎝以上）、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、長石、石英・黒色粒ほか）多く含む		A1-1	やや摩滅	8.5 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/3	第 44 図 8
2	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：押型文（重層山形文）、内面：ナデ？	含む	砂粒（～3㎜、石英・長石ほか）含む		A1-1	やや摩滅	6.5 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	灰黄褐色	10YR4/2	第 44 図 4
3	13 トレンチ		深鉢	胴部	外面：押型文（重層山形文）、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、石英・長石ほか）含む		A1-1	やや摩滅	9.9 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい黄褐色	10YR5/3	第 44 図 11
4	14 トレンチ		深鉢	胴下部	外面：押型文（重層山形文）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石ほか）含む	外面被熱	A1-1	やや摩滅	7.9 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR4/2	第 44 図 14
5	調査区Ⅱ		深鉢	口縁部	口縁：平縁（外縁に斜位刻目文）、縄文（LR ？）+ 平行沈線文（横位）、内面：ナデ（縦位）	含む	砂粒（～2㎜、石英・赤褐色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	7.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	第 45 図 1
6	10 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）+ 平行沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む		A3	やや摩滅	6.8 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	褐灰色	7.5YR6/1	
7	13 トレンチ		深鉢	胴下部	外面：縄文（LR ？）+ 沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石ほか）含む		A3	やや摩滅	6.3 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい褐色	7.5YR5/4	
8	14 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR　0 段多条）+ 沈線文（横位）、内面：剥落	含む	砂粒（～3㎜、長石・石英ほか）含む		A3	やや摩滅	(4.0 ㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰褐色	5YR6/2	
9	調査区Ⅰ		深鉢	胴部	外面：非結束羽状縄文（LR,RL）+ 沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む		A3		6.0 ㎜	暗灰黄色	2.5Y5/2	灰黄色	2.5Y6/2	
10	14 トレンチ		深鉢	胴部	外面：非結束羽状縄文（LR,RL 0 段多条）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石ほか）含む		A3		9.1 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	灰黄褐色	10YR5/2	
11	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：非結束羽状縄文（LR,RL）、内面：ナデ→ミガキ（縦位）	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	6.4 ㎜	橙色	5YR6/8	灰褐色	7.5YR5/2	
12	13 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR 0 段多条　縦位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）含む		A3	やや摩滅	8.9 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい黄褐色	10YR5/3	
13	14 トレンチ		深鉢	胴下部	外面：縄文（LR 0 段多条）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	7.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい黄橙色	10YR6/3	
14	11 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR 0 段多条）、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、長石・石英ほか）含む		A3	やや摩滅	5.6 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
15	調査区Ⅲ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、石英・褐色粒ほか）含む		A2	やや摩滅	6.1 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	
16	調査区Ⅲ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）→ナデ、内面：ナデ	含む	砂粒（～1㎜、長石ほか）わずかに含む		A3	やや摩滅	7.2 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR4/2	
17	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：浅い縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、石英・長石ほか）含む		A3	やや摩滅	7.8 ㎜	灰褐色	7.5YR4/2	にぶい褐色	7.5YR5/3	
18	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英・長石ほか）わずかに含む		A3	やや摩滅	5.8 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	暗灰黄色	2.5Y5/2	
19	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～5㎜、暗褐色粒ほか）わずかに含む		A3	やや摩滅	6.0 ㎜	灰黄褐色	10YR5/2	灰黄褐色	10YR5/2	
20	12 トレンチ		深鉢	底部近く	外面：縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	8.3 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/3	灰黄褐色	10YR4/2	
21	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、石英ほか）含む		A3	やや摩滅	(5.6 ㎜)	明赤褐色	5YR5/6	にぶい黄褐色	10YR5/4	
22	調査区Ⅱ		深鉢	底部近く	外面：縄文（LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石ほか）含む		A3	やや摩滅	7.6 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	灰黄褐色	10YR4/2	
23	12 トレンチ付近	表採	深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：剥落	含む	砂粒（～3㎜、石英ほか）含む		A3		(3.7 ㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	褐色	7.5YR4/3	
24	調査区Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR）、内面：剥落	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む		A3		(6.8 ㎜)	にぶい赤褐色	5YR5/4	褐色	7.5YR4/3	
25a	14 トレンチ		深鉢	胴下部	外面：縄文（RL ？）、内面：ナデ	含む	砂粒（～3㎜、石英・長石ほか）含む	外面炭化物付着	A3	やや摩滅	7.8 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰褐色	7.5YR4/2	
25b	14 トレンチ			胴下部							7.2 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/4	黄灰色	2.5Y4/1	
26	調査区Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：縄文（LR ？）、内面：ナデ	含む	砂粒（～2㎜、長石・石英ほか）多く含む		A3 ？	やや摩滅	7.5 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	褐色	7.5YR4/3	

第 2 表　土器観察表（9）

番号	出土区	遺構・層位	器種		文様・調整	胎土		備考	分類	遺存状況	器厚	色調				原寸図
						繊維	その他					外面		内面		
その他　調査区・試掘トレンチ（第 28 ～ 30 図、写真図版 20 下・21）																
27	14 トレンチ		深鉢	胴下部	外面：縄文（RL,LR）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英・長石ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	8.4 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	にぶい赤褐色	5YR5/4	
28	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR ？）、内面：剥落	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	(4.6 ㎜)	明赤褐色	5YR5/6	にぶい褐色	7.5YR5/3	
29	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（LRr）、内面：ナデ？	含む	砂粒（～ 3 ㎜、石英・長石・赤褐色粒）含む		A3	やや摩滅	7.6 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい橙色	2.5YR6/3	
30	調査区Ⅲ		深鉢	胴部	外面：縄文（LRr）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む		A3		7.8 ㎜	褐色	7.5YR4/3	にぶい赤褐色	5YR5/4	
31	調査区Ⅰ付近	表採	深鉢	胴部	外面：縄文（LRL 0 段多条）、内面：ナデ→ミガキ	含む	砂粒（～ 5 ㎜、石英・灰褐色粒・赤褐色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	6.7 ㎜	黄灰色	2.5Y4/1	灰褐色	7.5YR5/2	
32	調査区Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（LRL）、内面：剥落	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石ほか）含む		A3	やや摩滅	(6.0 ㎜)	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい黄褐色	10YR5/3	
33	10 トレンチ周辺	表採	深鉢	胴下部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ→粗いミガキ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、長石ほか）含む		A3	やや摩滅	8.8 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい褐色	7.5YR5/4	
34	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ（横位）	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英ほか）わずかに含む		A3	やや摩滅	7.1 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
35	12 トレンチ		深鉢	胴下部	外面：縄文（RL 0 段多条）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英・長石ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	5.9 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい黄褐色	10YR4/3	
36	調査区Ⅲ		深鉢	胴部	外面：非結束羽状縄文（LR,RL 0 段多条）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 1 ㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	5.5 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい褐色	7.5YR5/3	
37	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ、小剥落	含む	砂粒（～ 3 ㎜、石英・長石ほか）含む		A3	やや摩滅	9.1 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
38	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、長石・石英ほか）わずかに含む	外面被熱	A3	やや摩滅	6.5 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	灰黄褐色	10YR5/2	
39	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 1 ㎜）わずかに含む		A3	やや摩滅	5.8 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい黄橙色	10YR6/3	
40	調査区Ⅲ		深鉢	胴下部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	7.2 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/3	
41	調査区Ⅱ		深鉢	底部近く	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、黒色粒ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	7.3 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい黄褐色	10YR5/3	
42	調査区Ⅱ周辺	表採	深鉢	胴部	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・黒色粒ほか）含む		A3	やや摩滅	7.0 ㎜	にぶい赤褐色	5YR4/4	褐色	7.5YR4/3	
43	調査区Ⅱ		深鉢	底部近く	外面：横走縄文（RL）→剥落、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石ほか）含む	外面被熱	A3		8.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
44	調査区Ⅱ		深鉢	底部近く	外面：縄文（RL）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・暗褐色粒ほか）含む	外面被熱	A3		8.1 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	褐色	7.5YR4/3	
45	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL ？）、内面：剥落	含む	砂粒（～ 3 ㎜、石英・長石ほか）含む		A3	やや摩滅	(6.7 ㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/3	
46	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL ？）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英・長石ほか）含む		A3	やや摩滅	7.1 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR6/3	
47	調査区Ⅲ		深鉢	胴下部	外面：縄文（RL1）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A3	やや摩滅	7.7 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	暗褐色	7.5YR3/3	
48	調査区Ⅰ付近	表採	深鉢	口縁部	口縁：平縁（外縁に斜位刻目文）、外面：無文（ケズリ→ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、長石・黒色粒・赤褐色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	8.4 ㎜	灰黄褐色	10YR4/2	暗褐色	7.5YR3/4	第 45 図 12
49	10 トレンチ		深鉢	口縁近く	平行沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英ほか）含む		A4	やや摩滅	5 ～ 7.3 ㎜	橙色	7.5YR6/6	にぶい橙色	5YR6/3	第 45 図 18
50	12 トレンチ		深鉢	胴下部	外面：平行沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、長石・黒色粒ほか）多く含む	外面被熱	A4	やや摩滅	7.3 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	第 45 図 23
51	調査区Ⅲ		深鉢	胴部	外面：平行沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	6.8 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	暗褐色	7.5YR3/4	第 45 図 20
52	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：平行沈線文（横位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石ほか）わずかに含む		A4	やや摩滅	5.4 ㎜	にぶい赤褐色	5YR4/4	にぶい赤褐色	5YR4/4	第 45 図 24
53	12 トレンチ		深鉢	底部近く	外面：沈線文（横位）、内面：不明	含む	砂粒（～ 1 ㎜、石英ほか）わずかに含む		A4	やや摩滅	6.6 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	第 45 図 22
54	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：剥落	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英ほか）含む		A4	やや摩滅	(4.7 ㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい黄橙色	10YR6/4	
55	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：剥落	含む	砂粒（～ 1 ㎜、長石ほか）わずかに含む		A4	やや摩滅	(4.3 ㎜)	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい黄褐色	10YR5/4	
56	12 トレンチ付近	表採	深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	7.6 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい赤褐色	5YR5/3	
57	12 トレンチ付近	表採	深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）→小剥落、内面：ナデ→剥落	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	(6.4 ㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR5/2	
58	調査区Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、長石・石英ほか）含む		A4		6.8 ㎜	灰黄褐色	10YR5/2	にぶい褐色	7.5YR5/4	
59	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ / 縦位）、内面：ナデ（横位）	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英ほか）含む		A4	やや摩滅	5.8 ㎜	灰黄褐色	10YR4/2	にぶい黄褐色	10YR5/3	
60	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、長石・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	7.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/3	
61	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 1 ㎜、長石ほか）わずかに含む	外面被熱	A4	やや摩滅	6.7 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	褐色	7.5YR4/3	
62	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：剥落	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英・長石ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	(6.3 ㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい黄褐色	10YR5/3	

第 2 表　土器観察表(10)

番号	出土区	遺構・層位	器種		文様・調整	胎土		備考	分類	遺存状況	器厚	色調				原寸図
						繊維	その他					外面		内面		
その他　調査区・試掘トレンチ（第 28 ～ 30 図、写真図版 20 下・21）																
63	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ / 縦位）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、長石・石英・赤褐色粒）含む		A4	やや摩滅	8.0 ㎜	灰褐色	7.5YR4/2	灰黄褐色	10YR4/2	
64	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英・長石ほか）わずかに含む	外面被熱	A4	やや摩滅	8.9 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰褐色	5YR5/2	
65	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ→ミガキ）、内面：ナデ	わずかに含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	7.4 ㎜	にぶい赤褐色	5YR5/4	灰褐色	7.5YR4/2	
66	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面:無文（ナデ）→小ハジケ、内面：ナデ→小ハジケ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、長石・石英）を多く含む		A4	やや摩滅	8.5 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい赤褐色	5YR5/4	
67	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：剥落？	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英ほか）含む		A4	やや摩滅	(4.4 ㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい橙色	7.5YR6/4	
68	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：剥落？	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英ほか）含む		A4	やや摩滅	(5.5 ㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	黄褐色	10YR5/6	
69	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	わずかに含む	砂粒（～ 3 ㎜）含む		A3？	やや摩滅	4.9 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい橙色	7.5YR6/4	
70	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：無文（ハケメ状の条痕 / 縦位）、内面：ナデ（横位）	含む	やや軟質、砂粒（～ 1 ㎜）わずかに含む		A4	やや摩滅	7.0 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい橙色	7.5YR6/4	
71	9 トレンチ		深鉢	胴部	外面:無文（ナデ）→小ハジケ、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英ほか）含む	内面炭化物付着	A4	やや摩滅	8.0 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい褐色	7.5YR5/3	
72	9 トレンチ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	7.4 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/4	にぶい橙色	7.5YR6/4	
73	13 トレンチ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英・長石ほか）含む		A4	やや摩滅	7.6 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	灰黄褐色	10YR5/2	
74	調査区Ⅱ		深鉢	胴部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ→小剥落	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む		A4		6.0 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
75	12 トレンチ付近	表採	深鉢	胴下部	外面:無文（ハケメ状のナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、石英・長石ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	6.3 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	にぶい赤褐色	5YR5/4	
76	調査区Ⅲ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 1 ㎜、赤褐色粒ほか）わずかに含む	外面被熱	A4	やや摩滅	6.5 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
77	12 トレンチ		深鉢	胴下部	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英・長石ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	7.2 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	褐色	7.5YR4/3	
78	調査区Ⅱ		深鉢	胴下部	外面：無文（ミガキ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英・黒色粒ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	7.6 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰褐色	7.5YR4/2	
79	13 トレンチ		深鉢	胴下部	外面:無文（ハケメ状の条痕）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）多く含む		A4	やや摩滅	6.7 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	褐色	7.5YR4/3	
80	調査区Ⅲ付近	表採	深鉢	底部近く	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	A4		5 ～ 11 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	黒褐色	10YR3/1	
81	12 トレンチ		深鉢	底部近く	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英・長石・赤褐色）含む	内面炭化物付着	A4	やや摩滅	6 ～ 8 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰褐色	7.5YR4/2	
82	11 トレンチ		深鉢	底部近く	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英・長石ほか）含む	内面炭化物付着	A4	やや摩滅	6 ～ 8 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/3	黒褐色	10YR3/2	
83	調査区Ⅲ		深鉢	底部近く	外面：無文（ナデ）→小剥落、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、赤褐色粒・石英ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	6 ～ 7 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	黒褐色	10YR3/2	
84	12 トレンチ		深鉢	底部近く	外面:無文（ナデ）→小ハジケ、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	6.4 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰褐色	7.5YR5/2	
85	12 トレンチ付近	表採	深鉢	底部近く	外面:無文（ナデ）→小ハジケ、内面：不明	含む	砂粒（～ 1 ㎜、石英ほか）わずかに含む	外面被熱	A4	やや摩滅	6.9 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	褐色	7.5YR4/3	
86	12 トレンチ		深鉢	底部近く	外面:無文（ナデ）→小ハジケ、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 4 ㎜、長石・石英）を多く含む	内面炭化物付着	A4	やや摩滅	6 ～ 7 ㎜	明赤褐色	5YR5/6	灰褐色	7.5YR4/2	
87	12 トレンチ		深鉢	底部近く	外面：無文（ナデ）、内面：ナデ（横位）	含む	砂粒（～ 4 ㎜、石英・長石ほか）含む	外面被熱	A4	やや摩滅	9.0 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰黄褐色	10YR4/2	
88	12 トレンチ		深鉢	底部	底部:平底、外面:無文（ナデ）、内面：剥落	含む	砂粒（～ 4 ㎜、石英・黒色粒ほか）わずかに含む		A4	やや摩滅	(10.9 ㎜)	にぶい赤褐色	5YR5/4	にぶい黄橙色	10YR6/4	
89	10 トレンチ		深鉢	口縁近く	外面：縄文（LR）→沈線文（格子目→縦位）、内面：ナデ	わずかに含む	砂粒（～ 3 ㎜、石英ほか）含む		A5	やや摩滅	9.9 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/3	にぶい褐色	7.5YR5/4	第 45 図 26
90	調査区Ⅰ		深鉢	胴部	外面：貝殻腹縁文（横位）、内面：剥落	わずかに含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石ほか）含む		A5		(5.6 ㎜)	黄灰色	2.5Y5/1	灰黄褐色	10YR5/2	第 45 図 27
91	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：剥落、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石ほか）含む		A	やや摩滅	(6.0 ㎜)	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい褐色	7.5YR5/3	
92	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：剥落、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 1 ㎜、石英ほか）わずかに含む		A	やや摩滅	(2.6 ㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
93	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：小剥落、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 5 ㎜、長石・黒色粒ほか）多く含む		A	やや摩滅	8.5 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい褐色	7.5YR5/4	
94	調査区Ⅰ		深鉢	胴下部	外面：剥落、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 3 ㎜、長石ほか）含む	外面被熱	A	やや摩滅	(5.7 ㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	にぶい赤褐色	5YR5/4	
95	調査区Ⅱ		深鉢	胴部	外面：摩滅、内面：ナデ	含む	砂粒（～ 2 ㎜、長石ほか）含む		A		(5.5 ㎜)	にぶい褐色	7.5YR5/4	橙色	7.5YR6/6	
96	12 トレンチ付近	表採	深鉢	胴下部	外面：不明、内面：不明	含む	砂粒（～ 2 ㎜、石英ほか）わずかに含む	外面被熱	A	摩滅	(4.3 ㎜)	明赤褐色	5YR5/6	にぶい褐色	7.5YR5/3	
97	調査区Ⅱ		深鉢	胴部	外面：貝殻条痕文→貝殻腹縁文、内面：ミガキ	含まない	砂粒（～ 3 ㎜、長石・赤褐色粒ほか）含む		B1		9.0 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	暗灰黄色	2.5Y5/2	
98a	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR 横位帯状）、内面:ナデ→粗いミガキ（縦位）［同一個体］	含まない	砂粒（～ 5 ㎜、石英・長石・黒色粒ほか）含む		B2	やや摩滅	6.7 ㎜	にぶい黄褐色	10YR5/3	灰黄褐色	10YR5/2	
98b	11 トレンチ									やや摩滅	8.5 ㎜	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい黄橙色	10YR6/3	

第 2 表　土器観察表(11)

番号	出土区	遺構・層位	器種		文様・調整	胎土		備考	分類	遺存状況	器厚	色調				原寸図
						繊維	その他					外面		内面		
その他　調査区・試掘トレンチ（第 28 ～ 30 図、写真図版 20 下・21）																
99a	調査区Ⅰ		深鉢	口縁部近く～胴上部	外面：口縁部近く：無文、補修孔、 胴部：縄文（RL　横位帯状）、 内面：ナデ→粗いミガキ ［同一個体］	含む	砂粒（～ 8 ㎜、長石ほか）多く含む		B2		7.4 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/3	灰黄色	2.5Y6/2	
99b											8.1 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/3	黄灰色	2.5Y5/1	
99c	10 トレンチ周辺	表採									8.4 ㎜	灰黄褐色	10YR5/2	灰黄褐色	10YR5/2	
100	8 トレンチ		深鉢	胴下部	外面：縄文（RL 横位帯状）、 内面：ナデ→小ハジケ	含まない	砂粒（～ 4 ㎜、石英ほか）・海綿状骨針含む		B2	やや摩滅	8.2 ㎜	にぶい黄橙色	10YR6/3	灰黄褐色	10YR5/2	
101	10 トレンチ		深鉢	胴部	外面：縄文（RL　横位帯状）、 →粗いミガキ、 内面:ナデ（ヘラ状工具、縦位）	含まない	砂粒（～ 3 ㎜、石英ほか）含む		B2		6.4 ㎜	灰黄褐色	10YR5/2	灰黄褐色	10YR5/2	
102	調査区Ⅱ		深鉢	胴部	外面：縄文（LR 横位帯状）、 内面：ケズリ→ミガキ	含まない	砂粒（～ 3 ㎜、長石・石英ほか）含む		B2	やや摩滅	6.9 ㎜	褐灰色	10YR4/1	黄灰色	2.5Y4/1	
103	8 トレンチ		深鉢	底部近く	外面：無文（ミガキ / 縦位）→小ハジケ、内面：ナデ	含まない	砂粒（～ 3 ㎜、石英ほか）含む。	外面被熱	B2	やや摩滅	9.0 ㎜	にぶい赤褐色	5YR4/4	灰褐色	7.5YR4/2	
104	調査区Ⅱ		深鉢	底部近く	外面：無文（ナデ→ミガキ）、 内面：ナデ	含まない	砂粒（～ 4 ㎜、長石・石英ほか）含む	外面被熱	B2		10.8 ㎜	灰黄褐色	10YR5/2	黄灰色	2.5Y4/1	
105	12 トレンチ付近	表採	壺	胴上部	外面：磨消縄文（LRr）→弧状沈線文、内面：ヘラ状工具によるナデ（横位）	含まない	砂粒（～ 3 ㎜、黒色・白色・透明）含む		B2	やや摩滅	5.3 ㎜	にぶい褐色	7.5YR5/4	灰褐色	10YR4/2	
106	12 トレンチ		深鉢	胴部	外面：半截竹管による平行沈線文（横位）、内面：剥落	含まない	砂粒（～ 2 ㎜、石英・赤褐色粒・黒色粒）含む	外面被熱	B3	やや摩滅	(4.6 ㎜)	にぶい赤褐色	5YR5/4	褐色	7.5YR4/3	
107	調査区Ⅱ		壺	胴上部	外面：細沈線文（山形文、横位平行）、内面：ナデ	含まない	砂粒（～ 2 ㎜、長石ほか）わずかに含む		B3		6.3 ㎜	黄灰色	2.5Y4/1	にぶい黄橙色	10YR6/3	

第 2 表　土器観察表(12)

番号	出土区	器種	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	重さ（g）	石材	石材産地	石材時代
遺物集中Ⅰ（第 31・32 図、写真図版 22）									
201	遺物集中Ⅰ	石核	36.2	53.2	19.6	33.2	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
202	遺物集中Ⅰ	剥片	42.0	42.5	10.9	19.9	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
203	遺物集中Ⅰ	剥片	48.8	49.2	13.6	40.7	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
204	遺物集中Ⅰ	剥片	20.4	21.6	2.1	0.8	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
205	遺物集中Ⅰ	磨石	152.8	70.4	43.8	630	砂岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
206	遺物集中Ⅰ	磨石	85.3	19.2	10.7	21.7	珪質頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
207	遺物集中Ⅰ	礫器	88.8	142.5	58.3	870	砂岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
遺物集中Ⅱ（第 33 ～ 35 図、写真図版 23・24 上）									
201	遺物集中Ⅱ	ナイフ形石器	18.4	9.9	4.9	1.1	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
202	遺物集中Ⅱ	石錐	18.8	17.9	5.8	1.9	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
203	遺物集中Ⅱ	石棒	63.4	37.3	14.5	39.3	ホルンフェルス（原岩は頁岩、砂岩）	北上山地（種市西部）	中生代前期・変成は中生代白亜紀
204	遺物集中Ⅱ	二次加工剥片	56.1	41.4	14.1	36.4	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
205	遺物集中Ⅱ	二次加工剥片	66.8	41.5	7.5	21.4	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
206	遺物集中Ⅱ	二次加工剥片	32.6	23.9	10.2	9.6	石英	北上山地（洋野町）	中生代白亜紀
207	遺物集中Ⅱ	二次加工剥片	19.4	29.4	12.9	6.5	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
208	遺物集中Ⅱ	二次加工剥片	22.5	30.0	6.7	4.1	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
209	遺物集中Ⅱ	剥片	45.2	67.7	15.4	33.1	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
210	遺物集中Ⅱ	剥片	18.4	23.3	6.5	2.4	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
211	遺物集中Ⅱ	剥片	26.5	26.7	9.1	7.5	珪質頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
212	遺物集中Ⅱ	剥片	39.0	31.4	11.1	9.3	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
213	遺物集中Ⅱ	剥片	17.5	7.8	2.4	0.1	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
214	遺物集中Ⅱ	剥片	17.1	26.7	4.2	1.6	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
215	遺物集中Ⅱ	剥片	38.0	36.2	14.0	18.8	チャート	北上山地（種市西部）	中生代前期
216	遺物集中Ⅱ	剥片	14.3	9.1	2.5	0.3	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
217	遺物集中Ⅱ	剥片	14.7	17.8	3.8	0.8	チャート	北上山地（種市西部）	中生代前期
218	遺物集中Ⅱ	剥片	21.0	16.0	4.3	1.4	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
219	遺物集中Ⅱ	剥片	16.4	21.9	2.5	1.1	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
220	遺物集中Ⅱ	剥片	8.2	21.2	2.9	0.6	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
221	遺物集中Ⅱ	剥片	11.2	8.1	1.4	0.1	珪質頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
222	遺物集中Ⅱ	剥片	13.1	15.2	2.9	0.5	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
223	遺物集中Ⅱ	剥片	23.1	13.8	3.5	1.2	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
224	遺物集中Ⅱ	スタンプ形石器	51.9	95.7	42.1	206.1	砂岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
225	遺物集中Ⅱ	敲石	48.7	50.9	23.7	636.6	ホルンフェルス（原岩は頁岩、砂岩）	北上山地（種市西部）	中生代前期・変成は中生代白亜紀
226	遺物集中Ⅱ	小形磨石	43.1	28.3	9.7	18.8	ホルンフェルス（原岩は頁岩、砂岩）	北上山地（種市西部）	中生代前期・変成は中生代白亜紀
227	遺物集中Ⅱ	敲石	78.5	42.5	27.0	114.2	ホルンフェルス（原岩はチャート）	北上山地（種市西部）	中生代前期・変成は中生代白亜紀
228	遺物集中Ⅱ	礫器	67.4	83.9	22.3	139.7	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
遺物集中Ⅲ（第 36 図、写真図版 24 下）									
201	遺物集中Ⅲ	剥片	21.8	17.8	4.6	2.4	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
202	遺物集中Ⅲ	剥片	24.9	25.6	8.1	5.2	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
203	遺物集中Ⅲ	剥片	16.4	18.0	4.7	1.4	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
遺物集中Ⅳ（第 37・38 図、写真図版 25・26 上）									
201	遺物集中Ⅳ	石篦	39.4	21.2	10.2	8.5	珪質頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
202	遺物集中Ⅳ	磨製石斧	44.1	21.9	7.9	11.6	頁岩（弱変成）	北上山地（種市西部）	中生代前期・変成は中生代白亜紀
203	遺物集中Ⅳ	二次加工剥片	73.9	90.9	19.5	183.6	砂岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
204	遺物集中Ⅳ	二次加工剥片	31.6	17.4	13.3	5.4	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
205	遺物集中Ⅳ	使用痕のある剥片	25.1	61.1	11.6	21.3	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
206	遺物集中Ⅳ	剥片	39.2	46.5	15.4	30.6	チャート	北上山地（種市西部）	中生代前期
207	遺物集中Ⅳ	剥片	23.2	33.0	6.0	4.9	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
208	遺物集中Ⅳ	剥片	38.0	39.4	13.1	17.2	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
209	遺物集中Ⅳ	剥片	17.2	23.2	5.5	2.3	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
210	遺物集中Ⅳ	剥片	11.2	17.0	3.0	0.5	チャート	北上山地（種市西部）	中生代前期
211	遺物集中Ⅳ	剥片	25.6	17.6	3.5	1.5	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
212	遺物集中Ⅳ	剥片	21.1	19.1	4.2	1.7	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
213	遺物集中Ⅳ	剥片	16.8	25.5	4.2	2.3	珪質頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
214	遺物集中Ⅳ	剥片	17.3	16.0	4.3	1.1	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
215	遺物集中Ⅳ	剥片	26.2	21.9	3.5	1.7	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
216	遺物集中Ⅳ	剥片	13.7	14.1	3.1	0.7	頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
217	遺物集中Ⅳ	礫器	75.6	83.6	27.6	183.8	チャート	北上山地（種市西部）	中生代前期
その他　調査区・試掘トレンチ（第 39 ～ 43 図、写真図版 26 下～ 28）									
201	調査区Ⅲ	石篦	43.5	24.9	13.1	12.8	赤色頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
202	10 トレンチ	二次加工剥片	90.4	73.2	23.8	208.1	ホルンフェルス（原岩は砂岩）	北上山地（種市西部）	中生代前期
203	11 トレンチ	二次加工剥片	30.7	52.7	10.4	19.2	珪質頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
204	12 トレンチ	二次加工剥片	21.8	53.4	7.4	9.1	ホルンフェルス（原岩は頁岩）	北上山地（種市西部）	中生代前期
205	12 トレンチ	二次加工剥片	56.9	40.6	9.9	25.9	ホルンフェルス（原岩は頁岩）	北上山地（種市西部）	中生代前期
206	14 トレンチ	二次加工剥片	31.9	21.7	11.1	7.8	珪質頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
207	表採	二次加工剥片	66.8	75.7	34.3	196.1	砂岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
208	11 トレンチ	剥片	22.4	23.4	5.8	2.7	チャート	北上山地（種市西部）	中生代前期
209	12 トレンチ	剥片	41.5	40.4	8.2	13.3	珪質頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
210	12 トレンチ	剥片	18.6	14.1	4.5	1.1	珪質頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
211	12 トレンチ	剥片	19.4	29.2	4.8	2.8	珪質頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
212	12 トレンチ	剥片	21.3	29.8	7.2	4.2	珪質頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
213	12 トレンチ	剥片	31.9	46.3	13.1	17.5	珪質頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
214	12 トレンチ	剥片	23.2	22.6	4.7	2.1	珪質頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
215	12 トレンチ	剥片	17.4	31.1	5.8	2.6	珪質頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
216	13 トレンチ	剥片	15.8	16.8	7.3	1.2	珪質頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
217	13 トレンチ	剥片	35.1	18.7	8.9	5.4	チャート	北上山地（種市西部）	中生代前期
218	調査区Ⅱ	剥片	13.1	13.2	3.5	0.5	珪質頁岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
219	11 トレンチ	スタンプ形石器	66.8	96.8	69.1	620	砂岩	北上山地（種市西部）	中生代前期

第 3 表　石器観察表（1）

番号	出土区	器種	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	重さ（g）	石材	石材産地	石材時代
その他　調査区・試掘トレンチ（第 39 ～ 43 図、写真図版 26 下～ 28）									
220	12 トレンチ	スタンプ形石器	65.5	116.0	73.8	510	砂岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
221	12 トレンチ	スタンプ形石器	52.4	95.1	38.7	260.2	砂岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
222	12 トレンチ	スタンプ形石器	46.7	111.1	60.9	208.6	砂岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
223	12 トレンチ	スタンプ形石器	59.6	118.4	46.6	480	砂岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
224	表採	スタンプ形石器	78.6	132.8	63.4	890	砂岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
225	表採	スタンプ形石器	56.7	101.0	45.2	309.5	砂岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
226	11 トレンチ	特殊磨石	12.7	10.3	28.2	9.6	凝灰岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
227	11 トレンチ	磨石	71.2	91.0	68.5	346.0	ホルンフェルス（原岩は砂岩）	北上山地（種市西部）	中生代前期
228	14 トレンチ	磨石	43.3	33.8	20.8	24.8	ホルンフェルス（原岩は頁岩）	北上山地（種市西部）	中生代前期
229	10 トレンチ	敲石	92.1	55.7	42.0	311.7	砂岩	北上山地（種市西部）	中生代前期
230	11 トレンチ	礫器	68.2	76.1	31.2	218.8	チャート	北上山地（種市西部）	中生代前期
231	8 トレンチ	礫器	90.0	73.2	38.4	250.3	チャート	北上山地（種市西部）	中生代前期

第 3 表　石器観察表（2）

Ⅷ. 調査のまとめ

1. 遺構と遺構内出土遺物

(1) 土坑

土坑は８基検出された。調査区Ⅰより２基（SK01・SK02）、調査区Ⅲより３基（SK03・SK04・SK05）、遺物集中Ⅰより１基（SK06）、遺物集中Ⅳより２基（SK07・SK08）の検出である。

８基には明確な規格性は認められない。このうち、SK04・SK05については土坑としては大型のものであり、いずれも長軸方向３ｍ前後の長さを持つものである。検出時点では、溝状土坑の可能性を考えたが、断面がＹ字状またはＶ字状になる形状を持つ一般にみられる溝状土坑ではなく、深さも70㎝弱であることから、溝状土坑の種別とはせずに土坑として記載した。遺物は、SK04より縄文時代早期の土器が１点検出されたが、埋没時の流入と考えられ、明確な時期は不明である。土坑の平面形状からすると、土壙墓の可能性もあるが、土壙墓は一般に長軸２ｍを下回ると考えられており、舟底形の底面形状や土層の堆積状況から土壙墓とする根拠に乏しい。SK04・SK05は、長軸方向は北西の尾根北側斜面に向いておりほぼ並行している。若干の軸方向の違いはあるが、溝状土坑TP03などとも類似した方向性を持っている。したがって、SK04・SK05は、陥し穴に類似する機能を持つ土坑、または溝状土坑の構築途中のものではないかという可能性を持つものとしたい。若干規模の小さいSK08も同様の可能性を持つものとしたい。SK01については、同様に長楕円形の平面形状は持つものの、長軸135㎝と小形となるため異なる機能を持つものと考えられる。

SK02・SK03・SK6・SK07の４基については、円形の土坑であるが、いずれも浅い土坑であり、土器の出土量も少ないため、時期・機能とも不明である。

(2) 溝状土坑

溝状土坑は４基検出された。調査区Ⅰより１基（TP01）、調査区Ⅱより１基（TP02）、調査区Ⅲより２基（TP03・TP04）の検出である。

陥し穴の機能が推定されている遺構で、いずれも縄文時代に属するものとみられる。平面形状は、いずれも細長楕円形を呈する。開口部の長軸規模は、TP01が457cm、TP02が300cm、TP03が372cm、TP04が348cmとなる。TP01は他遺跡の例と比較しても大型のものである。深さは、TP01・TP02・TP03は、120㎝～130㎝前後であるが、TP04は77㎝と比較的浅い。

断面の形状は、Ｙ字またはＶ字形状となる。主軸方向は、TP01・TP02・TP04が、共通して北東方向を向き、TP01・TP02は尾根筋と一致し等高線と直交している。TP04は、尾根筋と一致し等高線と平行している。TP03は北西の主軸方向となり、尾根筋・等高線とは直交している。

溝状土坑内からの出土遺物は、TP01で２点、TP02で１点、TP03で１点縄文土器が出土している。いずれも胎土に繊維を含み、縄文時代早期の遺物である。ことに、TP02から出土した土器は、重層山形押型文であり、埋没土流入時の混入と考えた。

ところで、同様の形態を持つ溝状土坑は、縄文時代早期から後期に形成されると考えられている。近年では、陥し穴の検討が進み、中村信博氏の考察（中村2019）に従えば、尺沢遺跡例は、シカの胴体を挟んで生け捕りにするシカ専用の陥し穴と考えられる。また、藤原秀樹氏は東北地方北部の同様の溝状土坑（陥し穴）を、縄文時代中期後半から後期前葉のものととらえている（藤原2019）。町内の西平内Ⅰ遺跡では同様の溝状土坑底面から縄文時代後期の器台が出土している。このように、大型の溝状土坑（陥し穴）を縄文時代後期に至る時期のものと考えられる事例も多いが、尺沢遺跡の溝状土坑からは後期の遺物は検出されておらず、TP02からは廃絶時の流入土に混入したと考えた重層山形押型文土器（第44図6）の出土もあり、尺沢遺跡の陥し穴が設営された時期についてはさらに検討を加える必要がある。

(3) ピット

今回の調査では、ピットは3基検出された。SP01・SP02・SP03の3基については、いずれも調査区Ⅱでの検出である。

不整円形のピットであるが、いずれも浅い小穴であり、遺物の出土もないため、時期・機能とも不明である。

2.出土遺物

(1) 土器

本遺跡から出土した土器は、縄文時代早期から弥生時代に至るものまであり、時期幅が広い。しかも出土状況はやや摩滅した土器の小片が主体をなしており、いずれも原位置を留めるものとはみられない。ただし、一方では遺跡全域から遺物が散漫に出土するのではなく、明らかに遺物が集中する箇所があり、粗密の差は明瞭で、遺物集中Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳにおいてやや異なる傾向性も認められた（第4表）。ここでは、出土土器について若干の型式学的検討を行う。

A1類土器

胎土に繊維を含み、押型文が施された土器である。TP02溝状土坑から1点、遺物集中Ⅱから9点、遺物集中Ⅲから1点、遺物集中Ⅳから7点、その他の調査区・試掘トレンチから4点が発見された。文様の種類は、重層山形文のほかに、重複菱形文、平行線状文がある。いずれも縄文早期前葉日計式（笹津1960）あるいは唐貝地下層式（佐藤1978）に伴う押型文土器である。

重層山形文（A1-1類）の施されるロ縁部破片2点（第44図1・2）はともに横位平行沈線文が施され、日計式前半期（相原2008・2015）の様相を呈している。ロ唇外角に刻目文を伴うものと伴わないものとがある。ロ唇部の形状に内削ぎ状を呈するものはなく、器厚は5.9㎜、7.0㎜である。

重層山形文（第44図1）の原体は原体直径1.0㎝、原体長さ4.2㎝以上と大型である。他はいずれも胴部に横位回転によって施文されている。

重複菱形文（A1-2類）は遺物集中Ⅳから1点（同図15）だけ出土している。

平行線状文（A1-3類）は日計式の中でも後半にみられ、重層山形文等を施文後に、ロ縁部やしばしば胴中位・下位にも施される押型文である。遺物集中Ⅱから2点、Ⅳから4点出土している。

遺物集中Ⅳ（同図17）では押型文（重層山形文）施文の後に、沈線文、さらに押型文（平行線状文）が施文されている。一方、重層山形文や重複菱形文の内部に平行線状文を取り込んだ「Ｖ字状文」「Ｘ字状文」（武田1969）他はみられない。

A2類土器

胎土に繊維を含み、魚骨回転文が施文された土器である。遺物集中Ⅱから2点、遺物集中Ⅳから4点が発見された。小形の魚骨を用いたもの(第44図22)がある。ごく小片であり、種は不明である。付近の洋野町種市ゴッソー遺跡(千葉1996)や青森県階上町柄貝遺跡(葛城・斉藤ほか2019)では日計式に伴う魚骨回転文土器が出土している。ニシンタイプのほかに板鰓亜綱（ホシザメ？）の椎骨の使用が推測されている。

A3類土器

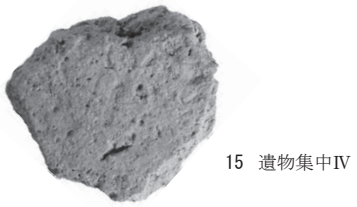
胎土に繊維を含み、縄文が施文された土器である。遺構ではSK04から1点、SK07から2点、SK08から2点出土している。遺物集中Ⅰ～Ⅳでは、102点出土し、全体の半数弱を占めている。特に遺物集中Ⅲでは、73%（29点）と全体の3/4近くを縄文施文土器が占めている。

ロ唇部外縁に斜位刻目文を伴う土器（第45図1～4・6・7）と指頭状圧痕の施される土器（同図5）と刻目文・圧痕文を伴わない土器（同図8～12）とがある。ロ唇部の形状に内削ぎ状を呈するものはなく、ロ縁部の器厚で4.8～7.7㎜、5.0㎜台が最も多く、押型文土器（A1類）とほぼ同じである。

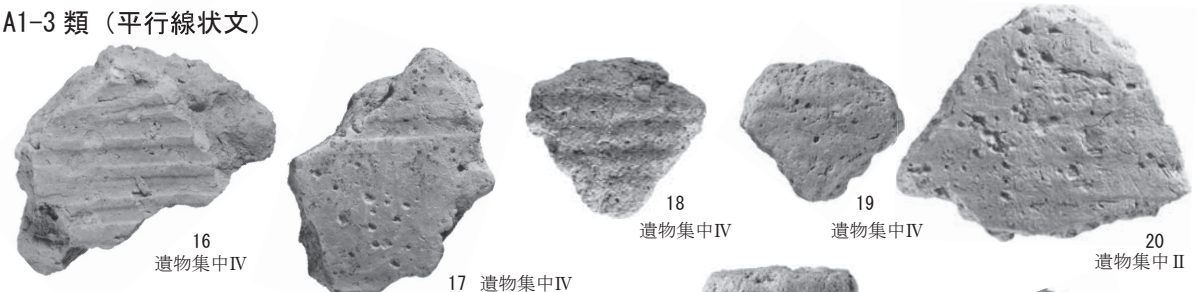
縄文施文の後に、横位平行沈線文が施される土器（第45図1～5・8～10）と施されない土器（同図6・7・

A1-1 類（重層山形文）

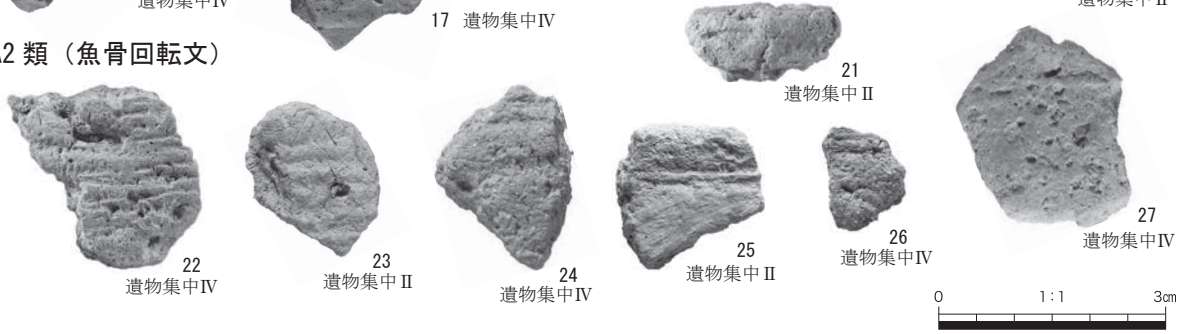
A1-2 類（重複菱形文）



A1-3 類（平行線状文）

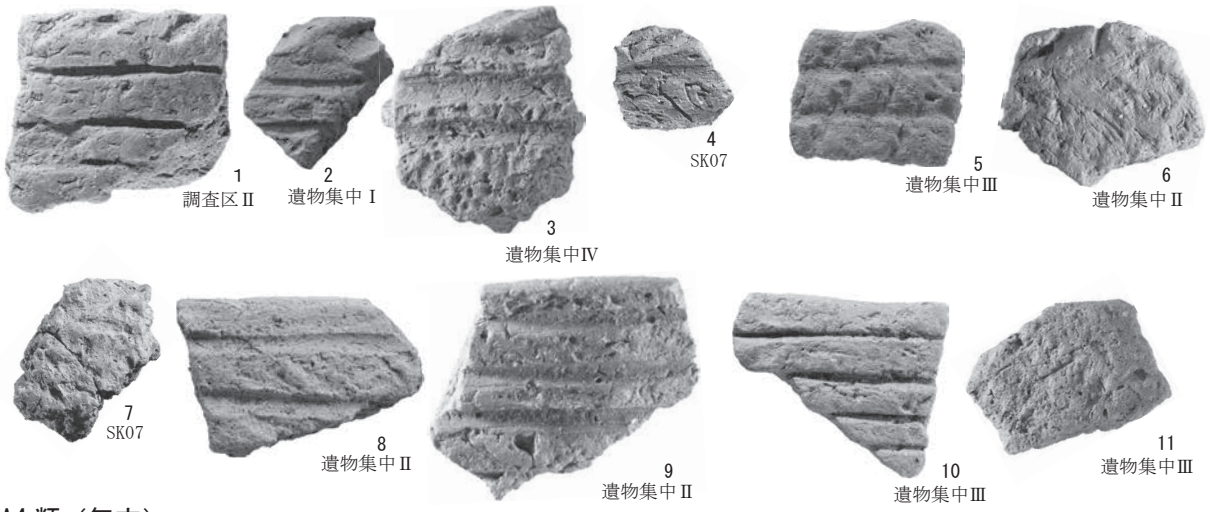


A2 類（魚骨回転文）

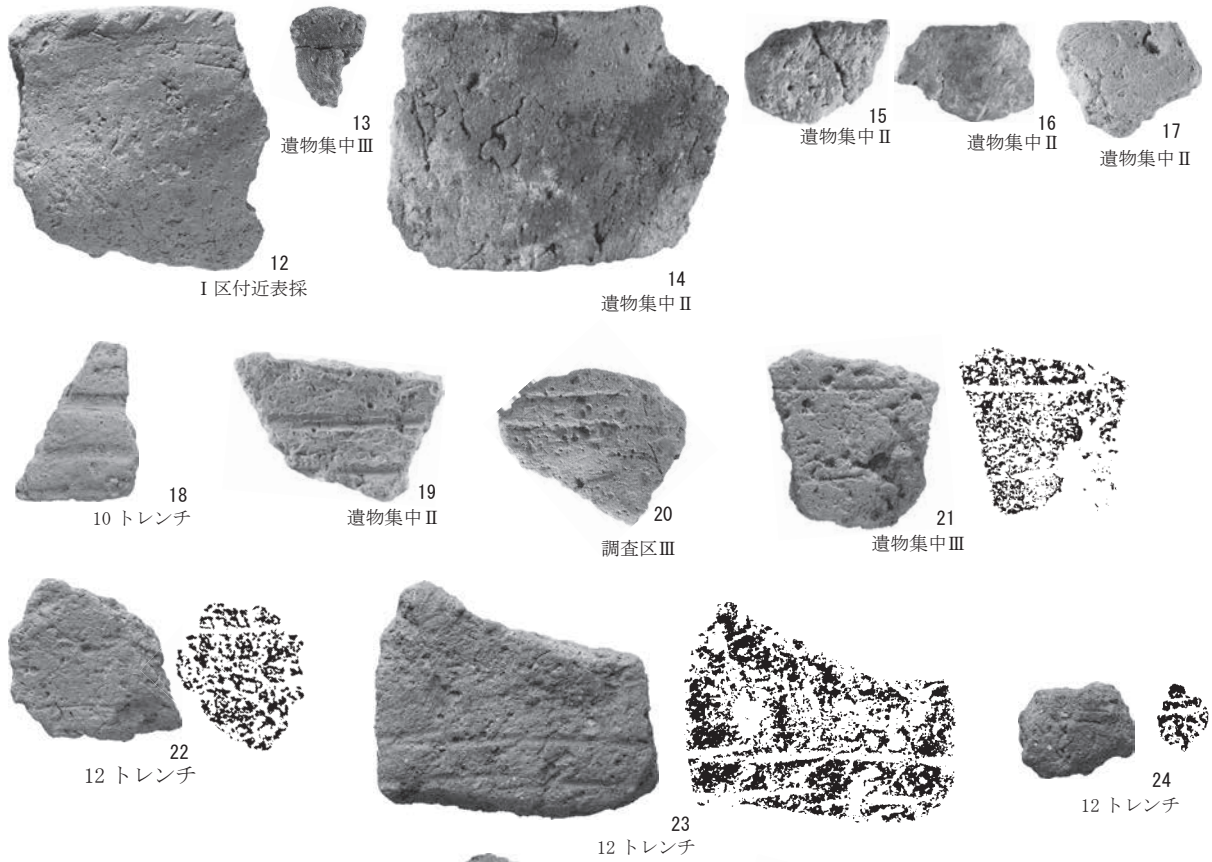


第44図　尺沢遺跡の日計式土器とその周辺（1）

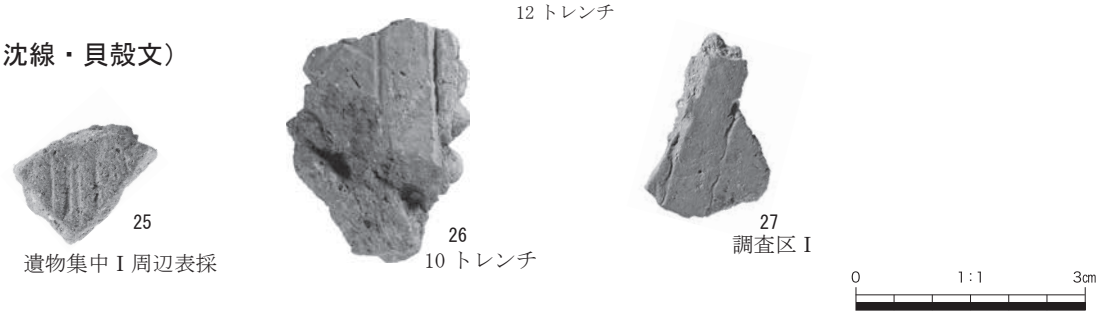
A3 類（縄文）



A4 類（無文）



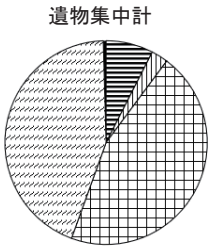
A5 類（沈線・貝殻文）

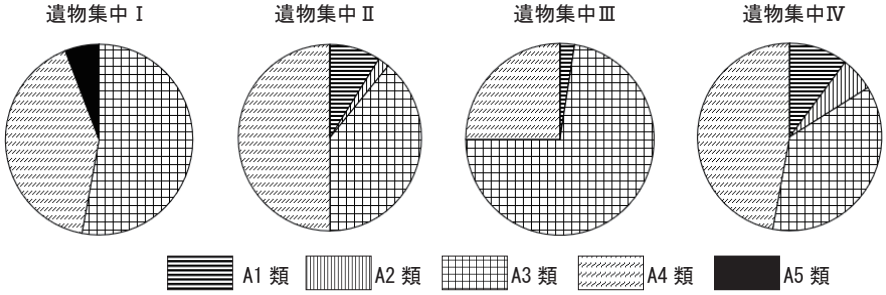


第45図　尺沢遺跡の日計式土器とその周辺（2）

	遺物集中Ⅰ	遺物集中Ⅱ	遺物集中Ⅲ	遺物集中Ⅳ	計
A1 類	0	9	1	7	17
A2 類	0	2	0	4	6
A3 類	9	39	29	25	102
A4 類	7	50	10	32	99
A5 類	1	0	0	0	1
計※	17	100	40	68	225

※縄文早期中葉土器（B1 類）、縄文早期後葉土器（A6･7 類）、縄文後期土器（B2 類）・弥生土器（B3 類）を除く





第 4 表　遺物集中Ⅰ～Ⅳにおける A 類土器

11）があり、多くは横位平行沈線文が施されている。平行線状押型文の施されるものはない。

縄文には、非結束羽状縄文（LR、RL）や単節斜行縄文（LR、RL）、複節斜行縄文（LRL、RLR）が横位回転によって施文されている。0 段多条やまれに撚り戻しの合（RL1、LRr）もみられる。同一原体（RL）の横位回転と縦位回転による交差状縄文（第 25 図 13・14）あるいは縦位回転による斜行縄文（第 28 図 12）は、唐貝地下層 a が花輪台Ⅰ式（「同一原体の横位及び縦位の押捺による縦方向の羽状縄文」）に最も類似する特徴のひとつとして佐藤達夫・渡辺兼庸（1958）が挙げた縦位回転による斜行縄文（佐藤・渡辺 1958：原著 76 ページ図 -4）に相当する。まれに横走縄文が口縁部（第 45 図 7）や底部近く（第 29 図 43）に施されている。

A4 類土器

胎土に繊維を含む無文土器である。遺構では、SK08 から 2 点、TP01 から 2 点、TP03 から 1 点、出土している。遺物集中Ⅰ～Ⅳでは、99 点出土し、全体の半数弱を占め、縄文施文土器に次いで多い。遺物集中Ⅲでは、縄文施文土器が多く、無文土器は 25%（10 点）と他の遺物集中とは異なる傾向性を示している。

口縁部破片は 5 点あり、やや厚手（8.4 ㎜）の土器（第 45 図 12）1 点と薄手（最薄部で 2.0 ～ 4.0 ㎜）の土器 4 点（同図 13 ～ 17）との 2 種がある。口唇部の形状は、平坦、円頭状、尖頭状をなすものがある。尖頭状をなすものは他の類にはみられない。浅い斜位刻目文が施される土器（同図 12・13）がある。薄手無文土器には少数ながら、縄文の施文された土器が山形県高畠町火箱岩洞穴（柏倉・加藤 1967）や岩手県花巻市上台Ⅰ遺跡（酒井 2005・2009）で伴出している（ともに資料調査により確認：相原 2016）。また、日計式の押型文・縄文施文土器には厚手無文土器が伴出することが確認されている（佐藤・渡辺 1958、浅田・佐藤・根岸 2017）。花巻市上台Ⅰ遺跡（酒井 2005）の薄手無文土器には「僅かに器面に極細い皺状の痕跡が見られるものや、断面に微孔が観察されるものがあり、繊維質の混和剤を混入している可能性もある。」とされ、尺沢遺跡の薄手無文土器は明瞭に繊維が混和されている点では異なるものの、共通した特徴といえよう。一方、薄手無文土器の特徴の一つとされる底部外縁が張り出す平底土器や、刺突文を伴う薄手無文土器（井上 2006）は確認することができなかった。

胴部にやや太い平行沈線文（同図 18）、ごく細い平行沈線文（同図 19 ～ 24）が施される土器がある。唐貝地貝塚貝層下土層あるいは同採集品（佐藤・渡辺 1958）、柄貝遺跡第 8 号竪穴建物跡（葛城・斉藤・荒谷・最上 2019）他に類例がある。林謙作氏は薄手無文土器（林 1962・1965）に若干の縄文施文土器等を伴う「上原田式」からやや厚手の無文土器に「初期沈線文土器」を伴う「明神裏Ⅰ式」、さらに「初期沈線文土器」から三戸式・

大平式が生成すると理解した（相原 2016）。尺沢遺跡 A4 類土器の横位平行沈線文土器は、三戸式・大平式成立以前の「初期沈線文土器」の一部に相当しよう。

A5 類土器

胎土に繊維を含み、縦位沈線文や格子目文（第 45 図 25・26）や、貝殻文（同図 27）が施された土器である。26 の地文には縄文が施されている。1 点は遺物集中Ⅰ周辺で表採、試掘 10 トレンチで 1 点、調査区Ⅰで 1 点の計 3 点が発見された。胎土も A1 ～ A4 類土器とは異なっており、日計式に後続する土器とみられる。

唐貝地下層 c（佐藤・渡辺 1958）とされた沈線・刺突文土器には微量の繊維を含み、横位の格子目文帯が構成されており、類似している。宮古市田老乙部の小堀内Ⅰ遺跡（嶋・大原 1983）では、縄文施文の後に、かえりを伴う刺突文列や平行沈線文や格子目状沈線文が施され、これらには繊維を含むものもみられるとされている。白浜・小舟平式土器（江坂 1956・1959、杉山 1980）や蛇王洞Ⅱ式（芹沢・林 1965）に特徴的なかえりを伴う刺突文は、尺沢遺跡では確認することはできなかった。

A6 類土器

胎土に繊維を含む貝殻条痕の施されるやや厚手の土器である。丸棒状工具による沈線（凹線）文が施されている（第 26 図 69）。早期後葉のムシリ 1 式（江坂 1954）、早稲田貝塚第 3 類土器（二本柳・角鹿・佐藤 1957）他に類例がある。

A7 類土器

胎土にわずかに繊維を含むやや厚手の土器である。第 19 図 13 は内外面に貝殻条痕が施され、粗い縄文が施されている。第 26 図 70 はやや厚手の土器に粗い縄文が施文されている。貝殻条痕は施されていない。早期後葉の赤御堂式（滝永ほか 1976）に類例がある。

B1 類土器

胎土に繊維を含まない貝殻文の施された土器である。遺物集中Ⅱから 1 点（第 22 図 101）、遺物集中Ⅲ周辺から 1 点（表面採集、第 24 図 42）、調査区Ⅱから 1 点（第 30 図 97）発見された。外面にはいずれも横走する貝殻条痕文が施され、97 は大ぶりな貝殻腹縁文が配されている。早期中葉に位置づけられる。

B2 類土器

胎土に繊維を含まず、小礫・粗砂を含む土器である。非繊維土器の主体をなし、特に遺物集中Ⅰを中心に出土した（第 18・19 図 1 ～ 12）。斜行縄文のみの粗製土器が主体を占めている。縄文は指幅 1 本分ほどでやや間隔を置き、横位帯状施文されているものが多い。後期中葉頃に位置づけられる。

B3 類土器

胎土に繊維を含まず、半截竹管によるごく浅い平行沈線文（第 30 図 106）や極めて細い平行沈線文（第 30 図 107）が施される土器である。試掘 12 トレンチから 1 点、調査区Ⅱから 1 点発見されている。弥生土器と考えられる。

出土土器の型式学検討は以上の通りであるが、尺沢遺跡の土器に付着した炭化物の年代測定では、A4 類とした底部近くの無文土器（第 30 図 86）が暦年較正用補正年代 BP8770 ± 30（暦年較正年代 2 σ 9911-9628calBP）、A3 類とした縄文施文土器（第 19 図 20）が暦年較正用補正年代 BP8800 ± 30（暦年較正年代 2 σ 10119-9675calBP）である。この年代は、青森県むつ市二枚橋（１）遺跡（浅田・佐藤・根岸 2017）の日計式押型文土器 BP9115 ± 25(PLD-30995)、BP9150 ± 25(PLD30996)、BP9035 ± 20(PLD30997)、BP9025 ± 20(PLD30998)、BP9260 ± 30(PLD32679)、厚手無文土器 BP9205 ± 30（PLD30999）、BP9195 ± 20（PLD31000）、同式の縄文施文土器 9010 ± 30（PLD32678）、BP9140 ± 35（PLD32680）あるいは、青森県階上町柄貝遺跡（葛城・斉藤・荒谷・最上 2019）の日計式に属する第 12 号竪穴建物跡床面直上炭化材 BP8680 ± 25（PLD35361）、BP8725 ± 30（PLD35362）とも整合的である。また、日計式土器は十和田南部浮石（To-Nb：BP8600 ± 250、8480 ± 115yrBP）下の土器としても知られ、年代的にも矛盾しない。

(2) 土製品

遺物集中Ⅲから1点出土している（第24図44）。縁辺は弧状を呈し、横位の多重平行沈線文が施されている。背面は無文（ナデ調整）である。土偶の可能性も考えられるが、青森県三沢市根井沼（1）遺跡出土の早期中葉土偶（長尾・田島1988）とも形状は異なっており、確実な類例がなく、不明である。

(3) 石器

石器の掲載資料は86点であった。その内、本調査で出土したものは57点である。

86点のうち、61点が剥片石器、礫石器は24点、原石（石核）が1点である。

剥片石器では、多くが、剥片または2次加工剥片であり、定型石器は、ナイフ形石器1点、石箆2点、石錐1点と少ない。

尺沢遺跡の特徴としては、遺物集中Ⅱより、旧石器時代のナイフ形石器が出土したことである。ナイフ形石器は、3万年前頃から1.4万年前頃まで存続するといわれる遺物である。この年代観は科学分析の礫集中範囲の重鉱物・ガラス比分析結果で得られた1.5万年以降という数字とおおむね一致するが、明確な出土位置はとらえられなかったため、同じ遺物集中Ⅱから出土したほかの遺物との関係は不明である。

礫石器での、顕著な傾向としては試掘調査において多くのスタンプ形石器が検出されたことがある。試掘トレンチで見ると12トレンチの出土が多い。12トレンチの一部を拡張して調査した遺物集中Ⅱからも一点出土している。試掘調査では写真図版1右下に掲載した重層山形押型文土器が出土したことにより注目された。12トレンチのいずれかの場所出土かは不明であるが、遺物集中Ⅱとの関連性は強く考える必要がある。遺物集中Ⅱ周辺は縄文時代早期の活動が盛んに行われた場所と考えられる。しかし、遺物集中Ⅱ出土のスタンプ形石器の出土は1点のみであり、試掘調査での数の多さとは異なる。12トレンチの遺物集中Ⅱ付近の特定の場所にスタンプ形石器が集中した場所があった可能性がある。スタンプ型石器は、上部の自然面を手に持ち、打ち欠いた平らな面を使用して、木の実等のあまり硬くないものを潰した用途に使われたと推測されており、今回の出土遺物にも敲打痕を持つものがある。

縄文時代早期では、いわゆる特殊磨石の出土が多く認められると考えられているが、尺沢遺跡での検出は、11トレンチで破断した1点（第43図226）が検出されたのみである。

他には、石棒ないしは石剣と考えられる遺物が1点検出されている。

石器の石材としては、頁岩が多く、次いで砂岩、チャートが利用されている。石材の産地としては、すべて北上山地となっている。

3. まとめ

遺構については、土坑8基、溝状土坑4基、ピット3基が検出された。確認面などの状況と合わせて考えると、遺構についてはいずれも縄文時代のものと考えてよいと思われる。溝状土坑については、多くの研究者により、陥し穴としての機能が想定されてきたものである。今回検出された、土坑・ピットについては、機能は特定できなかったが、一部の土坑については、陥し穴に類似する機能を想定した。

遺物は、旧石器時代のナイフ形石器、縄文土器、石器・剥片などが出土した。旧石器時代の明確な遺物の出土は洋野町では初である。今後、類例の増加が期待される。

土器については、押型文土器を共伴する縄文時代早期前葉の日計式あるいは唐貝地下層式とその周辺の土器が出土した。岩手県沿海部での類例は希少であり、今後の研究の基礎となる資料の蓄積ができた。

遺物集中Ⅱからは、石棒または石剣と考えられる遺物が検出された。一般に石棒は縄文時代後・晩期の祭祀遺物と考えられており、また多くの剥片・2次加工剥片が出土していることも縄文時代の人々の生活の場としての機能を想起させるものであり、遺跡の性格が狩猟場としてのみ機能していたとはいえないものである。

自然科学分析については、深掘 1-5 層において、十和田大不動テフラ（To-Of）の混入が認められ、35,000 年前を上限とするという年代観が得られた。また、深掘 1-2 層上面に相当すると考えられた土層サンプルからは、十和田八戸テフラ（To-H）の再堆積物が観察され 15,000 年前以降との所見を得ている。いずれも、発掘調査から得られた年代観とは矛盾せず、今後の調査の指標となるものと考える。

土器の胎土分析は、2 点の遺物について実施し、いずれも洋野町の周辺の胎土であるという結果であった。ただし、胎土中の砕屑物の粒径組成に有意な差があり、同じ製作地とまでは言えないとされた。2 点のうち一点が A1-1 類であり、一方が A3 類であり、文様が異なることもあり、今後、時期・地域の特色についても検討を加える必要がある。

土器付着炭化物の年代測定では、上記のように良好な結果が得られた。2 点の土器付着炭化物に縄文時代早期前半の年代が与えられたことは、今回の調査の考古学的な所見とも一致する。また、調査で検出された炭化物の年代には、縄文時代晩期前半の年代観が与えられたが、土器の B2 類とした縄文時代後期中葉と考えた土器群とも比較的近い年代観を示しているので関連があるものと思われる。また、礫付着炭化物については、近代のものとの年代観であるが、製炭と関連がある可能性がある。今後、類例の積み重ねを期待したい。

遺跡全体の特筆すべき特徴としては、遺物が集中して出土する箇所が 4 箇所確認されたことである（遺物集中Ⅰ～Ⅳ）。それぞれの遺物集中区からは、多くの礫とともに土器・石器の遺物が確認された。土器の時期も、縄文時代早期のものや、後期のものが検出されている。礫は、遺物集中Ⅱに関する自然科学分析で示されたように多くのものが被熱している。これは、遺物集中Ⅰ・Ⅲ・Ⅳでも共通してみられる現象である。こういった遺物の集中域は、遺跡全体に広がるものではなく、特定の箇所に存在し、それぞれの遺物集中区の間には、あまり遺物が出土しない場所が存在している。例えば、遺構が検出されたため拡張して調査を行った調査区Ⅰ・Ⅱ・Ⅲなどでは遺物集中Ⅰ～Ⅳのような遺物の出土状態は見られない。

また、遺物集中Ⅳの 2 層上部からは炭化材が検出され、縄文時代晩期前半の年代測定結果が得られていることは、その下部にあたる遺物集中が、それ以前に行われていた可能性を示すものである。さらに、遺物集中Ⅱの 1 層（第 14 図;深掘 2-2 層に相当）で採取された重鉱物・火山ガラス比分析試料 T2 は、再堆積の To-H を含むとされている。すなわち、下層土壌の攪乱を示すものであり、それは、深掘 2 の土層観察結果と一致している。縄文晩期前半の炭化材が含まれる 2 層堆積以前に、攪乱は行われ、その層位の中から焼礫、縄文時代早期・後期土器が検出されるのであり、その遺物集中が人為的におこなわれた時期を考えれば、縄文土器の中でも新しい縄文時代後期中葉前後に行われたものであろうと推測される。そして、その際には、ローム面での土壌の上下・平行移動に伴って、周囲に存在した早期の土器群も集積され、その場所で、被熱した礫を含む礫群の集石行為が行われたものと考えることも可能である。

ところで、縄文時代後期前半には、東北地方北半部においては盛んに環状列石が形成されることが知られる。岩手県北部では、二戸市荒谷 A 遺跡、田野畑村館石野Ⅰ遺跡などで縄文時代後期の配石遺構が確認されている。町内でも、西平内Ⅰ遺跡からは、縄文時代後期の環状列石が検出されている。西平内Ⅰ遺跡において列石及びそれに伴う集石に使用される礫は、花崗岩が多用され、尺沢遺跡の礫群と同様に被熱していることが確認されている。尺沢遺跡でも、上述したように、遺物集中Ⅱから縄文時代後期の祭祀遺物と考えられている石棒または石刀が検出されていることからすると、尺沢遺跡の遺物集中における集石も縄文時代後期前葉の環状列石などと同じような機能を持つ遺構であった可能性も考えられる。

縄文時代早期の押型文土器出土の重要性を鑑みつつ、いかなる原因で尺沢遺跡の遺物集中が形成されたのか、周辺地域での調査の進展を踏まえて今後さらなる検討を進める必要がある。

＜引用・参考文献＞

相原淳一 2008「再論　日計式土器の成立と解体」『芹沢長介先生追悼考古・民族・歴史学論叢』、307 ～ 330 頁、六一書房
相原淳一 2015『東北地方における最古の土器の追究　1914.1.28-2011.3.11』纂修堂
相原淳一 2016「宮城県における薄手無文土器の再検討 ： 宮城県蔵王町上原田遺跡・明神裏遺跡」『東北歴史博物館研究紀要』第 17 号
浅田智晴・佐藤智生・根岸洋 2017『二枚橋（１）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 581 集
井上雅孝 2006『法誓寺１遺跡発掘調査報告書』滝沢村埋蔵文化財調査報告書第 2 集
今村啓爾 1976「縄文時代の陥穴と民族誌上の事例の比較」『物質文化』27　物質文化研究会
江坂輝彌 1954「青森県下北郡ムシリ遺跡」『日本考古学年報』第 2 号、日本考古学協会
江坂輝彌 1956「東北」『日本考古学講座３　縄文文化』河出書房
江坂輝彌 1959「縄文文化の発現　縄文早期文化」『世界考古学大系』１　平凡社
岡本東三 2012 『縄紋文化起源論序説』千葉大学考古学研究叢書５
岡本東三 2016「海峡を渡った押型紋土器―北の日計式押型紋―」『宮城考古学』第 18 号、13 ～ 42 頁、宮城県考古学会
小田川哲彦・平山明寿 2009『荒屋敷久保（2）遺跡・横沢山（1）遺跡・横沢山（2）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 465 集
小保内裕之 2006「青森県八戸市出土の早期貝殻文土器―刺突文土器群を定点として―」『第 4 回縄文早期中葉土器群の再検討―資料集―』海峡土器編年研究会
柏倉亮吉・加藤稔 1967「山形県下の洞窟遺跡」『日本の洞穴遺跡』日本考古学協会洞穴遺跡調査特別委員会
葛城和穂・斉藤慶吏・荒谷伸郎・最上法聖 2019『柄貝遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 604 集
神原雄一郎 2006「盛岡における縄文時代早期前葉から中葉にかけての土器」『第 4 回縄文早期中葉土器群の再検討―資料集―』海峡土器編年研究会
菊池強一 1969『瓢箪穴遺跡第 3 次発掘調査報告』岩手県岩泉町文化財調査報告書第 1 集
菊池強一 1971『竜泉洞新洞遺跡発掘調査報告書』岩手県岩泉町文化財調査報告書第２集
酒井宗孝 2005『上台Ⅰ遺跡発掘調査報告書（１）』花巻市博物館
酒井宗孝 2009「資料紹介　上台Ⅰ遺跡出土の土器文様について」『花巻市博物館研究紀要』第 5 号
佐々木亮二・鈴木俊輝 2018『大谷地遺跡』盛岡市教育委員会
笹津備洋 1960「青森県八戸市日計遺跡」『史学』33-1、三田史学会
佐藤達夫・渡辺兼庸 1958「青森県上北郡出土の早期縄文土器」『考古学雑誌』43-3
佐藤達夫 1961「青森県上北郡出土の早期縄紋土器（追加）」『考古学雑誌』46-4
佐藤達夫 1978「青森県唐貝地遺跡の早期縄紋土器」『日本の先史文化』河出書房新社
嶋千秋・大原一則 1983『小堀内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第 52 集
杉山武 1980「白浜式・小舟渡平式土器にかかわる館平遺跡出土の早期貝殻文土器について」『奥南』創刊号、奥南考古学会
芹沢長介・林謙作 1965「岩手県蛇王洞洞穴」『石器時代』第 7 号
高木晃・工藤利幸 1998『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書―第 6 次～第 8 次』岩手県文化振興事業団調査報告書第 273 集
滝沢幸長・松山力・小滝一三・蒔田健・工藤尚克・工藤竹久 1976『赤御堂遺跡発掘調査概要報告書　昭和 50 年度』
武田良夫 1969「盛岡市上堤頭・小屋塚遺跡の押型文土器」『考古学ジャーナル』36
種市町教育委員会 2004『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』種市町埋蔵文化財調査報告書第 1 集
種市町立歴史民俗資料館 2004『種市町立歴史民俗資料館収蔵資料図録Ⅰ　考古編』
田村壮一 1987「陥し穴状遺構の形態と時期について」『(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要』Ⅶ　(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
千葉孝雄 1996『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書第 238 集
長尾正義 1988『根井沼（１）遺跡緊急発掘調査報告書Ⅱ』三沢市埋蔵文化財調査報告書第 4 集
長尾正義・田島一雄 1988『根井沼 (1) 遺跡発掘調査報告書Ⅲ』三沢市埋蔵文化財調査報告書第 5 集
長尾正義 2006「三沢市の貝殻文土器群」『第 4 回縄文早期中葉土器群の再検討―資料集―』海峡土器編年研究会
長尾正義 2009『根井沼（３）遺跡』三沢市埋蔵文化財調査報告書第 23 集
長尾正義 2015『野口貝塚・早稲田（1）貝塚』三沢市埋蔵文化財調査報告書第 30 集
中野拓大 2008「早期無文土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション

中村信博 1998「溝型陥し穴研究序説」『栃木県考古学会誌』第 19 集　栃木県考古学会
中村信博 2019「縄文時代に追い込み陥し穴猟は行われたか」『考古学ジャーナル』734
二本柳正一・角鹿扇三・佐藤達夫 1957「青森県上北郡早稲田貝塚」『考古学雑誌』第 43 巻第 2 号
濱田宏・宮内勝巳・藤田崇志・川村均 2017『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 673 集
林謙作 1962「東北地方早期縄文式文化の展望」『考古学研究』第 9 巻第 2 号
林謙作 1964「″事実誤認″と″見解の相違″―江坂輝弥氏の批判に応えて」『考古学研究』第 11 巻第 2 号
林謙作 1965「縄文文化の発展と地域性」『日本の考古学』Ⅱ　河出書房新社
原田昌幸 1997「発生・出現期の土偶総論」『土偶研究の地平』「土偶とその情報」研究会編
洋野町教育委員会 2013『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第 1 集
洋野町教育委員会 2015『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第 2 集
洋野町教育委員会 2017『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第 3 集
洋野町教育委員会 2019『西平内Ⅰ遺跡ハンドボーリング調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第 4 集
福島県文化財センター白河館 2016『縄文土器の年代―その古さを読み解く』平成 27 年度企画展図録
福島正和・久保賢治ほか 2019『上のマッカ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 698 集
藤原秀樹 2019「北日本の動物相と陥し穴」『考古学ジャーナル』734
水沢教子 2014『縄文社会における土器の移動と交流』雄山閣
八木光則 1977「いわゆる「特殊磨石」について」『信濃』28-4
山内清男 1961『日本先史土器の縄紋』(学位請求論文：京都大学) 1979 年に先史考古学会から発行
領塚正浩 2008「貝殻・沈線文土器」『縄文時代の考古学 2　歴史のものさし』同成社
早稲田大学文学部考古学研究室編 1992『館石野Ⅰ遺跡 ： 縄文時代列石遺構の調査』

写　真　図　版

調査地遠景

調査前近景

調査前近景

試掘調査出土の押型文土器

写真図版１　調査地遠景・試掘の成果

調査区全景

調査区Ⅰ（上）・遺物集中Ⅰ（下）

調査区Ⅱ

写真図版２　調査区全景・各調査区（１）

調査区Ⅲ

遺物集中Ⅱ

遺物集中Ⅲ

遺物集中Ⅳ

写真図版３　各調査区（２）

深掘１　土層序

深掘２　土層序

写真図版４　深掘・基本土層

SK01　完掘

SK01　断面

SK02　完掘

SK02　断面

SK03　完掘

SK03　断面

写真図版 5　土坑 SK01 ～ SK03

SK04　完掘

SK04　断面

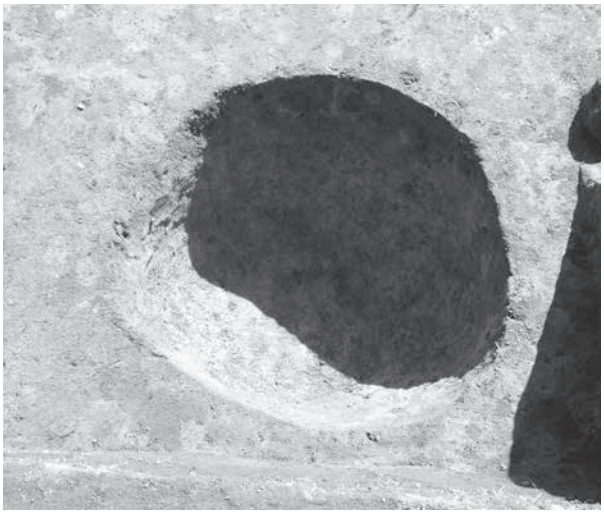
SK05　完掘

SK05　断面

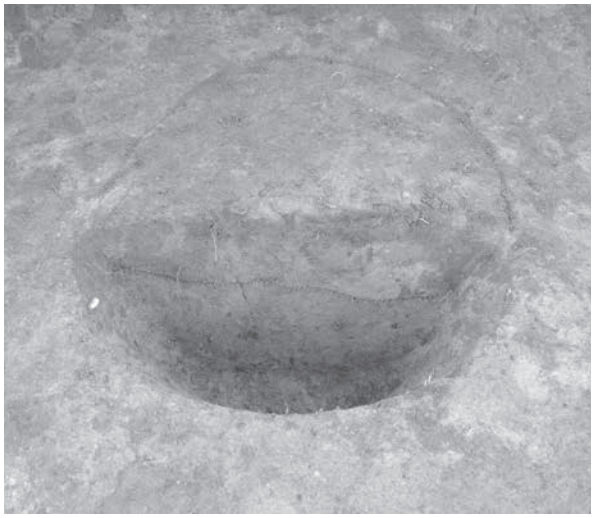
写真図版 6　土坑 SK04・SK05

SK06　完掘

SK06　断面



SK07　完掘



SK07　断面

SK08　完掘

SK08　断面

写真図版 7　土坑 SK06 ～ SK08

TP01　完掘

TP01　断面

TP02　完掘

TP02　断面

写真図版 8　溝状土坑 TP01・TP02

TP03　完掘

TP03　断面

TP04　完掘

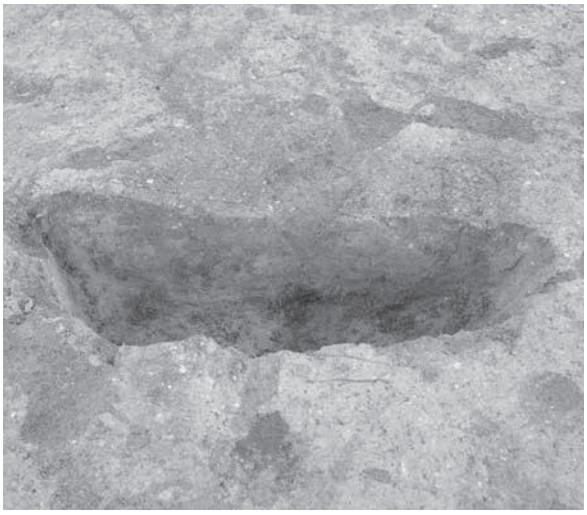
TP04　断面

写真図版 9　溝状土坑 TP03・TP04

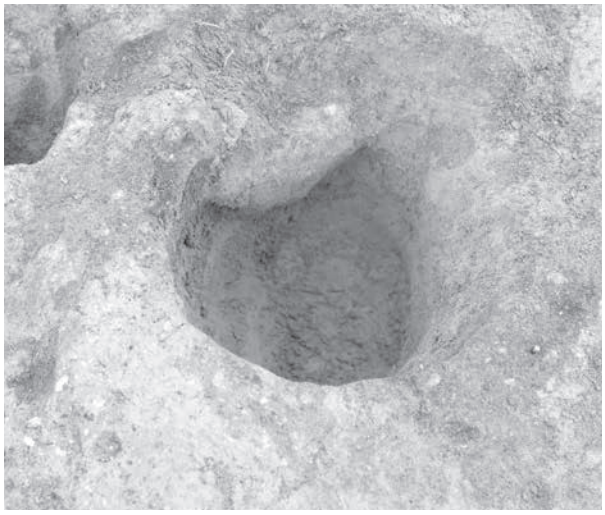
SP01　完掘

SP01　断面

SP02　完掘



SP02　断面



SP03　完掘

SP03　断面

写真図版 10　ピット SP01 ～ SP03

遺物集中Ⅰ　北西部

遺物集中Ⅰ　北東部

遺物集中Ⅰ　南西部

遺物集中Ⅰ　南東部

遺物集中Ⅱ

写真図版 11　遺物集中区　遺物出土状況（1）

遺物集中Ⅱ　北西部

遺物集中Ⅱ　北東部

遺物集中Ⅱ　南西部

遺物集中Ⅱ　南東部

遺物集中Ⅲ　西部

遺物集中Ⅲ　東部

写真図版 12　遺物集中区　遺物出土状況（2）

遺物集中Ⅳ

遺物集中Ⅳ　北西部

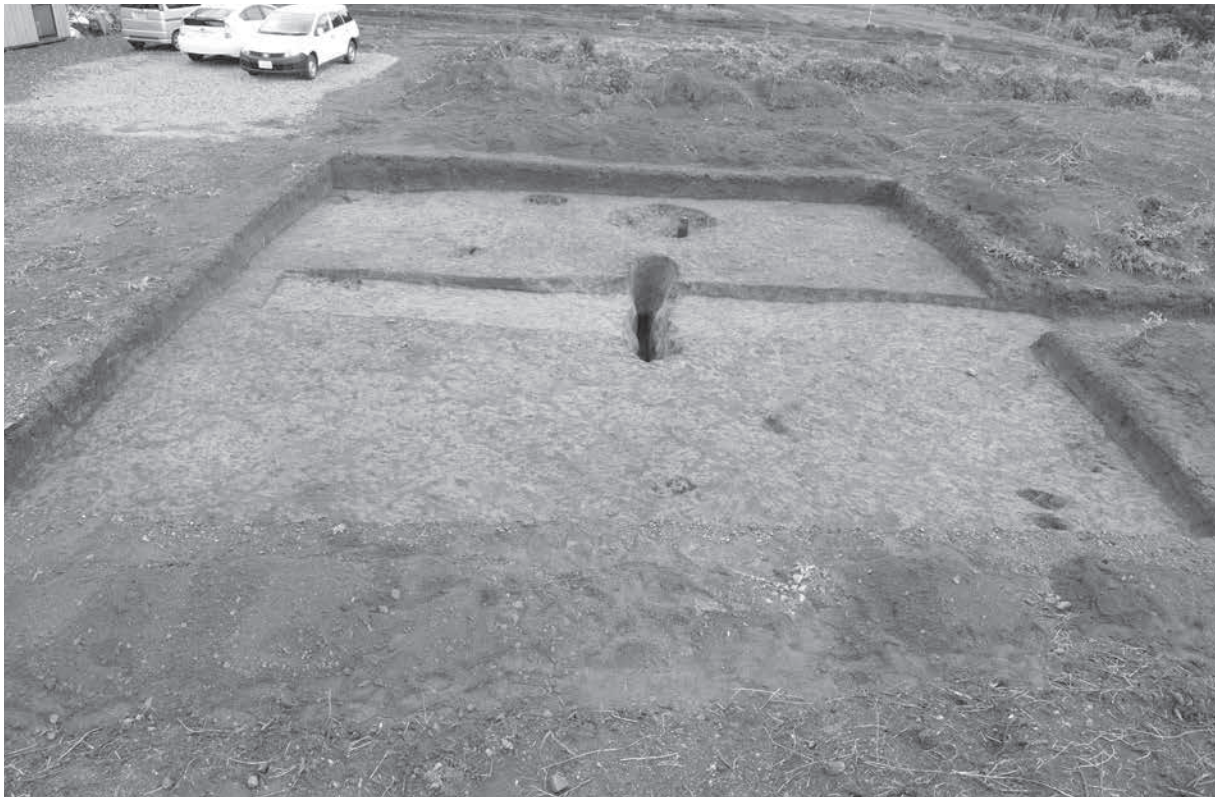
遺物集中Ⅳ　北東部

遺物集中Ⅳ　南西部

遺物集中Ⅳ　南東部

写真図版 13　遺物集中区　遺物出土状況（3）

調査区Ⅰ



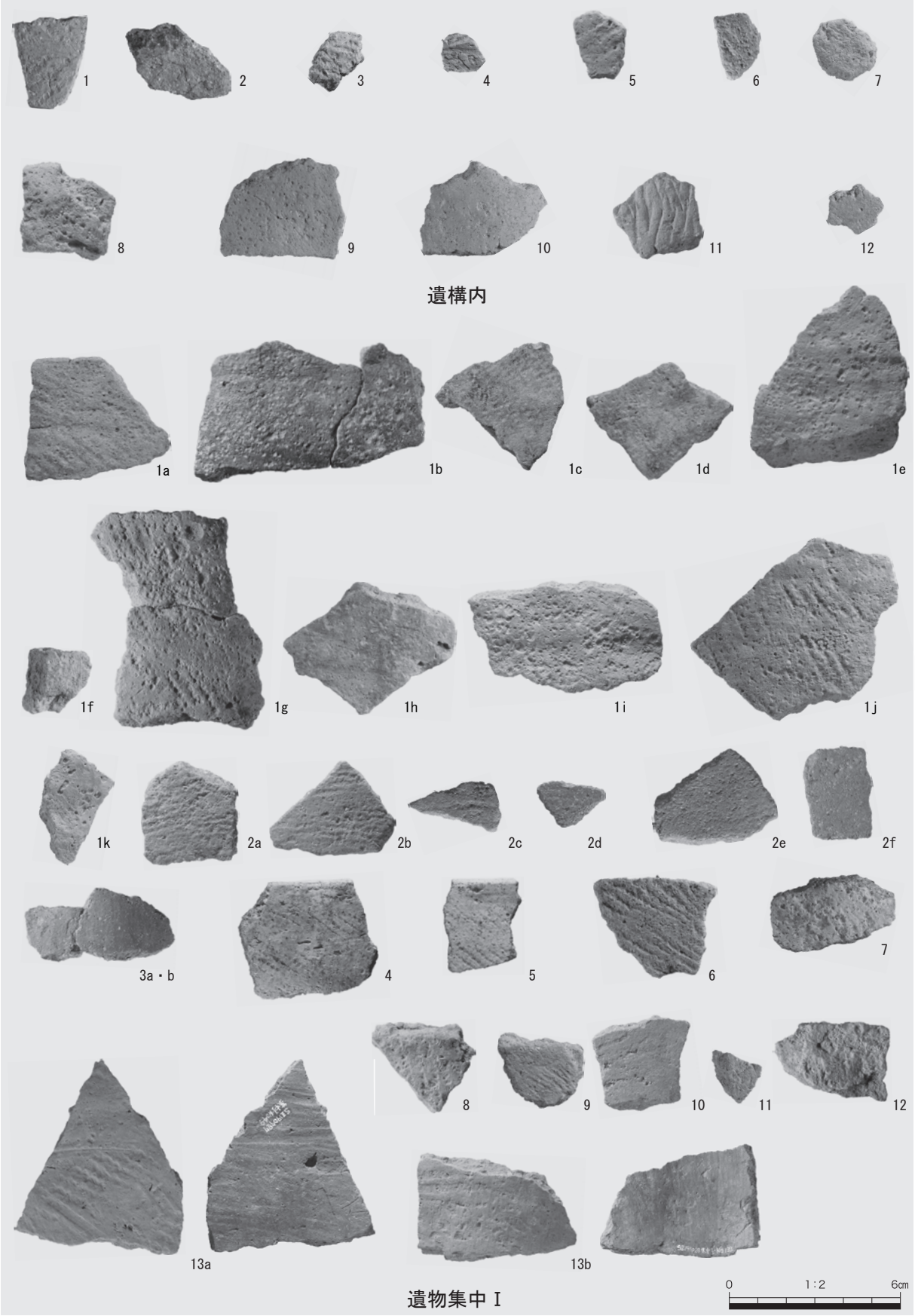
調査区Ⅱ

写真図版 14　調査後近景（1）

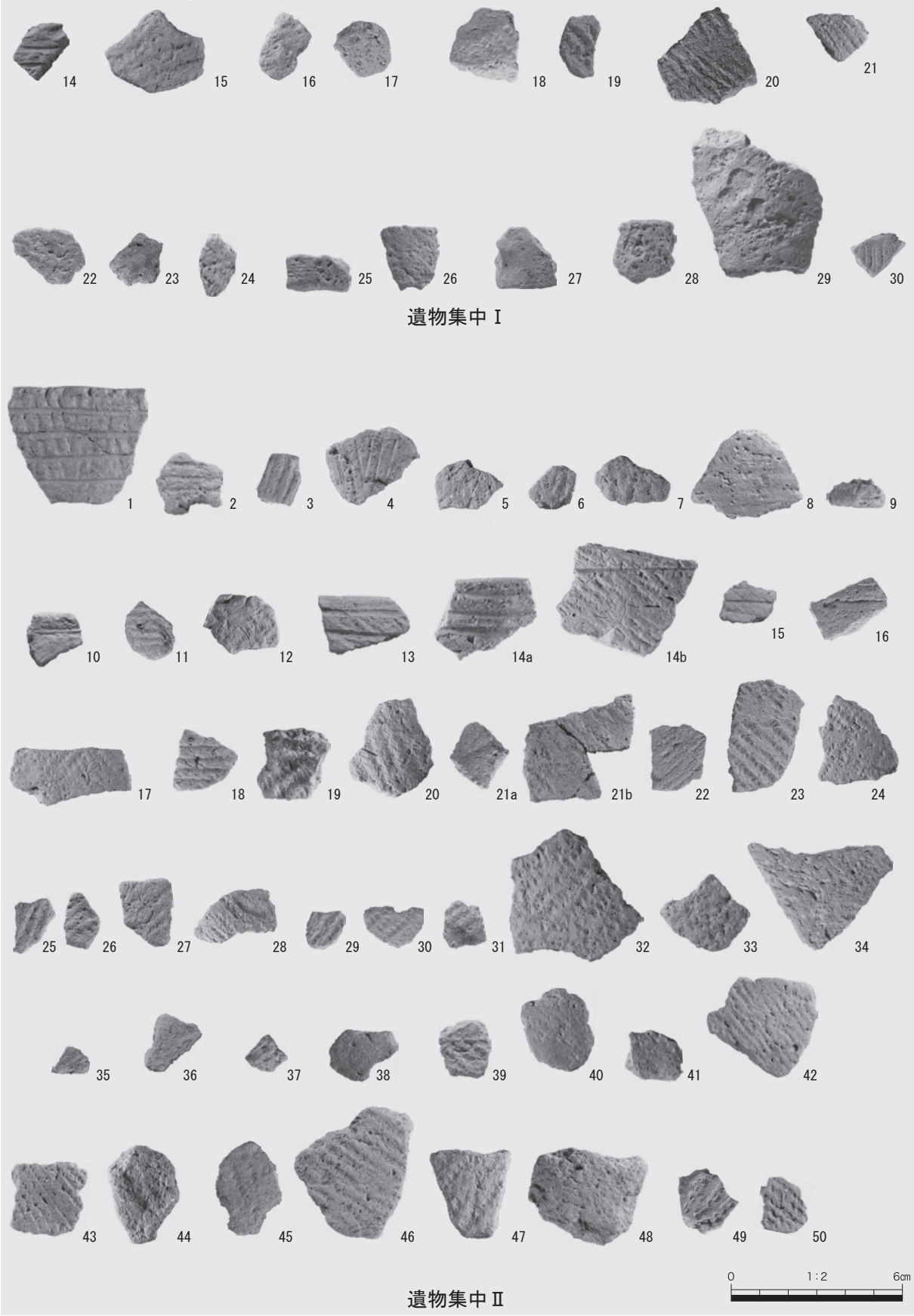
調査区Ⅲ

調査区Ⅲ

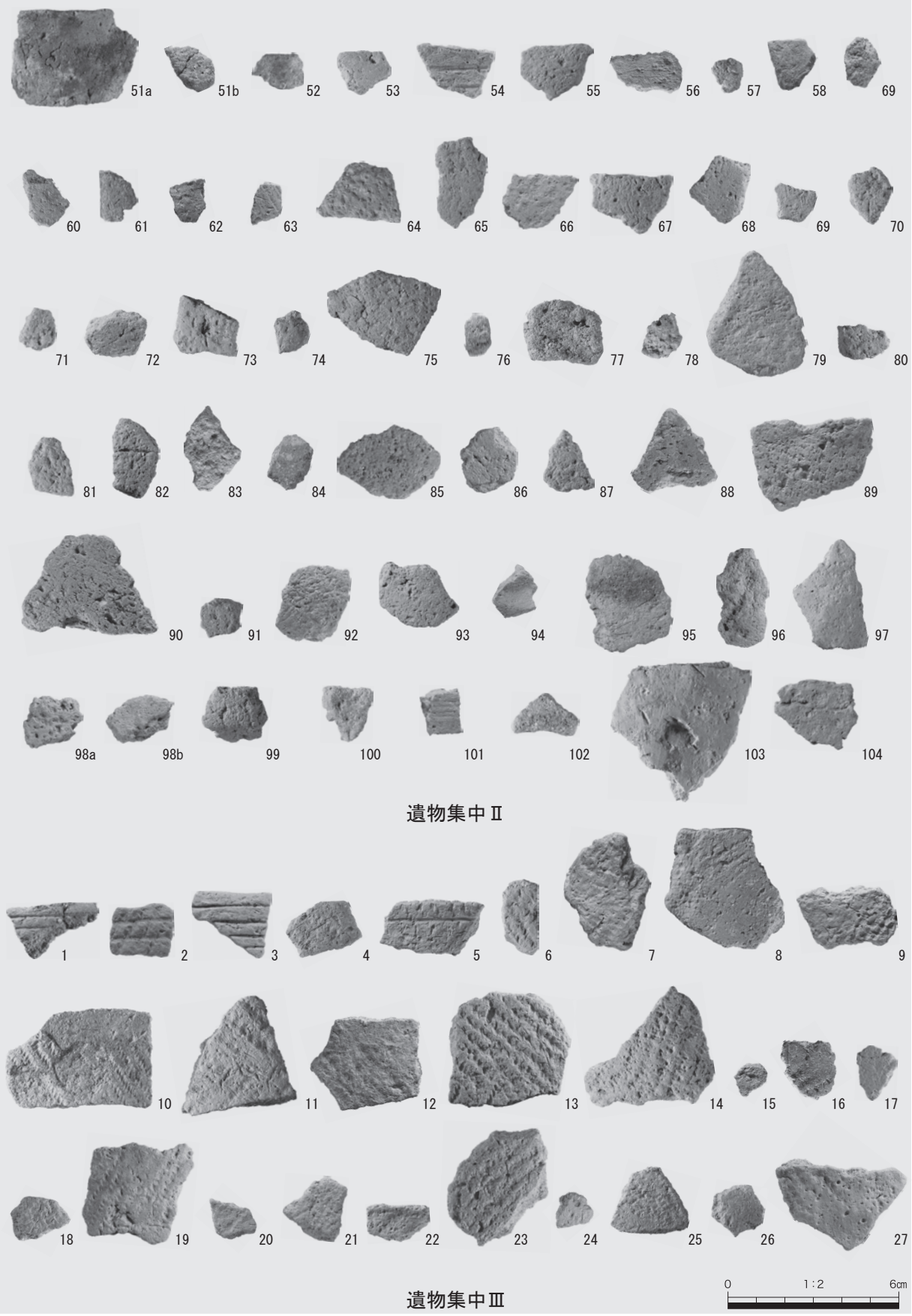
写真図版 15　調査後近景（2）



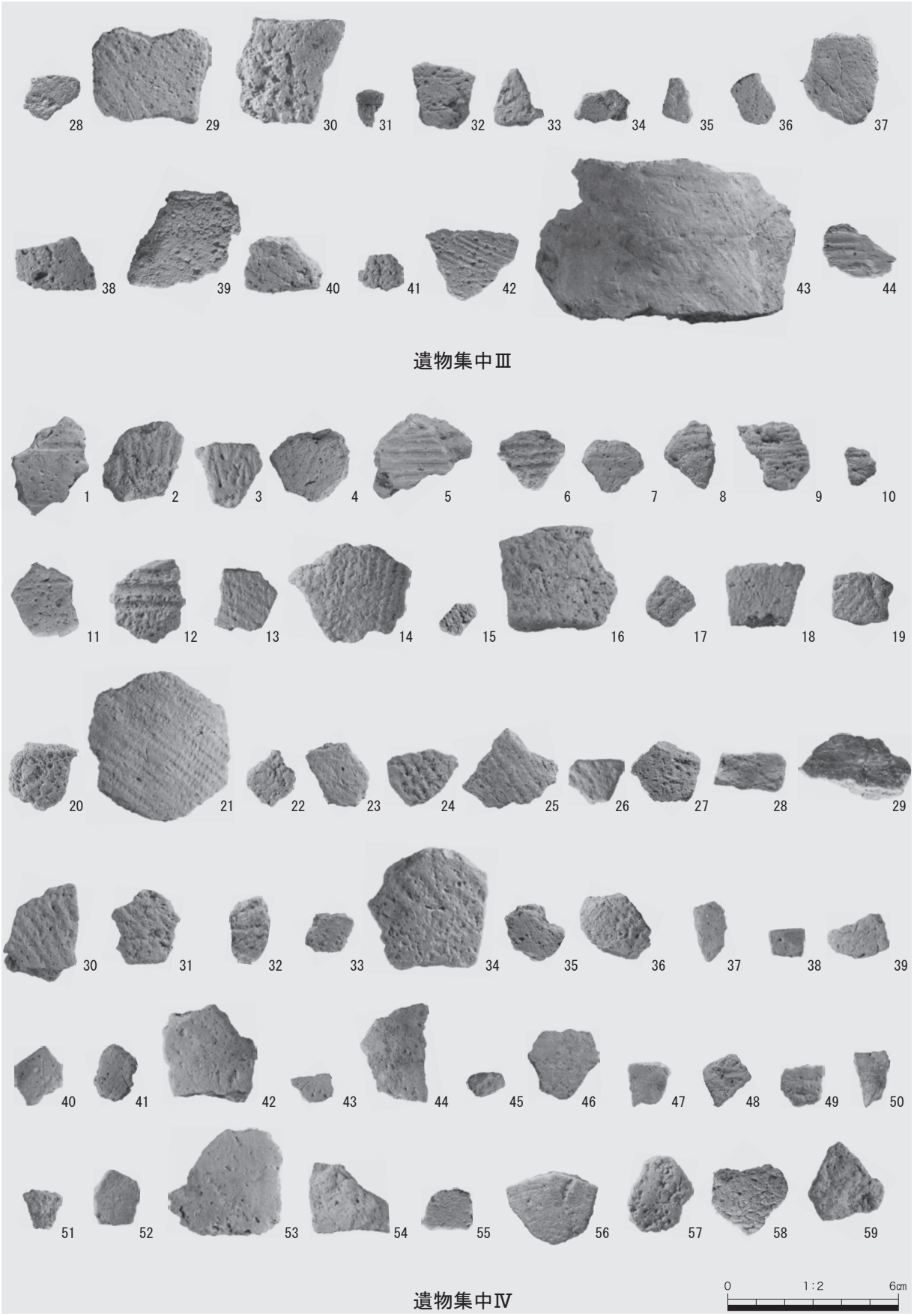
写真図版 16　出土遺物　土器（1）



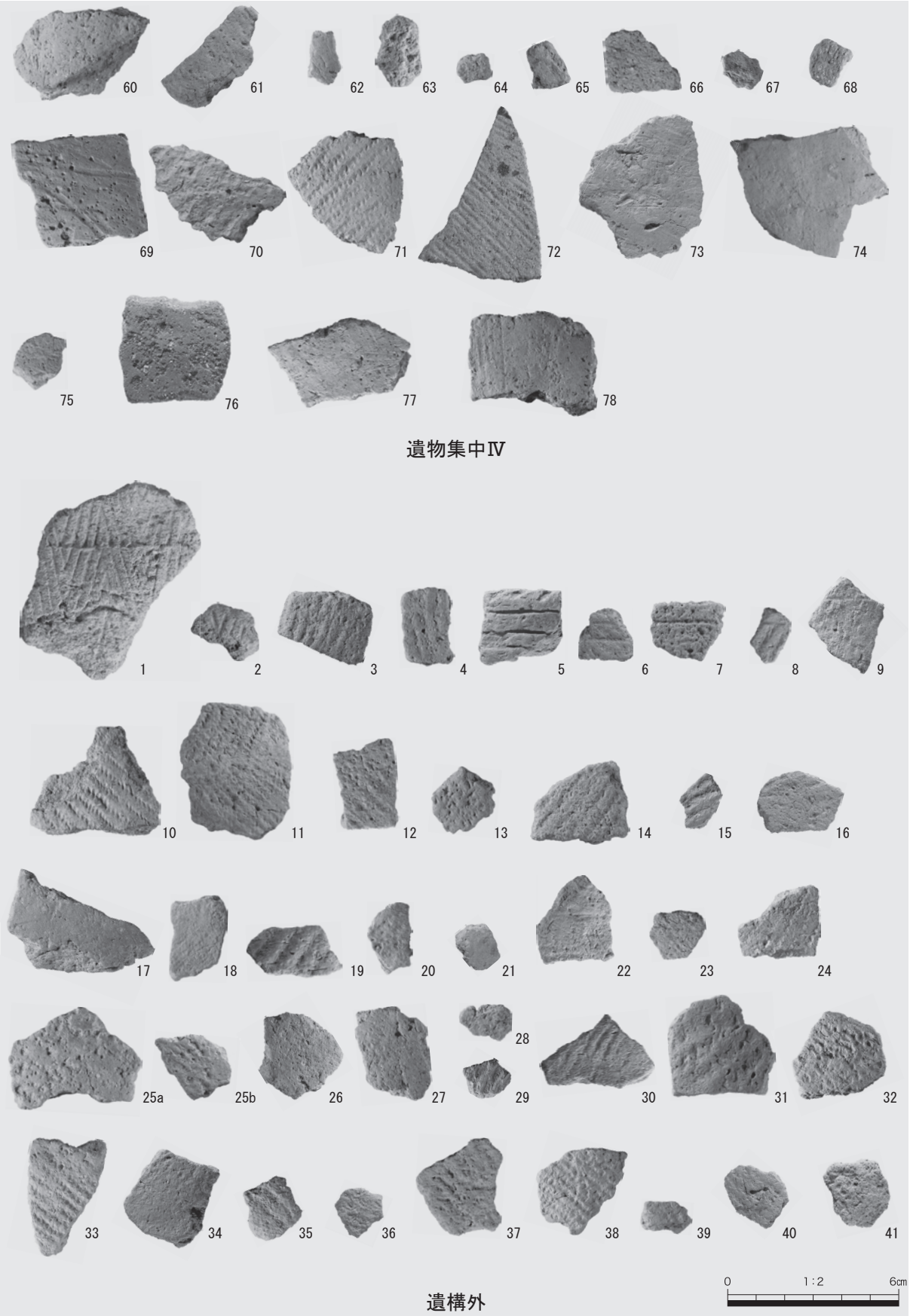
写真図版 17　出土遺物　土器（2）



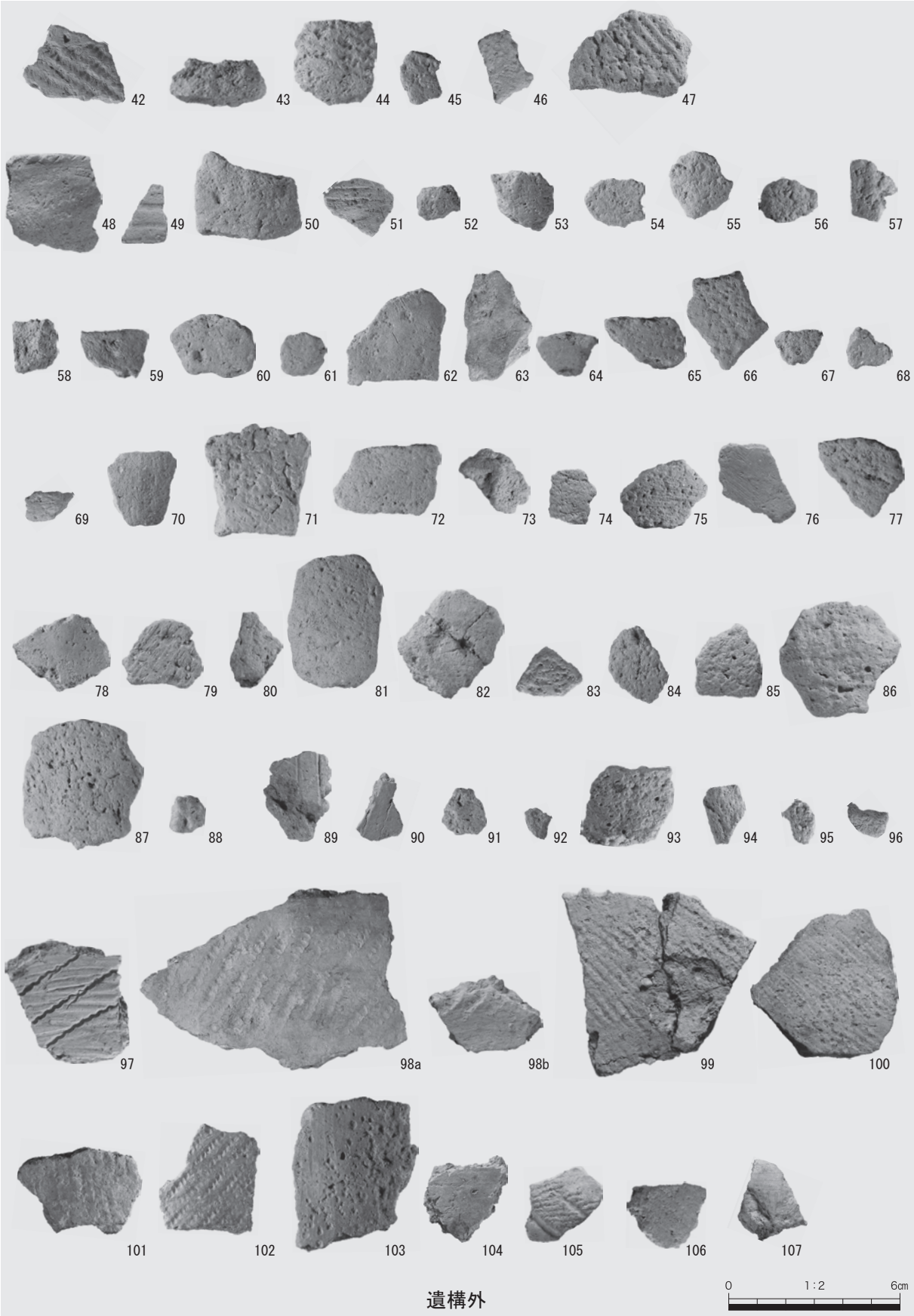
写真図版 18　出土遺物　土器（3）



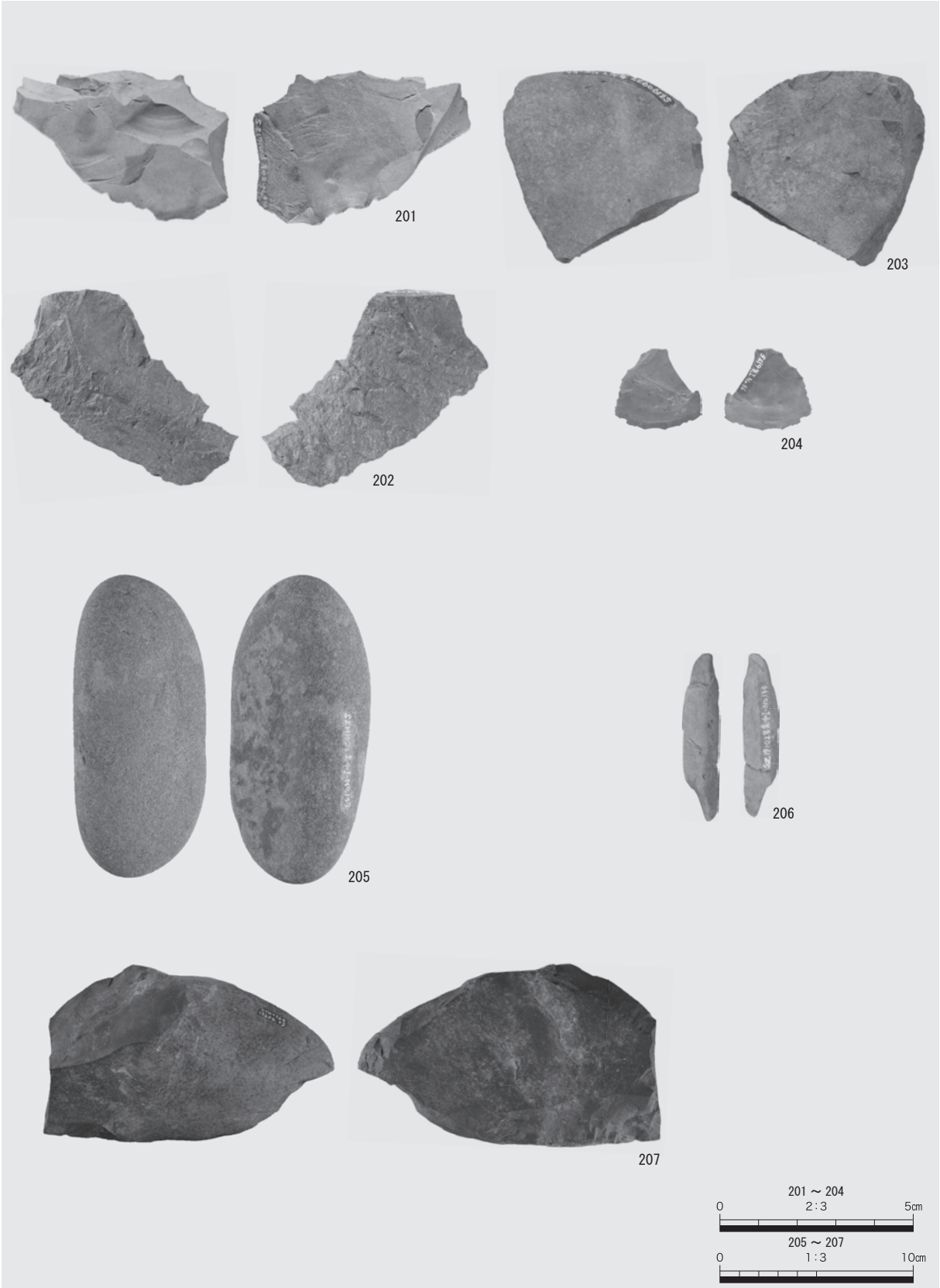
写真図版 19　出土遺物　土器（4）



写真図版 20　出土遺物　土器（5）

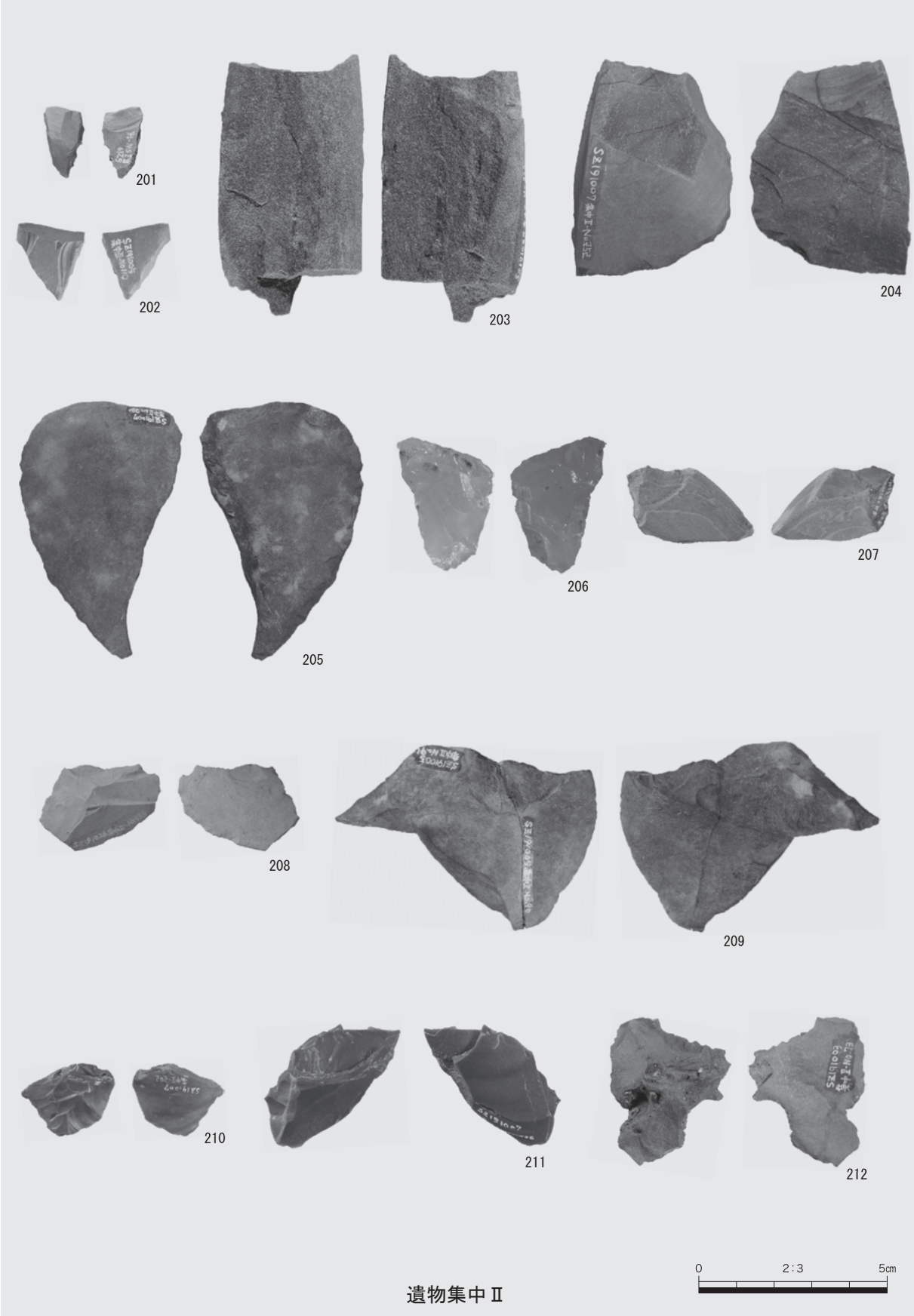


写真図版 21　出土遺物　土器（6）

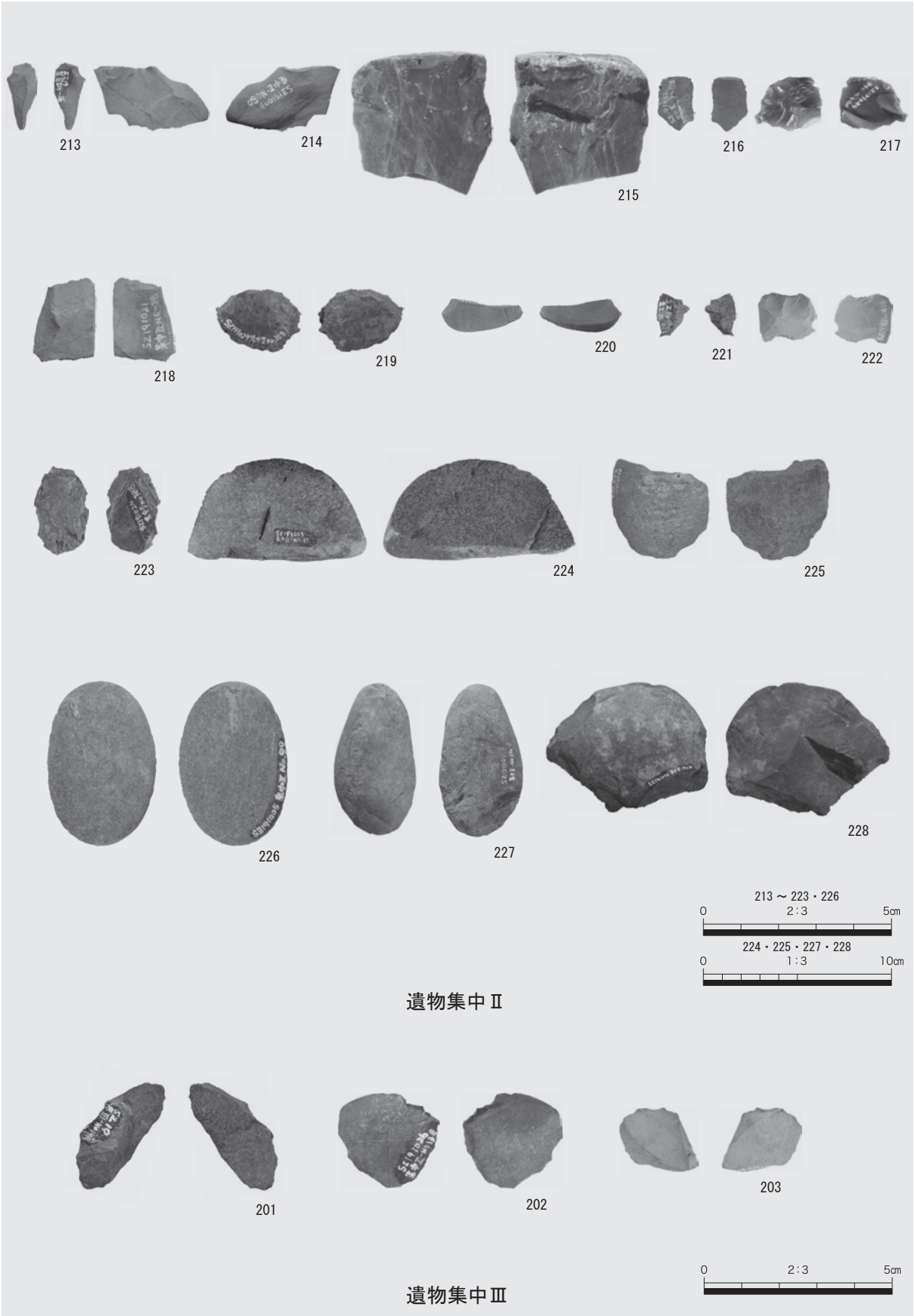


遺物集中Ⅰ

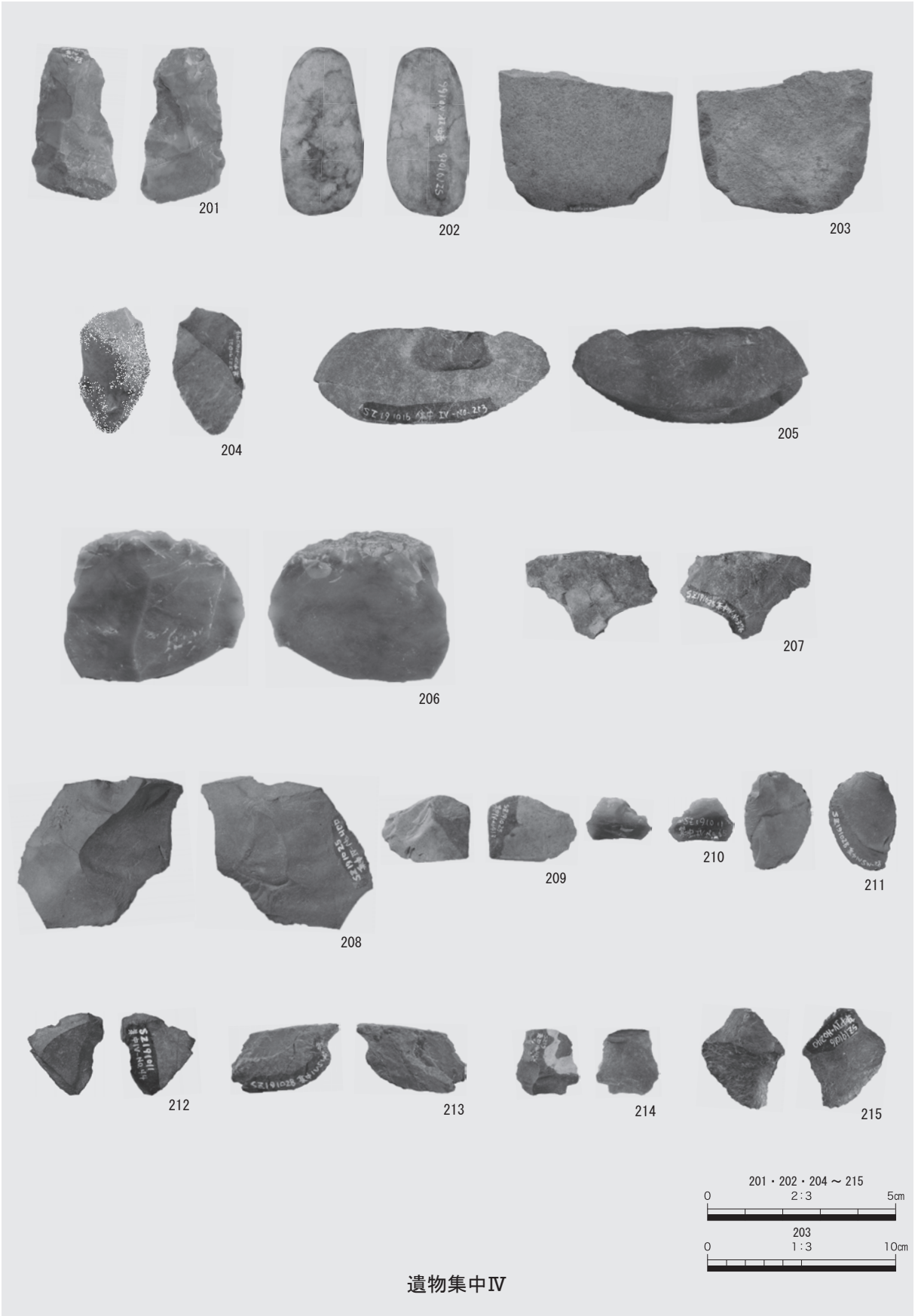
写真図版 22　出土遺物　石器（1）



写真図版 23　出土遺物　石器（2）



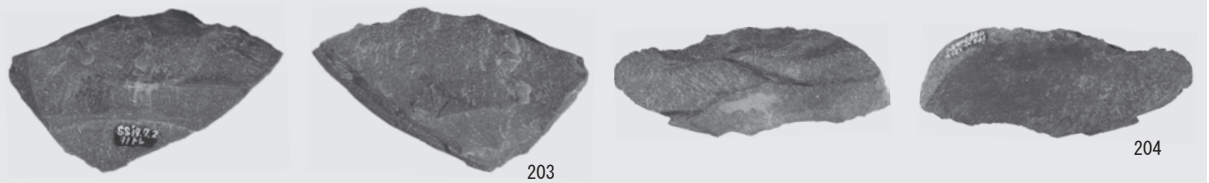
写真図版 24　出土遺物　石器（3）

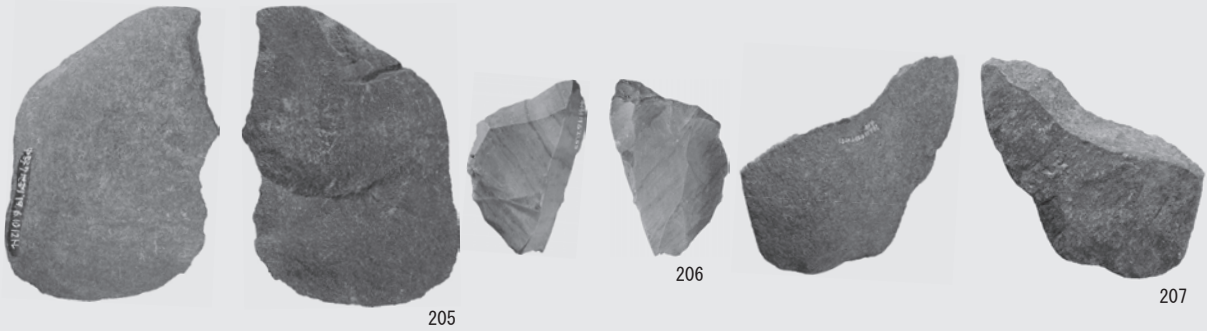


写真図版 25　出土遺物　石器（4）

216
0 2:3 5cm
217
0 1:3 10cm

遺物集中Ⅳ

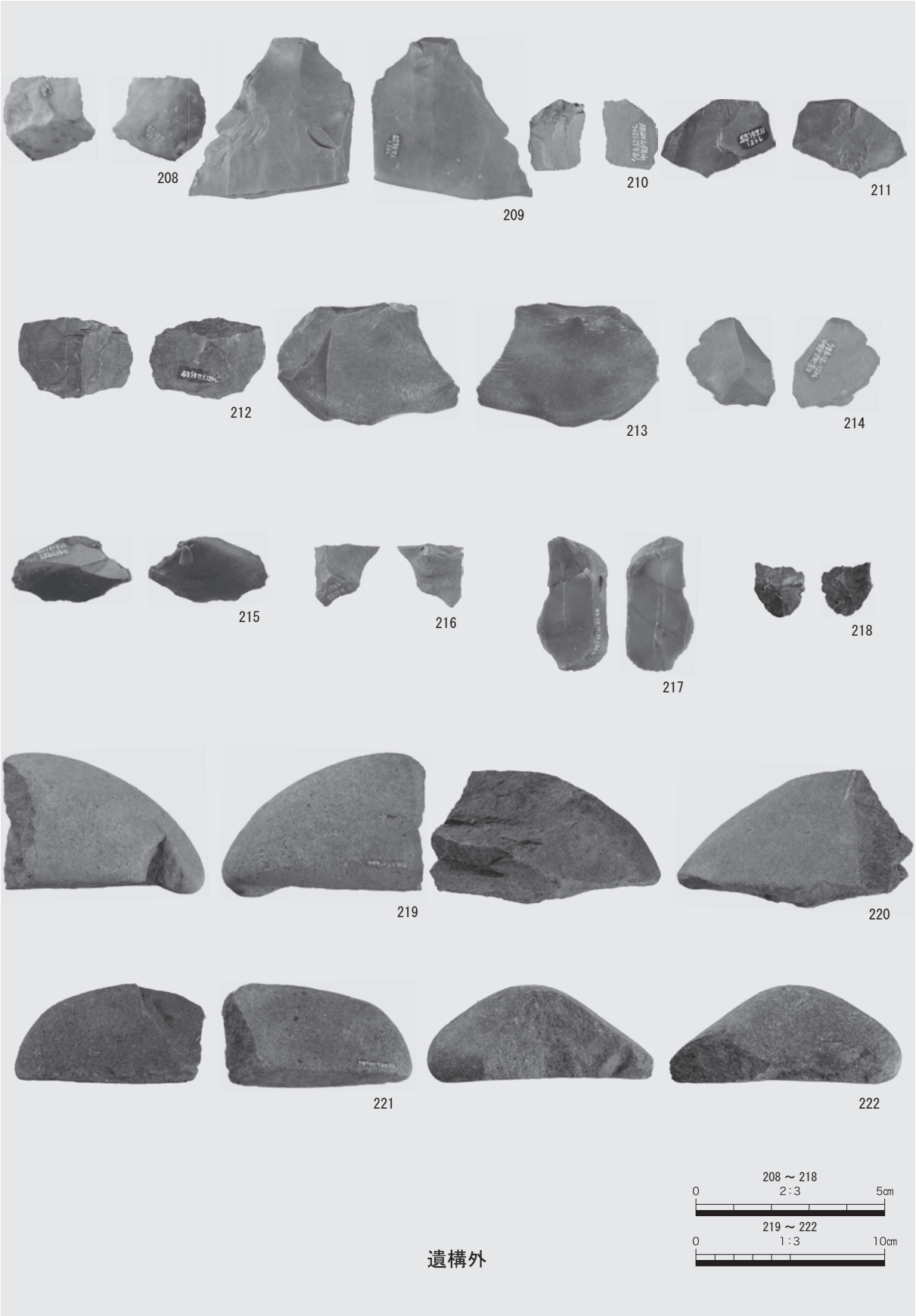




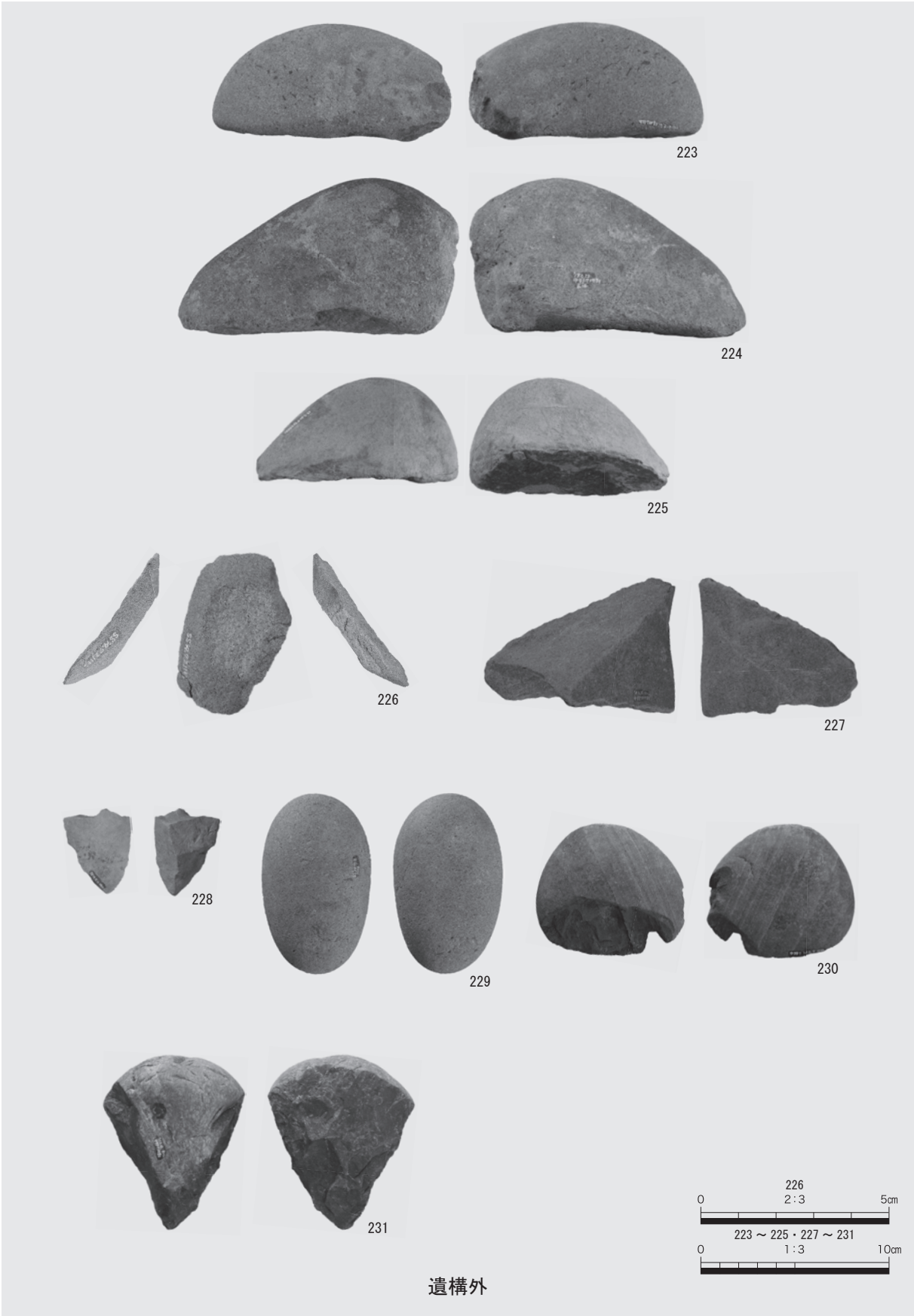
201・203～206
0 2:3 5cm
202・207
0 1:3 10cm

遺構外

写真図版 26　出土遺物　石器（5）



写真図版 27　出土遺物　石器（6）



写真図版 28　出土遺物　石器（7）

報告書抄録

ふりがな	しゃくざわいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	尺沢遺跡発掘調査報告書
副書名	久慈地区汚泥再生処理センター整備事業に伴う遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	洋野町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第8集
編著者名	千田政博　相原淳一　稲村晃嗣
編集機関	洋野町教育委員会　株式会社四門
所在地	〒028－7914　岩手県九戸郡洋野町種市23－27　TEL 0194－65－2111
発行年月日	2020年3月10日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
尺沢遺跡（しゃくざわいせき）	岩手県九戸郡洋野町（いわてけんくのへぐんひろのちょう）中野第7地割（なかのだいちわり）	03507	IF99－0384	40° 17′ 19″	141° 45′ 52″	20190906 ～ 20191029	450㎡	久慈地区汚泥再生処理センター整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
尺沢遺跡	狩猟場跡 散布地	旧石器時代 縄文時代 弥生時代	土坑 溝状土坑 ピット	8基 4基 3基	縄文土器 弥生土器 石器・剥片	旧石器時代のナイフ形石器1点出土。 縄文時代早期の押型文土器が出土。

洋野町埋蔵文化財調査報告書第８集

尺沢遺跡発掘調査報告書

久慈地区汚泥再生処理センター整備事業に伴う遺跡発掘調査

印刷　令和２年３月７日
発行　令和２年３月10日

編集　洋野町教育委員会
〒028－7914　岩手県九戸郡洋野町種市23－27
TEL（0194）65－2111

発行　久慈広域連合
〒028－0001　岩手県久慈市夏井町閉伊口９－18－１
TEL（0194）66－9090

洋野町教育委員会
〒028－7914　岩手県九戸郡洋野町種市23－27
TEL（0194）65－2111

印刷　株式会社東プリ
〒144－0052　東京都大田区蒲田４－41－11
TEL（03）3732－4155